

富山県文化振興財団  
埋蔵文化財発掘調査報告第15集

# 清水島Ⅱ遺跡・中名Ⅱ遺跡・持田Ⅰ遺跡発掘調査報告

—— 公害防除特別土地改良事業に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告Ⅰ ——

2002年

財団法人 富山県文化振興財団  
埋蔵文化財調査事務所



上 清水島Ⅱ遺跡全景（西から） 下 清水島Ⅱ遺跡全景（南から）



中名Ⅱ遺跡全景 中世前期



持田I遺跡A地区全景 中世後期



上 中名Ⅰ遺跡出土 勾玉 中 中名Ⅱ遺跡 2251号溝出土舟形木製品  
下 持田Ⅰ遺跡出土 青白磁合子

# 清水島Ⅱ遺跡・中名Ⅱ遺跡・持田Ⅰ遺跡発掘調査報告

—— 公害防除特別土地改良事業に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告Ⅰ ——

2002年

財団法人 富山県文化振興財団  
埋蔵文化財調査事務所

## 序

当事務所では、平成7年度から公害防除関連特別土地改良事業に伴う遺跡の発掘調査を行ってきました。

本書は平成7・8年度に調査を実施した婦負郡婦中町清水島Ⅱ遺跡・中名Ⅱ遺跡・持田Ⅰ遺跡の発掘調査報告書です。

清水島Ⅱ遺跡からは、中世～近世の集落が見つかりました。集落の一面には墓域があり、石を積んだ塚状のものが造られていました。

中名Ⅱ遺跡からは古代の竪穴住居と中世の集落が検出されています。中世の包含層からは硬玉（翡翠）の勾玉が出土しており、これは県内では最大級のものの一つです。また、溝からは祭祀に関わる遺物として舟形木製品が出土しています。

持田Ⅰ遺跡は中世～近世の集落で、中世の遺構では大型の掘立柱建物が見つかっています。また、中国製青磁・白磁などが多く出土しています。

この調査報告が、今後の越中の中世史研究に活用されれば幸いです。

本書をまとめるにあたり、関係機関や団体、また諸氏のご指導をいただき厚く感謝いたします。

平成14年3月

富山県文化振興財団

埋蔵文化財調査事務所

所長 桃野 真晃

## 例 言

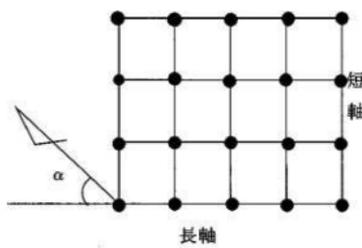
- 1 本書は富山県越前郡婦中町清水島地内に所在する清水島Ⅱ遺跡、阿弥大地地内に所在する中名Ⅱ遺跡、持田地内に所在する持田Ⅰ遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 調査は富山農地林務事務所からの委託を受けて、財団法人富山県文化振興財団が行った。
- 3 本調査の発掘調査期間と本書刊行までの整理期間は下記の通りである。

調査期間	清水島Ⅱ遺跡	平成7(1995)年7月7日～10月23日
	中名Ⅱ遺跡	平成7(1995)年10月24日～12月18日
整理期間		平成8(1996)年5月8日～9月13日
	持田Ⅰ遺跡	平成8(1996)年5月14日～11月15日
		平成11(1999)年4月1日～平成13(2001)年
- 4 本書の編集・執筆は、酒井重洋、青山裕子、野口雅美が担当し、執筆分担は文末に記した。
- 5 遺物の写真撮影は、写真 楠華堂(代表 内田真紀子)に委託した。
- 6 自然科学的な分析は、以下の諸機関に委託し、その成果について報文を得た。

植物種子同定	(株)バリノ・サーヴェイ
金属製品等分析	川鉄テクノロジーサーチ
漆塗膜分析	漆器文化財科学研究所 (代表 四柳 嘉章)
胎土分析	土器胎土研究会 (代表 三辻 利一)
- 7 発掘調査中から本書の作成に至るまで、下記の方々から多大な御教示・御協力を得た。記して謝意を表したい。(敬称略・五十音順)  
宇野隆夫、富山県教育委員会、富山県埋蔵文化財センター、婦中町教育委員会、山田学

## 凡 例

- 1 本書には本文、表及び挿図、自然科学的分析、写真図版を掲載する。
- 2 時期別に検出した主な遺構・出土遺物の内容については、章末に一覧を掲載している。
- 3 清水島Ⅱ遺跡の時代区分は、中世・近世に、中名Ⅱ遺跡の時代区分は、古代・中世下層・中世上層・近世、持田Ⅰ遺跡の時代区分は、中世下層・中世上層に分けた。
- 4 清水島Ⅱ遺跡の遺構全体図は1/100で示し、北から一頁に収まる範囲に分割して掲載した。
- 5 本書で示す方位は全て真北である。
- 6 挿図の縮尺は次の率を基本とし、各図の下に縮尺率を示す。なお、遺物の写真図版の縮尺は統一していない。  
遺構 建物：1/100 溝：1/40・1/200 井戸：1/40 土坑：1/40  
遺物 土器・陶磁器：1/3～1/6 木製品：1/1～1/24 石製品：1/2～1/6 金属製品：1/1～1/3
- 7 遺構の略号は以下の通りである。  
SA：柵 SB：建物 SD：溝 SE：井戸 SK：土坑 SP：柱穴 SZ：土塚 SX：その他
- 8 中名Ⅱ遺跡、持田Ⅰ遺跡の遺構番号は、調査時に地区毎に付した番号にある一定の数を加えて遺構番号とした。番号は遺構の種類にかかわらず連番号とするが、建物・柵にはあらたに番号を付した。各地区の遺構番号に加算した数値は以下の通りである。  
中名Ⅱ遺跡 E1地区：+1000 E2地区：加算せず F1地区：+2000  
持田Ⅰ遺跡 A地区：加算せず B地区：+2000
- 9 遺物は遺跡毎に連番を付す。遺物番号は遺物観察表及び写真図版中の遺物番号と一致する。
- 10 施陶陶器などの軸が掛かる範囲は一点波線で示した。二種類以上の軸が掛かる場合や絵付けがされている場合はトレースの濃淡で示した。
- 11 遺物の煤付着部分及び漆器の赤色漆の部分等、遺構図中の地山及び炭化物層などはスクリーントーンで示す。以下に図示したもの以外については、それぞれの図・文を参照されたい。
- 12 遺構の略号は、清水島Ⅱ遺跡が「19S J 2」、中名Ⅱ遺跡が「19NM 2-地区名」、持田Ⅰ遺跡が「19MD 1-地区名」で、遺物の注記は略号を用いた。
- 13 遺構一覧及び本文中で用いる遺構についての用語・数値等は以下の通りとする。  
掘立柱建物：用語は「平城京発掘調査報告書」を参考とし、以下のように定義づける。  
①柱間や棟方向に関わらず建物の平面図の長軸を「桁行」、短軸を「梁行」とし、桁行(間)×梁行(間)の順に表記する。  
②建物の棟方位は、真北からの方位を測る。  
③建物面積は長軸に短軸をかけたものである。  
④「柱穴」とは柱位置に遺存する穴の総称とする。  
⑤「柱堀方」とは、掘立柱を据え付けるための穴のことで、「堀方埋土」とは柱を固定するために柱堀方にいれた土のことである。  
⑥「柱根」とは、遺存している柱自体のことであり、「柱痕跡」とは柱堀方の中の柱が立ったまま腐り落ちて、そこに土が流れ込んだもので、ここでは柱根が抜き取られたものも含む。  
⑦柱穴の規模は遺構検出面から測った数値である。



- 井戸：井戸の部分名称及び型式分類については、宇野隆夫氏の「井戸の分類」注1を採用している。
- ①各部の名称は、地上の施設を「井桁」、地下壁面の施設を「井戸側」、底の施設を「水溜め」とする。
  - ②型式分類は井戸側の部位の構造で分類する。
  - ③井戸の断面割り図において、地山の変化がわかるものは、スクリーントーンで示した。
- 遺構一覧・遺物一覧：観察表の凡例は以下の通りである。
- ①遺構の覆土に切り合い関係がある場合は、備考欄に「新>古」のように記号で示す。
  - ②法量はcm単位で示す。
  - ③重量はg単位で示す。計測は大きさによって台秤と電子秤を使い分けた。
  - ④胎土・色調・釉調は農林水産省農林水産技術会議事務局監修 財団法人日本色彩研究所色票監修「新版標準十色観」を使用した。
  - ⑤特記事項：陶磁器については腐名、竊跡め技術、墨書・ヘラ記号等を、珠洲・瓦器・中世土師器は胎土中の含有物を示す。木製品のうち漆器は漆の色を示すが、記載がない場合は黒色漆であることを示す。

# 目 次

第Ⅰ章 調査経緯	1
1 調査に至る経緯	1
A 調査の契機	2
C 試掘調査	2
2 調査経過	2
A 調査方法	2
C 調査体制	3
E 整理の経過	4
B 分布調査	1
D 本調査	2
B 調査の経過	3
D 現地説明会	4
E 整理体制	5
第Ⅱ章 立地と歴史的環境	6
1 立地	6
2 歴史的環境	6
第Ⅲ章 清水島Ⅱ遺跡	10
1 遺跡の概要	10
A 概要	10
B 調査経過	10
C 土層	11
2 遺構	12
A 中世	13
3 遺物	71
A 中世	71
B 近世	66
B 近世	71
B 近世	109
第Ⅳ章 中名Ⅱ遺跡	140
1 遺跡の概要	140
A 概要	140
C 土層	141
2 遺構	141
A 古代	141
C 中世後期	187
3 遺物	217
A 古代	217
C 中世後期	230
B 調査経過	141
B 中世前期	142
D 近世	212
B 中世前期	217
D 近世	253
第Ⅴ章 持田Ⅰ遺跡	273
1 遺跡の概要	273
A 概要	273
C 土層	273
2 遺構	274
A 中世後期	274
3 遺物	337
A 中世後期	337
B 調査経過	274
B 中世末期～近世	320
B 中世末期～近世	337
B 中世末期～近世	360
第Ⅵ章 自然化学分析	391
1 清水島Ⅱ遺跡他出土遺物同定業務	392
パリオ・サーヴェイ株式会社	
2 富山県中名Ⅱ遺跡・清水島Ⅱ遺跡・持田Ⅰ遺跡出土漆器の化学分析	403
四柳 嘉章 (漆器文化財科学研究所)	
3 清水島Ⅱ遺跡出土中世陶器の産地問題	417
二辻 利一	
4 中名Ⅱ遺跡出土の鉄滓・砂鉄・炉壁分析調査	425
川鉄テクノリサーチ	
第Ⅶ章 結語	469

# 卷首图版目次

- 卷首图版一 清水島Ⅱ遺跡全景 中世  
 卷首图版二 中世Ⅱ遺跡全景 中世前期  
 卷首图版三 埴田Ⅰ遺跡全景 中世後期  
 卷首图版四 中世Ⅱ遺跡出土勾玉 中世Ⅱ遺跡2251号清出土舟形木製品  
 埴田Ⅰ遺跡出土青白磁片子

## 插图目次

- 第1图 周辺遺跡位置図  
 第2图 清水島Ⅱ遺跡基本土層図  
 第3图 清水島Ⅱ遺跡調査区、区別図  
 第4图 清水島Ⅱ遺跡遺構実測図 S B01・S B02・S A01  
 第5图 清水島Ⅱ遺跡遺構実測図 S A02・S A03・S B03  
 第6图 清水島Ⅱ遺跡遺構実測図 S B04・S B05・S B06  
 第7图 清水島Ⅱ遺跡遺構実測図 S B07・S A05・S B08  
 第8图 清水島Ⅱ遺跡遺構実測図 (下層)  
 第9图 清水島Ⅱ遺跡遺構実測図 (下層)  
 第10图 清水島Ⅱ遺跡遺構実測図 (下層)  
 第11图 清水島Ⅱ遺跡遺構実測図 (下層)  
 第12图 清水島Ⅱ遺跡遺構実測図 (下層)  
 第13图 清水島Ⅱ遺跡遺構実測図  
 S P1055・S K1057・S K1063・S K1064・S K1065・S P1066・S P1078・S K1083・S K1071・S K1072・S P1089・S K1090・S K1148・S K1103・S D1150・S K1183・S K1196・S D1151・S K1175・S K1115・S K1130・S K1361・S D1180・S K1204・S K1186・S K1200・S K1276・S K1350・S K1287・S K1362  
 第14图 清水島Ⅱ遺跡遺構実測図 (下層)  
 第15图 清水島Ⅱ遺跡遺構実測図 (下層)  
 第16图 清水島Ⅱ遺跡遺構実測図  
 S K1295・S K1349・S D226・S D94・S D519・S D460・S D583・S D600・S D567・S D465  
 第17图 清水島Ⅱ遺跡遺構実測図 S E205・S E1265・S E32  
 第18图 清水島Ⅱ遺跡遺構実測図 S E482・S E675・S E411・S E304  
 第19图 清水島Ⅱ遺跡遺構実測図 S E315・S E309  
 第20图 清水島Ⅱ遺跡遺構実測図 S X896  
 第21图 清水島Ⅱ遺跡遺構実測図 (上層)  
 第22图 清水島Ⅱ遺跡遺構実測図 (上層)  
 第23图 清水島Ⅱ遺跡遺構実測図 (上層)  
 第24图 清水島Ⅱ遺跡遺構実測図 (上層)  
 第25图 清水島Ⅱ遺跡遺構実測図 (上層)  
 第26图 清水島Ⅱ遺跡遺構実測図  
 S K130・S D210・S K212・S K239・S K213・S K314・S K265・S K300・S K300・S K273・S P492・S K499・S K500・S K546・S K547・S P557・S K588・S K564・S K361  
 第27图 清水島Ⅱ遺跡遺構実測図 (上層)  
 第28图 清水島Ⅱ遺跡遺構実測図 (上層)  
 第29图 清水島Ⅱ遺跡遺構実測図 (上層)  
 第30图 清水島Ⅱ遺跡遺構実測図  
 S K707・S K709・S K711・S K717・S K716・S K718・S K723・S K754・S K742・S K743・S K745・S K752・S K755・S K756・S K757・S K758・S K759・S K760・S K790・S K791・S K761・S K822・S K830・S K842・S K871・S K874・S K873・S K880・S D751・S K889・S K875  
 第31图 清水島Ⅱ遺跡遺構実測図 (上層)  
 第32图 清水島Ⅱ遺跡遺構実測図  
 S K706・S K713・S K714・S K715・S K719・S K724・S K725・S K770・S K771・S K726・S K772・S K773・S K774・S K748・S K775・S K776・S K811・S K843・S K785・S K784・S K783・S D777・S K785・S K787・S K880・S K851・S K855・S K845・S K846  
 第33图 清水島Ⅱ遺跡遺構実測図  
 S K842・S K644・S K645・S K647・S K648・S K649・S K650・S K652・S K655・S K659・S K660・S K662・S K665・S K666・S K672・S K667・S K668・S K676・S K674・S K671・S K680・S K681・S K696・S K682・S K694・S K699・S K704・S K700・S K701・S K702・S K703  
 第34图 清水島Ⅱ遺跡遺構実測図 (上層)  
 第35图 清水島Ⅱ遺跡遺構実測図  
 S K620・S K622・S K623・S K624・S K625・S K629・S K630・S K639・S D631・S K632・S K634・S K635・S K637・S D638・S K640・S K641・S K663・S K664・S D749・S K769・S D812・S D764・S K763・S K778・S K813  
 第36图 清水島Ⅱ遺跡遺構実測図 (上層)  
 第37图 清水島Ⅱ遺跡遺構実測図  
 S K327・S K326・S K332・S K333・S K336・S K339・S K338・S K351・S K341・S K358・S K400・S K354・S K401・S K357・S K403・S K404・S K405・S K430・S K419・S K420・S K421・S K425・S K426・S K451・S K439・S K437・S K440・S K430・S K435・S K433・S K458・S D460  
 第38图 清水島Ⅱ遺跡遺構実測図  
 S K417・S K418・S D427・S K436・S K438・S K461・S K462・S D460・S D463・S D465・S K467  
 第39图 清水島Ⅱ遺跡遺構実測図 (上層)  
 第40图 清水島Ⅱ遺跡遺構実測図  
 S K683~693・S K720~722・S K732・S K734・S K735・S K741・S K831・S K834・S K835・S K836・S K838・S K857・S K855・S K833  
 第41图 清水島Ⅱ遺跡遺構実測図 (上層)  
 第42图 清水島Ⅱ遺跡遺構実測図  
 S K643・S K669・S K673・S K670・S K729・S D777・S K730・S K737・S K803・S K738・S K802・S K804・S K805・S K892・S K891  
 第43图 清水島Ⅱ遺跡遺構実測図  
 S B09・S B10・S B11・S B12  
 第44图 清水島Ⅱ遺跡遺構実測図 S B13・S B14・S B15・S B16  
 第45图 清水島Ⅱ遺跡遺構実測図 S K104・S K144・S K95・S D92  
 第46图 清水島Ⅱ遺跡遺構実測図  
 S K154  
 第47图 清水島Ⅱ遺跡遺構実測図  
 S K35・S K54・S K53・S K52・S K51・S K105・S K47・S K11・S K12・S K106・S K56・S P50

- 第48回 清水島Ⅱ遺跡遺構実測図 S K05・S K37・S K36・S K31・S K148・S K71・S K74・S K41・S K102・S K166・S K98・S K154・S K114・S K128
- 第49回 清水島Ⅱ遺跡遺構実測図 S K108・S K109・S K165・S K73・S K145・S P146
- 第50回 清水島Ⅱ遺跡遺構実測図 S E01・S E08・S E82・S E301
- 第51回 清水島Ⅱ遺跡遺構実測図 (近世)
- 第52回 清水島Ⅱ遺跡遺構実測図 (近世)
- 第53回 清水島Ⅱ遺跡遺構実測図 (1) S K02・S K34・S K47・S K52・S P57・S K61・S K62・S K06・S K130・S P140・S K165・S K185・S K199・S K223・S K226・S K230・S K239・S P249・S K253・S K266・S K269・S K278・S K285・S K299・S K300・S K302・S E304・S K312・S K314
- 第54回 清水島Ⅱ遺跡遺構実測図 (2) S E315・S K357・S K383・S K387・S K400・S K402・S K403・S K415・S K417・S K438・S K450・S K453・S K456・S K474・S K483・S K484・S K488・S K504・S K505・S K509・S E482・S D460・S D463・S D519・S D547・S D600・S D605・S D606・S K357・S K410・S K417・S K575・S K582・S K982・包含層
- 第55回 清水島Ⅱ遺跡遺構実測図 (3) S K513・S P518・S K540・S K542・S K546・S K555・S K561・S K568・S K580・S K603・S K620・S K654・S K669・S K672・S K673・S K681・S K685・S K743・S K755・S K756・S K830・S K893
- 第56回 清水島Ⅱ遺跡遺構実測図 (4) S K1107・S K1079・S P1110・S K1111・S K1115・S K1118・S K1127・S K1129・S K1131・S K1136・S K1141・S K1148・S K1149・S K1183・S K1194・S K1249・S P1271・S K1295・S K1349
- 第57回 清水島Ⅱ遺跡遺構実測図 (5) S K1115・S K1149・S K1196・S P1202・S K1295・S K1351・S K1352・S K1361・S X896・包含層
- 第58回 清水島Ⅱ遺跡遺構実測図 (6) S E32
- 第59回 清水島Ⅱ遺跡遺構実測図 (7) S E32・S E304
- 第60回 清水島Ⅱ遺跡遺構実測図 (8) S E205・S E309・S F315・S E411・S F482・S E675・S K228
- 第61回 清水島Ⅱ遺跡遺構実測図 (9) S E205
- 第62回 清水島Ⅱ遺跡遺構実測図 (10) S D58・S D59・S P60・S D91・S D161・S D226・S D460・S D465・S D519・S D567・S D574・S D583・S D590・S E1265
- 第63回 清水島Ⅱ遺跡遺構実測図 (11) S D433・S D460・S D463・S D519・S D574・S D600・S D605・S D606・S D638・S D711・S D749・S D768・S D777・S D812
- 第64回 清水島Ⅱ遺跡遺構実測図 (12) 陥水
- 第65回 清水島Ⅱ遺跡遺構実測図 (13) 包含層・表様
- 第66回 清水島Ⅱ遺跡遺構実測図 (14) 包含層
- 第67回 清水島Ⅱ遺跡遺構実測図 (15) 包含層
- 第68回 清水島Ⅱ遺跡遺構実測図 (16) 包含層・表様
- 第69回 清水島Ⅱ遺跡遺構実測図 (17) S D749・S K197・包含層
- 第70回 清水島Ⅱ遺跡遺構実測図 (18) 包含層
- 第71回 清水島Ⅱ遺跡遺構実測図 (19) S K03・S P04・S P21・S K41・S P45・S P50・S K95・S K102・S K104・S K654・S K932・S P105・S K108・S K145・S K148・S K164・包含層
- 第72回 清水島Ⅱ遺跡遺構実測図 (20) S D92・S K95・S K109・S K145・S B09・S B16
- 第73回 清水島Ⅱ遺跡遺構実測図 (21) S E08・S E33・S E48・S E82・S E301
- 第74回 清水島Ⅱ遺跡遺構実測図 (22) 包含層
- 第75回 中名Ⅱ遺跡調査区及び区劃図
- 第76回 中名Ⅱ遺跡基本図層序表
- 第77回 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (古代) S D1401
- 第78回 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (古代) S I424・S K482・S K1400・S K1500
- 第79回 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世前期) S B01・S B02
- 第80回 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世前期) S B03・S B05
- 第81回 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世前期) S B04
- 第82回 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世前期) S B06・S B07
- 第83回 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世前期) S B08
- 第84回 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世前期) S B09
- 第85回 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世前期) S P180・S P1264・S P1214・S P1235・S P1209・S P1202・S P1207・S P1254・S P1255・S P1203・S K1216・S K1217・S P1218・S P1232・S P1238・S P1239・S P1222・S P1234・S K1261・S P1260・S K1251・S P1250
- 第86回 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世前期) S B10
- 第87回 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世前期) S P1242・S P1210・S K1246・S P1245・S P1208・S P1212・S K1201・S P1213・S K1205・S P1206・S K1220・S P1219・S P1233・S P1215・S P1220・S P1262・S P1258・S K1259・S P1223・S K1236・S P1237・S P1252・S P1257
- 第88回 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世前期) S B11・S B12
- 第89回 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世前期) S B13・S B14
- 第90回 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世前期) S B15・S B16
- 第91回 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世前期) S B17・S B18
- 第92回 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世前期) S A01
- 第93回 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世前期) S D411・S D395・S D389・S D386・S D385・S D388・S D368・S D382・S D380・S D355
- 第94回 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世前期) S D473・S D136・S D437・S D137・S D463・S D296
- 第95回 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世前期) S D142・S D153・S D134・S D169・S D156・S D164
- 第96回 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世前期) S D1274・S D1268・S D1267・S D1160・S D1159・S D1158・S D1101・S K1119・S K1118・S D1001・S D1301・S D1327・S D1328・S D1329・S D1306・S D1330・S D1324
- 第97回 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世前期) S D2257・S D2233・S D2274・S D2234・S D2235・S D2245・S D2236・S D2251・S D2249・S D2230
- 第98回 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世前期) S K418・S K401・S K406・S K404・S K405・S K396・S K407・S K381・S K476・S K370・S K363
- 第99回 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世前期) S K322・S K298・S K287・S K283・S K277・S K260・S K268・S K267・S K443・S K228・S K241
- 第100回 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世前期) S K449・S K441・S K436・S K440・S K138・S K140・S K139
- 第101回 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世前期) S K194・S K183・S K481・S K184・S K202・S K179
- 第102回 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世前期) S F1247・S K1211・S K1254・S P1255・S K1220・S P1219・S K1221・S K1305・S K1201・S P1213・S K1236・S P1237・S P1258・S K1259・S K1263
- 第103回 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世前期)

- 第104区 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世前期) S K1080・S K1074・S K1073・S K1070・S K1054・S K1053・S K1061・S K1059・S K1043・S K1028・S K1128・S K1039・S P1010・S K1011・S K1047
- 第105区 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世前期) S K2253・S K2256・S K2252
- 第106区 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世前期) S X1002-①・S X1002-②・S X1273-①・S X1273-②・S X1273-③・S X1272-①・S X1272-②・S X1272-③
- 第107区 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世後期) S B19・S B20
- 第108区 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世後期) S B21・S B22
- 第109区 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世後期) S B23
- 第110区 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世後期) S B24
- 第111区 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世後期) S D123・S D121・S D120・S D99・S D125・S D126・S D98・S D121・S D96・S D119
- 第112区 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世後期) S D03・S D136・S D135・S D134・S X65
- 第113区 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世後期) S D2140・S D2154・S D2155・S D2156・S D2139・S D2157-2160・S D2040・S K2043・S D2164・S D2165・S D2006・S D2229・S D2231・S D2230・S D2034・S D2035
- 第114区 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世後期) S D2237・S D2247・S D2246
- 第115区 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世後期) S E04・S E133
- 第116区 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世後期) S E23・S E2100
- 第117区 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世後期) S K72・S P57・S K58・S K54・S K42・S K52・S K26・S K118・S K25・S K45・S K44・S K43・S K19・S K16・S K119・S K116・S K100・S K101・S K107・S K105・S K113・S K08・S K06・S K07・S K10・S K106・S K109・S K114
- 第118区 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世後期) S K2005・S K2145・S K2146・S K2130・S K2153・S K2136
- 第119区 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世後期) S K2135
- 第120区 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世後期) S K2133・S K2132・S D2040・S K2043
- 第121区 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世後期) S K2167・S K2170・S K2169
- 第122区 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世後期) S D2041・S D2038・S D2039・S D2031
- 第123区 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (近世) S K2024・S K2011・S K2015
- 第124区 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (近世) S I424・包含層
- 第125区 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (古代) S B05・S B09
- 第126区 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世前期) S B10
- 第127区 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世前期) S B11・S B16
- 第128区 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世前期) S D136・S D137・S D385・S D386・S D385・S D411・S D435・S D1158・S D1159
- 第129区 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世前期) S D1159・S D1160
- 第130区 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世前期) S D1160・S D1267・S D2235・S D2236・S D2257・S D2274
- 第131区 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世前期) S K110・S K138・S K188・S K179・S K181・S K183・S K202・S K241・S K280・S K267・S K277・S K299・S K363・S K401・S K449・S K481・S K1054・S K1059・S K1061・S K1073・S K1074
- 第132区 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世前期) S K1201・S K1211・S K1221・S K1231・S K1236・S K1247・S K1254・S K1305・S K2256
- 第133区 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世前期) S X1002-①・S X1272-①・S X1272-②・S X1273-①・S X1273-②
- 第134区 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世前期) S D2139・S D2140・S D2164・S D2165・S D2250
- 第135区 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世後期) S D2251
- 第136区 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世後期) S D2251
- 第137区 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世後期) S D2251
- 第138区 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世後期) S D2251
- 第139区 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世後期) S D2251
- 第140区 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世後期) S D2251
- 第141区 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世後期) S D2251
- 第142区 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世後期) S E04・S E23・S E133・S E2100・S K19・S K52・S K109・S K114・S K2132
- 第143区 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世後期) S K2133・S K2135・S K2136・S K2145・S K2150・S K2170
- 第144区 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世後期) 包含層
- 第145区 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世) 包含層
- 第146区 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世) 包含層
- 第147区 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世) 包含層
- 第148区 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世) 包含層
- 第149区 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世) 包含層
- 第150区 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世) 包含層
- 第151区 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世) 包含層
- 第152区 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世) 包含層
- 第153区 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (中世) 包含層
- 第154区 中名Ⅱ遺跡遺構実測図 (近世・近現代) 包含層
- 第155区 持田I遺跡地区朝臣
- 第156区 持田I遺跡小室様式周
- 第157区 持田I遺跡遺構実測図 (中世後期) S B01
- 第158区 持田I遺跡遺構実測図 (中世後期) S P426・S P430・S P442・S P446・S P461・S P477・S P478・S P481・S P507・S P509・S P510・S P512・S P517・S P520・S P528・S P530・S P539・S P540・S P549・S P571・S P629・S P641・S P689
- 第159区 持田I遺跡遺構実測図 (中世後期) S B02・S D335・S P348・S P349・S P350・S P354・S P458・S P679・S P682・S P684
- 第160区 持田I遺跡遺構実測図 (中世後期) S B03・S P364・S P369・S P390・S P424・S P447・S P457・S P474・S P500・S P527・S P533・S P541・S P550・S P659・S P680・S P690
- 第161区 持田I遺跡遺構実測図 (中世後期) S B04・S P381・S P382・S P395・S P397・S P401・S P433・S P435・S P455・S P611・S P589・S P630・S P633・S P640・S P651・S P666
- 第162区 持田I遺跡遺構実測図 (中世後期) S B05・S P375・S P380・S P387・S P389・S P392・S P421・S P423・S P429・S P449・S P475・S P483・S P461・S P585・S P675・S P676・S A01
- 第163区 持田I遺跡遺構実測図 (中世後期) S B06・S P934・S P974・S P985・S B07・S P930・S P957・S P967・S P973
- 第164区 持田I遺跡遺構実測図 (中世後期) S B08
- 第165区 持田I遺跡遺構実測図 (中世後期) S P701-708・S P710・S P1152・S P1172・S P1184・S P1185・S P1189・S P1217・S P1263・S P1273・S P1277・S P1285・S P1306

- 第166回 持田 I 遺跡遺構実測図 (中世後期) S B 09・S P 1163・S P 1179・S P 1230・S P 1257・S B 10  
 第167回 持田 I 遺跡遺構実測図 (中世後期) S B 11・S A 02・S P 1057・S P 1065・S P 1174・S A 03・S P 1073・S P 1074・S P 1091  
 第168回 持田 I 遺跡遺構実測図 (中世後期) S P 1010・S P 1015・S P 1017-1025・S P 1031-1037・S P 1045-1047・S P 10 56・S P 1060・S P 1061・S P 1064・S P 1067・S P 1105・S P 1106・S P 1145・S P 1146  
 第169回 持田 I 遺跡遺構実測図 (中世後期) S B 12・S P 1110・S P 1127・S P 1132・S P 1133・S P 1135・S P 1141・S P 11 59  
 第170回 持田 I 遺跡遺構実測図 (中世後期) S D 2117・S D 2192  
 第171回 持田 I 遺跡遺構実測図 (中世後期) 谷  
 第172回 持田 I 遺跡遺構実測図 (中世後期) S D 2109・S D 2106  
 第173回 持田 I 遺跡遺構実測図 (中世後期) S D 2032・S D 2047・S D 2033・S D 2076  
 第174回 持田 I 遺跡遺構実測図 (中世後期) S D 565・S D 658・S D 564・S D 409・S D 405・S D 583・S D 611・S D 439・S D 618・S D 570  
 第175回 持田 I 遺跡遺構実測図 (中世後期) S D 711・S D 739・S D 736・S D 721・S D 1292  
 第176回 持田 I 遺跡遺構実測図 (中世後期) S D 1295・S D 1296・S D 1130・S D 1112・S D 1319・S D 1063  
 第177回 持田 I 遺跡遺構実測図 (中世後期) S E 609・S E 738・S E 575  
 第178回 持田 I 遺跡遺構実測図 (中世後期) S E 718  
 第179回 持田 I 遺跡遺構実測図 (中世後期) S E 895・S E 870・S E 975・S E 1362・S E 910  
 第180回 持田 I 遺跡遺構実測図 (中世後期) S P 960・S E 980  
 第181回 持田 I 遺跡遺構実測図 (中世後期) S K 165・S K 472・S K 338・S K 600・S K 497・S K 496・S K 463・S K 462・S K 542・S K 419・S K 429・S K 548・S K 381・S K 655・S K 459・S K 350・S K 529・S K 601・S K 514・S K 440  
 第182回 持田 I 遺跡遺構実測図 (中世後期) S K 608・S K 626・S K 631・S K 620・S K 580・S K 671  
 第183回 持田 I 遺跡遺構実測図 (中世後期) S K 307・S K 384・S K 385・S K 334・S K 322・S K 396・S K 677・S K 450・S K 607・S K 610・S K 603・S K 454  
 第184回 持田 I 遺跡遺構実測図 (中世後期) S K 732・S K 737・S K 1178・S K 1183・S K 1170・S K 709・S K 713・S K 1281・S K 1246・S K 1199・S K 715・S K 1218・S K 757  
 第185回 持田 I 遺跡遺構実測図 (中世後期) S K 732・S K 744・S K 800・S K 779・S K 783・S K 832・S K 853・S K 811・S K 808・S K 809・S K 818・S K 819・S K 900  
 第186回 持田 I 遺跡遺構実測図 (中世後期) S K 925・S K 994・S K 991・S K 992・S K 906・S K 909・S K 908・S K 933・S K 952・S K 1013  
 第187回 持田 I 遺跡遺構実測図 (中世後期) S K 1087・S K 1066  
 第188回 持田 I 遺跡遺構実測図 (中世後期) S Z 2038・S Z 2039・S X 2040・S X 2119・S X 2120  
 第189回 持田 I 遺跡遺構実測図 (中世後期) S X 2040・S X 2119・S X 2120  
 第190回 持田 I 遺跡遺構実測図 (中世後期) S B 13・S P 302・S P 308・S P 312・S P 306・S P 303・S K 343  
 第191回 持田 I 遺跡遺構実測図 (中世末期-近世) S B 14・S P 222・S P 228・S P 229・S P 235・S P 239・S P 745・S P 764・S P 755・S P 759・S P 762  
 第192回 持田 I 遺跡遺構実測図 (中世後期) S B 15・S P 121・S P 912・S P 171・S P 174・S B 16・S P 135・S P 183・S P 177  
 第193回 持田 I 遺跡遺構実測図 (中世末期-近世) S B 17・S P 88・S P 92・S P 93・S P 95・S P 81・S P 82・S P 214・S P 245・S P 85・S P 102・S K 80  
 第194回 持田 I 遺跡遺構実測図 (中世末期-近世) S B 18・S P 28-30・S P 37・S P 43・S P 44・S P 48・S P 53・S K 26・S K 32  
 第195回 持田 I 遺跡遺構実測図 (中世末期-近世) S K 915・S X 977・S X 978・S X 983  
 第201回 持田 I 遺跡遺構実測図 (中世末期-近世) S D 09・S D 12・S D 90・S D 219-221  
 第202回 持田 I 遺跡遺構実測図 (中世末期-近世) S D 03・S D 04・S D 06・S D 10・S D 14-17・S D 65・S D 66・S D 69  
 第203回 持田 I 遺跡遺構実測図 (中世末期-近世) S D 241・S D 256・S D 257  
 第204回 持田 I 遺跡遺構実測図 (中世末期-近世) S E 180・S E 213・S E 979  
 第205回 持田 I 遺跡遺構実測図 (中世末期-近世) S K 07・S K 13・S K 125・S K 116・S K 109・S K 155・S K 215  
 第206回 持田 I 遺跡遺構実測図 (中世末期-近世) S K 210・S K 156・S K 165・S K 166・S K 128・S K 123・S K 130・S K 190・S K 170・S K 200  
 第207回 持田 I 遺跡遺構実測図 (中世末期-近世) S A 04・S K 2001・S K 2030・S K 2031  
 第208回 持田 I 遺跡遺構実測図 (中世後期) S B 01・S B 02・S B 03・S B 04・S B 05  
 第210回 持田 I 遺跡遺構実測図 (中世後期) S B 08・S B 11  
 第211回 持田 I 遺跡遺構実測図 (中世後期) S D 409・S D 439・S D 564・S D 570・S D 618・S D 658・S D 721・S D 741・S D 1292・S D 2032・S D 2177・行  
 第212回 持田 I 遺跡遺構実測図 (中世後期) 行・S D 2192  
 第213回 持田 I 遺跡遺構実測図 (中世後期) S E 609  
 第214回 持田 I 遺跡遺構実測図 (中世後期) S E 609  
 第215回 持田 I 遺跡遺構実測図 (中世後期) S E 718  
 第216回 持田 I 遺跡遺構実測図 (中世後期) S E 738・S E 895・S E 910・S E 990・S E 1362  
 第217回 持田 I 遺跡遺構実測図 (中世後期) S K 307・S K 332・S K 334・S K 365・S K 384・S K 419・S K 420・S K 450・S K 454・S K 459・S K 462・S K 497・S K 465・S K 502・S K 512・S K 542・S K 548・S K 590・S K 600  
 第218回 持田 I 遺跡遺構実測図 (中世後期) S K 607  
 第219回 持田 I 遺跡遺構実測図 (中世後期) S K 608  
 第220回 持田 I 遺跡遺構実測図 (中世後期) S K 655・S K 671・S K 709・S K 713・S K 737・S K 744・S K 757・S K 800・S K 809・S K 826・S K 832・S K 858・S K 860・S K 900・S K 925・S K 992・S K 1044  
 第221回 持田 I 遺跡遺構実測図 (中世後期) S K 1087・S K 1170・S K 1178・S K 1199  
 第222回 持田 I 遺跡遺構実測図 (中世後期) S Z 2039・S X 2120  
 第223回 持田 I 遺跡遺構実測図 (中世後期) 包含層  
 第224回 持田 I 遺跡遺構実測図 (中世後期) 包含層  
 第225回 持田 I 遺跡遺構実測図 (中世後期) 包含層  
 第226回 持田 I 遺跡遺構実測図 (中世末期-近世) S B 18  
 第227回 持田 I 遺跡遺構実測図 (中世末期-近世) S D 09・S D 12  
 第228回 持田 I 遺跡遺構実測図 (中世末期-近世) S D 14・S D 190・S D 221・S D 241・S D 256  
 第229回 持田 I 遺跡遺構実測図 (中世末期-近世) S E 180・S E 213・S E 979

第230回	持田I遺跡遺物実測図(中世末期~近世)	S K07・S K13・S K123・S K125・S K128・S K148・S K165・S K169・S K190・S K196・S K200・S K215・S K237・S K251	包含層
第231回	持田I遺跡遺物実測図(中世末期~近世)		包含層
第232回	持田I遺跡遺物実測図(中世末期~近世)		包含層
第233回	持田I遺跡遺物実測図(中世末期~近世)		包含層
第234回	持田I遺跡遺物実測図(中世末期~近世)		包含層
第235回	持田I遺跡遺物実測図(中世末期~近世)		包含層
第236回	持田I遺跡遺物実測図(その他)		

## 図版目次

図版1	清水島II遺跡	全景(中世)	
図版2	清水島II遺跡	全景	
図版3	清水島II遺跡	全景	
図版4	清水島II遺跡	井戸・土坑・溝	S E1265・S E1349・S D1266・S K1287・S K1268・S D600
図版5	清水島II遺跡	全景・井戸・土坑・溝	S D571・S K604・S K497・S K546・S E484・S D567
図版6	清水島II遺跡	全景・井戸・土坑・溝	S K417・S K450・S K300・S E411・S D460・S K357
図版7	清水島II遺跡	全景	
図版8	清水島II遺跡	井戸・土坑・溝	S X896・S K786
図版9	清水島II遺跡	井戸・土坑・溝	S E675・S K667・S K637・S K813・S D810・S K669
図版10	清水島II遺跡	井戸・土坑	S K783・788・S K785・S K786・S E675・S E309・S E315
図版11	清水島II遺跡	全景・井戸・土坑・溝	S E304・S K239・S K314・S D226・S D519・S K211
図版12	清水島II遺跡	井戸・土坑・溝	S E205・S E32・S K130・S K212・S D226・S D519
図版13	清水島II遺跡	土坑	S K145
図版14	清水島II遺跡	土坑	S K95・S K210・S K108・S K109・S K164・S K146・S K145
図版15	清水島II遺跡	井戸・土坑・溝	S K128・S E08・S E01・S E82・S E301・S D92・川水
図版16	清水島II遺跡	出土遺物	S K315
図版17	清水島II遺跡	出土遺物	S K546・包含層
図版18	清水島II遺跡	出土遺物	S K102・S K50・S K230・S K253・S K309・S K1183・包含層
図版19	清水島II遺跡	出土遺物	包含層
図版20	清水島II遺跡	出土遺物	S D749・S D583・S K1349・包含層
図版21	清水島II遺跡	出土遺物	S K383・S K488・S K1361
図版22	清水島II遺跡	出土遺物	S K504・S K505・S K513・S K695
図版23	清水島II遺跡	出土遺物	S K113・S K1149・包含層
図版24	清水島II遺跡	出土遺物	S D59・S K62・S D130・S K164・S E228・S D463・S D605・用水・包含層
図版25	清水島II遺跡	出土遺物	S E304・S K305・S K561・S D812・S K1141・包含層
図版26	清水島II遺跡	出土遺物	S K130・S D567・S D749・S K1194・包含層
図版27	清水島II遺跡	出土遺物	S K239・S K289・S K315・S K1349・S K1361・表漆・包含層
図版28	清水島II遺跡	出土遺物	S K302・S D567・S K1149・包含層
図版29	清水島II遺跡	出土遺物	S K95・S D749・包含層
図版30	清水島II遺跡	出土遺物	S K47・S E315・S D460・S E482・S K509・S D749・S K1349・用水・包含層
図版31	清水島II遺跡	出土遺物	S K95・S K438・S D460・包含層
図版32	清水島II遺跡	出土遺物	S E32・S K50・S K299・S D460・S D519・S D574・S K830・S K1319・用水・包含層
図版33	清水島II遺跡	出土遺物	S K03・S D433・S K456・S D460・S K542・S K620・S D749・S K893・S E08・川水・包含層
図版34	清水島II遺跡	出土遺物	S K95・S K239・S K438・包含層
図版35	清水島II遺跡	出土遺物	用水
図版36	清水島II遺跡	出土遺物	S E08・S E33・S K104・S K108・S K145・S K164・S K652・包含層
図版37	清水島II遺跡	出土遺物	S K145・S E301・S X896・S K1110・包含層
図版38	清水島II遺跡	出土遺物	S K145・S K164・S K197・S D749・S D758・S K1196・包含層
図版39	清水島II遺跡	出土遺物	S K239・S E315・S K387・S K400・S K417・S D463・S K483・S K484・S K509・S K743・S K1296・S K1349・包含層
図版40	清水島II遺跡	出土遺物	S E32
図版41	清水島II遺跡	出土遺物	S E205
図版42	清水島II遺跡	出土遺物	S E205
図版43	清水島II遺跡	出土遺物	S E301・S E411・S E1265
図版44	清水島II遺跡	出土遺物	S R82・S E304・S E315・S E482
図版45	清水島II遺跡	出土遺物	S K04・S P20・S K63・S K106・S K109・S K1202
図版46	中名II遺跡	全景(中世後期)	
図版47	中名II遺跡	堅穴住居・土坑・溝(古代)	S I424・S K1500・S K1400・S D1401
図版48	中名II遺跡	全景・建物(中世前期)	S B08・S B04・S B06・S B05
図版49	中名II遺跡	全景・建物・溝(中世前期)	S R09・S E10・S D1159・S D1160
図版50	中名II遺跡	全景・建物・柱穴(中世前期)	S D1169・S D1160・S B09・S B10・S P1264・S P1213
図版51	中名II遺跡	柱穴・鍛冶関連遺物(中世前期)	S P1252・S P1257・S X1002・S X1272
図版52	中名II遺跡	鍛冶関連遺物・全景・溝(中世前期)	S X1273・S D2249・S D2250・S D2251
図版53	中名II遺跡	溝(中世前期)	S D2249・S D2250・S D2251
図版54	中名II遺跡	全景・土坑(中世後期)	S K107・S K106堀堀
図版55	中名II遺跡	石列・全景(中世後期)	S D136・S X65
図版56	中名II遺跡	全景(中世後期)	
図版57	中名II遺跡	建物・井戸(中世後期)	S B24・S E2100・S E23
図版58	中名II遺跡	出土遺物	S I424
図版59	中名II遺跡	出土遺物	S D136・S P1264・S D2250・S D2251
図版60	中名II遺跡	出土遺物	包含層
図版61	中名II遺跡	出土遺物	S D411・S D2251・S D2257・包含層
図版62	中名II遺跡	出土遺物	S D1160・S P1218・S P1223・S K1254・包含層
図版63	中名II遺跡	出土遺物	S D03・S K1254・S P1235・S P1200・S D2251・S D2249・S D2274・包含層
図版64	中名II遺跡	出土遺物	S D03・S K109・S D119・S R133・S D2002・S K2132・S D2139・包含層

國版65	中名Ⅱ遺跡	出土遺物	土器	S D136、包含層
國版66	中名Ⅱ遺跡	出土遺物	土器	S D03、S K1201、S D1267、S D2164、S D2274、包含層
國版67	中名Ⅱ遺跡	出土遺物	木製品	S F1213、S F1252、S F1257
國版68	中名Ⅱ遺跡	出土遺物	木製品	S D1160、S D2251
國版69	中名Ⅱ遺跡	出土遺物	木製品	S D2251
國版70	中名Ⅱ遺跡	出土遺物	木製品	S D1160、S D2251
國版71	中名Ⅱ遺跡	出土遺物	木製品	S D1159、S D2251
國版72	中名Ⅱ遺跡	出土遺物	木製品	S D2251
國版73	中名Ⅱ遺跡	出土遺物	木製品	S D1160、S F1319、S D2251
國版74	中名Ⅱ遺跡	出土遺物	木製品	S D1160、S D2251
國版75	中名Ⅱ遺跡	出土遺物	木製品	S D2251
國版76	中名Ⅱ遺跡	出土遺物	金屬製品	S K1110、S K179、S K267、S D2001、S K2131、包含層
國版77	中名Ⅱ遺跡	出土遺物	金屬製品	S P1230、S X1272、包含層
國版78	中名Ⅱ遺跡	出土遺物	金屬製品	S X1273、包含層
國版79	中名Ⅱ遺跡	出土遺物	石製品	S D03、S K183、S K202、S D2034、S D2251、包含層
國版80	持田Ⅰ遺跡	建物(中世後半)		S B01、S B03-05
國版81	持田Ⅰ遺跡	建物(中世後半)		S F08-10、S B11
國版82	持田Ⅰ遺跡	井(中世後半)		S D2032、S D2192、S X2190
國版83	持田Ⅰ遺跡	井戸(中世後半)		S E609、S E718、S E575、S E865、S E738、S E895、S E890
國版84	持田Ⅰ遺跡	井戸(中世後半)		S E870、S E910、S E975、S E1362、S E870
國版85	持田Ⅰ遺跡	井戸・土坑(中世後半)		S E910、S E975、S E1362、S E960、S E990、S K454、S K757
國版86	持田Ⅰ遺跡	土坑・土塚墓(中世後半)		S K1087、S X2038、S X2099、S X2040、S X2119、S X2120
國版87	持田Ⅰ遺跡	象石墓(中世後半)		S X2120、S X2119
國版88	持田Ⅰ遺跡	建物(中世末期~近世)		S B13、S B14、S B15、S B16
國版89	持田Ⅰ遺跡	建物(中世末期~近世)		S B18、S K26、S K80、S B17
國版90	持田Ⅰ遺跡	建物、溝、土坑(中世末期~近世)		S X915、S X977、S X978、S D09、S E180、S E213
國版91	持田Ⅰ遺跡	井戸・土坑(中世末期~近世)		S E180、S E213、S E979、S K200、S K108
國版92	持田Ⅰ遺跡	堀列(中世末期~近世)		S A04、S A05
國版93	持田Ⅰ遺跡	出土遺物	土器	S K512、S K608、S K1060、S K1170、包含層
國版94	持田Ⅰ遺跡	出土遺物	土器	S K381、S K459、S K542、S E1362
國版95	持田Ⅰ遺跡	出土遺物	土器	S K1087、S Z2039
國版96	持田Ⅰ遺跡	出土遺物	土器	S K251、S D256、S K450、S E609、S K713、S E718、S K860、包含層
國版97	持田Ⅰ遺跡	出土遺物	土器	S D09、S D90、S K215、S D2177、包含層
國版98	持田Ⅰ遺跡	出土遺物	土器	S D09、S E896、S K900、包含層
國版99	持田Ⅰ遺跡	出土遺物	土器	S K334、S K607、S K608、S E609、S K713、S K858、包含層
國版100	持田Ⅰ遺跡	出土遺物	土器	S K26、S D90、谷部、包含層
國版101	持田Ⅰ遺跡	出土遺物	木製品	S E609
國版102	持田Ⅰ遺跡	出土遺物	木製品	S E609
國版103	持田Ⅰ遺跡	出土遺物	木製品	S E718、S E990、S E1362
國版104	持田Ⅰ遺跡	出土遺物	金屬製品	S K607、S K608、S E738、包含層
國版105	持田Ⅰ遺跡	出土遺物	金屬製品	谷部、包含層
國版106	持田Ⅰ遺跡	出土遺物	石製品	S F461、包含層

## 表目次

第1表	試掘調査結果	1
第2表	調査一覽	4
第3表	遺跡地名一覽	8
第4表	清水島Ⅱ遺跡 柱穴一覽	112
第5表	清水島Ⅱ遺跡 建物一覽	113
第6表	清水島Ⅱ遺跡 井戸一覽	114
第7表	清水島Ⅱ遺跡 近世土坑一覽	114
第8表	清水島Ⅱ遺跡 溝一覽	115
第9表	清水島Ⅱ遺跡 土坑一覽	116
第10表	清水島Ⅱ遺跡 木製品一覽	128
第11表	清水島Ⅱ遺跡 金屬製品一覽	129
第12表	清水島Ⅱ遺跡 石製品一覽	130
第13表	清水島Ⅱ遺跡 土器一覽	131
第14表	中名Ⅱ遺跡 竪堀柱建物一覽	254
第15表	中名Ⅱ遺跡 柱穴一覽	254
第16表	中名Ⅱ遺跡 溝一覽	256
第17表	中名Ⅱ遺跡 土坑一覽	258
第18表	中名Ⅱ遺跡 井戸一覽	260
第19表	中名Ⅱ遺跡 木製品一覽	260
第20表	中名Ⅱ遺跡 石製品一覽	262
第21表	中名Ⅱ遺跡 金屬製品一覽	262
第22表	中名Ⅱ遺跡 土器一覽	264
第23表	持田Ⅰ遺跡 竪堀柱建物一覽	372
第24表	持田Ⅰ遺跡 柱穴一覽	372
第25表	持田Ⅰ遺跡 溝一覽	377
第26表	持田Ⅰ遺跡 井戸一覽	378
第27表	持田Ⅰ遺跡 土坑一覽	378
第28表	持田Ⅰ遺跡 墓塚一覽	380
第29表	持田Ⅰ遺跡 木製品一覽	380
第30表	持田Ⅰ遺跡 石製品一覽	381
第31表	持田Ⅰ遺跡 金屬製品一覽	381
第32表	持田Ⅰ遺跡 土器一覽	382

# 第I章 調査経緯

## I 調査に至る経緯

### A 調査の契機

岐阜県神通川で廃物として神通川に排出されたカドミウムにより、水だけでなくその水で灌漑されている田も汚染された。昭和45年農用地の土壤汚染防止法が公布され、翌年から土壤汚染調査が行われた結果、汚染土壤地域約1,500ヘクタールが指定された。昭和55年から本格的な土壤復元が始まり、県営公害防除特別土地改良事業神通川流域地区と名付けられた。この事業は大型圃場による区画整理で、汚染対策地域と指定された農地に隣接する地域を併せて行われることとなった。復元工法は上乗せ客土工法と埋込客土工法の二工法が採用された。上乗せ客土工法は計画耕区ごとに均平化し、山土砂により耕盤を造成し、その上に客土をする工法。埋込客土工法は計画耕区ごとに深い溝を掘り、汚染土をはき取り溝に埋め込んだ後、基盤を均平化して埋め込み溝を掘削した時にでた土（非汚染土）で耕盤を造成し、その上に15cmの客土をする工法である。綿中町の第一次地区は12ヘクタールで昭和55年に始まり昭和58年に完了。第二次地区は165ヘクタールで昭和59年に始まり平成4年に完了。そして平成4年から第三次地区が始められた。第三次地区は対策地域の残りすべての復元工事で、329ヘクタールが対象地域となった。

### B 分布調査

第一次地区の分布調査は昭和53年に行われ、遺物は確認されなかった。第二次地区の分布調査は昭和57年に行われたがやはり遺物は確認されなかった。第三次地区は平成2・3年度に実施された分布調査では遺物は確認されなかったが、平成5年11月の分布調査で8ヶ所、12月には7ヶ所、平成6年4月には10ヶ所の埋蔵文化財埋蔵地が確認された。

埋蔵地名	所在地	面積 (㎡)	調査期間	遺構	遺物	時代	面積 (㎡)
治水Ⅰ	治水島宇四反蔵1214外	試掘調査 38	H6.3.1~3.24		珠洲、瓦質土器		
治水Ⅱ	治水島宇興ヶ口1214外	試掘調査 780	H6.3.1~3.24	溝、穴	土師器、埴器		
		試掘調査 235	H6.5.25~5.27		土師器、珠洲、瓦器、近世陶磁器	中世、近世	11,850
Ⅲ	無字寺町317外	試掘調査 545	H6.3.1~3.24	墓、塚状遺構	土師器、造中樋口、近世陶磁器		330
		試掘調査 61	H7.5.11~6.9	墓	珠洲、八尾(鹿骨器)、瀬戸瓦器、近世陶磁器	中世	100
		本調査 83	H7.7.17~10.12	墓	珠洲、八尾(鹿骨器)、近世陶磁器	中世	
中名Ⅰ	中名字別歌大地1937外	試掘調査 501	H6.3.1~3.24	溝、穴	土師器、瓦器、近世陶磁器		2,500
		試掘調査 100	H6.3.1~3.24	溝、穴	土師器、瓦器、近世陶磁器		
中名Ⅱ	中名字大百間516-6外	試掘調査 549	H6.8.25~5.27	溝、穴	中世土師器、珠洲、綿中瀬戸	平安、中世	30,400
		本調査 4,450	H6.8.1~10.27	掘立柱建物、土坑、溝、井戸	中世土師器、珠洲、埴器、八尾、瀬戸瓦器、輸入陶磁器	平安、中世	
中名Ⅴ	中名字北浦1475外 中名字北浦228-3外	試掘調査 1,620	H6.11.21~12.12	土坑、溝、石割井戸	中世土師器、珠洲	平安、中世、近世	79,087
		試掘調査 47	H8.11.14	溝	中世土師器、近世陶磁器、硯	中世、近世	453
持田Ⅰ	持田230外 持田190	試掘調査 353	H7.11.24~11.29	柱穴、土坑、溝	土師器、中世土師器、陶磁器、古銭、瓦質土器	平安、中世、近世	14,800
		試掘調査 28	H8.4.23	柱穴、土坑、溝	中世土師器	中世	200
持田Ⅱ	持田240外	試掘調査 281	H7.11.30~12.4		中世土師器、瀬戸瓦器、古銭、近世陶磁器、炭石	平安	
遺場Ⅰ	遺場Ⅰ(戸田202-1)外 遺場229-1外	試掘調査 981	H6.11.21~12.7	井戸、土坑	中世土師器、埴器、近世陶磁器	中世、近世	52,663
		試掘調査 50	H8.2.27	土坑		中世、近世	4,000
遺場Ⅱ	遺場Ⅰ(戸田202-1)外	試掘調査 316	H6.12.8~12.12		中世土師器	中世、近世	11,845

第1表 試掘調査結果

## C 試掘調査

試掘調査は婦中町教育委員会と富山県教育委員会（富山県埋蔵文化財センター）によって行われた。平成6年3月に11ヶ所の遺跡について幅約1mの試掘溝が111ヶ所設定され、重機（バックホウ）・人力により地表面から15～130cm下にある地山まで掘り下げ、遺構・遺物の遺存状況が調査された。その結果、清水島Ⅱ遺跡・中名Ⅰ遺跡・中名Ⅱ遺跡・堀Ⅰ遺跡の4遺跡で遺構が確認された。清水島Ⅱ遺跡と中名Ⅱ遺跡はこの調査で遺跡範囲が確定されなかったため、平成6年5月に再度試掘調査が行われた。平成6年11・12月には3ヶ所の包蔵地で162ヶ所の試掘溝が設定され調査されたところ、中名Ⅴ遺跡・道場Ⅰ遺跡・中名Ⅰ遺跡・中名Ⅵ遺跡が確認された。これらの試掘調査の結果、調査された地域は古代から中世の遺跡の密集地であることが判明した。

## D 本調査

試掘調査の結果から県耕地課・県農地林務課・婦中町農地課と婦中町教育委員会・県文化課・県埋蔵文化財センターの六者による協議で試掘調査結果と計画田面高の調整がされ、遺跡を最大限保存し、調査面積をできるだけ少なくする努力がなされた結果、中名Ⅱ遺跡の本調査（4,450m<sup>2</sup>）が平成6年8月から10月に婦中町教育委員会・県埋蔵文化財センターによって行われた。文化振興財団では平成7年度に新規事業として調査を受託し、平成7年度は清水島Ⅱ遺跡・中名Ⅱ遺跡、平成8年度は中名Ⅱ遺跡・持田Ⅰ遺跡と二年間で3遺跡の本調査を行った。

## 2 調査経過

### A 調査方法

発掘調査の基準となるグリッドの設定は国家座標を用い、遺跡ごとに起点を設定した。清水島Ⅱ遺跡は+70,280.00、-260.00、中名Ⅱ遺跡は+70,580.00、+340.00、持田Ⅰ遺跡は+70,820.00、+420.00、をX0Y0とし、南北方向をX軸、東西方向をY軸とした。グリッドは2×2mとし、各グリッド名は北東角のX軸とY軸の座標とした。

中名Ⅱ遺跡は婦中町教育委員会・県埋蔵文化財センターによって平成6年度に調査が行われた範囲がA・B・C・D地区であったため、平成7年度の調査地区はE1地区、平成8年度の調査地区はE2地区とF1地区とした。持田Ⅰ遺跡は県道館本郷派島線の南をA地区、北をB地区とした。

調査は表土・耕作土・無遺物層の除去、包含層の発掘、遺構確認面の精査・遺構の検出、遺構の発掘、遺構の記録、写真撮影、空中写真測量、補正作業の順で行った。

表土・耕作土・無遺物層の除去は、人力掘削による調査の事前準備として、調査員立ち会いのもと、試掘調査の結果をふまえて基本層序を確認しながら、事業者が重機（バックホウ）により掘削した。包含層の発掘はスコップ等を用い、人力で掘削した。排土はベルトコンベアーを使用し、調査区隣接地に集積した。

遺構確認面の精査・遺構の検出は、ジョレンやねじり鎌を用い、検出した遺構は石灰等でマーキングを行い、平板等で位置を測り遺構概略図を作成した。検出した遺構には遺構番号を付した。遺構番号は各地区ごとに遺構の種類にかかわらず通し番号とした。

遺構の発掘は移植ごてで小さい土坑・柱穴などは長軸に沿って半輪、大きい土坑は十字、またはそれ以上に、溝は適宜間隔をあけて上層観察用のセクションベルトを残して発掘し、記録をとった後、完掘した。

遺構の記録は土層断面図を1/20で実測し、遺構によっては1/10の遺物出土状況図を作成した。各遺構の断面は35mmカメラで撮り、出土状況や個別の完掘写真・ブロック写真は適宜ブローニー判もあわせて撮影した。調査区の全景写真は35mm・ブローニー判・4×5インチ判カメラで可能な限り2方向以上から撮影するようにした。フィルムは35mmはカラーと白黒、ブローニー判・4×5インチ判はカラースライドと白黒を使用した。遺構の平面図作成には空中写真測量を利用した。

井戸は完掘後重機（バックホウ）で断ち割り、最終レベルの確認、遺物の採取、写真撮影、図面作成を行った。

## B 調査の経過

調査は調査員2名1班体制で行った。平成7年度は清水島Ⅱ遺跡と中名Ⅱ遺跡E1地区の調査を行ったが、清水島Ⅱ遺跡の調査終了後、中名Ⅱ遺跡の調査に入った。調査期間及び調査面積は清水島Ⅱ遺跡が7月7日～10月23日で2,820㎡、中名Ⅱ遺跡が10月24～12月18日で456㎡である。平成8年度は中名Ⅱ遺跡E2地区・F1地区、持田Ⅰ遺跡を対象とし、調査期間及び調査面積は中名Ⅱ遺跡が5月8日～9月13日で2,425㎡、持田Ⅰ遺跡が5月14日～11月15日で6,006㎡である。

## C 調査体制

平成7年度（1995年度）

総括	桃野 貞晃	埋蔵文化財調査事務所所長
	加藤 善吾	埋蔵文化財調査事務所副所長
庶務	大房友明	埋蔵文化財調査事務所主任
	岩崎 証意	埋蔵文化財調査事務所主事
調査総括	山本 正敏	埋蔵文化財調査事務所第一課課長
調査員	酒井 重洋	埋蔵文化財調査事務所主任
	中川 道子	埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
	三島 道子	埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
	村上 泰司	埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事（故人）
	森本英津子	埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事

平成8年度（1996年度）

総括	桃野 貞晃	埋蔵文化財調査事務所所長
	谷井 保男	埋蔵文化財調査事務所副所長
庶務	宮成 真幸	埋蔵文化財調査事務所主事
	岩崎 証意	埋蔵文化財調査事務所主事
調査総括	山本 正敏	埋蔵文化財調査事務所第一課課長
調査員	酒井 重洋	埋蔵文化財調査事務所主任
	横山 和美	埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
	武田健次郎	埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
	吉田 裕子	埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
	関野 泰一	埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事（平成8年12月まで）
	内田亜紀子	埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
	野口 雅美	埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事

遺跡	地区	調査期間	延べ日数	調査面積	調査担当者	検出遺構	出土遺物	
清水島Ⅱ	中世上層	H7.7.7~10.23	69日間	2,820㎡	西井重洋・中川道子・村上泰吉・三合道子・森本美洋子	竪立柱建物、井戸、溝、土坑、石積	中世土師器、珠洲、瀬戸类遺、白磁、青磁、八尾、伊万里、唐津、越前瀬戸、石製品、金属製品、木製品	
	中世下層	H7.10.3~10.23	14日間	1,600㎡	西井重洋・中川道子・三合道子・森本美洋子		土師器	
中Ⅱ	E1	中世上層	H7.10.24~11.30	26日間	456㎡	西井重洋・中川道子・三合道子・森本美洋子	竪立柱建物、溝、土坑、殿付開扉遺構	土師器、須恵器、中世土師器、珠洲、青磁、白磁、瀬戸类遺、八尾、石製品、金属製品、木製品
		中世下層	H7.12.4~12.18	11日間	456㎡	西井重洋・中川道子・三合道子・森本美洋子		土師器、須恵器、中世土師器、珠洲、青磁、白磁、瀬戸类遺、八尾、石製品、金属製品、木製品
	E2	中世上層	H8.5.8~7.19	53日間	1,178㎡	西井重洋・吉田裕子	竪立柱建物、井戸、溝、土坑、石列	勾玉、土師器、須恵器、中世土師器、珠洲、青磁、白磁、瀬戸类遺、八尾、石製品、金属製品、木製品
		中世下層	H8.7.22~9.13	35日間	889㎡	西井重洋・吉田裕子		土師器、須恵器、中世土師器、珠洲、青磁、白磁、瀬戸类遺、八尾、石製品、金属製品、木製品
	F1	中世上層	H8.5.8~6.5	21日間	1,247㎡	武田健太郎・野口雅美	竪立柱建物、井戸、溝、土坑	中世土師器、珠洲、青磁、白磁、瀬戸类遺、瀬中瀬戸、伊万里、石製品、金属製品、木製品、鉄、土器
		中世下層	H8.6.6~7.25	36日間	707㎡	武田健太郎・野口雅美		中世土師器、珠洲、瀬戸、白磁、青磁、白磁、八尾、越前瀬戸、唐津、石製品、金属製品、鉄、木製品
持田Ⅰ	A	中世上層	H8.5.14~7.31	57日間	1,600㎡	横山和英・武田健太郎・西野幸一・内田恵紀子・野口雅美	竪立柱建物、土台建物、井戸、溝、土坑	中世土師器、珠洲、瀬戸、白磁、青磁、白磁、八尾、越前瀬戸、唐津、石製品、金属製品、鉄、木製品
		中世下層	H8.8.1~10.18	49日間	3,429㎡	横山和英・武田健太郎・西野幸一・野口雅美		中世土師器、珠洲、瀬戸、白磁、青磁、白磁、八尾、越前瀬戸、唐津、石製品、金属製品、鉄、木製品
	B	中世上層	H8.9.24~11.15	37日間	2,577㎡	西井重洋・吉田裕子	溝、土坑、溝渠	中世土師器、珠洲、瀬戸、白磁、青磁、瀬中瀬戸、金属製品

第2表 調査一覧

## D 現地説明会

発掘調査の結果を広く一般に公開するために、年に1回調査工程を検討しながら対象地区を選定して現地説明会を実施した。平成7年度は清水島Ⅱ遺跡、平成8年度は持田Ⅰ遺跡A地区で行った。遺構全体の概要について概略図で説明した後、順路に従った自由見学とし、主要な遺構には分かりやすく説明した看板を設置するとともに調査員を配置し、参加者の質問等に対応した。又、展示コーナーを設け、出土した遺物や遺構の写真を展示した。

平成7(1995)年9月23日(土)午前10時から12時まで 参加者数約230人

平成8(1996)年9月8日(日)午前10時から12時まで 参加者数約170人

## E 整理の経過

出土遺物は可能な限り各年度内に洗浄・注記・分類を行った。木製品・金属製品・石製品については、計測し、それに加えてメモ写真を撮影して整理台帳を作成した。木製品は収納・管理の便宜を図るためオートシーラーと専用フィルムを用いてバックし、仮保管している。調査概要については「埋蔵文化財調査概要-平成7年度-」「埋蔵文化財調査概要-平成8年度-」として発行している。

報告書刊行に向けての本格的な整理は、平成11年4月に開始した。

遺物の実測は土器・陶磁器を調査員及び整理作業員が行った。木製品・金属製品・石製品については業者委託により写真実測で行った。調査員及び整理作業員の描いた実測図は種類別の遺物カードに直接描いて整理した。遺構の実測図・写真・航空測量図はそれぞれの台帳を作成して整理し、遺構カードとともにパーソナルコンピューターを使用してデータ入力した。挿図にある遺構・遺物については入力したデータを観察表として掲載した。データ入力は人材派遣会社に委託し、整理作業員が補足した。

遺物の写真撮影は業者委託し、4×5インチ判及び5×7インチ判を基本として、白黒とカラーズライドフィルムを使用した。写真図版には密着焼き付けまたは引き伸ばしたものを使用した。

自然科学的分析は平成11年に専門機関等に委託し、その結果報告を掲載した。

木製品・金属製品のうち重要なものは、平成11年度から12年度にかけて元興寺文化財研究所に委託して保存処理を行った。

## F 整理体制

平成11 (1999) 年度

総括	桃野真晃	埋蔵文化財調査事務所所長
	谷井保男	埋蔵文化財調査事務所副所長
	上野章	埋蔵文化財調査事務所副所長
庶務	宮成真幸	埋蔵文化財調査事務所主任
	江本裕一	埋蔵文化財調査事務所主事
整理総括	狩野睦	埋蔵文化財調査事務所第二課課長
担当	酒井重洋	埋蔵文化財調査事務所第二課係長
	吉田裕子	埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
	野口雅美	埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事

平成12 (2000) 年度

総括	桃野真晃	埋蔵文化財調査事務所所長
	肥田啓章	埋蔵文化財調査事務所副所長
	上野章	埋蔵文化財調査事務所副所長
庶務	竹中慎一	埋蔵文化財調査事務所課長補佐
	江本裕一	埋蔵文化財調査事務所主事
整理総括	狩野睦	埋蔵文化財調査事務所第二課課長
担当	酒井重洋	埋蔵文化財調査事務所第二課係長
	吉田裕子	埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
	野口雅美	埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事

平成13 (2001) 年度

総括	桃野真晃	埋蔵文化財調査事務所所長
	肥田啓章	埋蔵文化財調査事務所副所長
	上野章	埋蔵文化財調査事務所副所長
庶務	竹中慎一	埋蔵文化財調査事務所課長補佐
	江本裕一	埋蔵文化財調査事務所主事
整理総括	酒井重洋	埋蔵文化財調査事務所第二課課長
担当	青山裕子	埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
	野口雅美	埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事

(青山 裕子)

## 第Ⅱ章 立地と歴史的環境

### 1 立地

富山県は、北は富山湾に面し、東・南・西はそれぞれ海拔3,000m級の立山連峰、飛騨山地、医王山・宝達山に囲まれている。飛騨高地から連なる音川山地・呉羽丘陵が中央部で県を東西に二分し、旧米「呉東」「呉西」と称されていた。清水島Ⅱ遺跡・中名Ⅱ遺跡・持田Ⅰ遺跡が位置する婦負郡婦中町は「呉東」に含まれ、富山県のほぼ中央に位置する。

婦中町は、西半部を射水丘陵・呉羽丘陵、東半部を神通川・井田川・山田川の複合扇状地に占められている。丘陵部は、30～50mの丘が南北に続いており、井田川流域、山田川流域、辺呂川流域、下条川流域、坪野川・和田川流域の5つに分けられる。また、山田川沿いには河岸段丘が見られるが、黒部川の扇状地や東部の段丘ほど規模は大きくない。扇状地は、幾筋もの谷地形と微高地が南北に連なっており、遺跡の多くがこの高台上に立地する。

清水島Ⅱ遺跡・中名Ⅱ遺跡・持田Ⅰ遺跡は神通川と井田川に挟まれた微高地に位置する。標高は23mを測る。周辺には、中名Ⅰ遺跡・中名Ⅴ遺跡・道場Ⅰ遺跡など、古代から中世・近世にかけての遺跡が密集している。

### 2 歴史的環境

清水島Ⅱ遺跡・中名Ⅱ遺跡・持田Ⅰ遺跡の周辺では、縄文時代から近世までの各時代の遺跡が見られるが、ここでは時代を追って主な遺跡について述べる。

縄文時代の遺跡では、婦負郡八尾町の長山遺跡(19)が挙げられる。神通川の段丘上に位置する縄文時代遺跡群の一つである。縄文時代前期～中期の遺跡で、堅穴住居や埋甕などが発見された。出土した土偶の中には三つ編みを表したと思われるものがあり、注目を集めた。周辺には、滅鬼南遺跡(20)、滅鬼遺跡(21)、大杉遺跡(22)があり、神通川対岸には上仁歩遺跡(23)、中核No5遺跡(24)、前山Ⅰ遺跡(25)などがある。

弥生時代の遺跡としては、南部Ⅰ遺跡(12)がある。

古墳時代の遺跡は、押上古墳(34)、伊豆宮古墳(43)があり、砂子田Ⅰ遺跡(10)、南部Ⅰ遺跡(12)、任海宮田遺跡(52)、下邑東遺跡(65)からも古墳時代の遺物が出土している。また、地図には入っていないが婦中町西部の丘陵上には王塚古墳や大型の前方後方墳である勅使塚古墳が築かれており、大和政権との係わりを感じさせる。

清水島Ⅱ遺跡・中名Ⅱ遺跡・持田Ⅰ遺跡が立地する神通川扇状地では、縄文～古墳時代の遺跡は少ない。しかし、古代から中世にかけては遺跡数が急増する。古代律令国家の成立に伴い北陸一帯は「越国」と称され、平野部の開発が進められたためである。神通川の扇状地では、中名Ⅰ遺跡(4)・中名Ⅴ遺跡(5)、富山市では吉倉B遺跡(37)、任海宮田遺跡(52)、友杉遺跡(55)などが7世紀から10世紀の遺跡である。特に任海宮田遺跡からは、土師器・須恵器・製塩土器・緑釉土器・瓦塔・土錘・金属製品・木製品・瑪瑙製の石帯など、様々な遺物が見つかっている。また、「城長」・「観音寺」・「築田」といった文字が書かれた墨書土器が出土しており、荘園開発とその指揮を執る人物に係わる文言と考えられている。堅穴住居・溝などの遺構も見つかっているが、この時代の住居は概して小型である。神通川の氾濫原であった地を開拓する人々の姿が忍ばれる。

また、婦中町中名にある熊野神社は「延喜式」の神名帳に記載された式内社と推定される神社の一つである。伝承によると久寿二年（1155年）、立山山麓の五智山円福寺が光明坊の時に萩の島に移り、為成郡十七ヶ村の総社となった。歴代の住僧が熊野神社の当職として奉仕したが、光明山来迎寺と寺号を改めた後富山市に移った。その後、江戸時代には坪野村の豪農若林源左衛門に奉斎が命ぜられた。毎年八月に行われる稚児舞はこの頃に遡るものである。

中世にはいっそう遺跡数が増える。平野部の開発が進み、それに伴い人口が増えたためであろう。富山平野には荘園が発達し、国衙領だけでなく京都下鴨社領寒江荘、山城醍醐寺三宝院領御服（五福・興服）荘、徳大寺領宮河荘、伊勢神宮領鵜坂御厨といった寺社の領地が古文書にも登場する。この内、徳大寺領宮河荘は文和三年（1354年）十二月二十三日の足利義詮御判御教書案（徳大寺文書）に「宮河庄」と有るのが早く、また新潟県小千谷市の魚沼神社所蔵の大般若経には至徳二年（1385年）十月六日付奥書として「婦負郡宮河荘押上」、同四年五月二十二日付には「宮河荘新保」、嘉慶二年（1388年）五月付には「婦負郡宮河荘鵜坂社」などとある。これらの地名から、宮河荘は現婦中町の神通川左岸及び対岸の富山市城の熊野川に挟まれた一帯に比定されている。

宮河荘推定地にある中世遺跡は、中名Ⅰ遺跡（4）、中名Ⅴ遺跡（5）、中名Ⅵ遺跡（6）、道場Ⅰ遺跡（8）、吉倉Ⅱ遺跡（37）、任海鎌倉遺跡（38）、南中田A～D遺跡（36・39・40・41）任海宮田遺跡（52）、友杉遺跡（55）など多数である。中世前期の集落は、数棟の掘立柱建物と共同で使う井戸が伴い、周囲には田畑が広がる散村の形態である。中世後半の集落は、溝で四角く区画された内側に掘立柱建物が建てられる。建物の近くには井戸があり、鍛冶工房などの作業場が伴うこともある。建物等がある生活の場から少し離れて墓地が造られ、「村」の形が整ってくる。中世集落遺跡の出土遺物には、在地で焼かれた中世土師器や石川県の珠洲が多く見られる。陶磁器では瀬戸・八尾・越中瀬戸や中国製の青磁・白磁、木製品の漆器や箸・曲物、刀子・銭などの金属製品、石臼・石鉢・五輪塔といった石製品など様々な生活用品が出土する。また、茶道に使われる天目茶碗や符棋の駒、独楽といった娯楽に関係するような遺物も登場する。

堀Ⅰ遺跡（9）、惣在寺廃寺（46）、任海池原寺跡（53）、鵜坂寺跡（60）は中世の墓・寺院跡である。堀Ⅰ遺跡は清水島Ⅱ遺跡の北東に位置する中世の墓で、蔵骨器が出土している。鵜坂寺は、式内社である鵜坂神社の別当寺であったが、明治の神仏分離令で廃寺となったものである。現社地の北側に位置し、石仏・五輪塔・無縫塔が出土している。

また、戦乱に備えて山城が築かれた。尾畑城跡（28）、布谷砦跡（29）などである。当時の有力者の居館であったと考えられる田中館跡（16）、井田館跡（18）、館本郷館跡（32）、越川館跡（56）などの城館遺跡も見られる。

近世の集落も中世と同じようなところに位置する。上記の中名Ⅰ遺跡、中名Ⅴ遺跡、中名Ⅵ遺跡、道場Ⅰ遺跡、任海宮田遺跡、友杉遺跡では、近世の遺物・遺構が見つまっている。近世以降も、農村として発達し、現在では一帯に水田が広がる。（野口 雅美）

#### 【参考文献】

- 『婦中町史』 婦中町教育委員会  
『ふるさと 富山歴史館』 富山新聞社



第1圖 周辺遺跡位置圖 (1:50,000)

番号	遺跡名	所在地	種類	時代
1	清水島遺跡	岐阜郡福中町清水島	散布地	中世(鎌倉・室町)
2	中名遺跡	岐阜郡福中町中名大字百間	散布地	古代(奈良・平安)・中世(鎌倉・室町)・近世
3	持田遺跡	岐阜郡福中町持田	散布地	古代(奈良・平安)・中世(鎌倉・室町)・近世
4	中名遺跡	岐阜郡福中町中名大字阿弥大道	散布地	古代(奈良・平安)・中世(鎌倉・室町)・近世
5	中名遺跡	岐阜郡福中町中名大字北道	集落	古代(奈良・平安)・中世(室町・戦国)・近世
6	中名遺跡	岐阜郡福中町中名	散布地	古代(奈良・平安)・中世(鎌倉・室町)・近世
7	沼津遺跡	岐阜郡福中町沼津江戸田	散布地	中世(鎌倉・室町)・近世
8	沼津遺跡	岐阜郡福中町沼津江戸田	散布地	中世(鎌倉・室町)・近世
9	堀遺跡	岐阜郡福中町堀	現状遺構・墓	中世(室町)・近世
10	砂子田遺跡	岐阜郡福中町砂子田	散布地	古墳・古代(奈良・平安)・近世
11	鏡遺跡	岐阜郡福中町羽根	散布地	古代(奈良・平安)?
12	南郷遺跡	岐阜郡福中町南郷・上舟村・湯田・春日野・八尾町	集落	弥生・古墳(前)・古代(奈良・平安)・中世(鎌倉・室町)・近世
13	南郷遺跡	岐阜郡福中町白田	集落	中世(室町)
14	小倉中郷遺跡	岐阜郡福中町小倉	集落	中世(鎌倉・室町)
15	犀尾遺跡	岐阜郡八尾町犀尾	散布地	中世(鎌倉・室町)・近世
16	田中郷遺跡	岐阜郡八尾町田中	城跡	中世(鎌倉・室町)
17	犀尾遺跡	岐阜郡八尾町館本郷・田中・犀尾	散布地	古代(奈良・平安)・中世(鎌倉・室町)・近世
18	井田郷遺跡	岐阜郡八尾町井田	城跡	中世(室町)
19	長山遺跡	岐阜郡八尾町長山	集落	縄文
20	成島南遺跡	岐阜郡八尾町成島・成生	散布地	縄文(中)
21	成島遺跡	岐阜郡八尾町成島	集落	縄文
22	大杉遺跡	岐阜郡八尾町大杉	集落	縄文(中)
23	上仁歩遺跡	岐阜郡八尾町上仁歩	散布地	縄文
24	中輪No.5遺跡	岐阜郡八尾町中輪	散布地	縄文
25	首山遺跡	岐阜郡八尾町首山	集落	縄文
26	下里原遺跡	岐阜郡八尾町下里原	散布地	古土
27	倉ヶ谷洞窟	岐阜郡八尾町倉ヶ谷	洞窟	不明
28	尾瀬城跡	岐阜郡八尾町尾瀬	城跡(山城)	中世(室町)
29	石谷谷跡	岐阜郡八尾町石谷	城跡(山城)	中世(鎌倉・室町)
30	松原遺跡	岐阜郡八尾町松原神楽堂	散布地	縄文
31	大判遺跡	富山市大判・福原	散布地	古代(平安)
32	福本原跡	富山市八尾町福本	城跡	中世(鎌倉・室町)
33	大判原遺跡	富山市大判・惣在寺	散布地・墓	縄文(後)・古代(平安)・中世(鎌倉・室町)
34	坪上古墳	富山市坪上	古墳?	古墳?
35	青倉A遺跡	富山市青倉	集落・墓	古代(平安)・中世(鎌倉・室町)
36	青倉中B遺跡	富山市青倉	集落	縄文・古代(奈良・平安)・中世(鎌倉・室町)
37	青倉B遺跡	富山市青倉・坪上・南中田	集落	古代(奈良・平安)・中世(鎌倉・室町)
38	任海跡遺跡	富山市任海	集落	古代(奈良・平安)・中世(鎌倉・室町)
39	南中田C遺跡	富山市南中田宇田橋制	集落	古代(平安)・中世(鎌倉・室町)
40	南中田B遺跡	富山市南中田宇田橋制	集落	古代(平安)・中世(鎌倉・室町)
41	南中田A遺跡	富山市南中田宇田野割	集落	古代(奈良・平安)
42	富山人遺跡	富山市惣在寺・栗山	集落	縄文(後)・古代(平安)・中世(鎌倉・室町)
43	伊豆宮古墳	富山市上朝山・大沢野町	古墳	古墳(後)
44	門敷寺遺跡	富山市上朝山	散布地	古代(平安)・中世(鎌倉・室町)
45	伊豆宮遺跡	富山市上朝山宇野田御	集落	縄文(中)
46	惣在寺南寺跡	富山市惣在寺・栗山	社寺(寺院)	中世(鎌倉・室町)・近世
47	栗山塚	富山市栗山宇橋原	塚(野塚)・墓	中世(鎌倉・室町)・近世
48	栗山橋原遺跡	富山市栗山宇橋原	集落	古代(平安)・中世(鎌倉・室町)
49	任海砂田遺跡	富山市任海宇砂田御	集落	古代(平安)・中世(鎌倉・室町)
50	任海遺跡	富山市任海	集落	古代(奈良・平安)・中世
51	任海遺跡	富山市南央町	散布地	縄文(後)・古代(平安)・中世(鎌倉・室町)・近世
52	任海宮田遺跡	富山市任海・友杉	集落	縄文(後)・古土(古墳)・古代(奈良・平安)・中世(鎌倉・室町)・近世(17~18c)
53	任海地蔵寺跡	富山市任海宇仙田御	社寺(寺院)	中世(鎌倉・室町)・近世
54	安楽寺遺跡	富山市安楽寺・中川原	集落	中世(鎌倉・室町)・近世
55	友杉遺跡	富山市友杉・任海	集落	古代(奈良・平安・8~10c)・中世(鎌倉・室町)・近世(17~18c)
56	越川館跡	富山市越川・馬崎	城跡	中世(鎌倉・室町)・近世
57	八日町遺跡	富山市八日町	散布地	古代(平安)・中世(鎌倉・室町)
58	馬崎稲田遺跡	富山市馬崎・馬崎・越川・八日町	散布地	古代(平安)・中世(鎌倉・室町)・近世
59	馬崎大塚遺跡	富山市馬崎	散布地	弥生(後)・古代(奈良・平安)・中世(鎌倉・室町)・近世
60	胸塚寺跡	岐阜郡福中町胸塚	社寺(寺院)	中世(鎌倉・室町)
61	堀尻遺跡	岐阜郡福中町堀尻	散布地	古代(奈良・平安)・中世(鎌倉・室町)・近世
62	宮ヶ島遺跡	岐阜郡福中町宮ヶ島	散布地	中世(鎌倉・室町)・近世
63	下野田遺跡	岐阜郡福中町下野田	散布地	中世・近世
64	高日野遺跡	岐阜郡福中町高日野	散布地	弥生・古代
65	下邑水遺跡	岐阜郡福中町羽根	集落	古墳(後)・古代(奈良・平安)・中世(鎌倉・室町)

表3 遺跡地名一覧

## 第三章 清水島Ⅱ遺跡

### 1 調査の概要

#### A 概要

遺跡の時期は、中世と近世の二つの時代に大きく分かれるが、近世の遺構は、調査区東側の部分に集中する。また、中世は、調査区の中央部分で二層の検出面がみられ、上層と下層に分けられる。この中央部から東が集落と考えられる。一方西側は、墓坑と思われる土坑群がみられ、ある時期からは墓域となっている。この墓域はSX896を南側の端として北側に広がると考えられ、それに向かうSD777・749に挟まれた墓道が墓域の中央を南北にはしる。また時期はやや古いと思われるSD463・638に挟まれた東西方向の道が集落から続き、中央部でぶつかっている。土坑はいくつかの群に分けられるが、焼骨を伴わず土葬用の穴と考えられた。また殆ど副葬品と考えられる遺物はみられない。SE675は墓域の中に作られた井戸で、周辺には建物がみられないことから、清めの水などを汲んだ墓域に關係する井戸と考えられる。

集落は、SD460の東側に作られていたと考えられる。掘立柱建物は部分的に確認したものを併せて4棟みられる。この部分では井戸が、木組2基、石組5基が確認できる。しかし集落の本体ではなくやや建物からずれた部分を調査したようである。時期は、13世紀から16世紀まで断続的に続くと考えられるが、15世紀～16世紀前半に主体があり、この間に洪水による堆積物がみられ、2面の検出面が作られたと考えられる。

近世では、石組・石敷を利用した施設が多くみられ、調査区の東部分にまとまってみられる。また、井戸が多く6基、建物が8棟とまとまっている。建物は17世紀を主体とすると考えられるが、他に18～19世紀の遺物が多くあることからその時期にも建物があつたと推測できる。しかし、近世後半の建物は、県内でもはっきりとしておらず土台建物や掘立柱建物が混在するようである。また、土坑には石組を持ついわゆる堅穴状土坑などもあり、このような施設と建物が一体となり、集落を作ると考えられるが、実体としては取らえきれないのが現状である。このほかに古墳時代の須臾器（杯身1点）、縄文時代の磨製石斧1点が出土している。

#### B 調査経過

公害防除特別土地改良事業は、神通川流域のカドミウムに汚染された農地を復元する改良事業で、第3次地区の工事予定は、平成6年～16年である。この事業関連の遺跡調査を文化振興財団が受託することとなったのは、平成6年のことで、事業開始は平成7年度とした。

調査箇所は事業者（富山農地林務事務所）と県・市・町教育委員会が試掘調査のデーターを基に工事計画と遺跡の保護について調整済みで、やむをえず掘削を行う部分・道路・排水路などにより遺跡が破壊される部分について本調査を行う事とした。

平成7年度当初は、清水島Ⅱ遺跡で約5,900㎡の調査を予定した。最初に重機（バックホウ）による表土除去を行った。作業を進めると一部の対象地区が試掘調査で予想した遺構検出深度より深い位置から検出された。そのため県文化課（現在文化財課）・県埋蔵文化財センターを通じて事業者の富山農地林務事務所と協議の結果、調査予定地の北側に位置する約2,600㎡は保存できるとして機械排水作業までに留め、盛土保存することとなった。また、西側の調査区中央部約600㎡についても作業が終了した包含層掘削・遺構検出までの作業に留め、保護措置を講ずることとなった。その結果、調

査面積は約2,820㎡となった。一方、調査区の東側地区では約1,600㎡で中世下層面が確認されたため掘り下げて調査を行った。

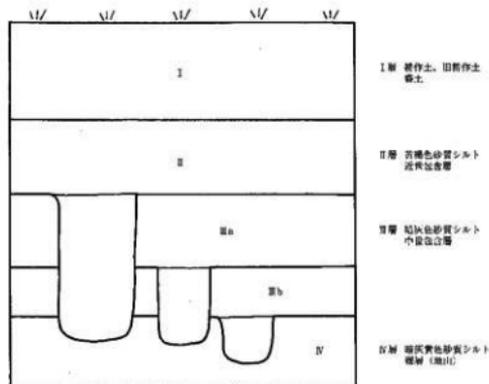
調査期間は平成7年7月7日から10月23日までで、調査面積は2,820㎡(延べ4,420㎡)である。

## C 土層

### 基本層序

遺跡は、神通川左岸に位置し、西を井田川に挟まれた神通川の扇状地、扇尖部の微高地上にみられる。標高は約23mで、西側が一段下がり谷となり、その縁辺に立地している。

基本層序は、Ⅰ層：耕作土・旧耕作土・盛土である。厚さは耕作土が20cmほどで、その下層に20cmほどの旧耕作土がみられる。Ⅱ層：黄褐色砂質シルト(近世包含層)は、全体に10cmほどと薄く、西に行くにつれ削平を受け、無くなる。Ⅲa層：暗灰黄色砂質シルトは中世の包含層でほぼ全域に10cm~20cmほどの厚さで堆積する。また、東側調査区では、Ⅲb層：暗灰黄色砂質シルト(Ⅲa層に比べやや暗い)がみられ、分層できた。この2つが中世の包含層でⅢb層上面が中世上層の遺構検出面となり、Ⅳ層上面が中世下層の検出面である。Ⅲ層が分層できない地区では、Ⅳ層(地山)上面が遺構検出面となる。Ⅳ層は地山で、場所により異なるが暗灰黄色砂質シルトを基本として、礫層・荒い黄色砂層となる場合がみられるが、礫層がある部分は下層の礫層が上ってきていると考えられる。



第2図 基本土層図



第3図 清水島Ⅱ遺跡の調査区・区割図

## 2 遺構

### A 中世

上層とした遺構は、基本的に800番台までの番号が付けられているが、遺構の重複などにより、下層の精査により見つかった遺構もあり若干の例には番号が大きい場合がある。下層でも同様で、小さい番号の例がある。また、溝は上層、下層で同じ位置で流路が見られ、作り替えがなされている場合があり、上・下層に記載した。

#### 掘立柱建物

##### 01号建物 (S B01、第4図)

調査区の東側、X83Y57付近にみられる2間×2間以上の東西棟の建物で、櫓S A01が南側に付くと考えられる。また、木組井戸S E1265、S B02もこの建物に関係すると考えられ同時に建っていたのかもしれない。S A01は櫓としたが、井戸の被い屋的なものの可能性がある。遺物には中世土師器がある。

##### 02号建物 (S B02、第4図)

S B01の西側、約2mにみられる1間×2間以上の東西棟でS B01と並び建てられていたと考えられる建物で南の調査区外に広がる。このS B01・02付近の上層は、近世の遺構により荒れているため他の遺構との関係ははっきりしない。

##### 03号建物 (S B03、第5図)

X55Y74付近で検出できた2間×2間以上の東西棟の建物で、S B02とほぼ同じ向きに主軸がずれて西に7mほど離れている。この3棟は、並び立てられていることや、主軸の傾きが似ていることから同時に建てられていたのかもしれない。遺物が少なく、時期ははっきりしないが14世紀後半～15世紀前半頃に位置づけておきたい。

##### 04号建物 (S B04、第6図)

X54Y65付近にS B05と並んで2間×1間の東西棟の建物でS K1295の上層かもしれない。S K1295は、S K1186に切られる。S K1295の遺物には中世土師器・珠洲・瀬戸・鉄滓・釘がある。

##### 05号建物 (S B05、第6図)

S B04の南に並んで建てられている2間×1間の東西棟建物で、S P1202には柱根が残る。S B04と同時存在したと考えられ、主屋と作業場の一連の建物である可能性がある。

##### 06号建物 (S B06、第6図)

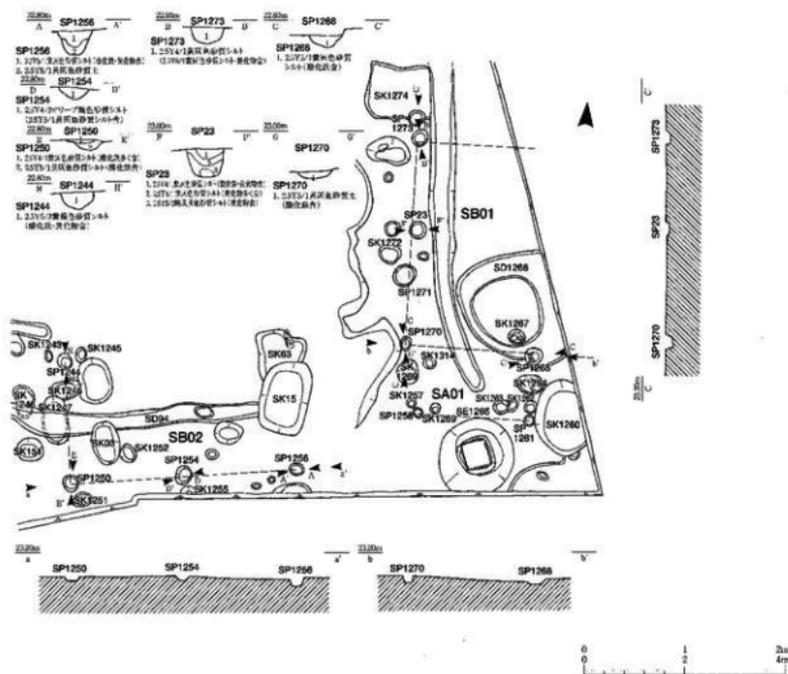
X49Y60付近にみられる1間×2間の東西棟建物で東側には1間(1.2m)の庇が付く。またS E315・309・304のいずれかがこの建物と関係すると思われる。建物の西側にあるS K1349は、この建物などからの排水を処理するための溜外状の土坑と考えられる。

##### 07号建物 (S B07、第7図)

X52Y49付近にある2間×2間の東西棟の方形総柱建物で、西側に庇S A04下層に示したS E482、S A06が付くと考えられ、中でもS A06は井戸の上屋と思われる。また、上層遺構のS D600がこの建物と関係すると考えられる。この建物敷地にみられる土坑・溝は、建物に関係する物ではなく後から作られたと考えられる。重複関係はS P496<497、S P498<499、S P508>507がある。

##### 08号建物 (S B08、第7図)

S B07の下層から検出された1間×2間の東西棟建物で、S P557は上層の穴であり、下層の物とは異なるが柱穴があると推定しS Pとした。また、櫓S A06が付くかもしれない。



第4図 遺構実測図

SB01 SB02 SA01

## 溝

下層の溝は、性格をはっきりしないものが多く、区画溝や排水と考えられる例は少ない。

1285号溝・94号溝（S D1285・94、第8・9図）

調査区東側にみられる一連の溝で、幅40cm、深さ20cmの規模。X57Y80付近で8mの方形区画を作り、北側と西に延びる。区画内には建物はみられないがなにかを区画する溝と考えられ、性格は不明。遺物には中世土師器・珠洲がある。重複関係は、S D1285 < S K108・109、S D94 < S E01・82、S D94 > S D296である。

1180号溝（S D1180、第10図）

S D226の下層からみつけた溝で幅30cm～70cm、深さ2cmの規模で南北にはしる。S D519との間約8mの幅の中にS B04・05が建つ。やや南に離れるがS E205はこの建物に付属するかもしれない。またS K1183は排水用の溜橋の可能性がある。遺物には中世土師器・珠洲・瀬戸がある。

1150号溝（S D1150、第12図）

X49Y54付近をS D1151に平行して南北にはしる幅40cmほどの浅い溝で、遺物には、中世土師器・珠洲がある。

## 1151号溝 (S D1151、第12図)

S D1150と平行にみられる幅20cmほどの浅い溝で、遺物には中世土師器がある。この2条の溝は側溝のような性格か。

## 600号溝 (S D600、第12図)

南西から幅50cmほどで続き最大幅3mとなり、X50 Y48付近ですぼむ水溜状の遺構で、上層では北西側の先端を3mほど埋め石を組んでいる。遺物には中世土師器・珠洲・瓦質播鉢がある。15世紀後半か。

## 460号溝 (S D460、第14図)

墓域と集落部分を区画する為の溝と考えられ、S D600同様中央部が膨らみ池状となる。この墓域東端部分は、建物は確認できないが井戸や柱穴状の穴が多くみられ、始めは集落の一部となっていたが、墓域の拡大により移動したと思われる。遺物には中世土師器・珠洲・八尾・越前・青磁・瀬戸・塔婆・砥石・バンドコ・釘などがある。15世紀後半以降。

## 567号溝 (S D567、第15図)

X57 Y48付近にある一辺約6mの方形に巡ると考えられる幅1.3m、深さ50cmの溝で、内側には特に施設はみられないが盛土(15cm)がされており塚状となっていたようである。このような方形の溝は、屋敷地内や集落の中に設けられ、墓地などとして利用されていた例が知られているがここでは確実な根拠は認められない。遺物には中世土師器・八尾・瓦質播鉢・釘がある。14世紀後半以降。

## 1010号溝 (S D1010、第15図)

X61 Y47付近で東西にみられる溝で、集落の北側を区画すると考えられる。この溝から北側に行くにつれて規模は小さくなる。規模は幅約1m、深さ約45cmである。また上層では、S D572が流路がそのまま溝上に存在し、S K571を切り、S D573に切られる。遺物には中世土師器・八尾がある。

## 井戸

井戸は中世の物をこの項で扱うこととする。井戸には木組と石組の物があり、石組の例は殆ど右回りの螺旋積みである。

## 1265号井戸 (S D1265、第17・21図)

上層の遺構をはずして検出された縦板組隅柱横棧組井戸で、最下段の横棧から下の部分が残る。水溜には曲物が入れられていたと推測されるが残っていない。井戸側は、0.5m×0.7mの長方形で、深さ約1m、掘り方は平面形が1.5mの円形である。遺物には、中世土師器がある。時期は14世紀後半か。

## 205号井戸 (S E205、第17・23図)

X49 Y69にみられた縦板組隅柱横棧組井戸で、2段の横棧から下が残る。水溜には曲物が入れられ、井戸の周りには大きな河原石が敷かれている。井戸側は60cmの正方形で、深さ約1.3m、掘り方は約2mと大きい。また、井戸の周り2mほどに整地が施されている。遺物には、中世土師器・珠洲・下駄・版木・箸がある。時期は14世紀後半から15世紀頃。

## 32号井戸 (S E32、第17・21図)

X55 Y77にみられた石組井戸で底面から右回りの螺旋状に河原石をほぼ垂直に積み上げている。直径は上部で1.2m~1.4m、底で約1mで、深さは1.2mである。掘り方は大きく2.2mである。遺物には中世土師器・珠洲・八尾・砥石・箸・櫛・板材・漆器・入隅足付折敷・桃・瓜の種などがある。また、S P40に切られる。S P40はS B09の柱穴で、このような楕円形の柱穴を持つ建物は16世紀後半から

17世紀にみられることから、それ以前となる。

482号井戸 (S E482、第18・21図)

X52Y51にみられた石組井戸でSBに伴うと考えられる。直径は0.7m～0.8mで、深さ1.5mである。石は右回りの螺旋積みとなっている。また、井戸の周りは、薄い盛土と整地がなされている。掘り方は1.5mである。遺物には中世土師器・八尾・瀬戸・青磁・五輪塔・バンドコがある。時期は15世紀後半～16世紀初め頃。

675号井戸 (S E675、第18・31図)

X34Y39の畚域の中に作られた石組井戸で直径0.7m×0.9m、深さ約1.4mである。石は右回りの螺旋積みである。掘り方は大きく1.8mである。遺物には釘がある。時期は15世紀以降。

411号井戸 (S E411、第18・36図)

X35Y53にある石組井戸で、直径ほぼ0.9m、深さ1.1mの規模で、掘り方は2mである。石は右回りの螺旋積み。遺物には漆器碗がある。

304号井戸 (S E304、第15・25図)

X50Y57にみられた石組井戸で上にSK302がのっておりその土坑を掘り下げて検出した。直径0.8mの円形で、深さ約1.2m、掘り方の大きさが1.7mである。石は右回りに螺旋積みされる。遺物には中世土師器・珠洲・瀬戸がある。時期は15世紀末から16世紀初め。

309号井戸 (S E309、第19・25図)

X53Y59にみられた石組井戸でSE315に切られる。南側の石組は埋め戻す際に抜き取られ、埋土の上層部には拳大の石がざっしり入っていた。直径は残存部で約0.8m、深さ1mである。掘り方は約2mである。遺物には中世土師器がある。時期は15世紀末～16世紀初め。

315号井戸 (S E315、第19・25図)

SE304の南側にある石組井戸で、上部の石が抜かれ、埋められている。直径は0.8m～1m、深さ1.2m、掘り方は2.2mである。遺物には中世土師器・珠洲・瀬戸・青磁・毛抜き・刀子・釘・箸がある。時期は16世紀中頃か。

### 土坑

285号土坑 (SK285、第12図)

X51Y52にある長辺1.1m、短辺0.5m、深さ10cmの隅丸長方形の土坑で、遺物には中世土師器がある。遺構の性格は不明。時期は15世紀～16世紀。

314号土坑 (SK314、第11図)

X53Y55にある長辺3m、短辺2.2m、深さ0.7mの楕円形の土坑で、撻鉢状の断面となる。井戸の石を抜いて埋めた可能性がある。遺物には中世土師器・青磁・瓦質火鉢・石臼がある。

509号土坑 (SK509、第12図)

X55Y53にある直径約0.5m、深さ20cmの円形土坑で、SD1037の際にある。遺物には中世土師器・青磁・小柄がある。時期は16世紀初め～中頃。

1107号土坑 (SK1107、第11図)

X52Y61にある長辺0.8m、短辺0.5m、深さ30cmの隅丸長方形の土坑で、遺物には中世土師器がある。SK1106・1108を切る。性格は不明。時期は13世紀～15世紀。

1111号土坑 (SK1111、第11図)

X52Y60にある長辺0.9m、短辺0.5m、深さ約35cmの楕円形の土坑で、中に礫が入っていた。遺物







には中世土師器がある。性格は不明。15世紀後半～16世紀。

1115号土坑 (S K 1115、第10図)

X53 Y 62にある長辺約1m、深さ30cmほどの不整形な土坑で、中に30cmほどの礫が入れている。遺物には白磁角杯・釘がある。

1118号土坑 (S K 1118、第10図)

S K 1115の北西約1mにある直径約40cm、深さ35cmほどの柱穴状の土坑で、中世土師器が出土している。性格は不明。時期は16世紀前半。

1127号土坑 (S K 1127、第11図)

X51 Y 59にある長辺1m、深さ約30cmの不整形な土坑で、遺物には中世土師器がある。S B 06との関係はわからない。重複関係はS K 1172、S D 1125を切る。時期は15世紀末～16世紀。

1129号土坑 (S K 1129、第11図)

S Bの西側X51 Y 58にある0.8m×0.7m深さ約40cmの円形土坑で、遺物には中世土師器がある。

1131号土坑 (S K 1131、第11図)

X50 Y 57にある長辺0.8m×0.7m、深さ約40cmの円形土坑で、遺物には中世土師器・珠洲がある。

1136号土坑 (S K 1136、第11図)

X50 Y 57にある0.8m×0.6m、深さ15cmほどの土坑で、中世土師器が出土している。重複関係はS K 1136を切り、S K 1137に切られる。15世紀以降。

1141号土坑 (S K 1141、第12図)

X54 Y 48にある30cm×40cm、深さ約45cmの柱穴状の土坑で、珠洲鉢が出土している。

1148号土坑 (S K 1148、第11図)

X49 Y 55にある2m×1.5m、深さ約20cmの竪穴状の土坑で、遺物には、中世土師器・珠洲がある。重複関係はS K 1149に切られ、S K 1166・1167を切る。時期は15世紀。

1149号土坑 (S K 1149、第11図)

X49 Y 55にある一辺1.9m、深さ約10cmの竪穴状の土坑で、遺物には、中世土師器・珠洲・八尾・釘がある。重複関係はS K 1148を切る。時期は15世紀末～16世紀。

1152号土坑 (S K 1152、第12図)

X49 Y 54にある幅0.5m～1.5m×4.5m、深さ約15cmの浅い溝状の土坑で、遺物には、中世土師器・珠洲がある。重複関係はS K 1153・1168に切られる。時期は15世紀後半以降。

1183号土坑 (S K 1183、第10図)

X57 Y 64、S Bの西側にある2.9m×2.6m、深さ約30cmの円形土坑で、遺物には、中世土師器・珠洲・瀬戸・白磁がある。重複関係はS K 1361を切る。時期は15世紀後半以降。

1194号土坑 (S K 1194、第10図)

X53 Y 65にある0.7m×0.4m、深さ約30cmの土坑で、遺物には、八尾鉢がある。重複関係はS K 1195を切る。

1196号土坑 (S K 1196、第10図)

X53 Y 66にある直径約1m、深さ約30cmの土坑で、遺物には、口金具がある。重複関係はS K 1197に切られる。

1249号土坑 (S K 1249、第8図)

X56 Y 78にある直径約20cm、深さ約3cmの柱穴状の土坑で、遺物にはバンドコがある。重複関係は

S K1197に切られる。

1295号土坑 (S K1295、第10図)

X 55 Y 65にある3 m × 4 m以上、深さ約30cmの堅穴状土坑で、S B04に関係すると考えられる。遺物には、中世土師器・珠洲・瀬戸・釘・鉄滓がある。重複関係は東側をS K1186に切られる。15世紀末～16世紀前半。

1349号土坑 (S K1349、第11図)

X 51 Y 56にある3 m × 6 m以上、深さ約20cmの堅穴状土坑の中に直径約2.4m、深さ約40cmの井戸状の土坑を作る。この深く掘られた土坑の中には大量の河原石が投げ込まれている。同様の土坑S K 314と同じ性格と考えられ、排水を一時的な溜槽的な施設としておく。遺物には、中世土師器・珠洲・八尾・瀬戸・青磁・白磁・バンドコ・砥石・釘・鉄滓がある。時期は15世紀末～16世紀前半。

1351号土坑 (S K1351、第11図)

X 53 Y 59にある0.7 m × 0.5 m、深さ約15cmの土坑で、遺物には、中世土師器がある。重複関係はS K1352を切る。時期は15世紀末～16世紀初め。

1352号土坑 (S K1352、第11図)

X 54 Y 59にある一辺2 m、深さ約15cmの隅円方形の堅穴状土坑で、遺物には、内黒土器がある。重複関係はS E309、S K1351に切られる。

1361号土坑 (S K1361、第10図)

X 56 Y 63にある規模2 m、深さ約10cmの不整形な土坑で、遺物には、中世土師器・珠洲・瀬戸がある。重複関係はS D1180を切る。時期は16世紀中頃。

1363号土坑 (S K1363、第12図)

X 50 Y 49のS D600の中にみられる直径約30cm、深さ約20cmの柱穴状の土坑で、遺物には、中世土師器・瓦質播鉢がある。

### 中世上層

58号溝 (S D58、第21図)

調査区の最も東側に南北にある幅0.5m、深さ10cmほどの溝で、東西S D59に切られる。北側は緩く東に曲がっている。区画溝的な性格か。遺物には中世土師器・珠洲がある。時期は14世紀後半～15世紀。

59号溝 (S D59、第21図)

調査区の最も南東側にある幅0.5m、深さ20cmほどの溝で、S D58を切る。西側はX 56で攪乱によりはっきりしないが西側にみられるS D94に続く可能性がある。水路的な性格か。遺物には中世土師器・珠洲がある。

94号溝 (S D94、第21図)

X 55 Y 80～X 72 Y 72にかけてみられる幅0.5m～0.7m、深さ5cmほどの溝で、S D161、S E01・82に切られる。水路的な性格か。遺物には中世土師器・珠洲がある。14世紀頃か。

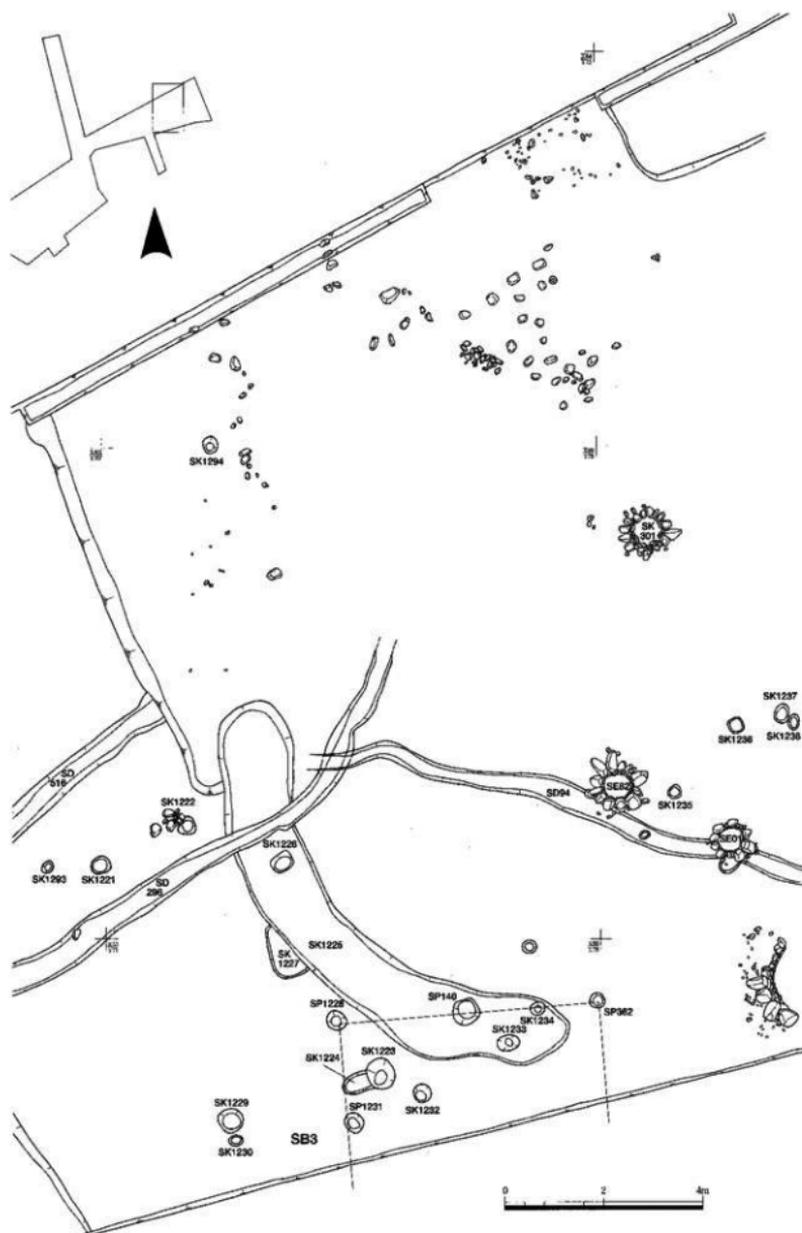
161号溝 (S D161、第22図)

S D94に添うようにみられる幅1 m、深さ10cmほどの溝で、S D94の後の流路とも考えられる溝でS E01・82など近世遺構に切られる。遺物には中世土師器・珠洲・青磁・青花・釘がある。16世紀。

226号溝 (S D226、第23図)

X 50 Y 70～X 57 Y 64にかけてみられ、北流する幅1 m、深さ25cmほどの溝で、S D519と平行して





第9図 遺構実測図(下層)



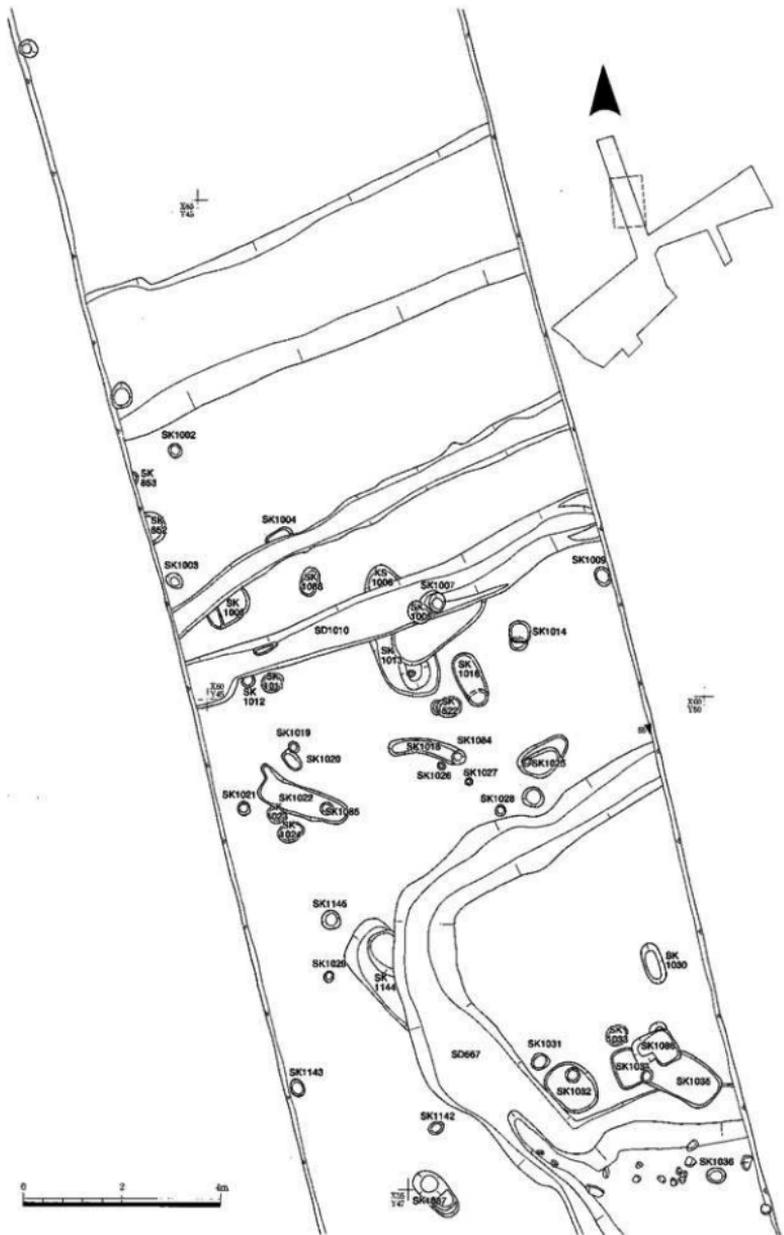




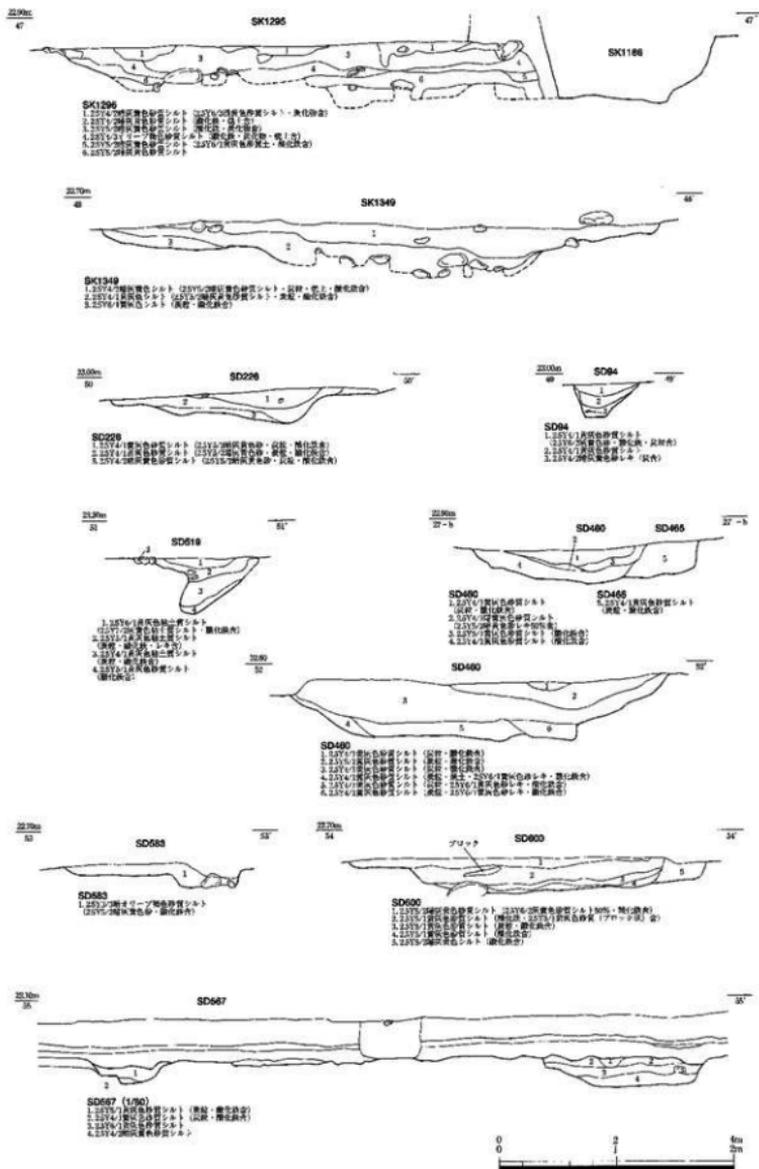
第12図 遺構実測図(下層)





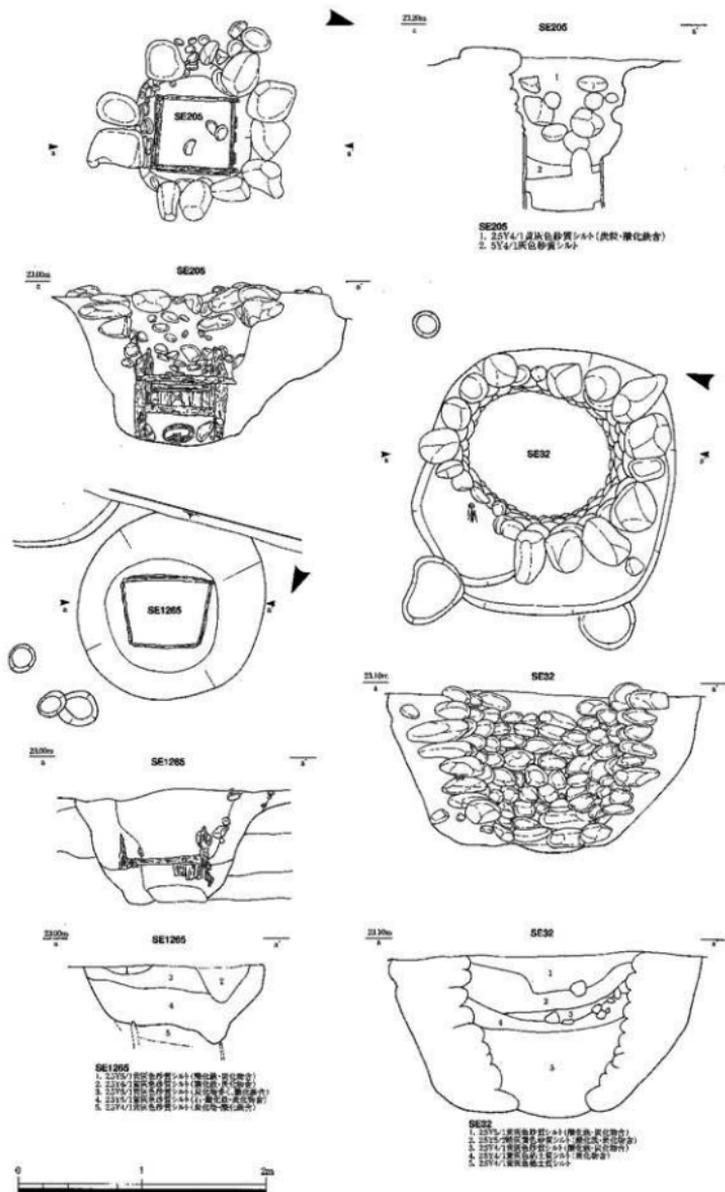


第15図 遺構実測図(下層)



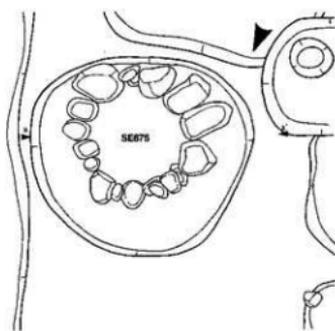
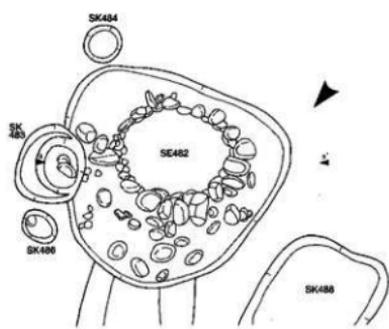
第16図 遺構実測図

SK1295 SK1349 SD226 SD94 SD519 SD460 SD583 SD600 SD567 SD465



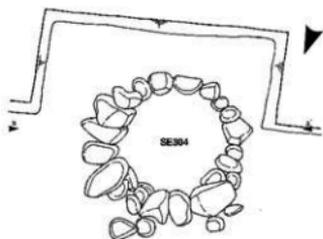
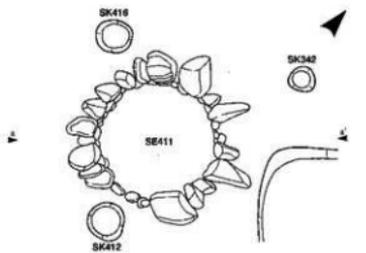
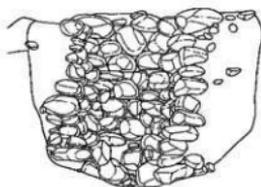
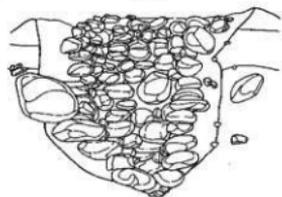
第17図 遺構実測図

SE205 SE1265 SE32



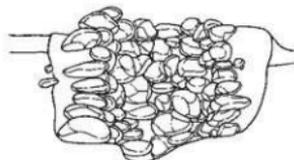
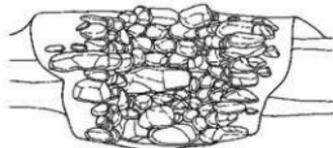
200μm SE482

200μm SE675



200μm SE411

200μm SE304



第18図 遺構実測図

SE482 SE675 SE411 SE304

みられることから2本の溝に挟まれた部分は道である可能性がある。遺物には中世土師器・珠洲・八尾・瀬戸・青磁がある。時期は15世紀以降。

281号溝（S D281、第25図）

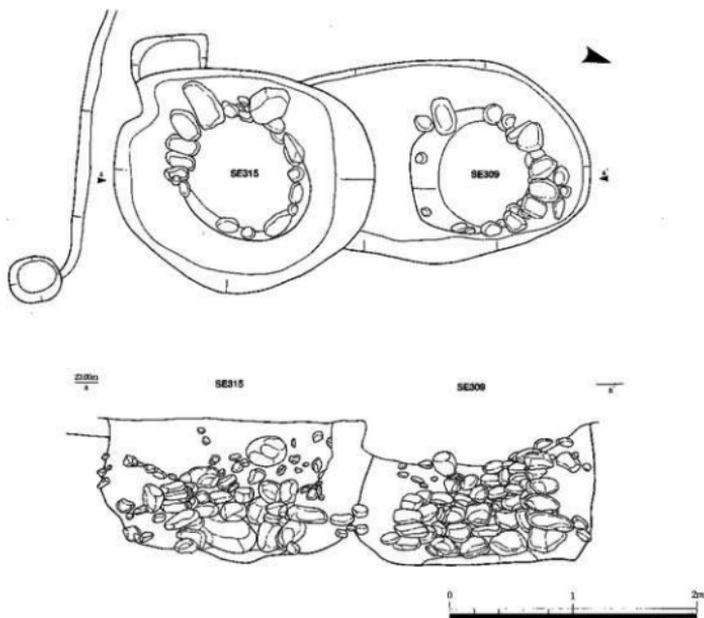
X54Y62付近にみられる幅30cm～50cm、深さ5cm～15cmほどの溝で、平行してみられることからS D279・280・281・267などは畑の柵の可能性もある。遺物はS D281から中世土師器が出土している。

460号溝（S D460、第36図）

X36Y56付近から幅約1mで始まりX39Y52で幅3m、長さ3m、深さ0.67mほどの水溜状となる溝で、中世下層にもみられる。またX39付近では左岸に土止めの礫が当てられている。この東にあるS D600と同様の造りとなっている。遺物は中世土師器・珠洲・八尾・越前・青磁・瀬戸・石塔婆・砥石・バンドコ・釘・板材が出土している。15世紀後半以降。

463号溝（S D463、第36図）

X41Y50にみられる東西の溝で、幅0.7m、深さ約30cmほどの溝で西側の墓地から続くと考えられ、S D638と平行してみられることから2本の溝に挟まれた部分は道であり、集落から続く墓道である可能性が高い。この道には土坑が後から作られていることから墓域の拡大に伴い使用されなくなっている。遺物には中世土師器・珠洲・瀬戸・釘・鉄滓がある。15世紀後半以降。



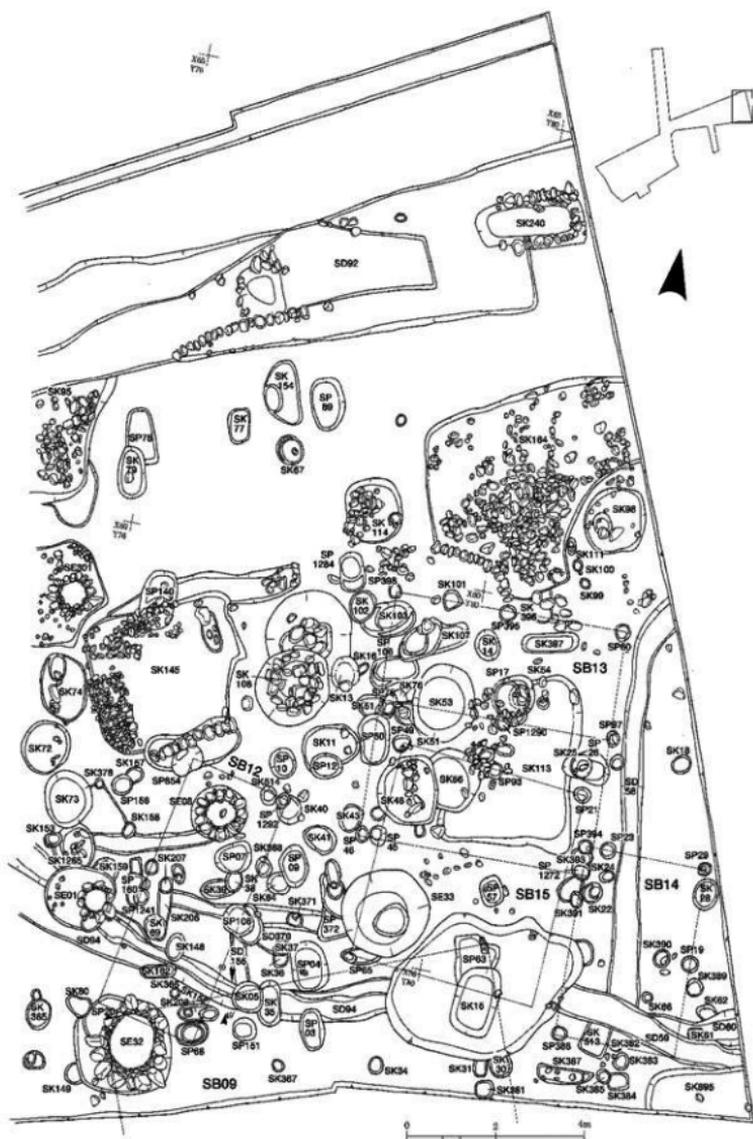
第19図 遺構実測図

SE315 SE309

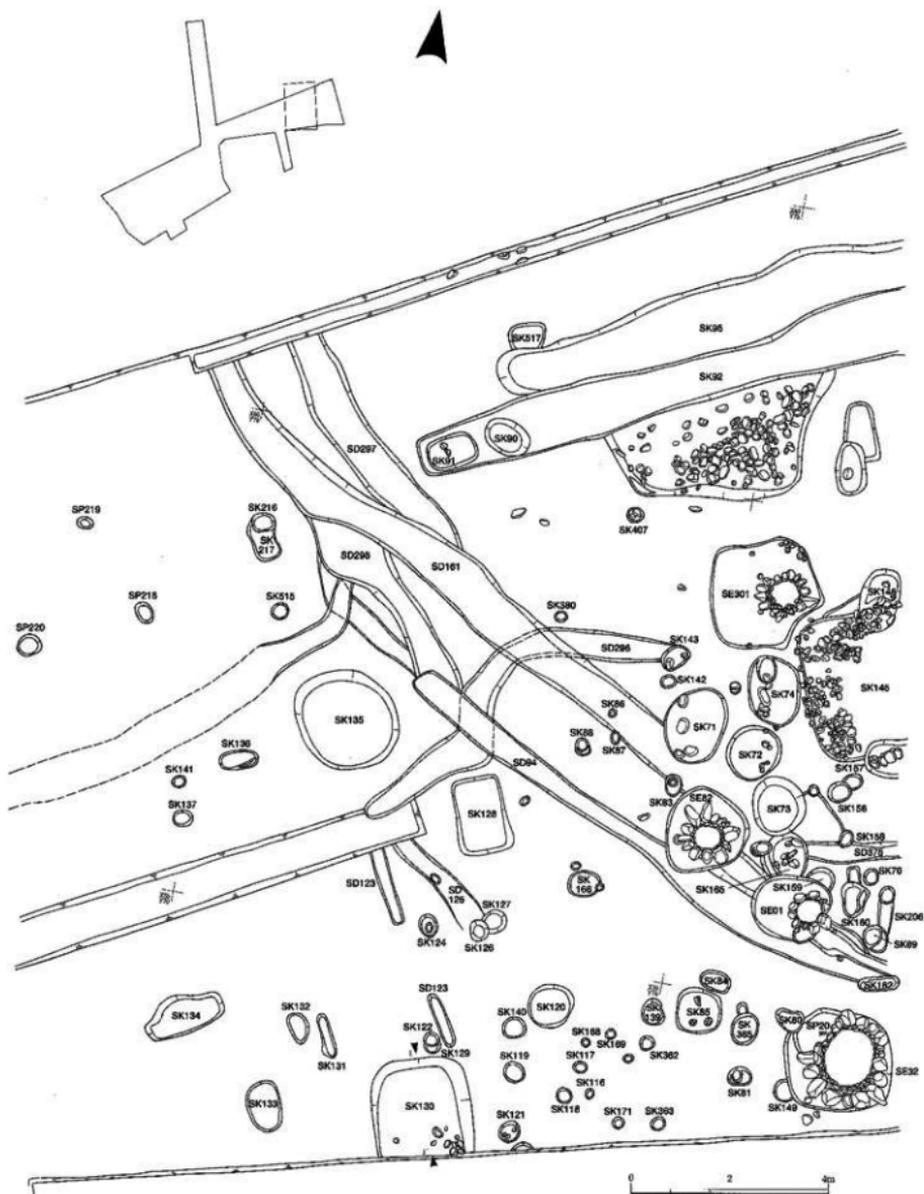


第20図 遺構実測図

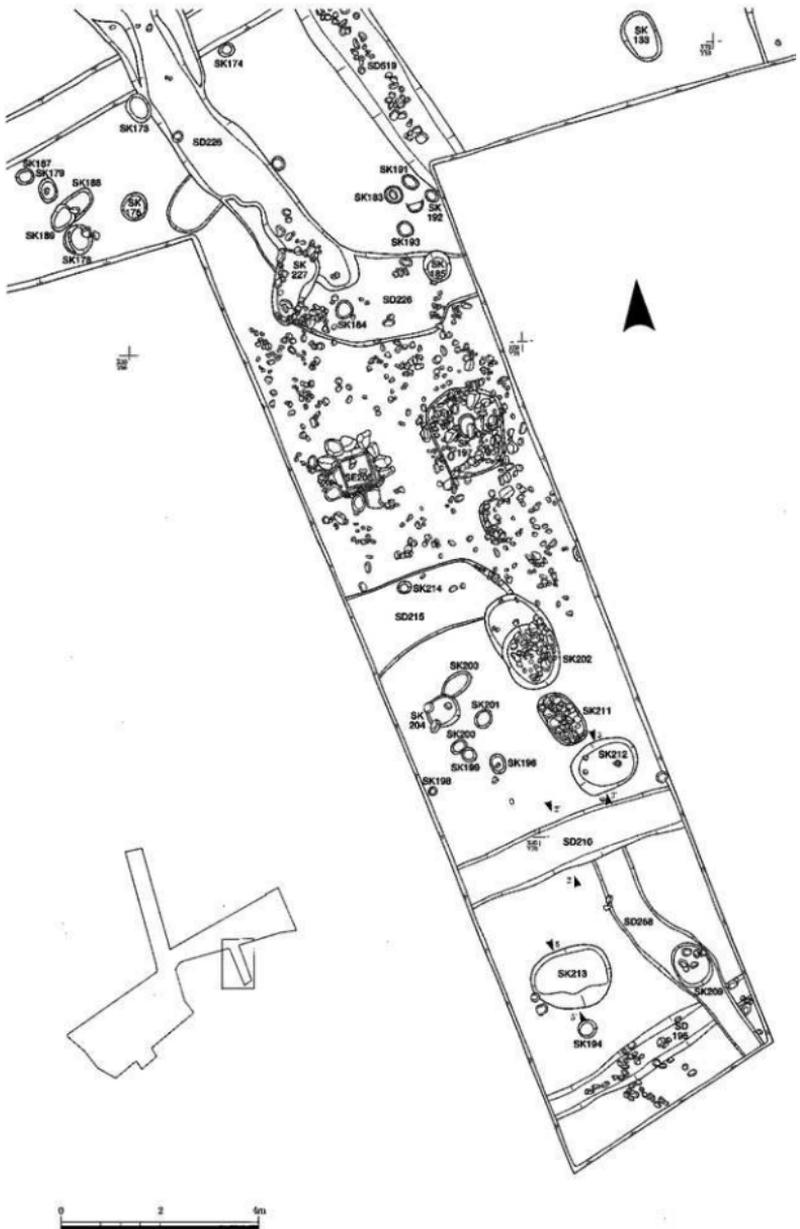
SX896



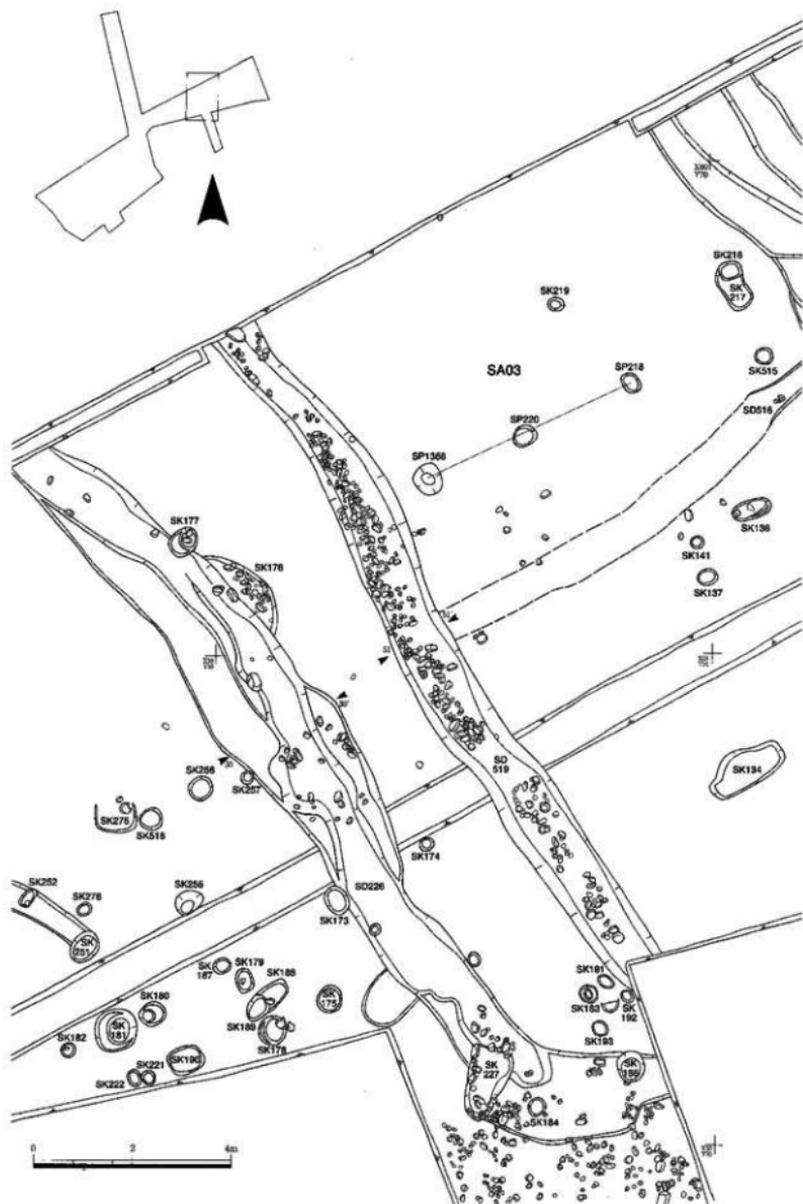
第21図 遺構実測図(上層)



第22図 遺構実測図(上層)

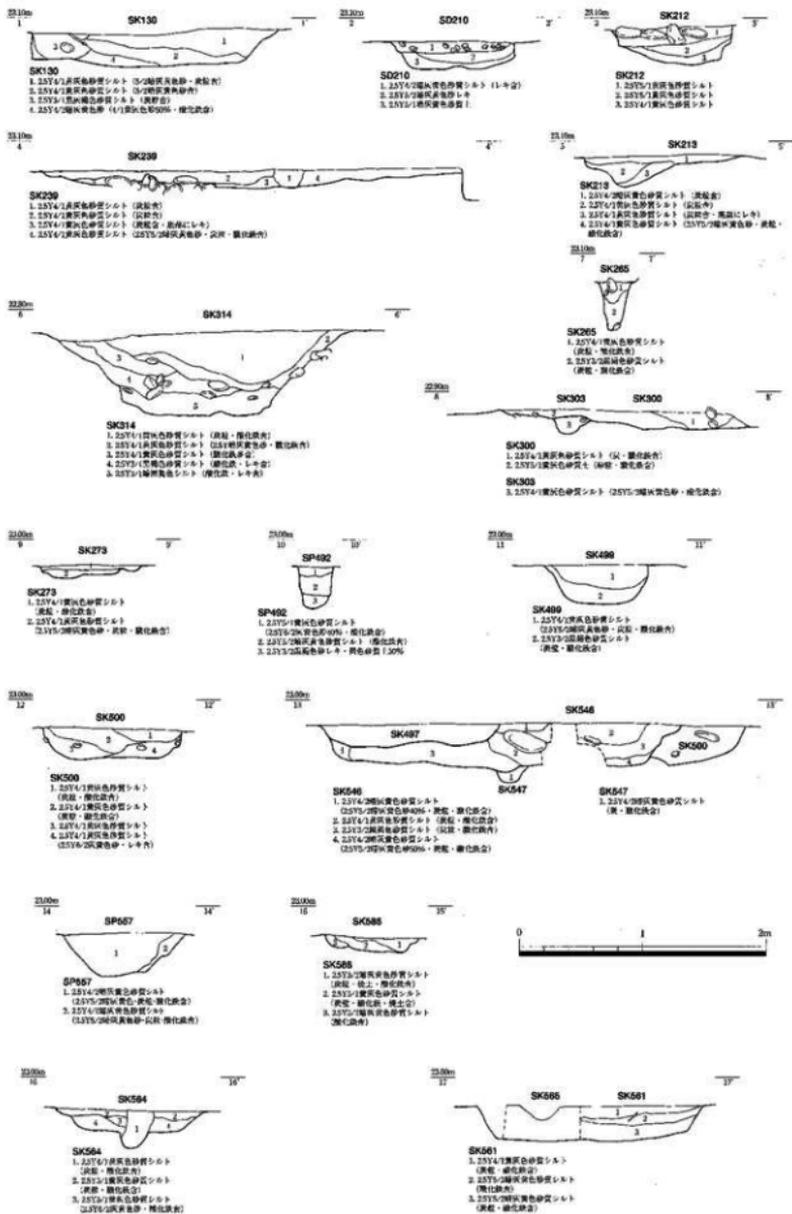


第23図 遺構実測図(上層)



第24図 遺構実測図(上層)

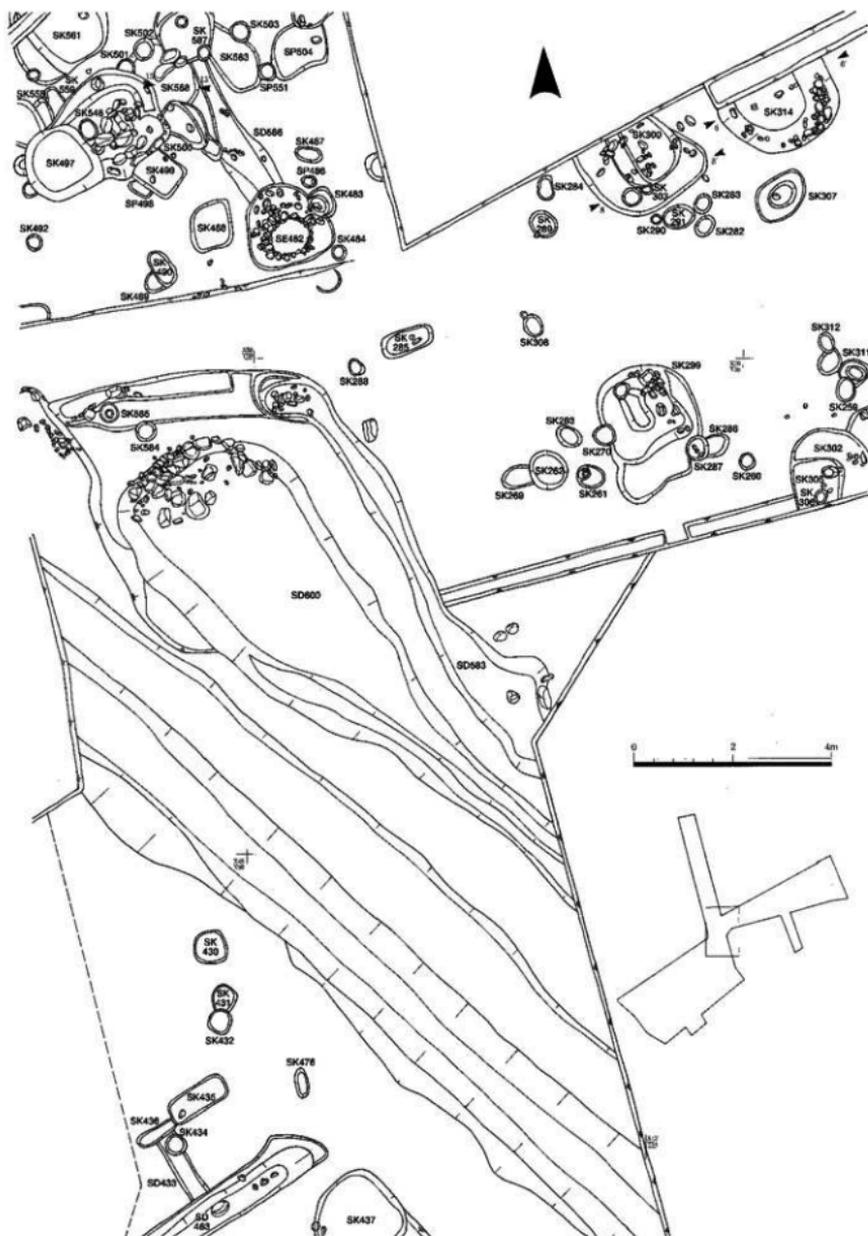




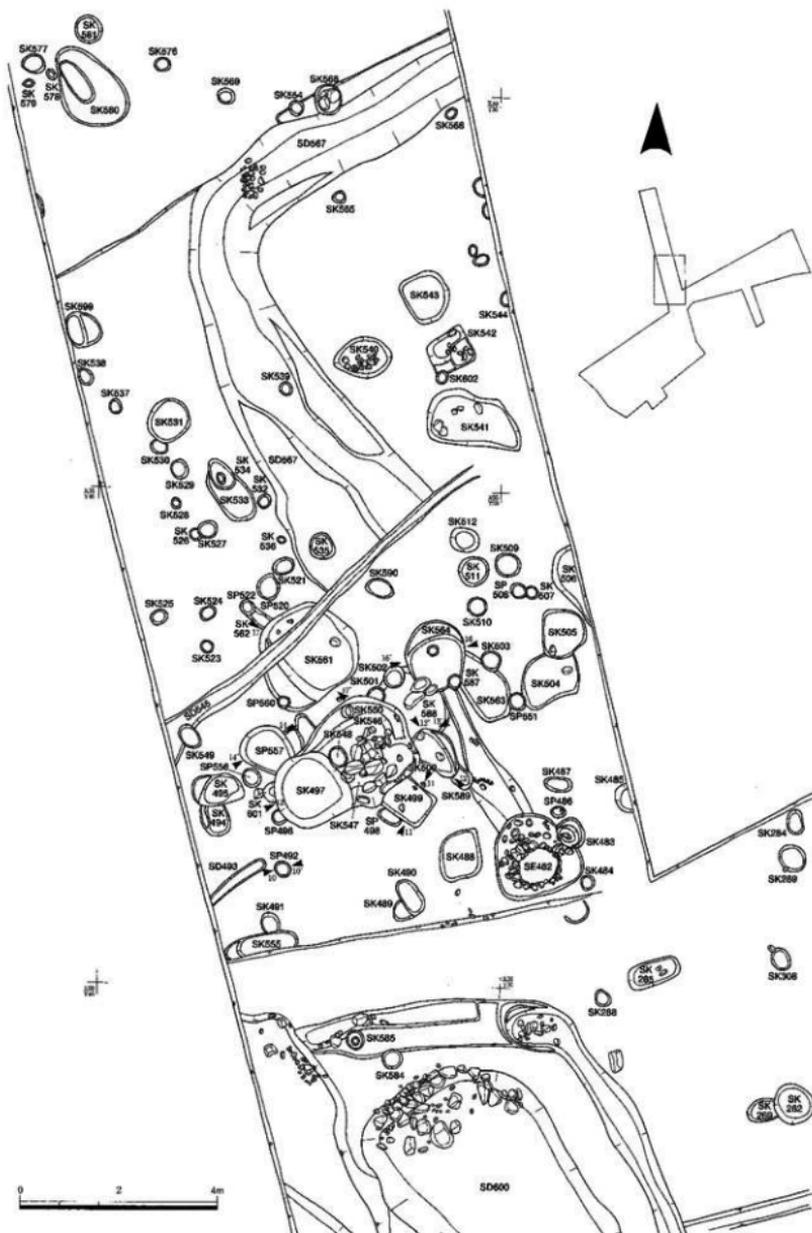
第26図 遺構実測図

SK130 SD210 SK212 SK239 SK213 SK314 SK265 SK300 SK303 SK273 SP492

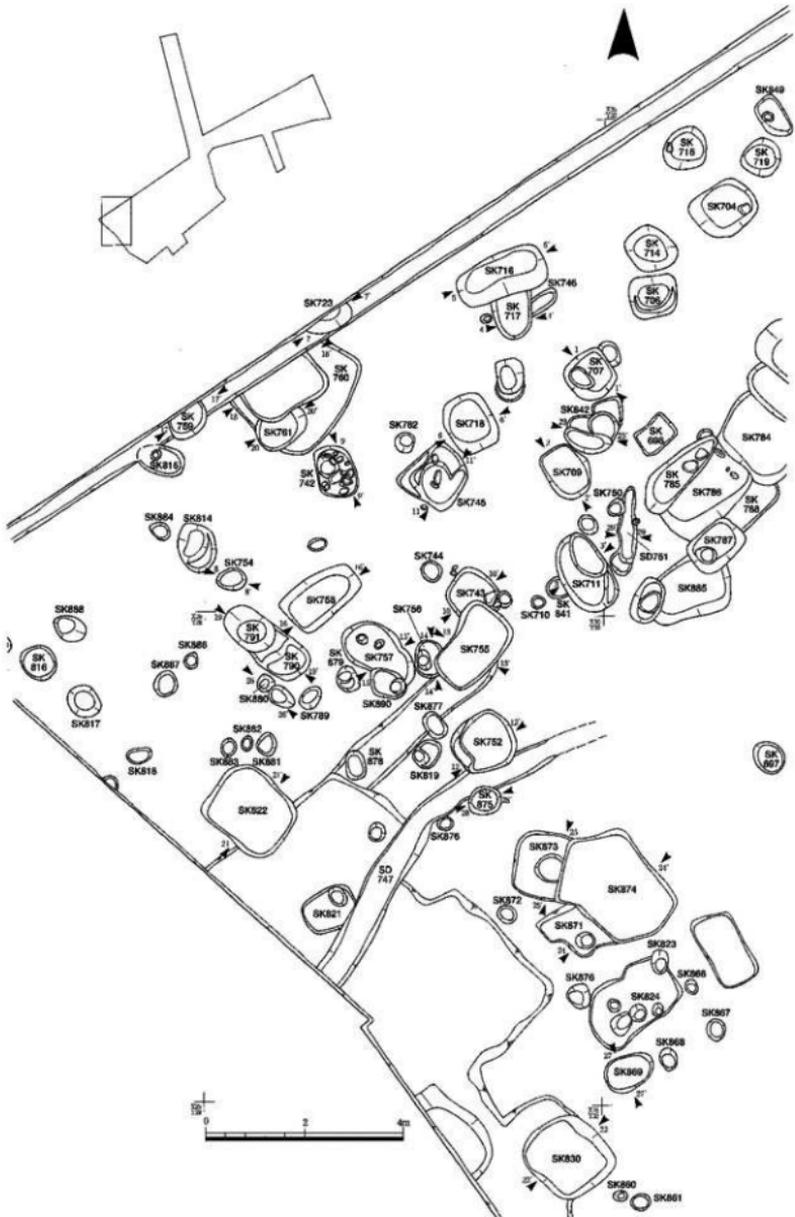
SK499 SK500 SK546 SK547 SP567 SK588 SK564 SK561



第27図 遺構実測図(上層)



第28図 遺構実測図(上層)



第29図 遺構実測図(上層)

## 464号溝 (S D464、第36図)

X38Y55付近にみられる幅約0.5m、深さ15cmほどの東西溝で、S D460や土坑を切っている。このことから、中世末から近世にかけての溝と思われる。遺物は中世土師器・八尾が出土している。

## 465号溝 (S D465、第14図)

S D460の南側の下層にみられる幅約0.7mほどの南北溝で、S D460に先行する。遺物は中世土師器が出土している。15世紀後半以降。

## 519号溝 (S D519、第24図)

S D226と平行する幅約1.28m、幅0.7mほどの南北溝で、2条の溝の間は道になる。また、溝は東に屈曲するようである。溝内には、礫が投げ込まれている。遺物は中世土師器・珠洲・八尾・砥石が出土している。

## 567号溝 (S D567、第28図)

X55Y47付近にみられる幅約1m～3m、深さ0.5mほどの方形に巡ると思われる溝で、溝に囲まれた内部は20cmほどの盛土がみられ、塚状になっていたと思われる。いわゆる方形周溝遺構で、塚や墓などとされる例が多い。遺物は中世土師器・八尾・瓦質揃鉢・釘が出土している。15世紀以降。

## 574号溝 (S D574、第15図)

S D572の北側に平行する幅約1m、深さ40cmほどの東西溝で、集落の北側を区画する溝と考えられ、S K571を切る。遺物は中世土師器・珠洲・砥石が出土している。

## 583号溝 (S D583、第12図)

S D600の東側に添っていき西に曲がる幅約0.5m～0.7m、深さ35cmほどの溝で、水溜状となるS D600の排水を処理する溝と考えられる。遺物は中世土師器が出土している。15世紀後半以降。

## 600号溝 (S D600、第12図)

南から幅約1m、深さ35cmで流れ、北西で幅3mと大きく膨れる水溜状の遺構で、北側の壁には大きな河原石を2段積む。同様の施設にS D460がある。遺物は中世土師器・珠洲・瓦質揃鉢が出土している。15世紀後半以降。この溝も下層から検出される。

## 638号溝 (S D638、第34図)

X35Y41付近にみられる幅約0.8m、深さ45cmほどの東西溝で、S D463などと伴に集落からの道路の側溝と考えられる溝で、S D749と同時にあったと思われるがS D638がやや先行する。遺物は無い。

## 747号溝 (S D747、第29図)

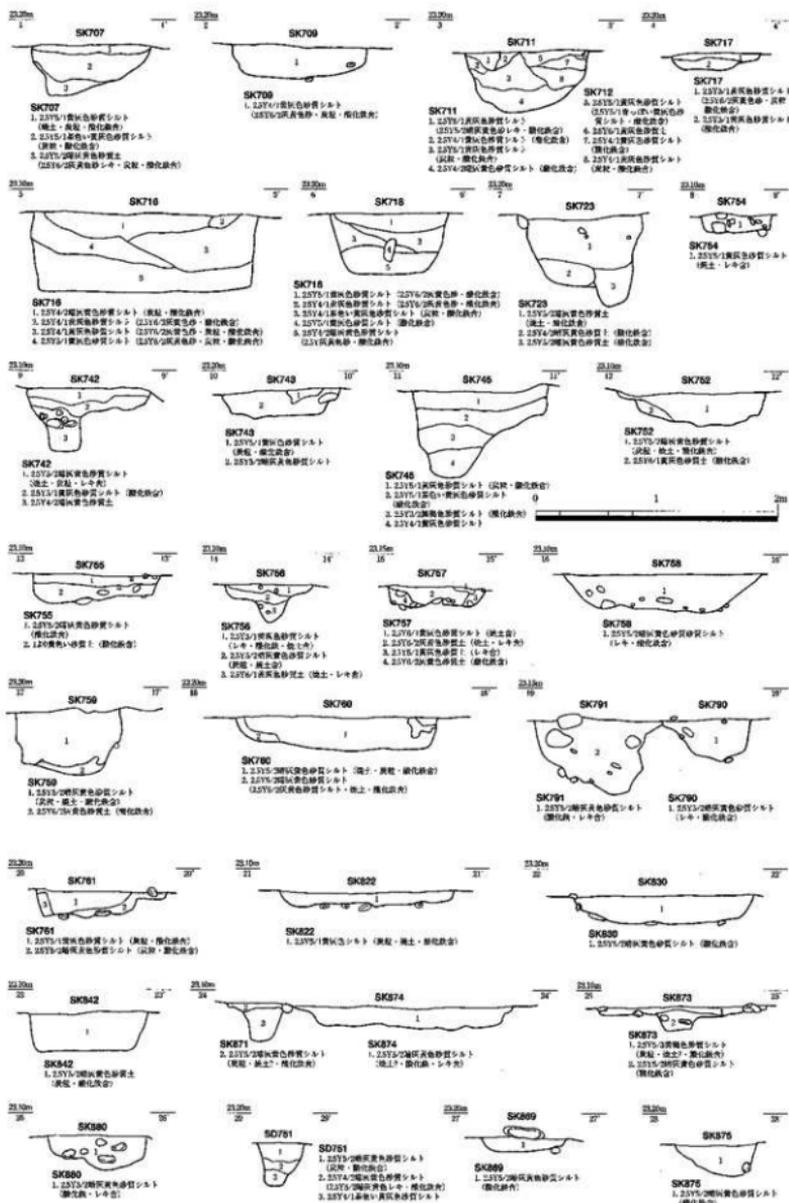
X28Y30付近にみられる幅約0.7m、深さ10cmほどの東西溝で、性格は不明。遺物は八尾がある。

## 749号溝 (S D749、第34図)

北から集石S X895に向かう道路の側溝と考えられる幅1～1.8m、深さ約40cmの溝でS X896の所で東に折れる。東に折れた部分は後に盛土され、土塁状に作り替えられ、幅0.7m、高さ30cmほどの盛土が確認できた。また、S D463・638・768が流れ込む。S D749は一部の土坑を切っており最初から作られていたのではなく、墓地が作られてから少し時間が経ってから作られたようである。また、溝が埋まってからも土坑が作られていることから、使用期間はかなり長期間に渡ったと推測される。遺物は中世土師器・珠洲・瀬戸・白磁・青磁・バンドコ・刀子がある。15世紀以降。

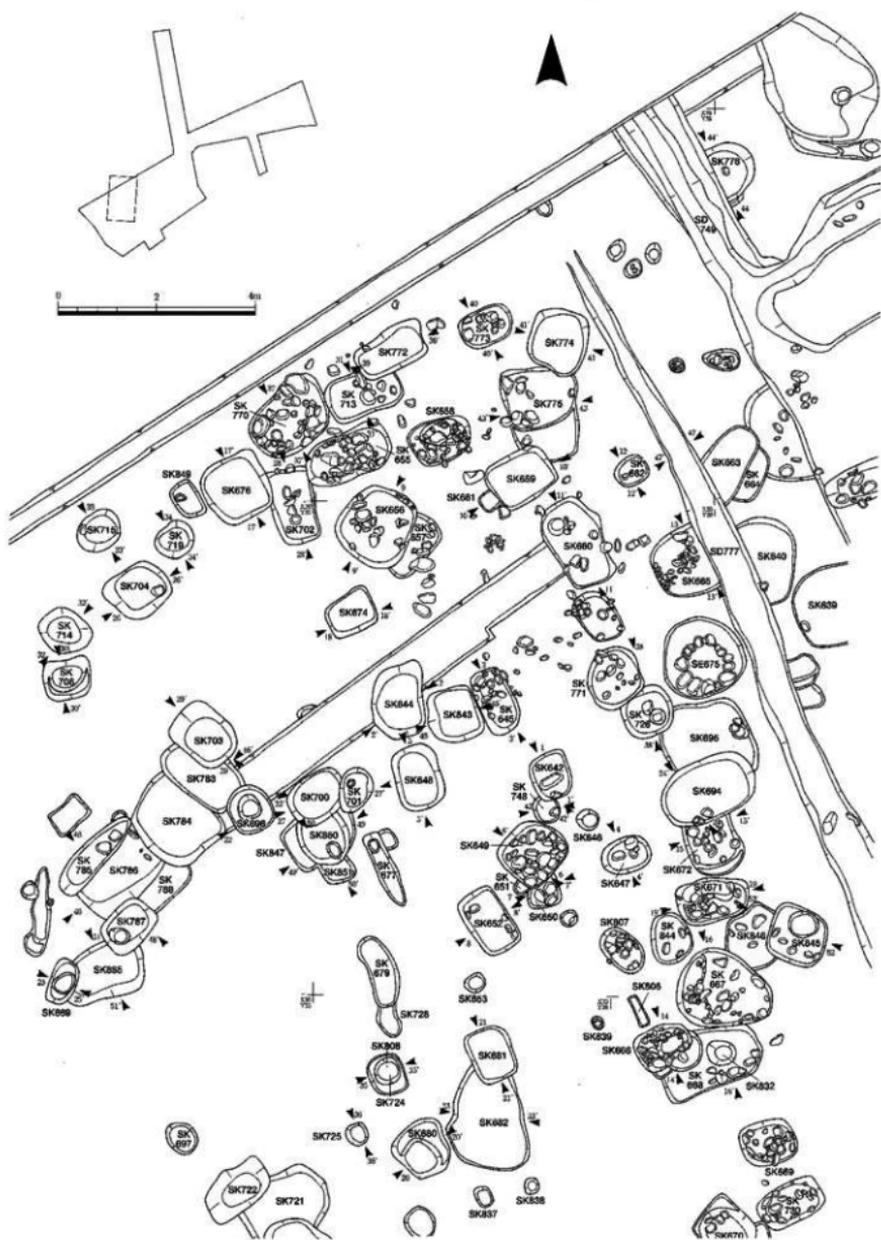
## 768号溝 (S D768、第34図)

X37Y40付近でS D749から東に向かう溝で一部を確認した。性格は良く解らない。遺物は中世土師器・口金具がある。



第30図 遺構実測図

SK707 SK709 SK711 SK717 SK716 SK718 SK723 SK754 SK742 SK743 SK745 SK752  
SK755 SK756 SK757 SK758 SK759 SK760 SK790 SK791 SK761 SK822 SK830 SK842  
SK871 SK874 SK875 SK880 SD751 SK869 SK875



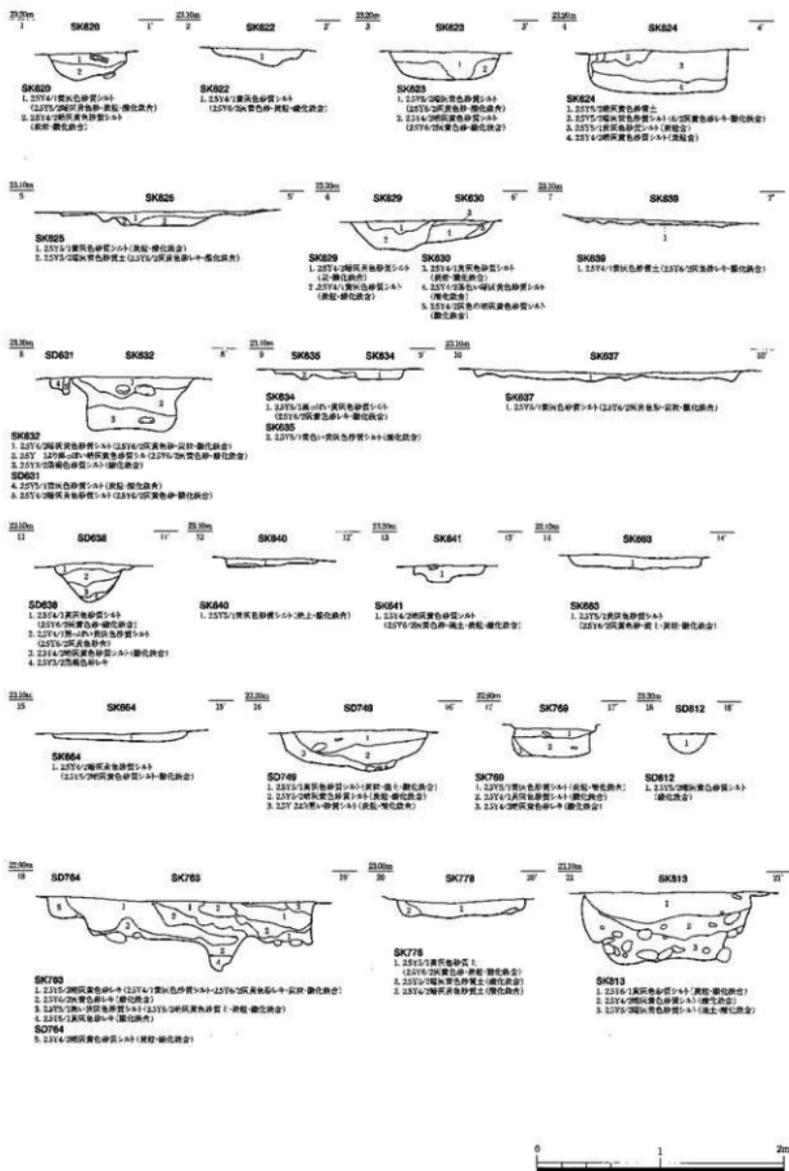
第31図 遺構実測図(上層)





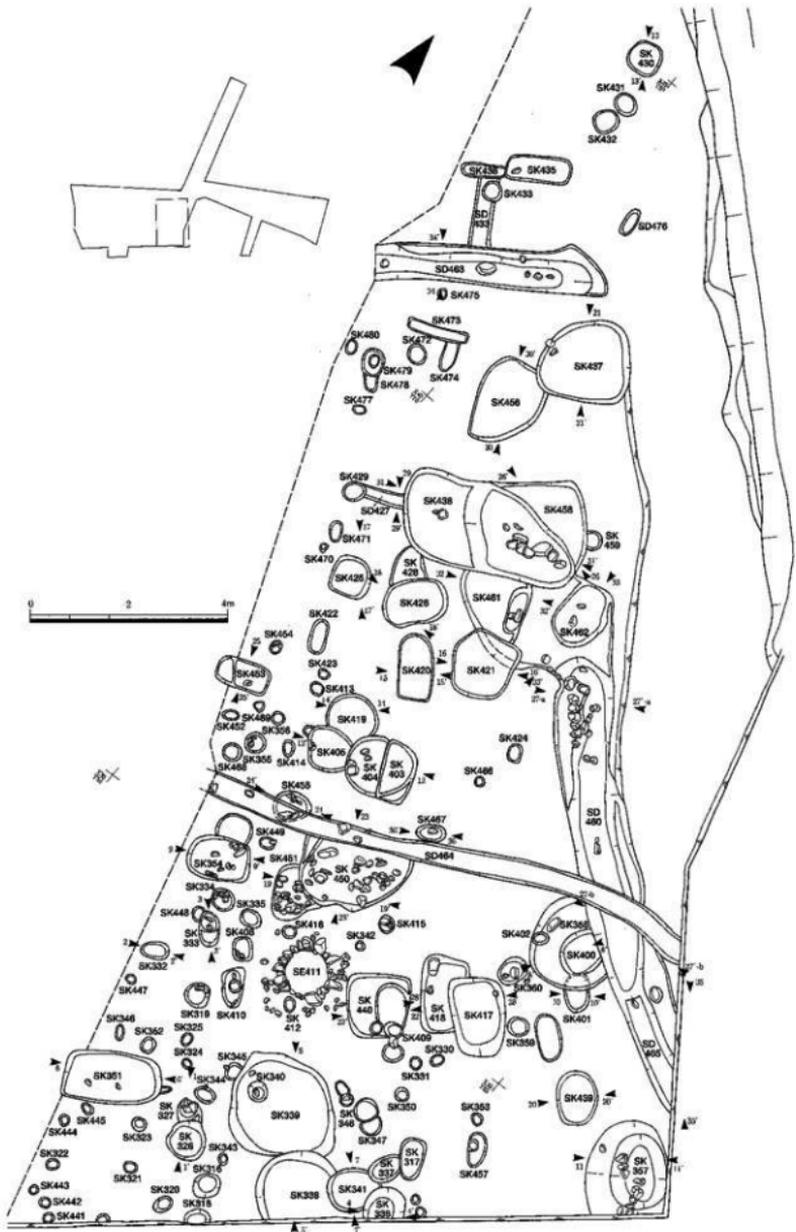


## 2 遺構



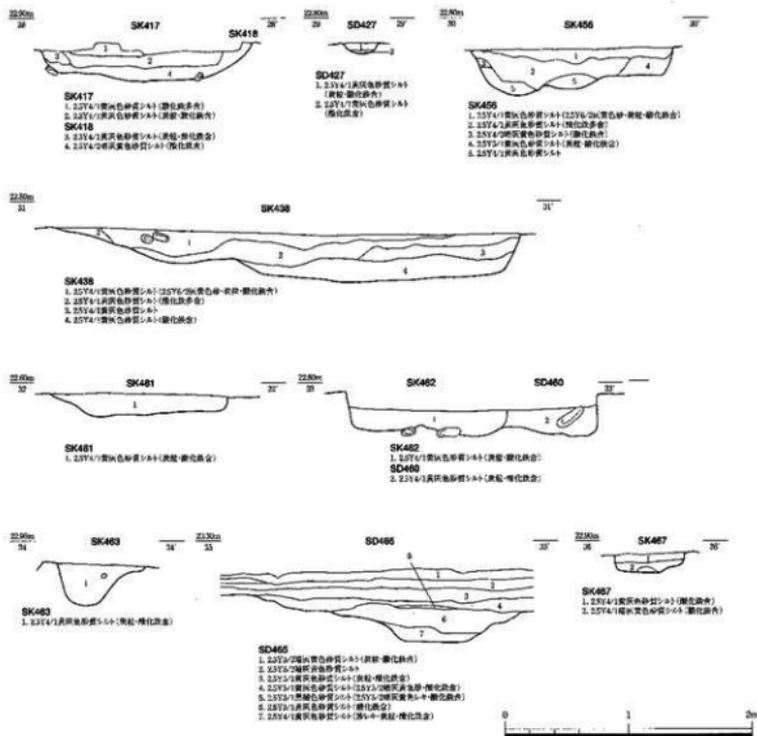
第35図 遺構実測図

SK620 SK622 SK623 SK624 SK625 SK629 SK630 SK639 SD631 SK632 SK634 SK635  
SK637 SD638 SK640 SK641 SK663 SK664 SD749 SK769 SD812 SD764 SK763 SK778  
SK813



第36図 遺構実測図(上層)





第38図 遺構実測図

SK417 SK418 SD427 SK456 SK438 SK461 SK462 SD460 SD463 SD465 SK467

777号溝 (S D777、第34図)

S D749同様以北から集石 S X896に向かう道路の側溝で、S X896の全面で西に折れる。S D749と同時に作られたと考えられる。遺物は珠洲がある。

812号溝 (S D812、第34図)

X33Y43にある幅47cm、深さ16cmの東西溝で、S K813などを切り作られる。新しい溝と考えられるが性格は不明。遺物には珠洲がある。S D749に切られ、S K813を切る。

中世上層の土坑

02号土坑 (S K02、第25図)

X51Y63にある47cm×60cm、深さ16cmの楕円形の土坑で、遺物には中世土師器がある。16世紀前半。

## 34号土坑 (S K 34、第21図)

X55 Y 80にある直径約35cm、深さ17cmの円形の土坑で、遺物にはバンドコ・土鏝がある。

## 47号土坑 (S K 47、第21図)

X58 Y 80にある直径約25cm、深さ10cmの円形の土坑で、遺物には青磁がある。S K 48に切れる。

## 52号土坑 (S K 52、第21図)

X59 Y 80にある直径41cm×56cm、深さ32cmの楕円形の土坑で、遺物は中世土師器がある。14世紀～15世紀。

## 61号土坑 (S K 61、第21図)

X56 Y 83にある直径26cm×35cm、深さ29cmの円形の土坑で、遺物には中世土師器がある。14世紀～15世紀。

## 62号土坑 (S K 62、第21図)

X56 Y 83にある直径31cm×40cm、深さ15cmの円形の土坑で、遺物には中世土師器・珠洲がある。

## 90号土坑 (S K 90、第22図)

X61 Y 73でS D 92の中に見つかった直径0.68m×0.98m、深さ19cmの楕円形の土坑で、遺物には中世土師器がある。用途は不明。

## 96号土坑 (S K 96、第21図)

X57 Y 82にある直径0.55m、深さ20cmの円形の土坑で、攪乱により西半分が切られている。遺物には中世土師器がある。時期は15世紀。

## 165号土坑 (S K 165、第21図)

X57 Y 76にある直径約0.85m、深さ48cmの楕円形の土坑で、遺物には中世土師器がある。重複関係は、S K 73・158、S E 01に切られ、S D 375を切る。時期は16世紀前半。

## 185号土坑 (S K 185、第23図)

X50 Y 70でS D 226を切り作られた直径0.54m×0.64m、深さ13cmの楕円形の土坑で、遺物には中世土師器がある。

## 194号土坑 (S K 194、第23図)

X44 Y 71にある直径35cm、深さ7cmの円形の土坑で、遺物には中世土師器がある。

## 197号土坑 (S K 197、第23図)

X50 Y 70にある直径1.55m×1.83mの不整形な土坑で、中には礫がたくさん入れられていた。遺物には中世土師器・銅銭がある。

## 199号土坑 (S K 199、第23図)

X46 Y 70にある直径30cm、深さ6cmの円形の土坑で、S K 200を切る。遺物には中世土師器がある。

## 111号土坑 (S K 111、第21図)

X61 Y 81にある直径約18cm、深さ7cmの円形の小さな柱穴状土坑で、S K 112を切る。遺物には中世土師器・砥石がある。

## 120号土坑 (S K 120、第22図)

X55 Y 74にある直径約90cm、深さ9cmの円形の土坑で、遺物には中世土師器がある。

## 130号土坑 (S K 130、第22図)

X54 Y 75にある一辺2m、深さ26cmの隅田方形の堅穴状土坑で、南の調査区外に続く。遺物には珠洲・青磁がある。

## 143号土坑 (S K143、第22図)

X50 Y70にある直径43cm×60cm、深さ13cmの楕円形の土坑で、S D296を切る。中には礫が入れられていた。遺物には中世土師器がある。

## 203号土坑 (S K203、第23図)

X49 Y70にある直径40cm×70cm、深さ12cmの楕円形の土坑で、S K204に切られる。遺物には中世土師器・珠洲・八尾がある。

## 208号土坑 (S K208、第21図)

X56 Y77にある直径20cm、深さ13cmの円形の柱穴状土坑で、S K152に切られる。遺物には中世土師器・珠洲がある。

## 211号土坑 (S K211、第23図)

X47 Y70にある長さ1.15m×0.95m、深さ15cmの楕円形の土坑で、遺物には珠洲がある。

## 212号土坑 (S K212、第23図)

X46 Y70にある長さ1.37m×1.03m、深さ32cmの楕円形の土坑で、遺物には珠洲・唐津がある。

## 213号土坑 (S K213、第23図)

X44 Y70にある長さ1.28m×1.64m、深さ25cmの楕円形の土坑で、遺物には珠洲がある。S K211～213は遺構の集中する部分から離れており、ゴミ穴的な性格が強いと考えられる。

## 223号土坑 (S K223、第25図)

X56 Y77にある直径約30cm、深さ8cmの円形の柱穴状土坑で、遺物には中世土師器がある。

## 228号土坑 (S K228、第25図)

X50 Y59にある直径36cm、深さ13cmの円形の柱穴状土坑で、南側は試掘トレンチによりに切られる。遺物には中世土師器・珠洲・八尾がある。

## 229号土坑 (S K229、第25図)

X51 Y61にある直径33cm×41cm、深さ24cmの楕円形の柱穴状土坑で、S K239の中から検出された。遺物には瀬戸・硯がある。

## 230号土坑 (S K230、第25図)

X50 Y60にある直径33cm×48cm、深さ13cmの楕円形の柱穴状土坑で、S K231を切る。遺物には中世土師器がある。

## 234号土坑 (S K234、第25図)

X50 Y60にある直径0.76m×0.8m、深さ23cmの円形の土坑で、遺物には中世土師器がある。

## 239号土坑 (S K239、第25図)

X50 Y61にある短軸2.26m、長軸3.3m以上、深さ15cmの隅円方形の堅穴状土坑で、S K230を切る。遺物には中世土師器・瀬戸・石臼・バンドコ・紡錘車・釘がある。時期は16世紀中頃か。

## 247号土坑 (S K247、第25図)

X50 Y58にある1.05m×1.23m、深さ12cmの隅円方形の土坑で、S K249に切られる。遺物には中世土師器がある。時期は14世紀～15世紀。

## 248号土坑 (S K248、第25図)

X52 Y63にある0.59m×0.67m、深さ8cmの隅円方形の土坑で、遺物には中世土師器がある。

## 252号土坑 (S K252、第24図)

X53 Y65にある2.15m×0.55m、深さ17cmの溝状の土坑で、S K251に重複する。遺物には中世土

師器・珠洲・白磁がある。

269号土坑 (S K269、第27図)

X49Y53にある直径約45cm、深さ22cmの長円形の土坑で、S K262に切られる。遺物には中世土師器がある。時期は16世紀以降。

271号土坑 (S K271、第25図)

X55Y62にある直径約0.5m、深さ12cmの円形の土坑で、S D281を切る。遺物には中世土師器がある。

272号土坑 (S K272、第25図)

X53Y61にある37cm×30cm、深さ18cmの柱穴状の長円形土坑で、遺物には中世土師器がある。

274号土坑 (S K274、第25図)

X53Y60にある0.55m×0.94m、深さ24cmの楕円形土坑で、遺物には中世土師器がある。

277号土坑 (S K277、第25図)

X53Y61ある直径0.89m、深さ16cmの円形土坑で、遺物には中世土師器がある。

278号土坑 (S K278、第25図)

X53Y61にある直径46cm、深さ8cmの柱穴状の円形土坑で、S K295<294に切られる。遺物には中世土師器がある。時期は14世紀～15世紀。

299号土坑 (S K299、第27図)

X50Y54にある2.55m×1.91m、深さ30cmの不整形な土坑で、中が1.3mの方形に掘られている。S K270・287に切られる。遺物には中世土師器・珠洲・瀬戸・砥石がある。15世紀後半。

300号土坑 (S K300、第27図)

X51Y54にある2.25m×1.73m、深さ36cmの不整形土坑で北に向かって深くなる。S K303を切る。遺物には中世土師器がある。

302号土坑 (S K302、第25図)

X48Y56にある一辺約1.8m、深さ20cmの不整形円形土坑で、S K304・305を切る。遺物には中世土師器・瓦質摺鉢がある。時期は14世紀～15世紀。

303号土坑 (S K303、第27図)

X51Y54にある直径25cm、深さ14cmの柱穴状の円形土坑で、S K300に切られる。遺物には珠洲がある。

305号土坑 (S K305、第26図)

X48Y56にあるS K300の中で検出された直径約30cm、深さ46cmの柱穴状の円形土坑で、S K300に切られる。遺物には中世土師器がある。

306号土坑 (S K306、第27図)

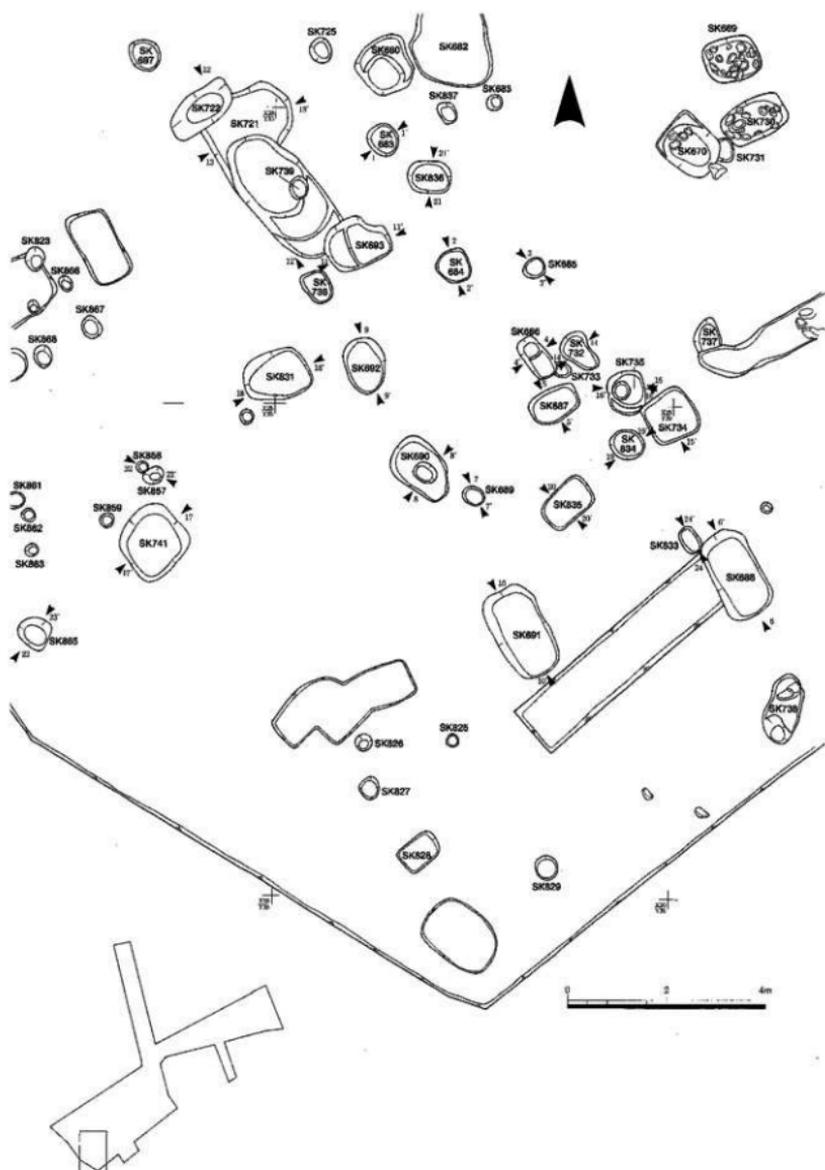
S K302の中で検出された直径約30cm、深さ40cmの柱穴状の円形土坑で、S K302を切る。遺物には中世土師器がある。

312号土坑 (S K312、第25図)

X50Y56で検出された直径約40cm、深さ6cmの柱穴状の円形土坑で、S K311を切る。遺物には中世土師器がある。時期は16世紀か。

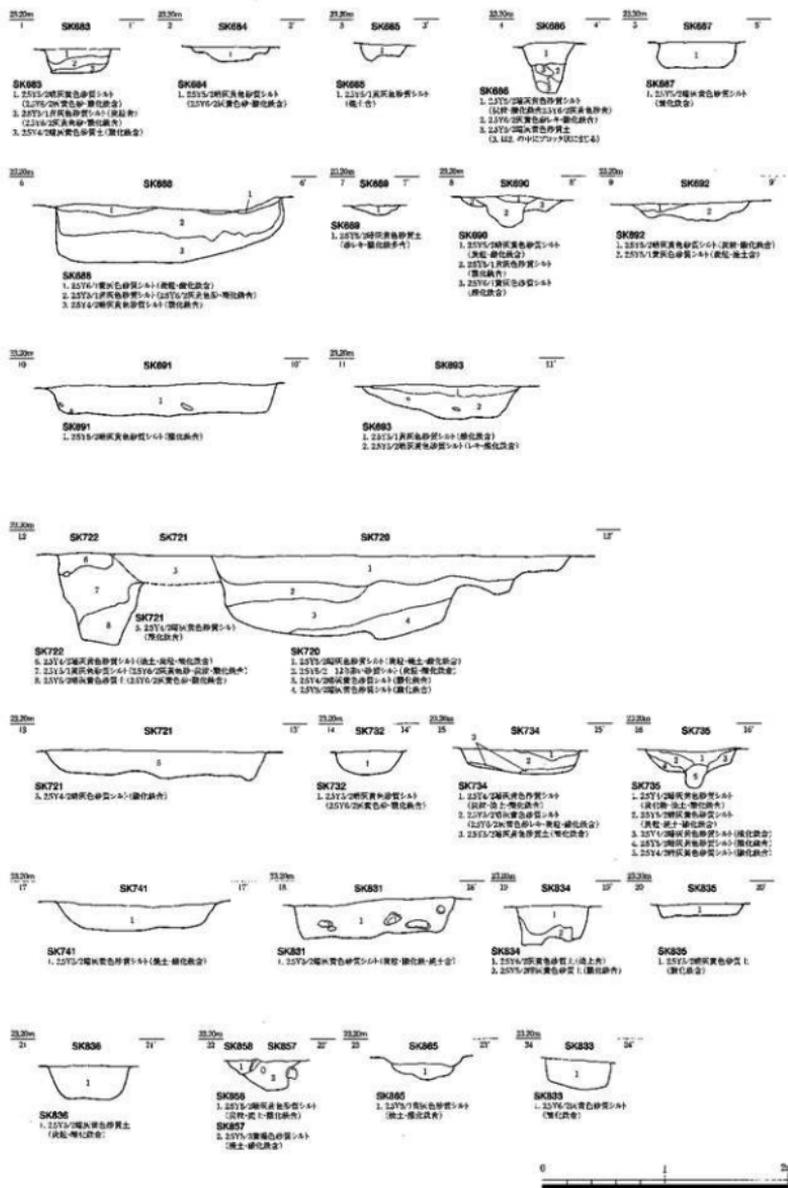
337号土坑 (S K337、第36図)

X34Y55で検出された0.61m×0.77m、深さ24cmの円形土坑で、S K317に切られる。遺物には中



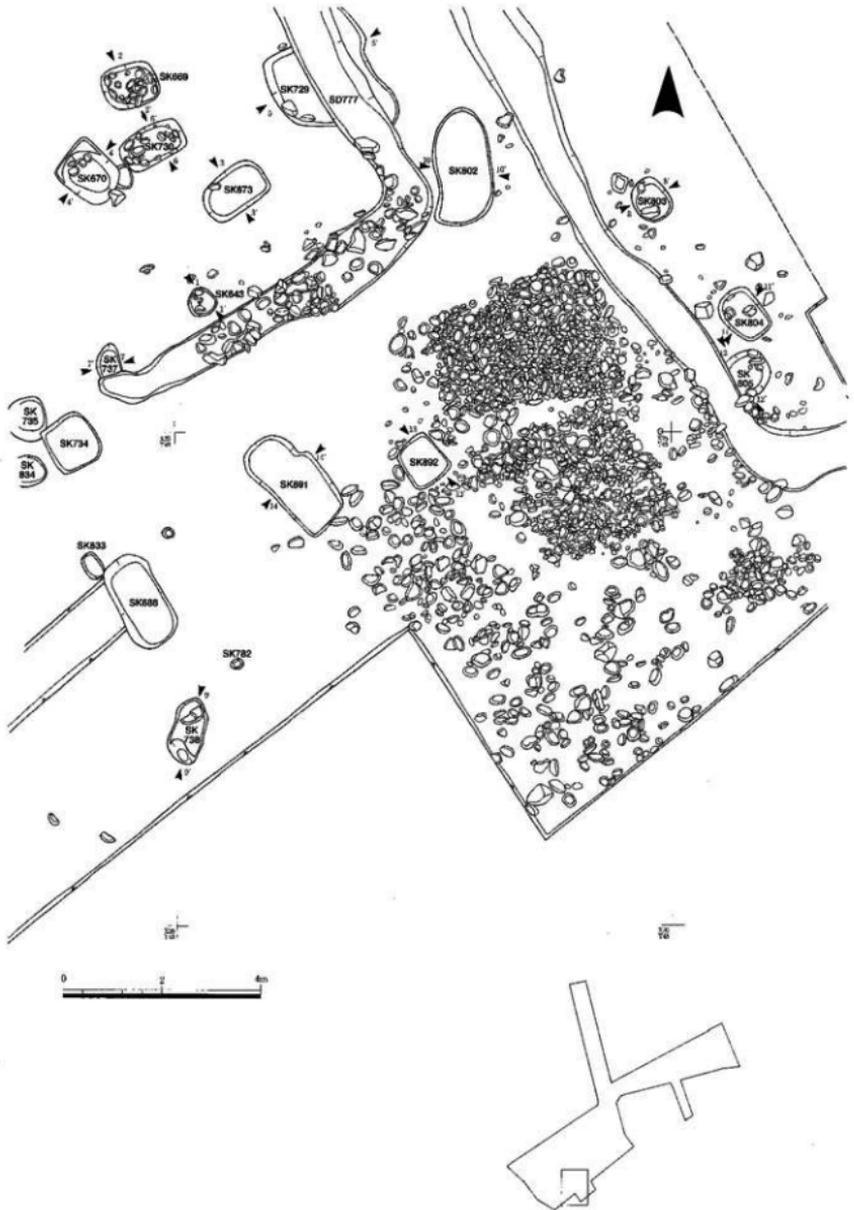
第39図 遺構実測図(上層)

2 遺構

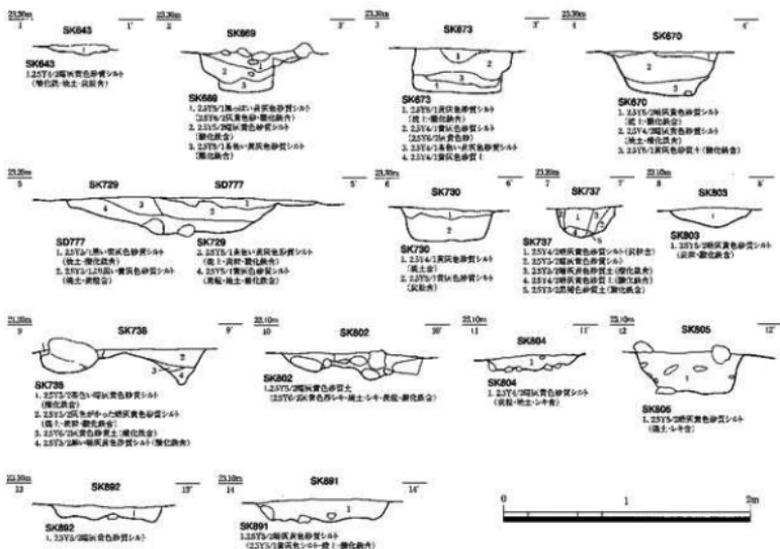


第40図 遺構実測図

- SK683 SK684 SK685 SK686 SK687 SK688 SK689 SK690 SK692 SK691 SK693 SK722  
 SK721 SK720 SK732 SK734 SK735 SK741 SK831 SK834 SK835 SK836 SK858 SK857  
 SK865 SK833



第41図 遺構実測図(上層)



第42図 遺構実測図

SK643 SK669 SK673 SK670 SK729 SD777 SK730 SK737 SK803 SK738 SK802 SK804  
SK805 SK892 SK891

世土師器がある。

351号土坑 (S K351、第36図)

X33 Y52で検出された1.11m×1.97m、深さ19cmの隅方形土坑で、遺物には中世土師器がある。

357号土坑 (S K357、第36図)

X35 Y57で検出された1.91m×1.63m、深さ45cmの円形土坑で、東と南側が調査区外に延びる。遺物には中世土師器・珠洲・八尾・釘がある。時期は14世紀後半～15世紀。

383号土坑 (S K383、第21図)

X56 Y83で検出された直径約31cm～40cm、深さ7cmの柱穴状の楕円形土坑で、S K513を切る。遺物には中世土師器がある。時期は14世紀～15世紀。

400号土坑 (S K400、第36図)

X37 Y55で検出された残存部0.85m、深さ40cmの円形土坑で、S D460とS K358に切られる。遺物には刀子がある。

402号土坑 (S K402、第36図)

S K400同様S K358の中で検出された55cm×45cm、深さ43cmの円形土坑で、S K358に切られる。遺物には釘がある。

403号土坑 (S K403、第36図)

X37 Y53で検出された長辺1.22m、短辺0.7m深さ17cmの楕円形土坑で、S K404を切る。遺物には中世土師器がある。時期は14世紀～15世紀。

## 415号土坑 (SK415、第36図)

X36 Y54で検出された35cm×39cm、深さ15cmの柱穴状の円形土坑で、遺物には中世土師器がある。

## 417号土坑 (SK417、第36図)

X36 Y55で検出された1.62m×1.12m、深さ21cmの隅円方形土坑で、SK418を切る。両者とも墓坑の可能性ある。遺物には八尾・棒状鉄製品がある。

## 421号土坑 (SK421、第36図)

X39 Y53で検出された1.4m×1.3m、深さ9cmの隅円方形土坑で、SK461、SD460を切る。遺物には中世土師器がある。

## 425号土坑 (SK425、第36図)

X39 Y51で検出された一辺0.82m、深さ30cmの隅円方形土坑で、墓坑の可能性ある。遺物には中世土師器がある。

## 426号土坑 (SK426、第36図)

X39 Y52で検出された0.92m×1.32m、深さ16cmの不整形な土坑で、SK428を切る。遺物には中世土師器がある。

## 429号土坑 (SK429、第36図)

X39 Y50で検出された46cm×42cm、深さ14cmの円形土坑で、SD427を切る。遺物には中世土師器がある。

## 437号土坑 (SK437、第36図)

X42 Y52で検出された1.91m×1.7m、深さ16cmの不整形な土坑で、SK456、SD460を切る。遺物には珠洲・中世土師器がある。

## 438号土坑 (SK438、第36図)

X39 Y52で検出された1.85m×3.46m、深さ46cmの不整形な土坑で、SD427、SK458・461、SD460を切る。遺物には中世土師器・石臼・硯・バンドコがある。時期は15世紀以降。

## 450号土坑 (SK450、第36図)

X36 Y53で検出された1.33m×2.2m、深さ39cmの不整形な土坑で、SK451を切り、SD464に切られる。遺物には中世土師器がある。時期は14世紀～15世紀。

## 451号土坑 (SK451、第36図)

X36 Y53で検出された0.87m×1.12m、深さ30cmの不整形な土坑で、SK450に切られる。遺物には中世土師器・八尾・バンドコがある。

## 456号土坑 (SK456、第36図)

X40 Y52で検出された1.35m×1.8m、深さ38cmの不整形な土坑で、SD460を切り、SK437に切られる。遺物には中世土師器・珠洲・バンドコ・釘がある。

## 458号土坑 (SK458、第36図)

X40 Y52で検出された1.5m×0.9m、深さ31cmの不整形な土坑で、SK458を切り、SK438に切られる。遺物には中世土師器がある。

## 461号土坑 (SK461、第36図)

X40 Y53で検出された1.49m×1.22m、深さ37cmの不整形な土坑で、SD460を切り、SK421・438に切られる。遺物には中世土師器がある。

## 474号土坑 (SK474、第36図)

X41Y50で検出された30cm×60cm、深さ6cmの不整形な土坑で、SK473に切られる。遺物には中世土師器がある。時期は15世紀後半以降。

483号土坑（SK483、第28図）

X52Y51で検出された0.5m×0.64m、深さ19cmの円形土坑で、SE482に切られる。遺物には中世土師器・鉄滓がある。

484号土坑（SK484、第28図）

X52Y51で検出された直径30cm、深さ18cmの柱穴状の円形土坑で、遺物には釘がある。

485号土坑（SK485、第28図）

X52Y52で検出された30cm×61cm、深さ24cmの楕円形土坑で、遺物には瀬戸・釘がある。

488号土坑（SK488、第28図）

X52Y50で検出された0.87m×0.95m、深さ25cmの円形土坑で、遺物には中世土師器がある。

502号土坑（SK502、第28図）

X54Y49で検出された40cm×45cm、深さ35cmの円形土坑で、SK588を切る。遺物には瓦質火鉢がある。

504号土坑（SK504、第28図）

X54Y51で検出された1.15m×0.94m、深さ13cmの不整形土坑で、SE505を切る。遺物には中世土師器がある。

509号土坑（SK509、第28図）

X55Y51で検出された48cm×53cm、深さ23cmの楕円形土坑で、遺物には中世土師器・青磁・小柄がある。

512号土坑（SK512、第28図）

X55Y50で検出された0.5m×0.6m、深さ34cmの楕円形土坑で、遺物には中世土師器がある。

513号土坑（SK513、第21図）

X56Y83で検出された0.69m×0.71m、深さ8cmの楕円形土坑で、SD59、SK382・383を切る。遺物には中世土師器・珠洲・須恵器がある。14世紀～15世紀。

531号土坑（SK531、第28図）

X56Y47で検出された0.81m×0.91m、深さ16cmの円形土坑で、SK530を切る。遺物には中世土師器がある。

540号土坑（SK540、第28図）

X57Y49で検出された0.84m×1.17m、深さ15cmの不整形土坑で、遺物には中世土師器がある。

541号土坑（SK541、第28図）

X56Y50で検出された1.14m×1.9m、深さ29cmの不整形土坑で、遺物には中世土師器・瀬戸・越中瀬戸がある。

542号土坑（SK542、第28図）

X56Y50で検出された0.76m×0.88m、深さ40cmの不整形土坑で、SK602を切る。遺物には中世土師器・バンドコがある。

546号土坑（SK546、第28図）

X53Y49で検出された1.72m×1.97m、深さ36cmの不整形土坑で、SK497・550を切り、SK499・500・588に切られる。遺物には中世土師器・釘がある。

## 561号土坑 (S K561、第28図)

X54 Y49で検出された1.86m×2.03m、深さ30cmの不整形土坑で、S K561を切り、S D545、S K560に切られる。遺物には中世土師器・珠洲がある。

## 568号土坑 (S K568、第28図)

X59 Y49で検出された0.55m×0.63m、深さ14cmの円形土坑で、S D567に切られる。遺物には中世土師器がある。時期は15世紀後半以降。

## 580号土坑 (S K580、第15図)

X60 Y46で検出された1.24m×1.87m、深さ17cmの円形土坑で、S K578に切られる。遺物には釘がある。

## 591号土坑 (S K591)

X63 Y49で検出された38cm×46cm、深さ13cmの楕円形土坑で、遺物には刀子がある。

## 592号土坑 (S K592)

X63 Y49で検出された42cm×46cm、深さ29cmの円形土坑で、S D574に切られる。遺物には珠洲・釘がある。

## 596号土坑 (S K596)

X63 Y47で検出された36cm×35cm、深さ17cmの円形土坑で、遺物には中世土師器がある。

## 620号土坑 (S K620、第34図)

X31 Y44で検出された0.65m×0.85m、深さ24cmの楕円形土坑で、遺物にはバンドコがある。

## 621号土坑 (S K621、第34図)

X35 Y43で検出された0.54m×0.62m、深さ37cmの円形土坑で、遺物には中世土師器がある。

## 623号土坑 (S K623、第34図)

X31 Y43で検出された0.92m×1.23m、深さ23cmの隅円方形土坑で、墓坑の可能性はある。遺物には釘がある。

## 660号土坑 (S K660、第31図)

X35 Y38で検出された1.13m×1.86m、深さ18cmの隅円方形土坑で、墓坑の可能性はある。遺物には中世土師器がある。

## 665号土坑 (S K665、第31図)

X30 Y39で検出された1.12m×1.42m、深さ19cmの隅円方形土坑で、墓坑の可能性はある。またS D777に切られる。遺物には珠洲がある。

## 667号土坑 (S K667、第31図)

X30 Y39で検出された1.63m×1.96m、深さ27cmの隅円方形土坑で、墓坑の可能性はある。遺物には中世土師器・板状鉄製品がある。S K668を切る。

## 672号土坑 (S K672、第31図)

X32 Y40で検出された一辺1.1m、深さ23cmの隅円方形土坑で、墓坑の可能性はある。遺物には珠洲がある。S K694に切られる。

## 673号土坑 (S K673、第41図)

X28 Y41で検出された0.95m×1.38m、深さ36cmの隅円方形土坑で、墓坑の可能性はある。遺物には中世土師器がある。時期は15世紀後半以降。

## 674号土坑 (S K674、第31図)

X34 Y36で検出された0.82m×1.04m、深さ29cmの隅円方形土坑で、墓坑の可能性がある。遺物には珠洲がある。

676号土坑（S K676、第31図）

X36 Y35で検出された1.32m×1.34m、深さ31cmの隅円方形土坑で、墓坑の可能性がある。遺物には珠洲がある。S K702を切る。

681号土坑（S K681、第31図）

X36 Y35で検出された0.87m×1.12m、深さ28cmの隅円方形土坑で、墓坑の可能性がある。遺物には中世土師器がある。S K682を切る。時期は15世紀以降。

688号土坑（S K688、第39図）

X24 Y40で検出された0.99m×1.94m、深さ0.54mの隅円方形土坑で、墓坑の可能性がある。遺物には中世土師器がある。

695号土坑（S K695、第31図）

X33 Y39で検出された1.13m×1.75m、深さ21cmの隅円方形土坑で、墓坑の可能性がある。遺物には中世土師器がある。S K694・726を切る。

697号土坑（S K697、第29・31図）

X29 Y34で検出された0.6m×0.7m、深さ11cmの円形土坑で、遺物には珠洲がある。

698号土坑（S K698、第29図）

X32 Y33で検出された0.58m×0.78m、深さ12cmの隅円方形土坑で、遺物には中世土師器がある。

704号土坑（S K704、第31図）

X35 Y34で検出された1.04m×1.25m、深さ48cmの隅円方形土坑で、墓坑の可能性がある。遺物には中世土師器がある。S K694・726を切る。

706号土坑（S K706、第29図）

X34 Y33で検出された0.84m×0.97m、深さ27cmの隅円方形土坑で、墓坑の可能性がある。遺物には中世土師器がある。

707号土坑（S K707、第29図）

X33 Y32で検出された0.93m×0.97m、深さ40cmの隅円方形土坑で、墓坑の可能性がある。遺物には中世土師器がある。S K706を切る。

711号土坑（S K711、第29図）

X31 Y32で検出された1m×1.66m、深さ48cmの隅円方形土坑で、墓坑の可能性がある。遺物には中世土師器がある。S K841を切り、S K712に切られる。時期は14世紀～15世紀。

718号土坑（S K718、第29図）

X33 Y31で検出された0.97m×1.18m、深さ49cmの隅円方形土坑で、墓坑の可能性がある。遺物には釘がある。

722号土坑（S K722、第31図）

X28 Y35で検出された0.91m×1.44m、深さ0.75mの長円形土坑で、墓坑の可能性がある。遺物には珠洲がある。S K721を切る。

729号土坑（S K729、第34図）

X29 Y42で検出された0.80m×1.86m、深さ24cmの隅円方形土坑で、墓坑の可能性がある。遺物には中世土師器がある。S D777に切られる。

## 742号土坑 (S K742、第29図)

X32 Y30で検出された0.81m×1.14m、深さ0.54mの隅円方形土坑で、墓坑の可能性がある。遺物には中世土師器・砥石がある。S D777に切られる。

## 743号土坑 (S K743、第29図)

X31 Y31で検出された0.93m×1.08m、深さ21cmの隅円方形土坑で、墓坑の可能性がある。遺物には毛抜きがある。S K755に切られる。

## 752号土坑 (S K752、第29図)

X29 Y31で検出された1.21m×1.31m、深さ26cmの隅円方形土坑で、墓坑の可能性がある。遺物には珠洲がある。S K747に切られる。

## 755号土坑 (S K755、第29図)

X30 Y31で検出された1.15m×1.74m、深さ24cmの隅円方形土坑で、墓坑の可能性がある。遺物には釘がある。S K743・756を切る。

## 756号土坑 (S K756、第29図)

X30 Y31で検出された0.54m×0.79m、深さ31cmの楕円形土坑で、遺物には珠洲がある。

## 784号土坑 (S K784、第31図)

X33 Y34で検出された1.20m×1.75m、深さ41cmの隅円方形土坑で、墓坑の可能性がある。遺物には中世土師器・砥石がある。S K783・785に切られる。

## 785号土坑 (S K785、第29図)

X32 Y33で検出された0.7m×1.95m、深さ0.66mの隅円方形土坑で、墓坑の可能性がある。遺物には中世土師器・瀬戸・釘がある。S K784・786・810を切る。

## 786号土坑 (S K786、第29図)

X32 Y34で検出された0.97m×1.86m、深さ0.7mの隅円方形土坑で、墓坑である。覆土断面にははっきりと木棺の痕跡を残す。遺物は無い。S K784・785・787を切る。

## 791号土坑 (S K791、第29図)

X30 Y29で検出された0.74m×1.1m、深さ0.62mの隅円方形土坑で、墓坑の可能性がある。遺物には釘がある。S K790を切る。

## 817号土坑 (S K817、第29図)

X30 Y27で検出された0.73m×0.58m、深さ19cmの円形土坑で、遺物には中世土師器がある。

## 821号土坑 (S K821、第29図)

X27 Y30で検出された0.86m×1.12m、深さ29cmの隅円方形土坑で、墓坑の可能性がある。遺物には珠洲がある。S D747に切られる。

## 824号土坑 (S K824、第29図)

X27 Y33で検出された35cm×39cm、深さ20cmの円形土坑で、遺物には中世土師器がある。

## 830号土坑 (S K830、第29図)

X25 Y32で検出された1.47m×1.64m、深さ24cmの隅円方形土坑で、墓坑の可能性がある。遺物には珠洲・八尾・砥石・鉄滓がある。

## 874号土坑 (S K874、第29図)

X28 Y33で検出された2m×2.5m、深さ45cmの隅円方形土坑で、墓坑の可能性がある。遺物には珠洲がある。

## 896号石積 (S X 896、第20・41図)

X26Y45で検出された4m×6m、高さ30cmの方形に積み上げられた石積みで、特に並べたり端取りはされていない。性格ははっきりしないが、墓地に関係する特別な施設と考える。また、礫を外した特別な施設はみられない。遺物には珠洲・越中瀬戸がある。

## B 近世の遺構

遺構には建物・土坑・溝・井戸などがあり17世紀と19世紀の2時期に分けられる。

## 掘立柱建物

## 09号建物 (S B 09、第43図)

調査区の東側S E 32を切り作られる1間×2間の東西棟建物で、楕円形の柱穴を持つ。柱は3本残るがS P 63の柱は、攪乱で倒されていた。築行は不明。遺物は中世土師器・珠洲がある。時期は17世紀。

## 10号建物 (S B 10、第43図)

S E 32の北東側に建つ1間×2間の南北棟建物で、北側に庇か、間柱がある掘立柱建物。遺物は、S P 09から珠洲・唐津、S P 03から砥石が出土している。時期は17世紀。

## 11号建物 (S B 11、第43図)

X60Y78付近にある近世土坑S K 145に柱穴が切られる1間×2間の南北棟の掘立柱建物で、楕円柱穴。遺物はS P 50から中世土師器・砥石、S P 78・146から中世土師器が出土。時期は17世紀。

## 12号建物 (S B 12、第43図)

X56Y77付近にある1間×2間の南北棟の掘立柱建物で、柱が4本確認される。時期は17世紀か。

## 13号建物 (S B 13、第44図)

X58Y80付近にある2間×2間の南北棟の掘立柱建物で堅穴状土坑S K 113が付く。遺物はS P 60から中世土師器・珠洲が出土している。

## 14号建物 (S B 14、第44図)

X55Y82付近にある1間×2間の南北棟の掘立柱建物で、西側の柱1本と東側の1本は攪乱と溝で確認できない。

## 15号建物 (S B 15、第44図)

S B 13とほぼ同位置に建つ1間×2間の南北棟の掘立柱建物で、S B 13・14と建物の軸の向きが同じとなる。新旧ははっきりしないがS B 15はS B 13の立て替えの可能性はある。

## 16号建物 (S B 16、第44図)

S B 15とほぼ同位置で建物の軸がずれてみられる2間×2間のやや大きい南北棟の掘立柱建物で、東側の柱は攪乱により無い。

## 溝

## 92号溝 (S D 92、第51・52図)

X60Y70列～80列にかけてみられる幅1m、長さ20mの溝で、Y78付近では、石が並べられる。また、この付近には大きな石が投げ込まれる。遺物は、中世土師器・珠洲・越中瀬戸・伊万里などがある。

## 用水 (第27図)

墓域と集落の間X41Y54付近を流れる用水で、ごく最近まで使われていた。いつ頃から使われたかははっきりしないが、古い流路から遺物が出土した。用水の幅は約1.5m、深さ0.6mである。遺物には

中世土師器・珠洲・越前・八尾・五輪塔・石塔婆・宝篋印塔・バンドコ・砥石・石塔台型がある。

## 井戸

### 01号井戸 (S E01、第21・52図)

X56Y76にある石組井戸で、直径45cm、深さ0.8mの小型の井戸で、底面に細長い3個の河原石を三角に組み、その上から右回りに石を積む。掘り方は大きく1.5mで東に寄せ作る。遺物は須恵器がある。

### 08号井戸 (S E08、第21・52図)

X57Y77にある石組井戸で、直径0.7m、深さ0.8mの井戸で、底面から右回りに石を積む。掘り方は大きく1.8mである。遺物は中世土師器・越中瀬戸・唐津・伊万里がある。時期は19世紀か。

### 33号井戸 (S E33、第52図)

X57Y80にある井戸で、直径1.8mの掘方の中に0.7m程の井戸枠跡が残る。深さは0.94mで、遺物は中世土師器・珠洲・越中瀬戸・唐津・伊万里がある。時期は19世紀か。

### 82号井戸 (S E82、第22・51図)

X56Y75にある石組井戸で、直径0.7m、深さ0.9mの井戸で、底面に3個の石を組み右回りに石を積む。作りはS E01に似る。掘り方は大きく1.8mである。遺物は中世土師器・石臼・漆器椀・箸・板材がある。時期は17世紀～19世紀。

### 301号井戸 (S E301、第22・51図)

X59Y75にある石組井戸で、直径0.7m、深さ1.1mの井戸で、底面から右回りに石を積む。掘り方は大きく2mである。遺物は中世土師器・越中瀬戸・漆器椀・板材がある。時期は17世紀～19世紀。

## 土坑

近世の土坑は、S K05・11～16・25・27・30・31・36～38・40～44・47・48・53～56・67・69・71～74・77・79・80・83・95・98・101～105・107～110・113・114・128・144・145・148・152～154・158・163～166・202・240・393・554・652・654・855・895・1286である。

### 05号土坑 (S K05、第52図)

X56Y79で検出された0.66m×0.69m、深さ33cmの円形の土坑で、柱根が残る。遺物は中世土師器・伊万里がある。

### 11号土坑 (S K11、第52図)

X59Y79で検出された0.85m×1.29m、深さ5cmの円形の土坑で、S K12に切られる。

### 31号土坑 (S K31、第52図)

X56Y81で検出した30cm×47cm、深さ13cmの土坑で、攪乱により切られる。遺物は中世土師器がある。

### 36・37号土坑 (S K36・37、第52図)

X56Y79で検出された直径約35cm、深さ18cmの柱穴状の円形の土坑で、S K37に切られる。遺物はS K36に中世土師器がある。

### 41号土坑 (S K41、第52図)

X58Y79で検出された0.56m×0.75m、深さ7cmの浅い楕円形の土坑で、遺物は中世土師器がある。

### 48号土坑 (S K48、第52図)

X58Y80で検出された1.37m×1.46mの浅い楕円形の土坑で、遺物は中世土師器・珠洲・唐津がある。





## 71号土坑 (SK71、第51図)

X58Y75で検出された1.19m×1.6m、深さ7cmの楕円形の土坑で、遺物は唐津がある。

## 74号土坑 (SK74、第51図)

X59Y76で検出された1.05m×1.5m、深さ28cmの楕円形の土坑で、遺物は越中瀬戸がある。

## 95号土坑 (SK95、第51図)

X62Y74で検出された4.42m×6.8m、深さ30cmの不整形な土坑で、SD92に切られる。また、南側には石が投げ込まれている。遺物は中世土師器・珠洲・八尾・青磁・染付・越中瀬戸・唐津・伊万里・京焼か・須恵器・切石・砥石・釘がある。

## 98号土坑 (SK98、第52図)

X61Y82で検出された直径1.7m、深さ18cmの円形の土坑で、遺物は中世土師器・越中瀬戸がある。

## 108号土坑 (SK108、第52図)

X59Y79で検出された直径1.67m、深さ27cmの円形の土坑で、中には河原石が敷き詰めたと入られている。SK109を切る。遺物は中世土師器・越中瀬戸がある。

## 113号土坑 (SK113、第52図)

X59Y89で検出された3.62m×2.92mが残る不整形な土坑で、SK54・55・56・93に切られる。また、土坑部分は整地がされている。遺物には中世土師器・珠洲・釘がある。

## 128号土坑 (SK128、第51図)

X57Y73で検出された1.11m×1.59m、深さ22cmの長方形土坑で、中にはびっしりと砂利と礫が詰まっていた。遺物には中世土師器がある。

## 145号土坑 (SK145、第52図)

X59Y78で検出された2.89m×3.07m、深さ32cmの不整形な長方形土坑で、南側に2～3段の石積みみを設け、西・北側を細かい石で縁取っている。水屋的な性格と考えられる。SK163を切る。遺物には中世土師器・珠洲・越中瀬戸・伊万里・唐津・加工石がある。

## 148号土坑 (SK148、第52図)

X56Y78で検出された60cm×40cm、深さ28cmの楕円形土坑で、SD150を切る。遺物には中世土師器・越中瀬戸がある。

## 164号土坑 (SK164、第52図)

X62Y81で検出された4.04m×4.87m、深さ30cmの不整形な土坑で、南西側に縁取りの礫が並べられ、土坑の南半分は礫を敷いたようになっている。建物に関係する施設と考えられるが、性格は不明。遺物には中世土師器・珠洲・唐津・越中瀬戸がある。

## 166号土坑 (SK166、第51図)

X56Y75で検出された0.52m×0.64m、深さ8cmの楕円形土坑で、SK138に切られる。遺物には越中瀬戸・唐津がある。

## 212号土坑 (SK212、第23図)

X46Y71で検出された1.03m×1.37m、深さ32cmの楕円形土坑で、遺物には珠洲・唐津がある。

## 240号土坑 (SK240、第52図)

X64Y80で検出された1.1m×2.42m、深さ47cmの隅円方形土坑で、西側を除き河原石を並べて縁取りがされている。遺物は無い。

## 652号土坑 (SK652、第31図)

X31Y37で検出された0.88m×1.38m、深さ27cmの隅凹方形土坑で、墓坑の可能性がある。遺物には中世土師器・珠洲・瀬戸・唐津がある。

### 3 遺物

遺構は調査区東半分で2面に分かれて検出されたが、遺物は厳密に上層と下層は分けきれない。そのため、中世をまとめて扱うこととする。

#### A 中世の遺物

02号土坑（SK02、第53図1・2、図版18）

中世土師器が2点ある。中型と小型の物で、胴上部に1段ナデを施し、ナデ部分から折れ、外反し、端部を外面に緩く摘み出す。15世紀後半。

34号土坑（SK34、第53図3）

直径1.7cmの細身の土錘で約半分が残る。穴の径は4mm。

47号土坑（SK47、第53図3、図版30）

同安窯系の青磁皿が1点ある。

52号土坑（SK52、第53図4）

短い胴部に1段ナデを施し、緩く外反する器形で、底面は丸みを帯びる。14世紀後半～15世紀。

61号土坑（SK61、第53図6・7）

6はコースター形の中世土師器で、胴部を強めになで外反させる。14世紀～15世紀。7は緩く湾曲しながら立ち、口縁端部を丸く収める物で15世紀。

62号土坑（SK62、第53図8・28、図版24）

8は緩く湾曲して立ち、口縁端部を丸く収める15世紀の小型の中世土師器。28は珠洲鉢で13世紀。

96号土坑（SK96、第53図9）

胴部に1段ナデを施し、緩く外反する器形で、底面は丸みを帯びる。14世紀後半～15世紀。

130号土坑（SK130、第53図10・20、図版26）

10は珠洲鉢で、内面に放射文と格子目文を併せた押印が付けられる。13世紀か。20は鎮葉文青磁。

165号土坑（SK165、第53図13）

中世土師器で、胴上部に1段ナデを施し、ナデ部分から折れ、外反し、端部を外面に強く摘み出す。15世紀後半～16世紀初め頃。

185号土坑（SK185、第53図14）

14はロクロ土師器で高台が付くと考えられる。15世紀後半～16世紀初め。

199号土坑（SK199、第53図21）

底部を回転糸切りできるロクロ土師器で、やや深めである。時期は15世紀後半。

228号土坑（SK228、第60図237・238）

237は珠洲壺の口縁。228は甕で13世紀。

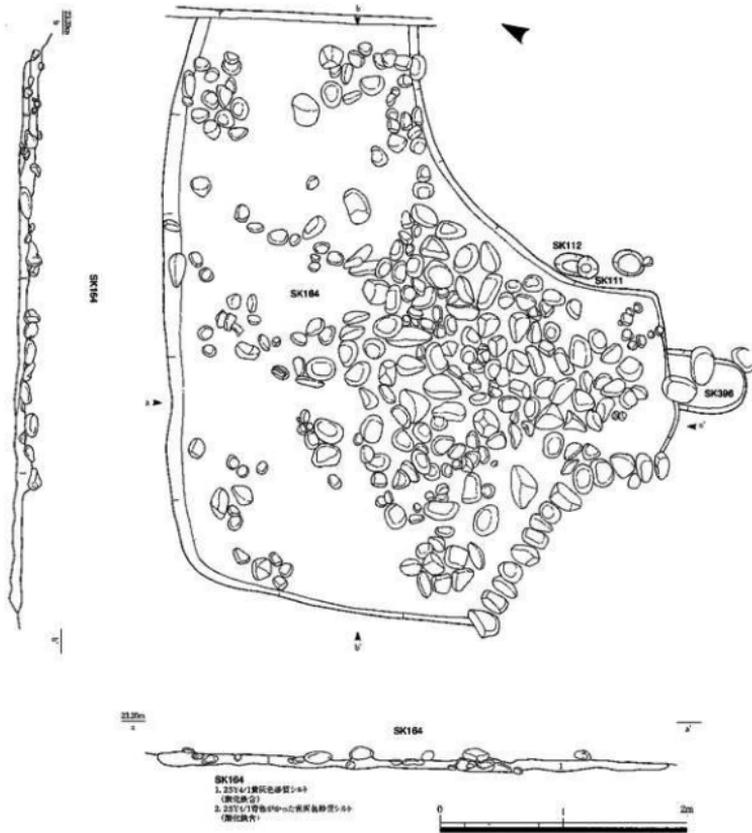
230号土坑（SK230、第53図15・22、図版18）

中世土師器で、胴上部に1段ナデを施し、ナデ部分から折れ、外反し、端部を外面に摘み出す。15世紀後半。22も同様の時期であろう。

239号土坑（SK239、第53図16～19・45、図版34・39）

16は瀬戸・美濃の天目茶碗で、内面に陵を持つ。17は中世土師器で、ナデ部分から折れ、外反し、端部を外面に摘み出す。18は上白で1/4が残る。側面には煤が付着する。19は鉄製紡錘車で、軸棒を





第46図 遺構実測図  
SK164

欠損する。45は舟釘で、長さ12.5cm以上ある。時期は15世紀後半～16世紀前半。

223号土坑 (SK 223、第53図23)

中世土師器で、緩く丸みを帯びて立ちあがり外反し、端部を外面に摘み出す。時期は15世紀後半。

253号土坑 (SK 253、第53図31、図版18)

口縁部が外に折れるロクロ土師器の皿で内面には漆か煤の跡が残る。時期は15世紀後半。

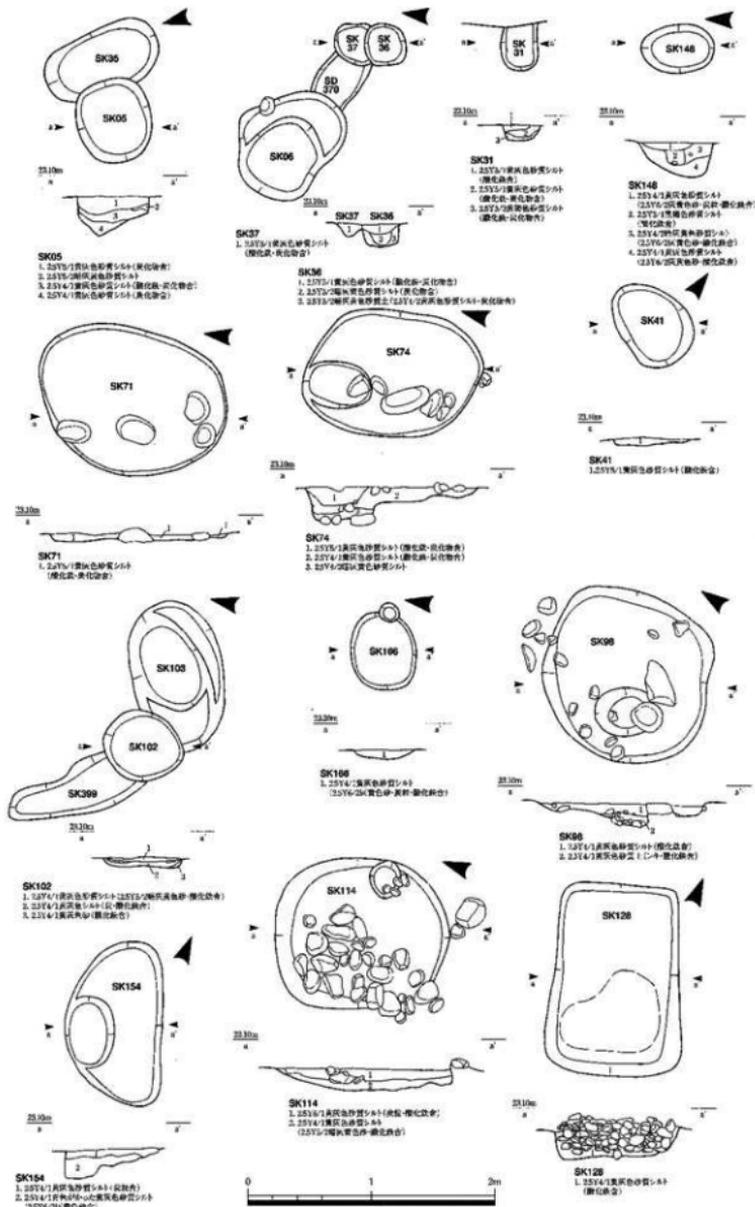
269号土坑 (SK 269、第53図30)

中世土師器で1段ナデを施し、ナデ部から折れ、緩く外反し、端部を外面に摘み出す。15世紀後半。

278号土坑 (SK 278、第53図43)

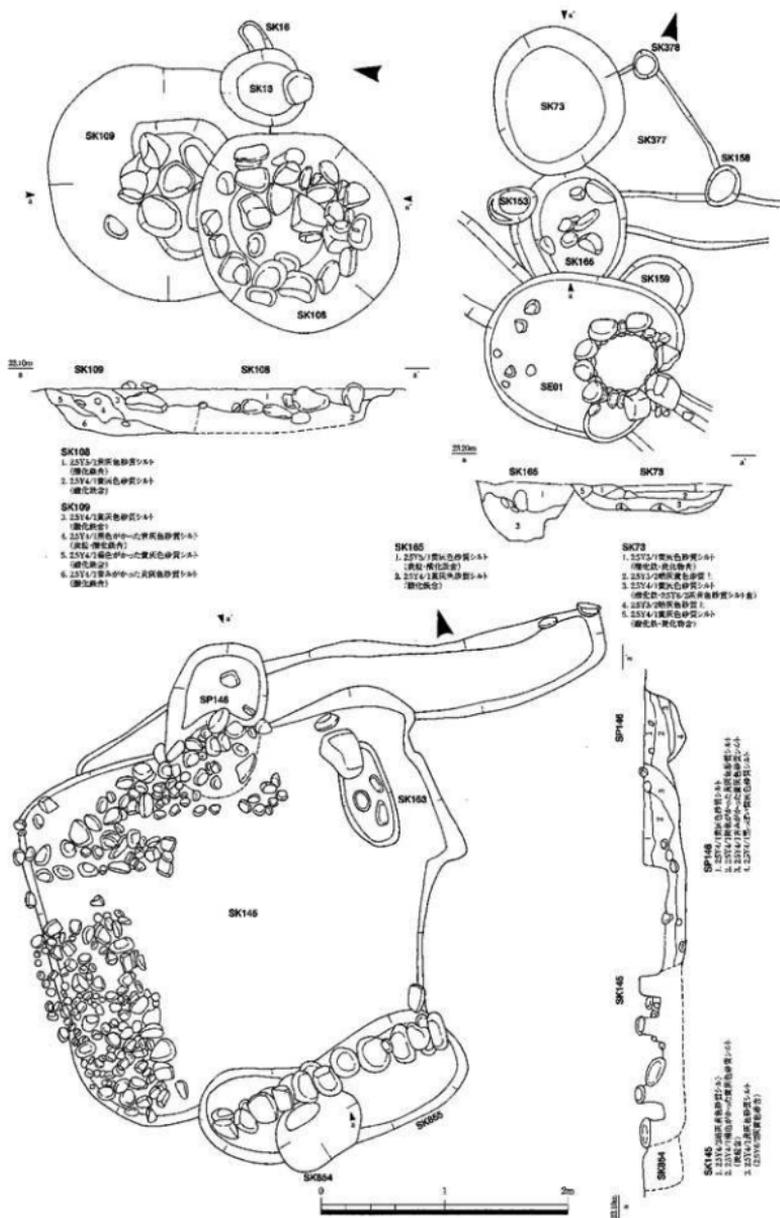
中世土師器で、緩く丸みを帯びて立ちあがり外反し、端部を外面に摘み出す。時期は15世紀後半。





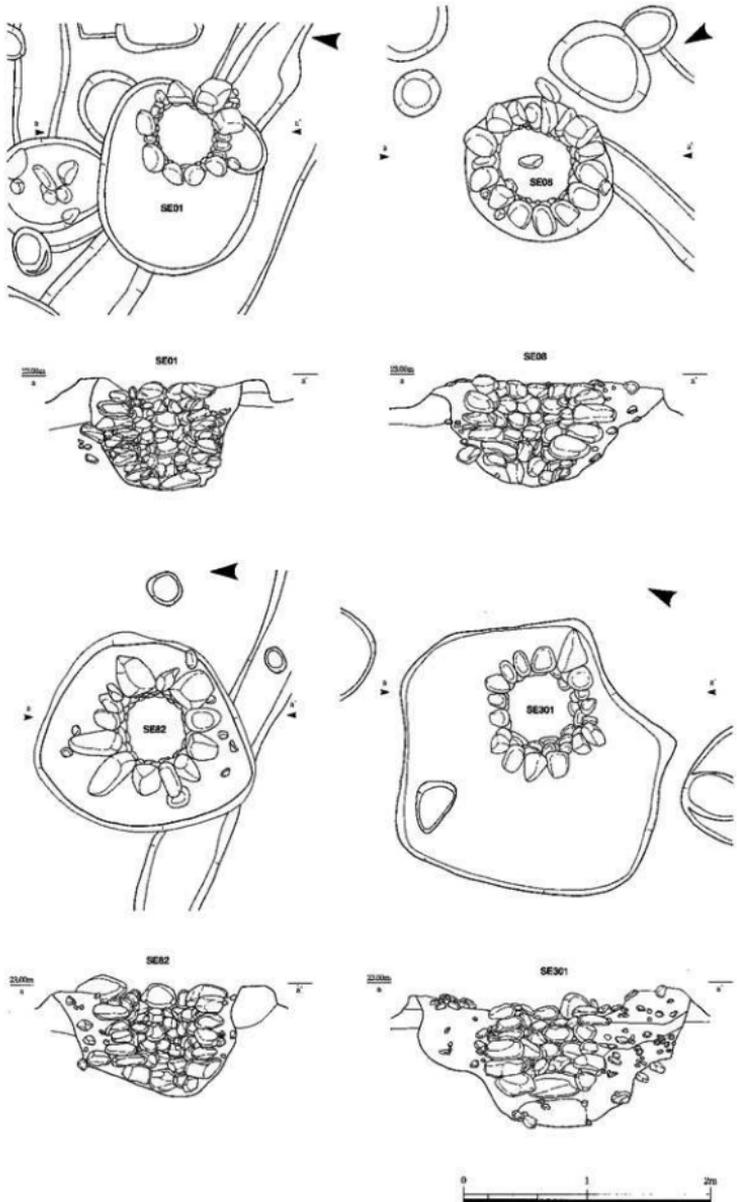
第48図 遺構実測図

SK05 SK37 SK36 SK31 SK148 SK71 SK74 SK41 SK102 SK166 SK98 SK154 SK114 SK128



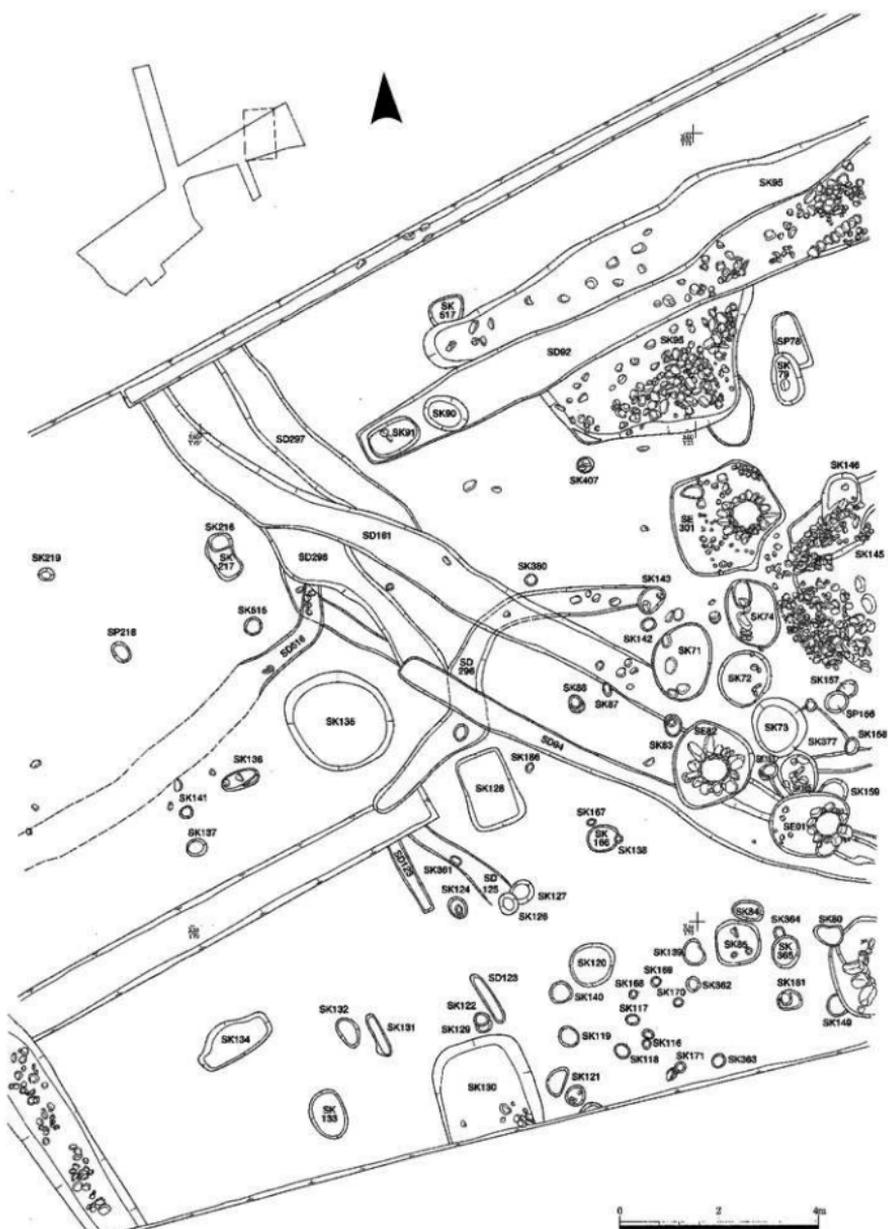
第49図 遺構実測図

SK106 SK109 SK165 SK73 SK145 SP146

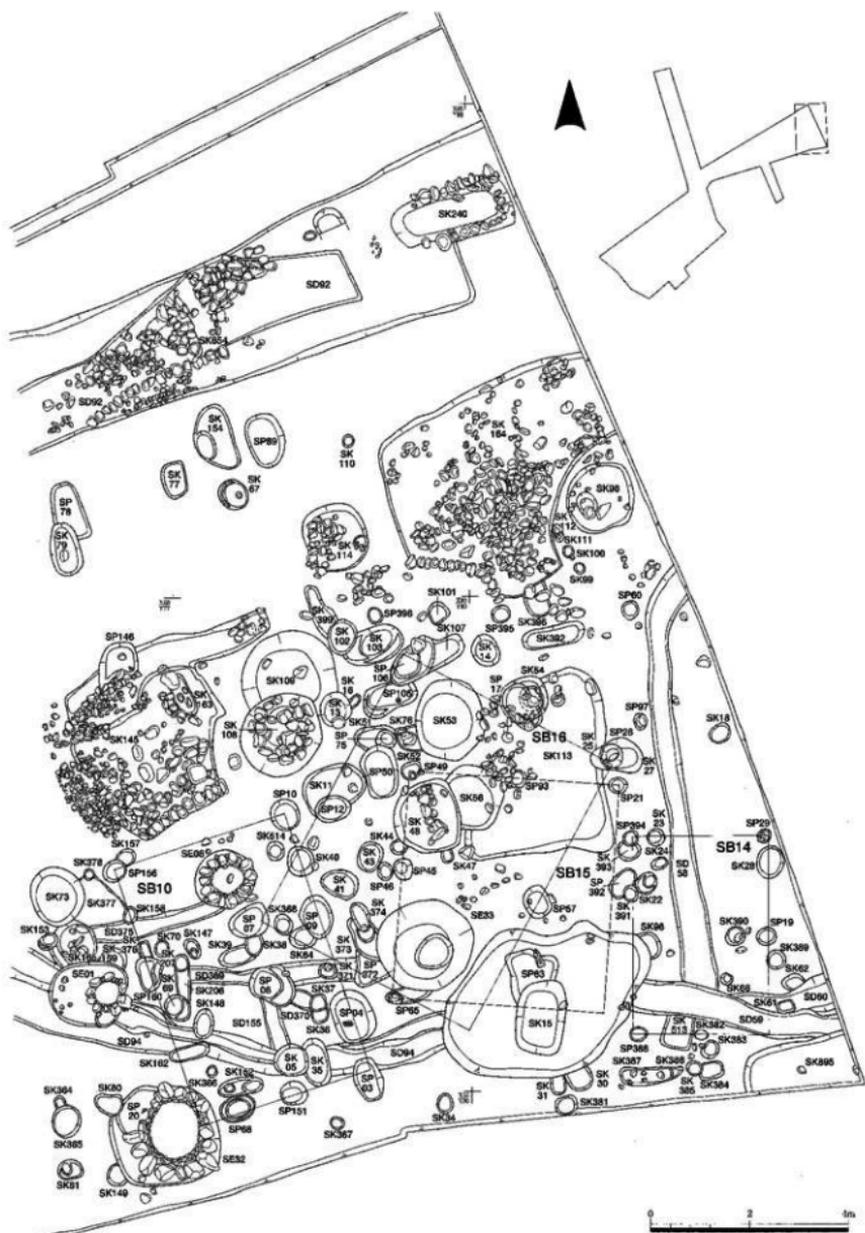


第50図 遺構実測図

SE01 SE08 SE22 SE301



第51図 遺構実測図(近世)



第52図 遺構実測図(近世)

285号土坑 (S K 285、第53図29)

短い胴部に1段ナデを施し、緩く外反する器形で、時期は14世紀後半～15世紀か。

299号土坑 (S K 299、第53図46～49、図版27・32)

46・47は仕上げ砥石で、丹波・山城産か。48・49は瀬戸美濃の卸皿で、15世紀後半以降。49はS D 1180からも破片が出土している。

300号土坑 (S K 300、第53図32)

直線的に広がるロクロ土師器の皿で、時期は15世紀後半。

302号土坑 (S K 302、第53図43・44・51、図版28)

43・44は、中世土師器で、緩く丸みを帯びて立ちあがり外反し、端部を外面に摘み出す。時期は15世紀後半。51は瓦質襦鉢で卸皿は6条、S D 567から同一個体の破片が出土した。

312号土坑 (S K 312、第53図50)

白色の中世土師器で、緩く丸みを帯びて立ちあがり外反し、端部を外面に摘み出す。時期は15世紀。

357号土坑 (S K 357、第54図53～56)

53は、緩く丸みを帯びて立ちあがり端部を丸くする物で14世紀～15世紀。54は、端部を外面に摘み出す物で煤が付着する。15世紀後半。56は釘。

383号土坑 (S K 383、第54図57・58、図版21.39)

57は1段ナデで深めの碗状の土師器で、内面上部に煤が付着する。時期は14世紀か。

387号土坑 (S K 387、第54図66、図版39)

66は鋳造品と考えられる鋸か鋸の刃先で、刃先は1.5cmほど内側に曲がる。

400号土坑 (S K 400、第54図67、図版39)

67は小刀の柄の部分と考えられ、5mmほどの目釘穴が1カ所みられる。

402号土坑 (S K 402、第54図68)

68は釘で先端と頭部が欠損している。

403号土坑 (S K 403、第54図56)

56は緩く丸みを帯びて立ちあがり端部を外側に摘み上げる土師器で15世紀。

415号土坑 (S K 415、第54図60)

60は端部を外側に摘み上げる土師器で15世紀。

417号土坑 (S K 417、第54図73、図版39)

73は長さ12.5cm、断面方形の棒状製品で、先端が細くなる。火箸か。

438号土坑 (S K 438、第54図74～79、図版31・34)

遺物には74・77のバンドコ、中世土師器75、硯76、釘78、石臼79がある。土師器75は緩く丸みを帯びて立ちあがり端部を外側に摘み上げる。硯は側縁がはがれた硯尻の部分で、使用痕が残る。79は上臼で、すり目は8分割で、外面の所々に煤が付着している。

450号土坑 (S K 450、第54図61)

61は胴部が肥厚し、口縁端部に狭い1段ナデを施し摘み上げる土師器で、14世紀後半～15世紀。

456号土坑 (S K 456、第54図64、図版33)

64は泥岩で作られたバンドコの一部で、大半はこの材質を使用している。在地産。

483号土坑 (S K 483、第54図58、図版39)

58は小型の鉄滓で、鍛冶滓。

484号土坑 (S K 484、第54図70、図版39)

70は太さ5mmほどの角釘で、中央で「く」の字状に曲がっている。

488号土坑 (S K 488、第54図62、図版21)

62は口縁部が肥厚し、口縁端部に狭い1段ナデを施し積み上げる土師器で15世紀後半。

504・505号土坑 (S K 504・505、第54図63、図版22)

63は62同様の作りの土師器で、内外面に煤が幅3.5cmで帯状に付着する。15世紀後半。

509号土坑 (S K 509、第54図71・72、図版30)

71はくすんだ釉がかかる龍泉窯系の青磁碗。72は銅製の小柄の柄部分。

S K 357・410・417・575・582・982、S E 482、S D 460・463・519・547・567・574・600・605・606号土坑 (S K 606外、第54図65)

65は八尾の大甕で、外面は板状の工具で掻き上げ、内面は粘土をねじ立てた手の痕が残り、口縁部はナデで仕上げる。また、この破片は広い範囲に散らばっている。時期は、14世紀前半だが長く使用されたようである。

513号土坑 (S K 513、第55図80・81、図版22)

80は丸みを帯びた底部から緩く立ち上がり、口縁部が小さく折れ1段ナデで仕上げる。14世紀～15世紀。81は口縁端部に狭い1段ナデを施し積み上げる土師器で15世紀。

540号土坑 (S K 540、第55図82)

82は口縁部が肥厚し、口縁端部に狭い1段ナデを施し積み上げる土師器で15世紀後半。

546号土坑 (S K 546、第55図85・86、図版17・20)

85はロクロ土師器で、底部から緩く外反し口縁を丸く仕上げる。底部糸切りで15世紀後半～16世紀。

86は幅1cm、長さ6cm、厚さ5mmで両端を欠損する釘状の鉄製品。

542号土坑 (S K 542、第55図89、図版33)

89は泥岩製のバンドコの一部で、内面に火を受けた跡がある。

555号土坑 (S K 555、第55図90・91)

90は口縁端部に狭い1段ナデを施し外側に積み出す土師器。91はロクロ土師器の皿で、時期は両者とも15世紀後半～16世紀初め。

561号土坑 (S K 561、第55図98、図版25)

98は珠洲片口鉢で、口縁部はやや広く伸び、卸目は荒く散漫で一単位9条。時期は15世紀。

561号土坑 (S K 561、第55図99)

99は口縁部に1段ナデを施し外側に積み出す土師器。時期は15世紀後半～16世紀初め。

580号土坑 (S K 580、第55図88)

88は頭部を内側に曲げられた釘で、先端を欠損する。

603号土坑 (S K 603、第55図100・107)

100は緩く丸みを帯びて立ちあがり端部を積み上げる土師器で15世紀、107はロクロ土師器で口縁に油炎が付く。

620号土坑 (S K 620、第55図97・110、図版33)

いずれもバンドコの一部で同一個体である。110は内面が良く焦げている。

654号土坑 (S K 654、第55図101)

101は緩く丸みを帯びて立ちあがり端部を積み上げる土師器で15世紀。

669号土坑 (S K669、第55図106)

106は編連弁の文様をもつ龍泉窯の青磁。

672号土坑 (S K672、第55図102)

荒い卸目が付けられる珠洲鉢で、14世紀後半の物。

673号土坑 (S K673、第55図103)

103は口縁部に1段ナデを施し外側に摘み出す。時期は15世紀後半～16世紀初め。

681号土坑 (S K681、第55図104)

104は緩く丸みを帯びて立ちあがり端部を摘み上げる。器壁は厚い。15世紀末～16世紀前半。

695号土坑 (S K695、第55図105、図版22)

105は緩く丸みを帯びて立ちあがり外反し、端部を外側に摘み出す。時期は16世紀前後半。

748号土坑 (S K748、第55図87、図版39)

87は長さ7.8cmの毛抜きで先端がやや幅広となる。

755号土坑 (S K755、第55図95)

95は曲がった舟釘状の鉄製品。

756号土坑 (S K756、第55図108)

珠洲播鉢の胴部で荒い卸目が付けられる。14世紀～15世紀か。

830号土坑 (S K830、第55図83・84・109・111、図版33)

83は八尾播鉢で、不定型な卸目が付けられる。84は珠洲胴部片で叩きは平行叩きに斜行線がはいる例で、S X896からも同じ叩きの珠洲が出土している。111は中砥で在地産。109は碗形鍛冶滓。

1107号土坑 (S K1107、第56図112・113)

112は緩く丸みを帯びて立ちあがり端部を摘み上げる。器壁は厚い。113はロクロ土師器底部で糸切り痕が残る。丁寧な作りである。時期は15世紀後半～16世紀。

1079号土坑 (S K1079、第56図114)

114は口縁部に1段ナデを施し外側に摘み出す。また油炎が付着する。時期は15世紀後半。

1111号土坑 (S K1111、第56図133)

133は口縁部に1段ナデを施し緩い括れを作り外側に摘み出す。時期は15世紀後半。

1116号土坑 (S K1116、第56図138)

138は口縁部が小さく開き、切り込みを入れ輪花とする白磁碗でⅡ類。

1118号土坑 (S K1118、第56図134)

134は緩く丸みを帯びて立ちあがり端部を摘み出す。口縁部には油炎がのこる。

1127号土坑 (S K1127、第56図135)

135は付け高台のロクロ土師器皿で、時期は15世紀後半。

1129号土坑 (S K1129、第56図136・137)

いずれも口縁部に1段ナデを施し外側に摘み出すもので、時期は15世紀後半。

1131号土坑 (S K1131、第56図144)

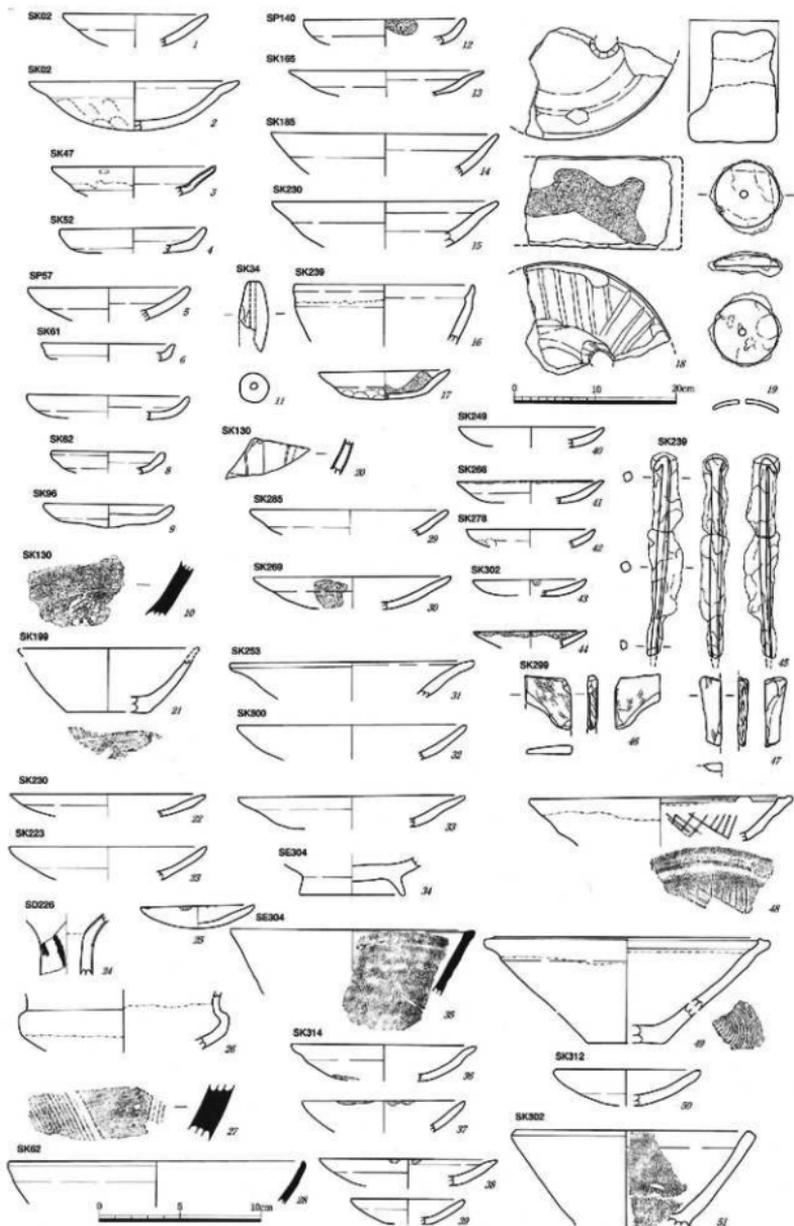
前者の136同様の作りで時期も同じである。

1136号土坑 (S K1136、第56図145)

145は緩く丸みを帯びて立ちあがり端部を摘み上げる。15世紀後半。

1141号土坑 (S K1141、第56図139、図版25)

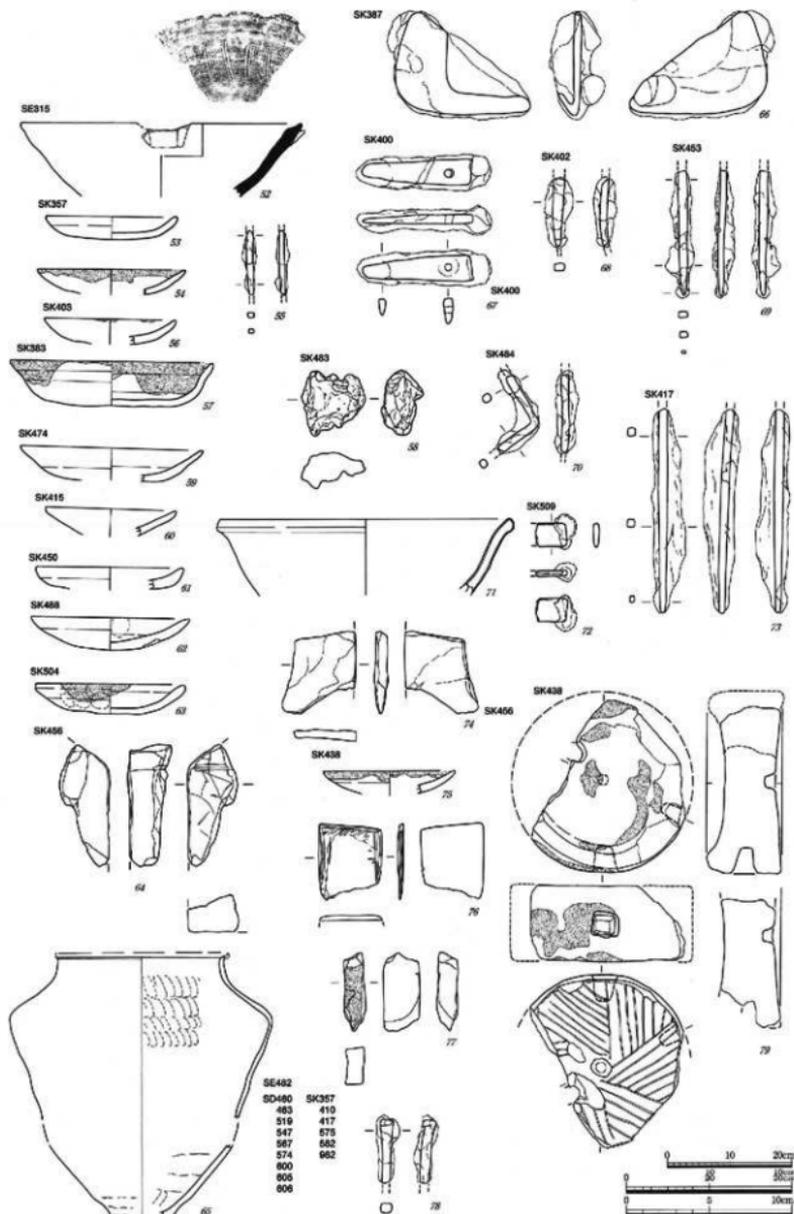
- 139は珠洲の播鉢で、口縁は外に伸びている。卸目は9条で良く使われ摩耗する。時期は15世紀。
- 1148号土坑（S K1148、第56図146・147）  
両者とも口縁部に1段ナデを施し、緩い括れを作り外側に摘み出す。時期は15世紀後半。
- 1149号土坑（S K1149、第56図140～142、図版23）  
140は珠洲の壺で外面にヘラ記号、内面には縦に数条の沈線が引かれる。14世紀。141は播鉢で、口縁が伸びている。卸目は9条。142は口縁部に1段ナデを施し、外側に摘み出す。時期は15世紀後半。
- 1183号土坑（S K1183、第56図148・154、図版18）  
148は口縁部に1段ナデを施し、緩い括れを作り外側に摘み出す大きい中世土師器。時期は15世紀後半。154は珠洲播鉢で荒く卸目が施される。14世紀頃のものか。
- 1194号土坑（S K1194、第56図143、図版26）  
143は八尾播鉢で、外面は板状工具でナデ仕上げる。内面の卸目は曲線的である。14世紀～15世紀。
- 1249号土坑（S K1249、第56図149）  
149は瓦質のバンドコの一部である。
- 1295号土坑（S K1295、第56図150～153）  
いずれも中世土師器で150は口縁部に1段ナデを施し、外側に摘み出す。152は緩い括れを作り外側に摘み出す。153はロクロ土師器。時期は15世紀後半～16世紀初め。
- 1349号土坑（S K1349、第56図115・117～132、図版20・27・30・32）  
115・117・118は緩く丸みを帯びて立ちあがり端部を摘み出す。15世紀後半の土師器。119は厚い作りの土師器で丸みを帯びて立ち上がり端部を摘み上げるようにして丸く仕上げる。15世紀。120は口縁部に1段ナデを施し、外側に摘み出す物で、15世紀後半～16世紀。123は瀬戸の天目茶碗、125は折縁黒。124は白磁皿で焼きが甘い。126・127は龍泉窯の青磁で、127は内面に花文の型押しが施される。130は珠洲播鉢で口縁部が外に伸びている。破片はS K1018・1183などからも出土している。
- 128・129は仕上砥で、産地は丹波・山城産。131・132は鉄製品で132は釘。131は長さ6cm、断面方形の鉄製品で用途不明。
- 1351号土坑（S K1351、第57図155）  
155はロクロ土師器で高台が付くかもしれない。時期は15世紀後半～16世紀初め。
- 1352号土坑（S K1352、第57図156・157）  
2点とも古代の内黒土器碗で、157は内面を丁寧にヘラミガキする。
- 1361号土坑（S K1361、第57図159～162、図版21・27）  
159は丸みを帯びて立ち上がり端部を摘み上げるようにして丸く仕上げる。160は口縁部に1段ナデを施し括れを作り外側に摘み出す。時期は15世紀後半～16世紀。161は瀬戸の丸胴の壺で、灰釉がかかる。162は珠洲播鉢の底部で内面には密に卸目が付けられる。
- 1149号土坑（S K1149、第57図166）  
166は釘で先端部が折れている。
- 1196号土坑（S K1196、第57図165）  
直径3cm、幅4mmの刃物の口金具。
- 1115号土坑（S K1115、第57図168）  
長さ6cm、断面7mmの方形の鉄製品で、両端を欠損する。用途不明。
- 1295号土坑（S K1295、第57図167、図版39）



第53図 遺物実測図 (1) (18・28・35・51 1/6) (1~17・19~34・36~50 1/3)

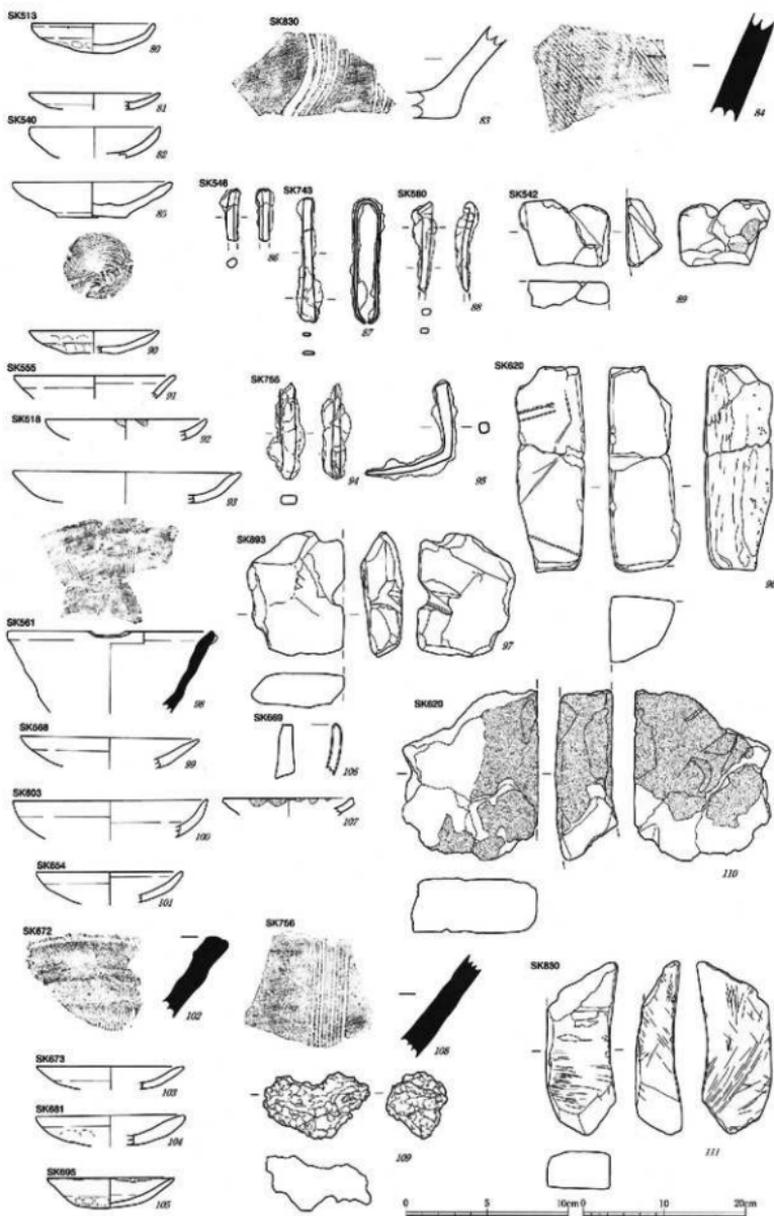
SK02 (1・2) SK34 (11) SK47 (3) SK32 (4) SP57 (5) SK61 (6・7) SK62 (8・28) SK96 (9) SK130 (10・20) SP140 (12)  
SK185 (13) SK185 (14) SK199 (21) SK223 (23) SK226 (24・27) SK230 (15・22) SK239 (16~19・45) SP249 (40)

SK253 (31) SK266 (41) SK269 (30) SK278 (42) SK285 (29) SK299 (46~49) SK300 (32・33) SK302 (43・44・45)  
SE304 (34・35) SK312 (50) SK314 (36~39)



第54図 遺物実測図 (2) (53~64・66~78 1/3) (52 1/6) (79 1/8) (65 1/12)

SE315 (52) SK357 (53~55) SK383 (57) SK387 (66) SK400 (67) SK402 (68) SK403 (56) SK415 (60)  
 SK417 (73) SK438 (75~79) SK450 (61) SK453 (69) SK456 (64・74) SK474 (59) SK483 (58) SK484 (70)  
 SK488 (62) SK504・505 (63) SK509 (71・72) SB482 SD460 SD463 SD519 SD547 SD574 SD600  
 SD605 SD606 SK357 SK410 SK417 SK575 SK582 SK982 他包含層 (65)



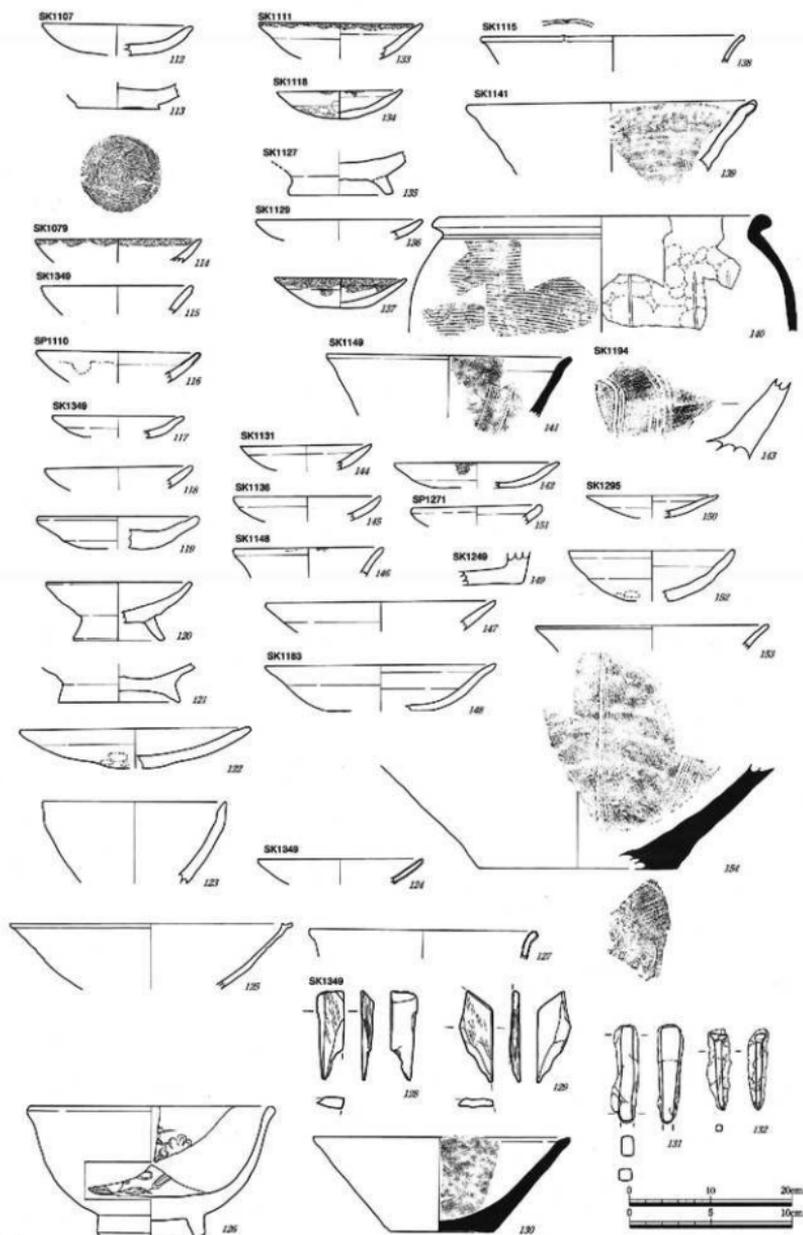
第55図 遺物実測図(3) (80~97・99~111 1/3) (98 1/6)

SK513 (80-81) SP518 (92-93) SK540 (82) SK542 (89) SK546 (85-86) SK555 (90-91) SK561 (98)

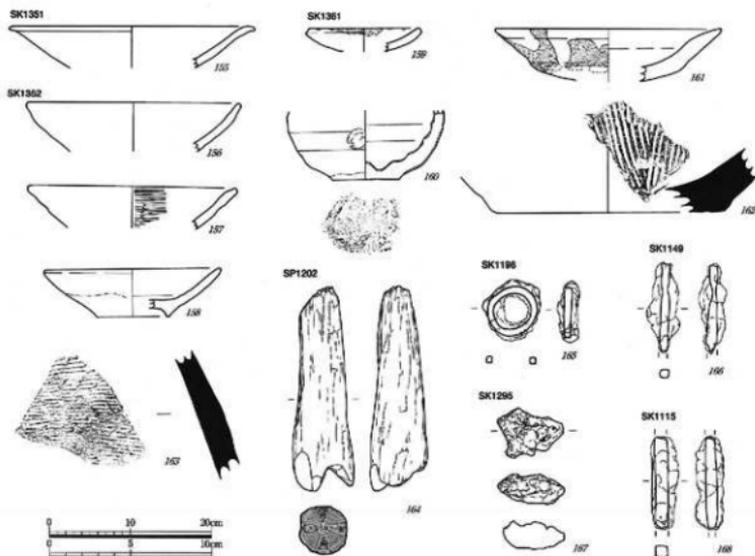
SK568 (99) SK580 (88) SK603 (100-107) SK620 (96-110) SK651 (101) SK669 (106) SK672 (102)

86 SK673 (103) SK681 (104) SK695 (105) SK743 (87) SK755 (94-95) SK756 (108)

SK830 (83-84-109-111) SK893 (97)



第56図 遺物実測図 (4) (130・139~141 1/6) (112~129・131~138・142~154 1/3)  
 SK1107(112・113) SK1079(114) SP1110(116) SK1111(133) SK1115(138) SK1118(134) SK1127(135)  
 SK1129(136・137) SK1131(144) SK1136(145) SK1141(139) SK1148(146・147) SK1149(140~142)  
 SK1183(148・154) SK1194(143) SK1249(149) SP1271(151) SK1295(150~153) SK1349(115・117~132)



第57図 遺物実測図 (5) (155~163・165~168 1/3) (164 1/6)

SK1115 (168) SK1149 (166) SK1196 (165) SP1202 (164) SK1295 (167) SK1351 (155) SK1352 (156・157)  
SK1361 (159・161・162) SX896 (158・163) 包含層 (160)

168は長さ4cm、厚さ1.8cmの碗形鍛冶滓。

896号石積 (S X 896、第57図158・163、図版36)

158は石積遺構の上層で見つかった越中瀬戸皿で、内面に印花文と軸止めの段をもつ。時代は17世紀頃。163は珠洲甕の胴部片で、平行叩きに斜行文が入る例でS K 830をはじめ包含層からも数点出土している。

### 井戸

32号井戸 (S E 32、第58・59図169~203、図版32・40)

遺物には中世土師器・御・箸・砥石・折敷・漆器・板材・棒材などがある。169は丸みを帯びて立ち上がり端部を揃み上げるように丸く仕上げる。170は1段ナデで、丸い底部から開き口縁を作る。171は立ち気味に開き、底部付近までナデる。時代は14世紀後半。172は在地産の中砥。173・174は絵黒漆器碗の底部破片。175は御で、目は粗い。箸は断片が多く全ては示していないが、186・188・190の15cmの物と181・182の20cmの2種類がある。196は折敷の底板で、目釘跡や切り傷が残る。まな板への転用か。197は漆塗りの入隅足付折敷で、丁寧に面取りされ、縁の高さは3mmほどである。表面は2カ所に足を貼り付けた痕跡が残る。118は直径4cm、長さ75cmの加工された棒で、片方に切り込みを入れている。何かの柄だろうか。その他に板材、加工痕のある木材がみられる。

304号井戸 (S E 304、第53・59図33~35・204~211、図版25・44)

33は口縁部に1段ナデを施し、緩い括れを作り外側に揃み出す。34は高台付のロクロ土師器。時期は15世紀後半~16世紀。35は珠洲播鉢で卸目が付けられる。14世紀。204~207・210・211は箸で、

15cm～18cmである。208は加工木。209は棒状品で用途不明。

315号井戸（S E 315、第60図212～224、図版16・27・30・39・44）

219・221～226は丸みを帯びて立ち上がり端部を摘み上げるように仕上げる。やや括れをもつ225や口縁が肥厚してから立つ219・222・226、端部を外へ摘み出す220・221、直線的に開き端部を丸くする226がある。時期は15世紀から16世紀。223は瀬戸緑釉小皿。224は珠洲摺鉢底部。215は雷文が付けられた青磁。216・217は釘か。218は長さ9.6cmの毛抜き。

482号井戸（S E 482、第60図229～232、図版44）

321は小型のロクロ土師器で、底部糸切り。時期は15世紀後半から16世紀。322は龍泉窯の青磁で、草花文の押印が付けられる。229は泥岩製のバンドコ。230は五輪塔火輪の頂部を打ち欠いたもの。

411号井戸（S E 411、第60図233、図版43）

233は総黒漆の漆器碗で、内面に赤色漆で文様が描かれる。

675号井戸（S E 675、第60図228）

228は釘で長さ4.5cmで頭の部分が曲げられている。また端部が曲がる。

205号井戸（S E 205、第60・61図234～236・240～253、図版41・42）

226は珠洲甕の胴部片で14世紀頃。224は差歯下駄で台裏に溝を切り歯をはめ込む。台には歯を挿入する穴が2個並ぶ。225は版木の一部と思われ、彫刻刀の痕がびっしりと残る。意匠は不明。240は水溜に使われていた曲物。241・244・248・249は井戸枠の横木で、柱の臍穴に挿すため両端は削られている。243～247は井戸の縦板で全て図示していないが板日取りが多い。250～253は隅柱で交互に臍穴が穿たれる。

309号井戸（S E 309、第60図239、図版18）

239はロクロ土師器で、時期は15世紀後半から16世紀。

1265号井戸（S E 1265、第60図239、図版43）

木組井戸の井戸枠で柱（254～256）が3本、横木が3本（257～259）が残る。柱は、横木を挿すため横から同じ位置で穿たれ、中でつながっている。横木は臍穴に差し込むために両端が削られている。

## 溝

58号溝（S D 58、第62図260～262）

両者とも丸みを帯びて小さく立ち上がり端部を丸く作る土師器で、14世紀後半。262は珠洲鉢。

59号溝（S D 59、第62図263、図版24）

263は小型の珠洲鉢で、口縁部に強いナデを施す。卸日は付けられない。13世紀頃か。

94号溝（S D 94、第62図265・266、図版24）

265は中世土師器で1段ナデで口縁端部を丸く作る。14世紀頃か。266は珠洲摺鉢で、口縁が角張る。

161号溝（S D 161、第62図277～279、図版29）

277は染付で、宝草華唐草文が描かれる。278は同安窯系の青磁。279は釘。

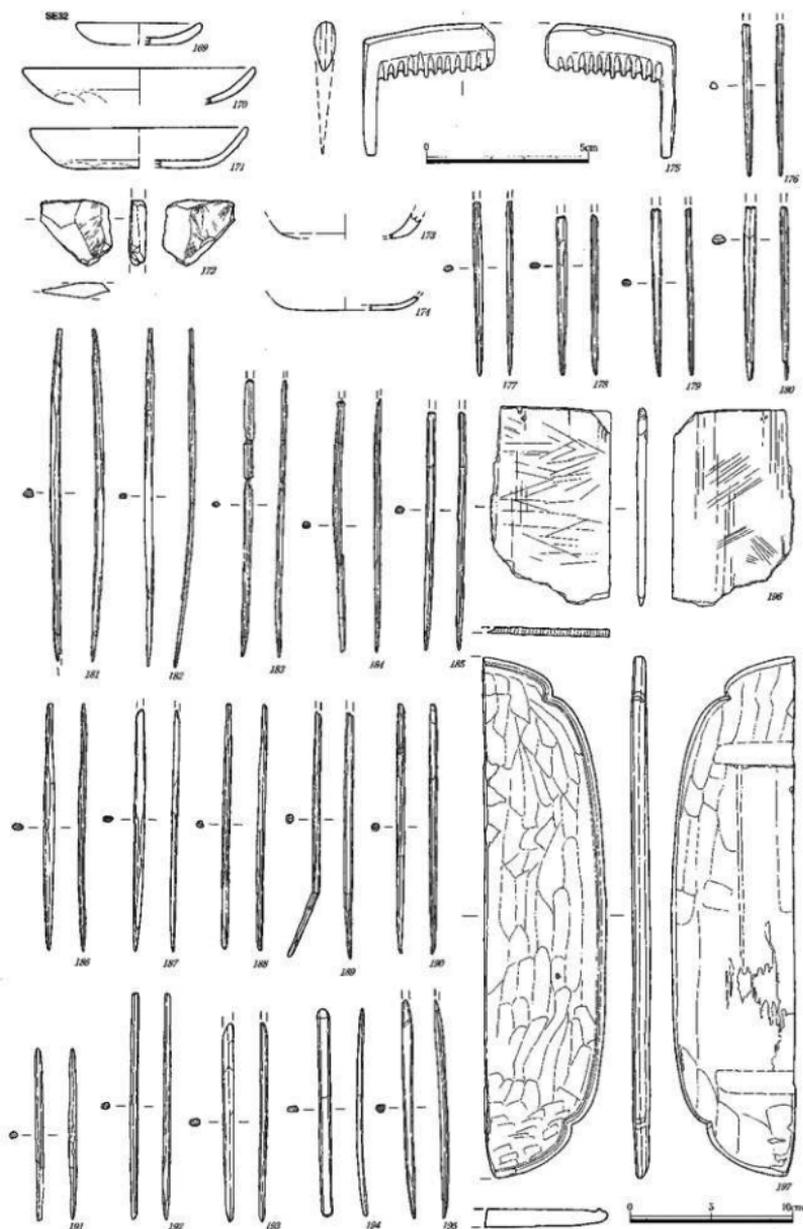
195号溝（S D 195、第62図292）

292は龍泉窯の青磁で鎗葉連弁が描かれている。

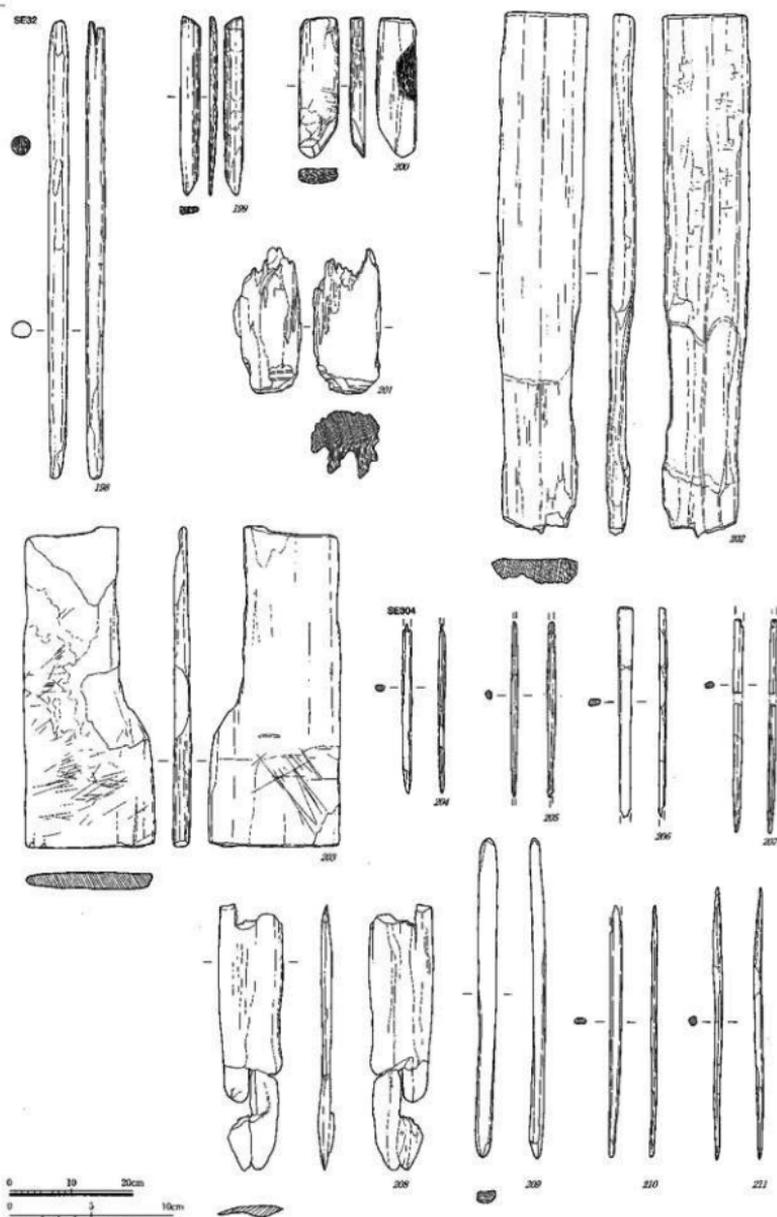
226号溝（S D 226、第62図267～271）

268・270はロクロ土師器で、丸みを帯びて立ち上がる268と直線的に開く例がある。267は口縁部に1段ナデを施し、外側に摘み出す。271は八尾の中型広口壺の口縁。

460号溝（S D 460、第62図280～291、図版30・32）

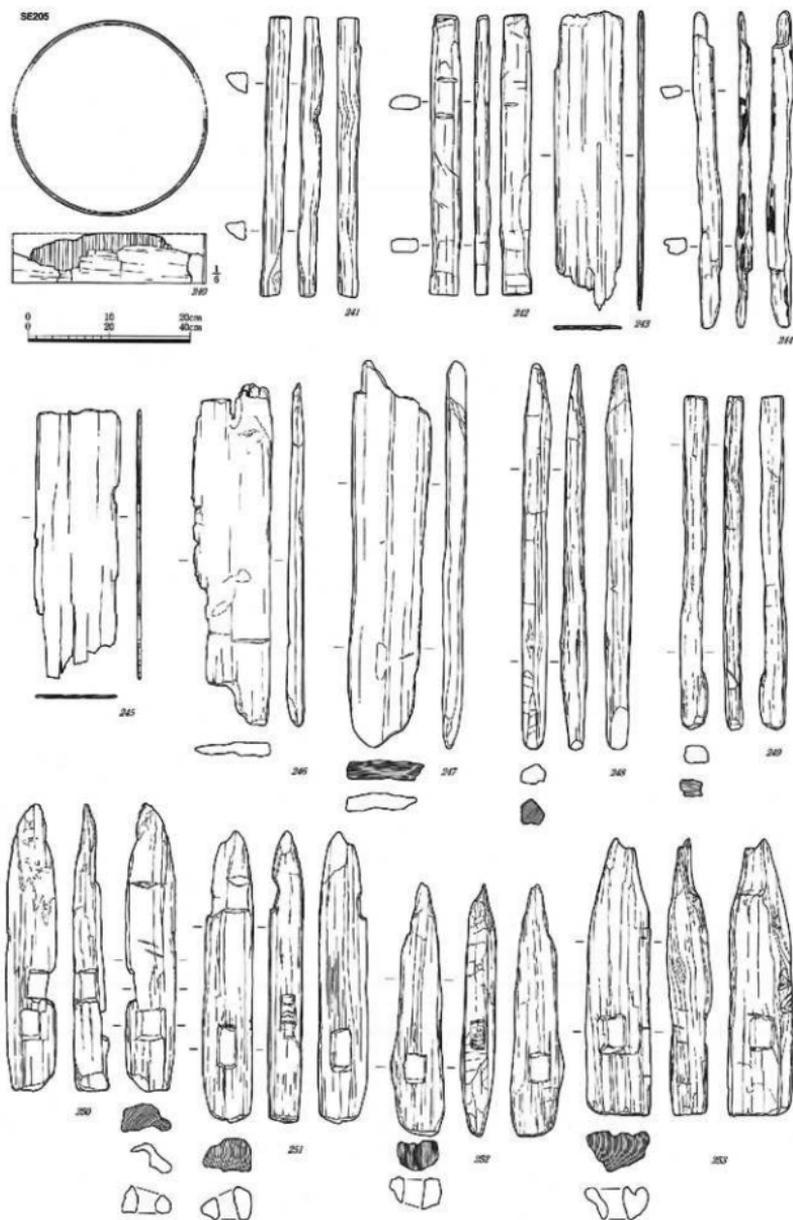


第58図 遺物実測図 (6) (169~174 · 176~197 1/3) (168 2/3)  
SE32 (169~197)

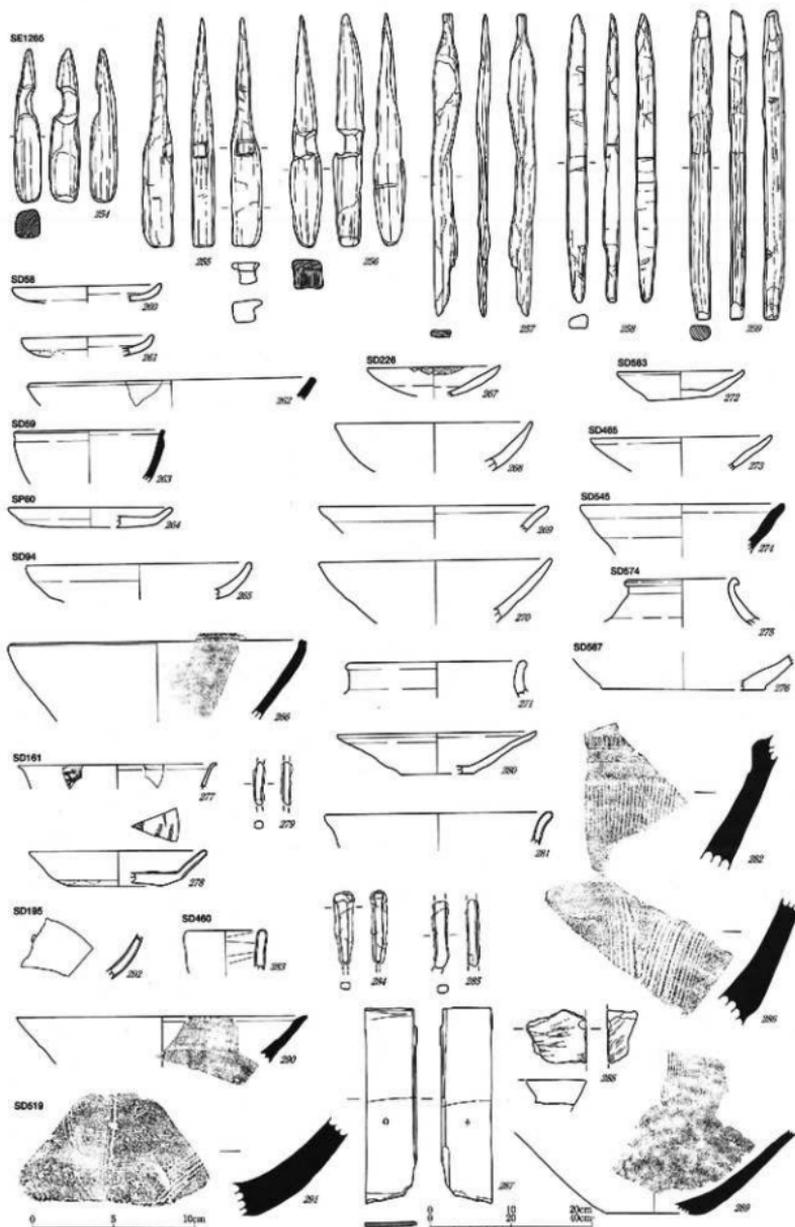


第59図 遺物実測図 (7) (204~211 1/3) (198~203 1/8)  
SE32 (198~203) SE304 (204~211)



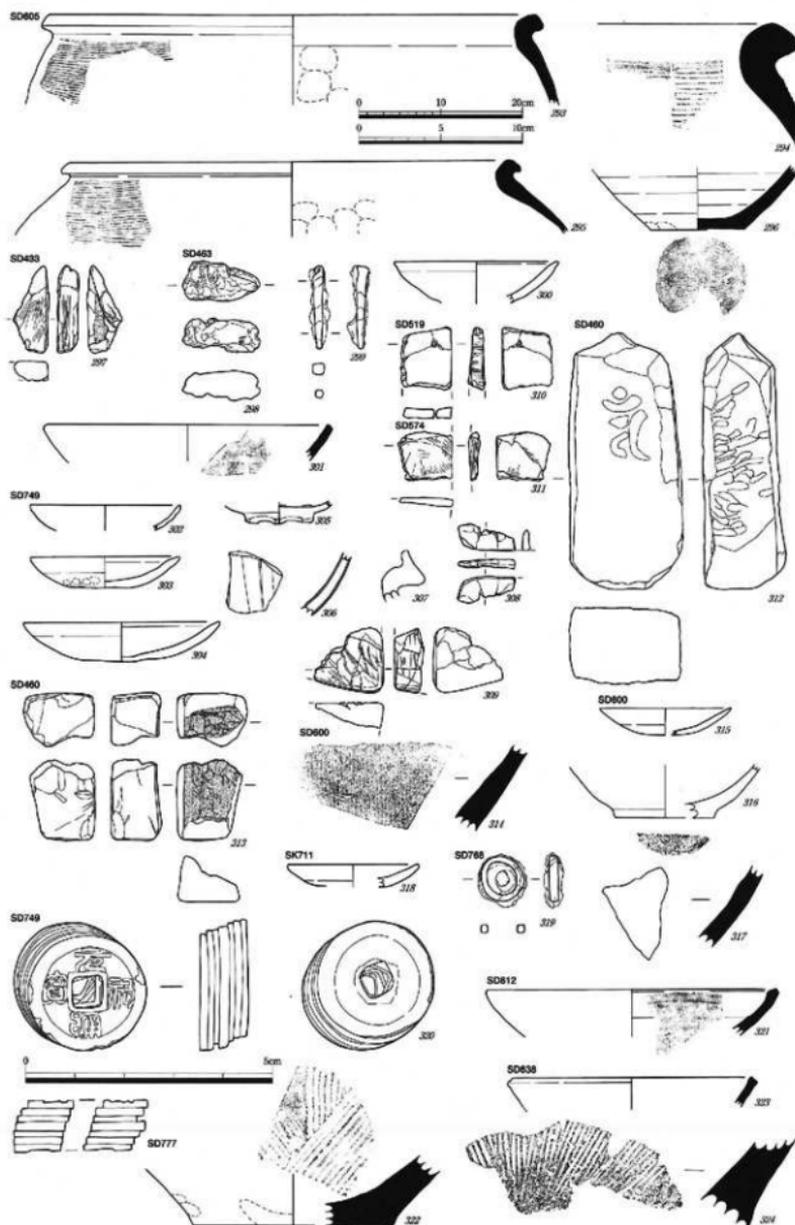


第61図 遺物実測図 (9) (240 1/6) (241~253 1/12)  
SE205 (240~253)



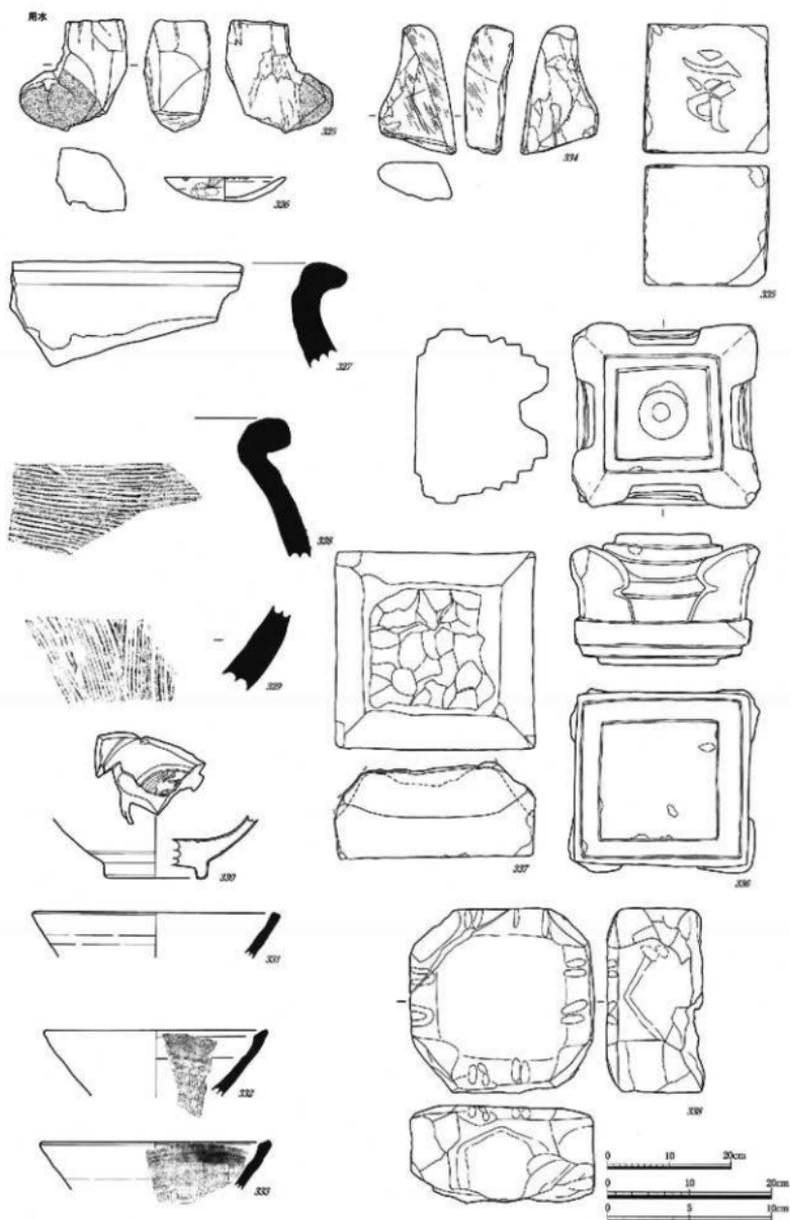
第62図 遺物実測図 (10) (260・261・264・265・267~273・275・277~288・291 1/3)  
(262・263・266・274・276・289・290 1/6) (254~559 1/12)

SD58 (260~262) SD59 (263) SP60 (264) SD94 (265-266) SD161 (277~279) SD226 (267~271) SD460 (280~290)  
SD465 (273) SD519 (291) SD567 (276) SD574 (275) SD583 (272) SD590 (274) SE1265 (254~259)

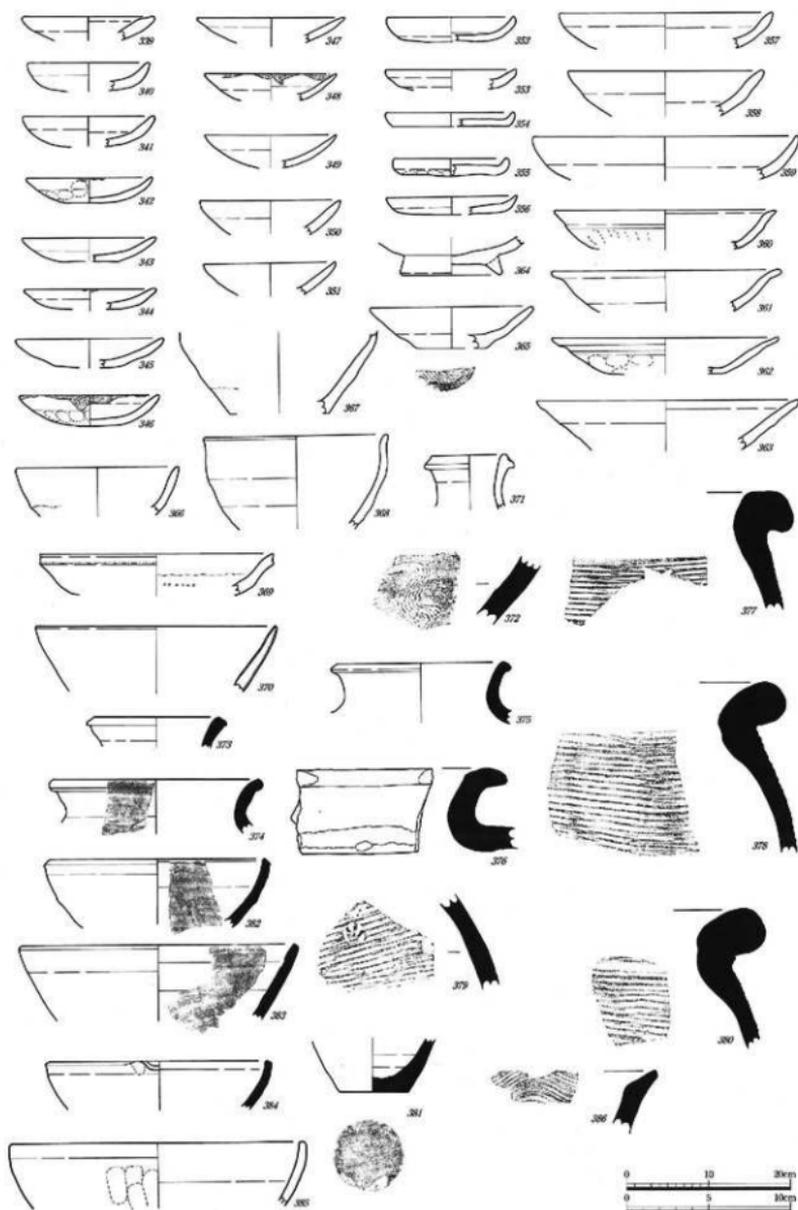


第63図 遺物実測図 (11) (293~295・298~300・302~308・310・311・314~320・322・324 1/3)  
(296・297・301・303・309・321・323 1/6) (312 1/8)

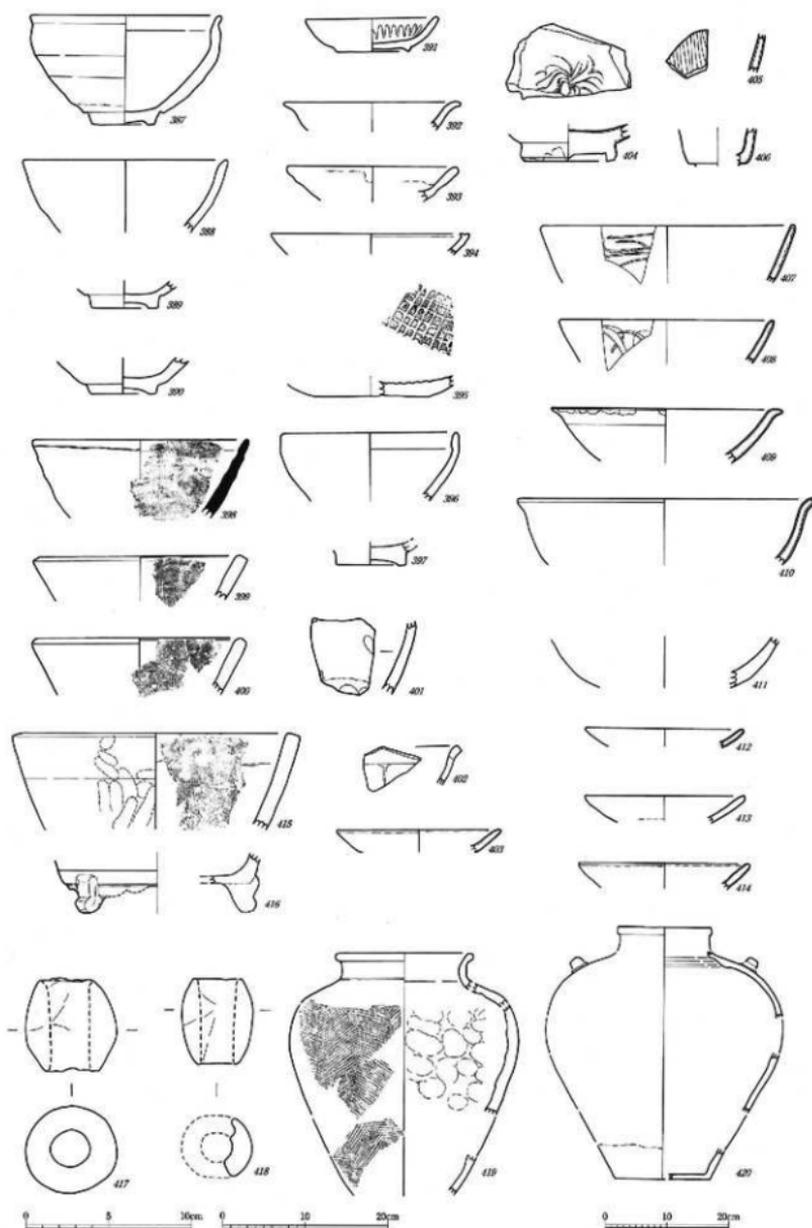
SD433 (297) SD460 (312・313) SD463 (298~301) SD519 (310) SD574 (311) SD600 (314~317)  
SD605 (294~296) SD606 (293) SD638 (323) SD711 (318) SD749 (302~309・320) SD768 (319)  
SD777 (322・324) SD812 (321)



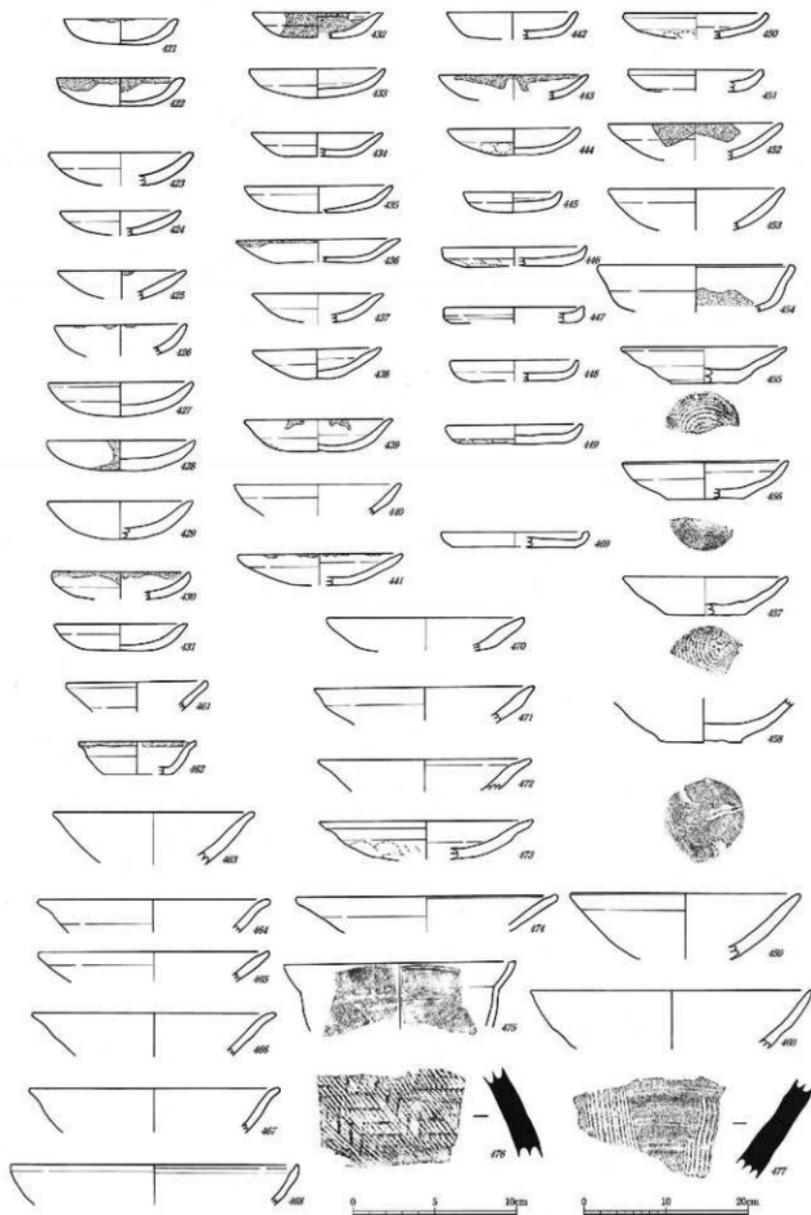
第64図 遺物実測図 (12) (326~330 1/3) (331~336 1/6) (337·338 1/8)  
用水



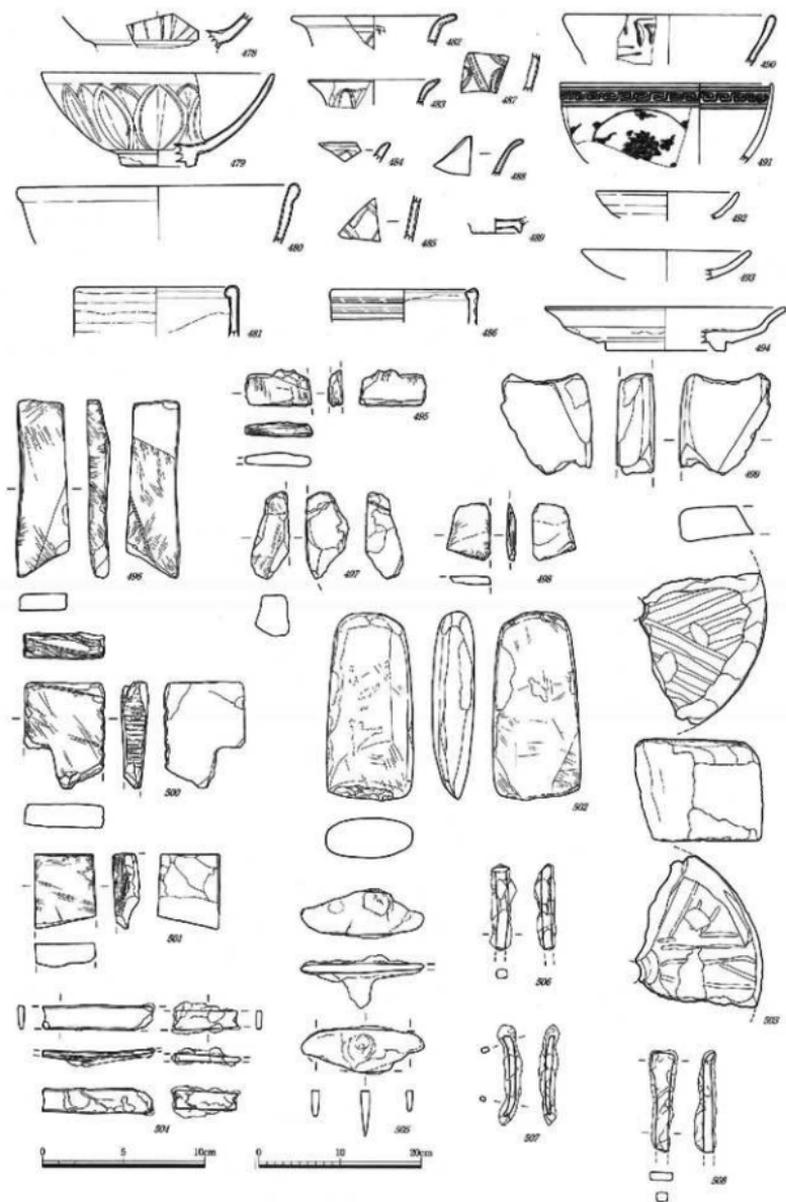
第65図 遺物実測図 (13) (339~372・375~380・386 1/3) (373・374・381~385 1/6)  
 包含層、表採 (366)



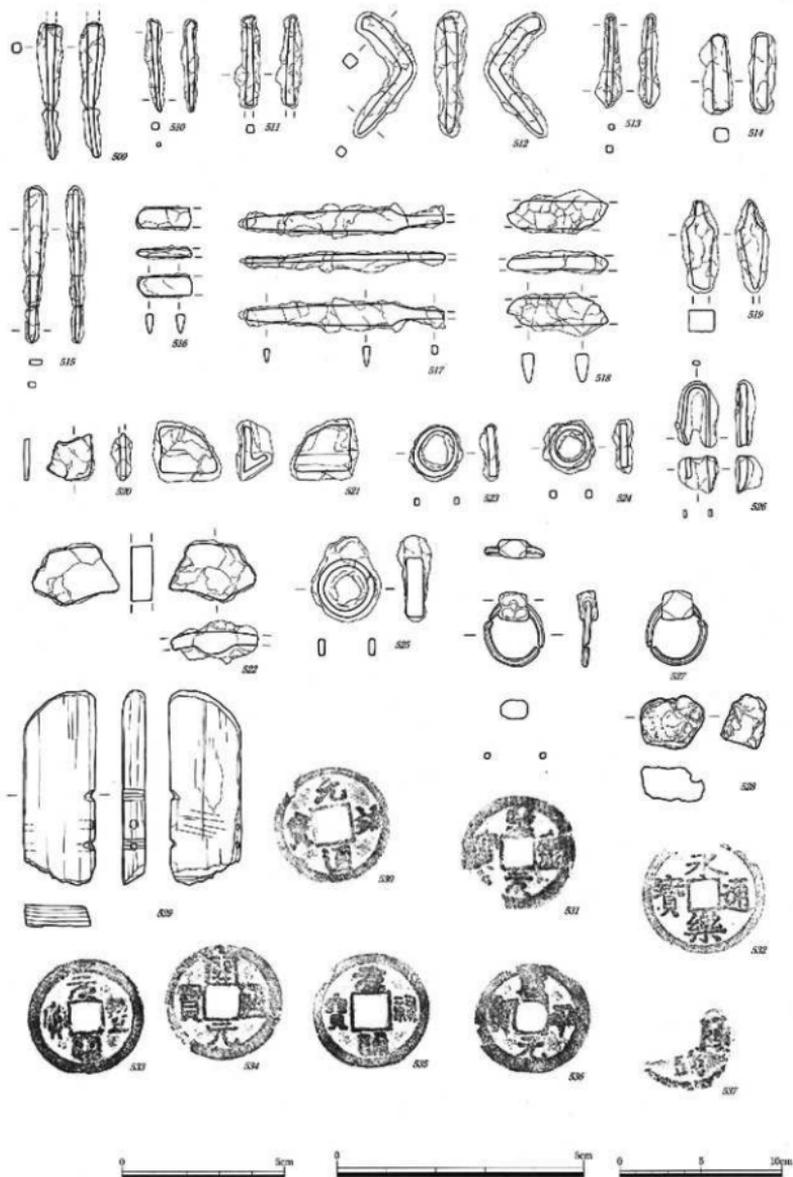
第66図 遺物実測図 (14) (387~397・401~414・418 1/3)  
 (398~400・415・416・417・419 1/6) (420 1/8)



第67図 遺物実測図 (15) (421~474・476・477 1/3) (475 1/6)  
包含層



第68図 遺物実測図 (16) (478~502・504~508 1/3) (503 1/6)  
包含層 表採 (494)



第69図 遺物実測図 (17) (530~537 1/1) (509~526・528・529 1/3) (527 2/3)  
SD749 (530) SK197 (531) 包含層



第70図 遺物実測図 (18) (541~543・545 1/3) (538・539・540・544 1/6)  
包含層

280はロクロ土師器で底部糸切り。281・283は龍泉窯系の青磁で、281は碗、283は花瓶。282・286・289・290・291は珠洲擂鉢で、時期は15世紀。284・285は釘。280は板材で、目釘穴があげられている。

465号溝 (S D 465、第62図273)

273はロクロ土師器で、底部から直線的に開く。

583号溝 (S D 583、第62図272、図版20)

小型のロクロ土師器で、底部は糸切りの後ナデ、糸切り痕を消している。

545号溝 (S D 545、第62図274)

274は珠洲擂鉢で口縁が外に伸びている。15世紀。

574号溝 (S D 574、第62図275)

275は、八尾小型壺の口縁で、端部は外側に折られる。

567号溝 (S D 567、第62図276、図版26)

276は、八尾鉢の底部で卸目は付けられない。

605号溝 (S D 605、第63図293~296、図版24)

293~295は珠洲壺の口縁部で、14世紀~15世紀にかけての遺物。296は珠洲鉢底部で、静止糸切り。

433号溝 (S D 433、第63図297、図版33)

297は泥岩製のバンドコで、一部焦げている。

463号溝 (S D 463、第63図298~301、図版24)

300は中世土師器。丸みを帯びた胴部で、口縁端部を小さく摘み出す。16世紀か。298は鉄滓。299

は釘。301は珠洲播鉢で散漫な卸目を施す。13世紀。

519号溝 (S D519、第63図310、図版32)

310は3cm×4cm、厚さ5mmの在地产砥石。

574号溝 (S D574、第63図311、図版32)

311は3cm角の仕上砥石で、丹波・山城産。

460号溝 (S D460、第63図312・313、図版31・33)

312は安山岩製の板塔婆で、表に「バーン」と彫られる。基部は自然面を残す。313は泥岩製のバンドコの底部分。内面は良く焼けている。

600号溝 (S D600、第63図314~317)

315は中世土師器で口縁端部を外へ積み出す。16世紀。316はロクロ土師器で底部回転糸切り。

314・317は珠洲播鉢で、良く使い込まれて卸目が磨り減っている。

638号溝 (S D638、第63図323)

321は珠洲鉢で口縁は角張、作られている。時期は14世紀。

711号溝 (S D711、第63図318)

318は中世土師器で丸みを帯びた胴部で、口縁端部を丸く仕上げる。15世紀。

749号溝 (S D749、第63図302~309・320、図版17・26・29・30・33・38)

302は白磁皿で焼きは良い。305は軟質の白磁で高台に4カ所抉りを入れ、内面に重ね焼きの跡が残る。306は龍泉窯系の青磁で、鎮蓮弁文が施される。303・304は中世土師器で、丸みを帯びた胴部で、口縁端部を外へ積み出す。307は八尾壺の口縁部。308・309は泥岩製のバンドコ。320は銅鍍で7枚が付着している。最上部のものしか読みとれないが、元祐通宝(初鑄1086年)がある。

768号溝 (S D768、第63図319、図版38)

319は鉄製の口金具で、直径2.5cmである。

777号溝 (S D777、第63図322・324)

両者とも珠洲播鉢の底部で密に卸目が付けられる。724は良く使用されている。

812号溝 (S D812、第63図321、図版25)

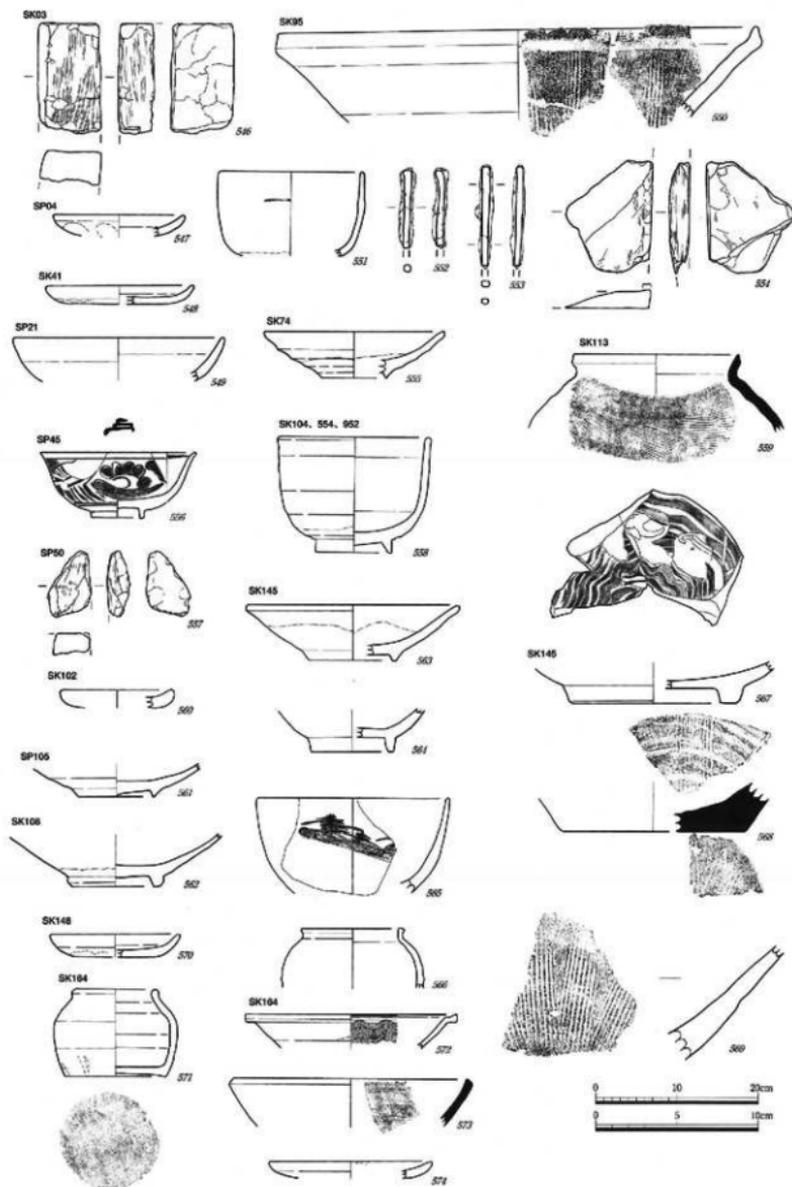
323は珠洲播鉢の口縁部で、卸目は13条である。14世紀頃のものか。

用水出土の遺物(第64図325~338、図版24・30・32・33・35)

325は泥岩製のバンドコ。326は中世土師器で口縁端部を外へ積み出す。327・328は珠洲鉢の口縁部で、327が13世紀、328が14世紀。329・301~303は珠洲播鉢で13世紀~14世紀。319は龍泉窯系の青磁で内底面に草花文の印刻。334は在地の中砥石。335・336は同一個体の宝篋印塔の笠と塔心部分で塔心には「バーン」と梵字が書かれる。337は五輪塔の火輪で頂部が打ち欠かされている。台石に転用されたかもしれない。338は灯籠か石像の基礎と考えられ、楕円間と反花が彫られている。

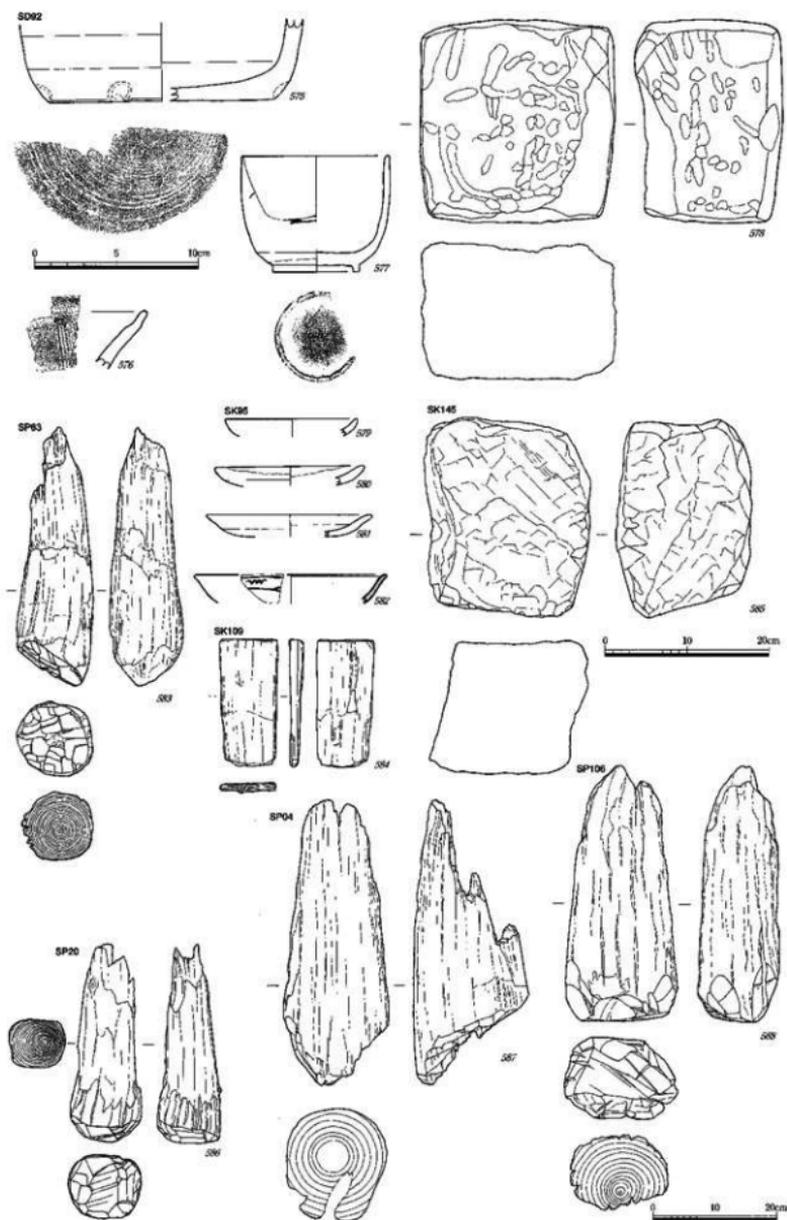
包含層の遺物(第65~70図、図版39)

遺物は339~336、427~474が中世土師器で、丸みを帯びた胴部で口縁端部を上へ積み上げ仕上げる339~342・429~433、口縁端部を外へ積み出す342~351・434~441・471、口縁が緩く外反し端部を丸くする352・353・442~444、コースター形の浅い例で緩く外へ開く354・356・448・449と直立的になる356・446・447がある。450・451は口縁端部に面取りを行う。時期は13世紀後半~14世紀。口縁に括れをもつものであまり開かない357・358・452・453と大きく外反する360~362・471~473がある。後者は16世紀前半。364・365・455~469はロクロ土師器で、直線的に開く461・455・457他や端



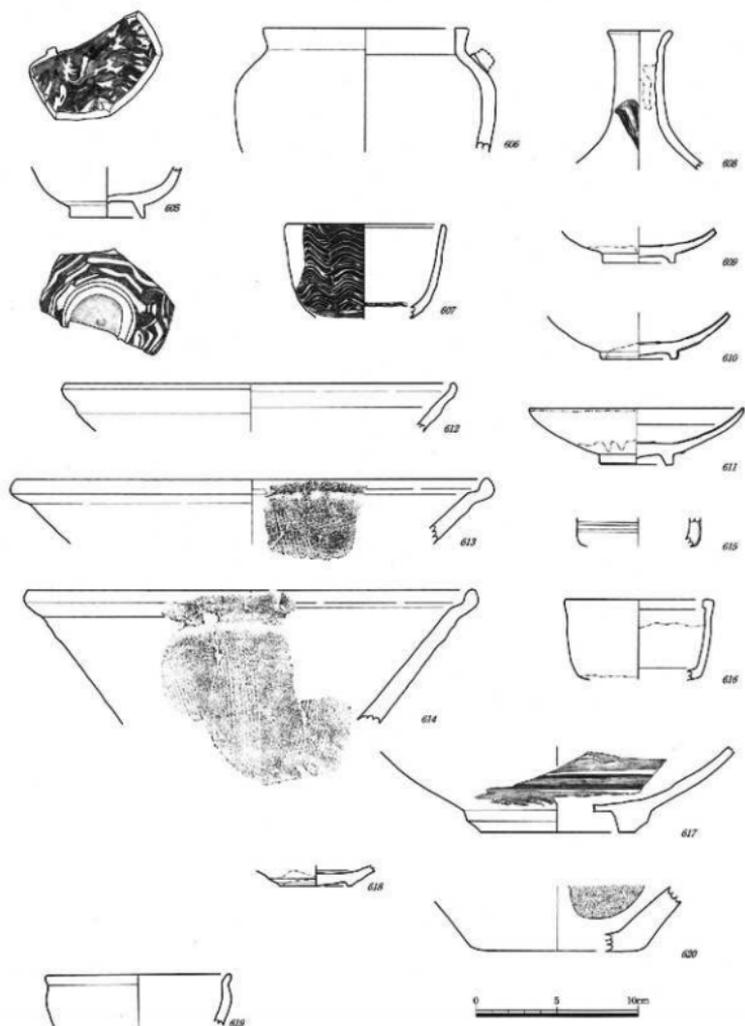
第71図 遺物実測図 (19) (546~558・560~565・567~570・572・574~569 1/3)  
(559・566・571・573 1/6)

104 SK03 (546) SP04 (547) SP21 (549) SK41 (548) SP45 (556) SP50 (557) SK95 (550~554) SK102 (560) SK104  
SK654 SK952 (558) SP105 (561) SK106 (562) SK145 (563~569) SK148 (570) SK164 (571~574) 包含層 (555)



第72図 遺物実測図 (20) (575~577・579~582 1/3) (578・584・585 1/6) (583・586~588 1/8)  
 SD92 (575~577) SK95 (578~582) SK109 (584) SK145 (585)  
 SB09-SP20 (586) SP63 (583) SP04 (587) SB16-SP106 (588)





第74図 遺物実測図 (22) (605~620 1/3)  
包含層

部が外反する466~467他がある。365・457は13世紀前半のもの。

367・368・387~390・397は瀬戸美濃の天目茶碗。346は丸碗。371は瓶子の口。368・394・395は卸皿。370は灰釉の平碗。391は鉄軸の丸皿。392は灰釉の端反皿。393は灰釉の内壳皿か。420は鉄軸の茶壺でS K 228・299・1149・1152・1183・1295・1361などから破片が出土する。396は越中瀬戸の天目茶碗。417・418は大型の土鉢。

珠洲は甕・壺・鉢がみられるが12世紀~15世紀まで時代幅を持ちみられる。379は2連の矢羽根状記号が付けられる。476はS X 896に見られたと同様な叩きをもつ珠洲甕の胴部片。419は壺Ⅱ種で13世紀。385は八尾鉢。399・400・415は瓦質土器摺鉢で産地不明。416は火鉢の脚。475は瓦質の鍋。

中国製品には天目茶碗・青磁・白磁がある。401は天目茶碗胴部。青磁碗は、端反りとなる409・410・482・483、玉縁の480、外反器形となる407・408外があり、鎗葉蓮弁・雷文・草花文などが施される。406は小型の壺か。481・486は香炉。殆どが龍泉窯系である。487は梅瓶の胴部。

白磁は402が角杯。403・414が口壳の皿。412・413・492・493が平皿。488が端反の碗。494が端反皿。489は白磁皿の底部。491は青花碗で内外面に雷文を施し、外面には花輪・枝連文が描かれる。499・538・539・540はバンドコで499以外は同一個体。440は蓋。503は石臼の下臼で両面に溝が付けられる。502は縄文時代後期以降の磨製石斧で、刃部がかけ再加工している。

495・496・498・500・501・541は丹波・山城産の仕上紙。500側面には切り出し時ののこぎり痕が残る。497・542~545は地元産の中砥。

金属製品には釘506~513、刀子516・517、小柄504、鋤物の鍋520・522、鉄か毛抜き526、鋏521、口金具523~525、刃物状の505・518、用途不明の514・519、銅製の引き手金具527、鉄滓528などがある。銅銭は元祐通寶530・熙寧通寶531・永樂通寶532・元豊通寶533・開元通寶534・元祐通寶535・咸平通寶536と不明な537がある。529は側面に刻みを2カ所と目釘穴を2カ所もつ板材。用途不明。

## B 近世の遺物

03号土坑 (S K 03, 第71図546、図版33)

546は、細かい砂岩製の砥石で表面が剥がれる。

41号土坑 (S K 41, 第71図548)

548は浅く外開きに口縁が立つ中世土師器。

74号土坑 (S K 74, 第71図555)

越中瀬戸の褐釉皿で、内底面に釉はかからない。

95号土坑 (S K 95, 第71・72図550~554・578~582、図版29・31・34)

550は褐釉の越中瀬戸摺鉢。551は唐津か京焼き風の焼物。552・553は釘。554は高島碗の破片で縁の痕跡が残る。578は方形に加工された台石で自然面を残す。579~581は中世土師器。582は青花。

102号土坑 (S K 102, 第71図560)

560は小型の中世土師器で口縁部が小さく立つ。器壁は厚い。

104号土坑 (S K 104, 第71図558、図版36)

558は灰釉の丸碗で、緻密な胎土をもつ。産地不明。同一個体がS K 654・652から出土している。

105号柱穴 (S P 105, 第71図561)

561は越中瀬戸褐釉皿。

108号土坑 (S K 108, 第71図562、図版36)

562は内野山窯の製品で内面は蛇ノ目内壳。

109号土坑 (S K109、第72図584、図版45)

584は板目の材で、桶の側板か。

113号土坑 (S K113、第71図559、図版23)

559は珠洲のT種竈で、13世紀頃のもの。

145号土坑 (S K145、第71・72図563～569・585、図版36～38)

563は越中瀬戸の褐釉皿。564は三島手の刷毛唐津碗。565は越中瀬戸の褐釉広口壺。567は三島手の刷毛唐津大皿。568は珠洲播鉢で混入品。569は越中瀬戸の褐釉播鉢。585は方形に加工された石で何かの白石を転用した物か。

148号土坑 (S K148、第71図570)

570は浅く外開きに口縁が立つ中世土師器。

164号土坑 (S K164、第71図571～574)

572は三島手の刷毛唐津、折縁皿。573は珠洲播鉢で内面に放射状の印刻がある。574は中世土師器。

571は越中瀬戸の褐釉広口壺で、底部は回転糸切り。

20号柱穴 (S P20、第72図586、図版45)

586はS B09に伴う柱で、底面は切り倒したときそのまま柱としている。

04号柱穴 (S P04、第72図587、図版45)

587はS B09に伴う柱で、底面は切り倒したときの斜めのままで柱としている。

63号柱穴 (S P63、第72図583、図版45)

583はS B09に伴う柱で、底面は切り倒したときの斜めのままで柱としている。

106号柱穴 (S P106、第72図588、図版45)

588はS B16の柱で、底面は平に面取りがしてある。

## 溝

92号溝 (S D92、第72図575～577、図版36)

575は越中瀬戸褐釉の広口壺で底部回転糸切り。576は同じく越中瀬戸の播鉢。577は京焼か唐津風の焼き物で、胴部に模様が描かれる。また外底面には記号が印刻される。S K652から同一個体が出土。

## 井戸

08号井戸 (S E08、第73図589～592、図版33・36)

589は越中瀬戸褐釉播鉢で口縁端部が内側に折れる。591は伊万里で内面は蛇の目釉壳。590は黄茶褐色の陶器で高台底面のみ釉壳で、砂目が付く。唐津か。592は細かい砂岩製の中砥石。

33号井戸 (S E33、第73図593～594、図版36)

593は伊万里皿で内面は蛇の目内壳。549は中世土師器。

82号井戸 (S E82、第73図600～604、図版44)

600は石臼の上臼で播目は6分割。601は総黒の漆器碗。602は直径5mmほどの丸い棒で用途不明。603は板の横に目釘の穴が10カ所あけられた正目の板材で桶の転用材か。604は楔状に削られた板。

301号井戸 (S E301、第73図596～598、図版37・43)

596は中世土師器皿。597は越中瀬戸灰釉皿。598は漆器碗で、黄色漆で丸輪を描き中に赤色漆と黄色漆で植物意匠を描く。599は桶の板材。

## 包含層の遺物

605・607は三島手の刷毛唐津碗。617も同じ唐津皿。608は伊万里徳利の首部分。609～611は内野山系の皿で内面は蛇の目軸秃。612は在地窯の丸山焼の鉢。19世紀。613・614・620は越中瀬戸褐釉の播鉢。616は越中瀬戸の鉄軸香炉。618は同じく鉄軸皿。619も同じ天日茶碗。615は青磁の香炉で緑色が濃い。

遺物は、13世紀から16世紀にかけてみられ、珠洲では13世紀～15世紀までほぼ各時代の物があるが、陶磁器よりは古い時代を示す例が多い。中世土師器では、13・14世紀の物がわずかに混じるが15世紀～16世紀中頃までの物が多くみられる。瀬戸美濃はわずかに古い物がみられるが、大半は大塚期の物であろう。八尾は、14世紀に主体があると考えているが、珠洲同様に長く使用されている。中国製陶磁器は、13世紀頃の青磁から16世紀頃のものまでみられるが、白磁は14・15世紀を主体としている。このような器種組成はむしろ県内の一般集落と共通している。また、16世紀後半になると増加する端反りの白磁や青花がわずかしかみられず、集落が縮小していったことを伺わせる。

集落の西側に作られた墓地は墓坑の形にいくつかの種類がみられる。一つは円形や方形に掘られた比較的浅い例である。他の例は長方形を基本とした深い墓坑で、明らかに木棺を入れたとみられる墓坑である。覆土は穴の最下部にわずかに黒っぽい土があり中はほとんど地山土が埋まる例で、掘ってから短時間で埋め戻されたことを伺わせている。また墓坑は数基から10個ほどの単位で狭い場所に作られており、区画が決められていたような在り方を示している。墓坑は南東向きと北西に主軸を向ける例が多く軸が90°ずれている。両者の数は北西向きがやや多いがほぼ半数くらいである。しかし両者の土坑には重複関係がみられ時期差とは考えられず何か意味を持つかもしれない。この事は死者の性別などにより向きをずらしたとみることも可能だが詳細は不明である。

遺物はほとんどみられないが、墓坑の底から釘が1～2点出土している例がある。このような例は円形や方形の浅い物と棺が入れられた深い例の両者にみられ、棺の蓋を止めるためだけではなく厄払いの呪いとして死者に持たせた可能性がある。

この墓域とは別にS D567(方形周溝遺構)がある。これは墓坑は確認できないが、屋敷地あるいは集落の中の墓域的な性格として位置づけられる遺構である。この集落は、西側に墓域(墓地)を持ちながら、なおかつ集落の中に墓域的な空間を持ち存在している。また墓域の中には墓道と集石遺構が存在し、追善供養などの葬祭を行う施設とみられ、集落内にみられる同じ意味合いの施設が重複している。このような二つの空間を共有している集落は少なく簡単に性格付けはできないが、埋め墓と参り墓を持つと考えられ、ある一定の地位を持った人たちが墓を管理する集団と考えておきたい。

(酒井 重洋)

第4表 柱穴(1)

図版番号	遺構番号	建物・埋まり	遺構種類	平面形	長さ・幅	高さ	出土遺物	時期	特記事項
4	SP1258	SA01	柱穴	円	22	20	7		
4	SP1261	SA01	柱穴	円	23	21	17		SK1261>SK1260。
5	SP233	SA02	柱穴	円	36	36	7	中世土師器	
5	SP264	SA02	柱穴	円	35	31	31		
5	SP897	SA02	柱穴						
5	SP218	SA03	柱穴	楕円	44	32	19		SK220とともに掘立柱建物を構成する可能性がある。
5	SP220	SA03	柱穴	楕円	50	43	36		SK218とともに掘立柱建物を構成する可能性がある。
5	SP1338	SA03	柱穴	円	61	56	33		柱穴の可能性がある。
7	SP322	SA04	柱穴	円	31	27	9		SK322>SK362。
7	SP356	SA04	柱穴	円	40	35	18		
7	SP1075	SA06	柱穴	円	40	35	4		
7	SP1081	SA06	柱穴	円	32	25	32	中世土師器	
7	SP1364	SA06	柱穴	楕円	21	20	14		
7	SP486	SA06	柱穴	円	30	24	21		
4	SP1048	SA06	柱穴	円	28	25	10		
4	SP23	SI01	柱穴	円	35	35	24		
4	SP1268	SI01	柱穴	円	33	35	15		SK1268>SD1266。
4	SP1270	SI01	柱穴	円	30	20	6		
4	SP1271	SI01	柱穴	円	46	41	20	中世土師器	
4	SP1279	SI01	柱穴	円	36	32	14		
4	SP1211	SB02	柱穴	円	33	29	15		
4	SP1250	SB02	柱穴	楕円	34	31	8		
4	SP1254	SB02	柱穴	円	40	31	10		
4	SP1256	SB02	柱穴	円	31	25	20		
5	SP140	SP03	柱穴	円	47	44	43	中世土師器	
5	NP962	SP03	柱穴	円	31	28	32		
5	SP1228	SP03	柱穴	円	41	38	25		
5	SP1231	SP03	柱穴	円	44	36	15		
6	SP518	SD04	柱穴	円	47	45	23	中世土師器	
6	SP1184	SD04	柱穴	円	39	33	9		
6	SP1185	SD04	柱穴	円	42	30	9		
6	SP1357	SD04	柱穴	円	37	34	13		SK1357<SK1186。
6	SP1359	SD04	柱穴	円	49	43	43		SK1359
6	SP189	SB05	柱穴	楕円	51	41	28		SK189>SK188。掘立柱建物を構成する可能性がある。
6	SP1188	SB05	柱穴	円	97	43	22	中世土師器	SK1188>SK1186。
6	SP1193	SB05	柱穴	不整形	72	45	15		
6	SP1302	SB05	柱穴	円	37	35	42		SK1302>SK1204。柱穴が残る。
6	SP1220	SP05	柱穴	円	66	53	62		SK1220は上層の遺構として掘ったSD894を切っており、SD894は下層の時期の遺構と考えられる。
6	SP249	SP06	柱穴	楕円	60	45	54	中世土師器・埴輪	SK249>SK247。
6	SP1098	SP06	柱穴	円	27	25	8		SK1098>SK1312。
6	SP1110	SD06	柱穴	円	36	33	19	近世	
6	SP1113	SD06	柱穴	円	36	31	19		
6	SP1123	SD06	柱穴	円	45	38	22		
6	SP1171	SD06	柱穴	小整形	35	30	17		
6	SP1309	SD06	柱穴	楕円	76	41	9		
6	SP1369	SD06	柱穴						
7	SP406	SP07	柱穴		31	(22)	16		SK406<SK497。
7	SP408	SP07	柱穴		50	(22)	5		SK408<SK499。
7	SP508	SP07	柱穴	円	33	31	4		SK508<SK507。
7	SP520	SD07	柱穴	楕円	54	46	9		
7	SP651	SD07	柱穴	円	35	35	6		
7	SP560	SD07	柱穴	円	26	24	6		SK560>SK361。
7	SP690	SD07	柱穴	楕円	60	39	22	埴輪	
7	SP492	SB08	柱穴	円	34	30	34		
7	SP767	SB08	柱穴	不整形	(95)	91	36		SK567<SK497、SK557>SK601。
7	SP1056	SB08	柱穴	円	40	37	14		
7	SP1066	SB08	柱穴	楕円	45	26	22		
7	SP1078	SB08	柱穴	円	37	33	46		上層のSP482に切られている。
7	SP1089	SB08	柱穴	41	(30)	9			上層のSK546に切られている。
43	SP04	SP09	柱穴	楕円	107	80	34	中世土師器・埴輪	SK04>SK372。掘立柱建物の柱穴の可能性がある。
43	SP20	SP09	柱穴	楕円	115	(36)		中世土師器	近世 SP20>SE32。柱穴が残る。SK05-SK03とともに掘立柱建物を構成している。
43	SP63	SD09	柱穴	楕円	(70)	98	41	中世土師器	近世 SK03<SK18。SK06とSP20とともに掘立柱建物を構成する。
43	SP103	SD10	柱穴	楕円	88	36	33	礎石	近世 SK06>SD150。掘立柱建物の柱穴の可能性がある。
43	SP09	SB10	柱穴	楕円	89	63	34	埴輪・埴土	近世 掘立柱建物の柱穴の可能性がある。
43	SP10	SB10	柱穴	円	64	58	47		近世 柱穴の可能性がある。
43	SP151	SB10	柱穴	円	52	48	34		近世
43	SP156	SB10	柱穴	円	48	42	21		近世 SK156<SK157。
43	SP160	SB10	柱穴	不整形	70	57	16		近世 SK160>SD999>SK376。
43	SP50	SB11	柱穴	楕円	107	72	41	中世土師器・礎石	SK50>SK51。

第4表 柱穴 (2)

図原番号	遺物番号	遺物-番号	遺物種類	平面形状	長さ(cm)	幅	出土遺物	時期	特記事項
43	SP78	SB11	柱穴	方	121	65	29	中世土師器	近世 SK78<SK79.
43	SP89	SB11	柱穴	楕円	110	76	42		近世 柱穴の可能性ある。
43	SP146	SD11	柱穴	楕円	70	70	34	中世土師器	近世 SK146<SK145. 柱穴の可能性ある。
43	SP854	SD11	柱穴	円	75	52	20		近世 SK854<SK855. 柱穴が残っている。SF68の遺形に知られているが、トラス前の後に残したもので。
43	SP1284	SB11	柱穴	楕円	89	57	31		近世
43	SP06	SD12	柱穴	楕円	95	78	32		近世 SK06<SD155-SD060-SD370. 竪立柱遺物の柱穴の可能性ある。
43	SP08	SD12	柱穴	楕円	73	50	19		近世 SK08<SK152. 柱穴の可能性ある。
43	SP1241	SD12	柱穴	円	37	33	6		近世 SK1241<SK1240.
43	SP1292	SD12	柱穴	円	33	31	21		近世 上層のSD208に知られている。SK40の残りか?
44	SP16	SB13	柱穴	円	32	31	8		近世
44	SP90	SB13	柱穴	-	76	16		珠洲・中世土師器	近世 SD60<SD59. SD60<SK61.
44	SP75	SB13	柱穴	円	39	33	29		近世 SE75<SK61.
44	SP97	SB13	柱穴	円	35	25	9		近世 SK97<SD56. 石が入っている。
44	SP295	SB13	柱穴	円	37	34	19		近世
44	SP398	SB13	柱穴	円	30	28	11		近世 SK398<SK103.
44	SP1272	SB13	柱穴	円	45	38	8		近世
44	SP1290	SB13	柱穴	円	40	26	18		近世
44	SP19	SB14	柱穴	円	38	36	34		
44	SP29	SB14	柱穴	円	29	29	12		
44	SP388	SB14	柱穴	円	34	29	14		
44	SP304	SB14	柱穴	円	32	30	20		近世 SK304<SK393.
44	SP21	SD15	柱穴	円	38	32	25	中世土師器	近世 SK21>SK113. 検出した際の割合ではSK21の方がSK113より新しい。
44	SP45	SD15	柱穴	円	44	38	23	中世土師器-五輪器	近世
44	SP49	SD15	柱穴	円	40	36	13		近世
44	SP6	SD15	柱穴	楕円	90	34	20	中世土師器	近世 SK66<SE33.
44	SP93	SD15	柱穴	円	35	30	8		近世 SK93<SK113.
44	SP392	SD15	柱穴	楕円	66	40	8		近世 SK392<SK391.
44	SP07	SB16	柱穴	楕円	82	63	32	中世土師器	近世 SK07<SD08-SK38. 竪立柱遺物の柱穴の可能性ある。
44	SP12	SB16	柱穴	楕円	72	53	15	中世土師器	近世 竪立柱遺物の柱穴の可能性ある。SK12>SK11.
44	SP17	SB16	柱穴	楕円	97	60	13		近世 SK17<SK113. 竪立柱遺物の柱穴の可能性ある。
44	SP26	SB16	柱穴	円	43	47	18		近世 SK26<SK27. 竪立柱遺物の柱穴の可能性ある。
44	SP97	SB16	柱穴	楕円	62	52	16	中世土師器	近世 柱穴の可能性ある。
44	SP106	SB16	柱穴	楕円	114	65	26	中世土師器	近世 SK106<SP105. 柱穴の可能性ある。
44	SP372	SB16	柱穴	不整形 (63)	(50)	9			近世 SK372<SE33. SK372<SD399.

第5表 建物一覧

No.	規模	桁長(m)	梁長(m)	面積(m <sup>2</sup> )	棟方向	方位	柱形式	時代	備考	押出	図版
1	2×2?	2.4	1.8×2.2		東西	N-88°-E	総柱	中世	SA01が付く	4	
2	1×2?	2.4	2.2×2.2		東西	N-82°-E	総柱	中世		4	
3	2×1?	2.7×2.7	2.1×		東西	N-82°-E	総柱	中世		5	
4	1×2	2.7×1.2	4.0		東西	N-52°-E	総柱	中世	庇あり	6	2
5	2×1	2.8×2.8	2.4		東西	N-58°-E	総柱	中世		6	
6	3×1?	2.3×2.5×1.2	2.1×		東西	N-73°-E	総柱	中世	庇あり	6	
7	2×2?	2.2×2.2	2.4×2.4		東西	N-88°-E	獨柱	中世	SE482SA04	7	3
8	2×1	2.0×2.0	2.8		東西	N-78°-E		中世	SA06	7	4
9	2×1	4.5×4.0				N-72°-E		近世	柱3本残る	43	
10	2×1	2.1×3.3	3.6		南北	N-20°-W		近世		43	13
11	2×1	3.2×3.6	4.2		南北	N-27°-W		近世		43	13
12	2×1	3.2×2.4	2.3		南北	N-14°-W		近世		43	13
13	2×2	3.2×3.2	3.2×3.4		南北	N-1°-W	総柱	近世		44	13
14	1×2	2.0×2.0	2.7		南北	N-0°-W		近世		44	
15	2×2	2.1×2.7	2.1×2.1		南北	N-4°-W		近世		44	
16	2×2	3.6×2.7	2.7×2.1		南北	N-20°-W		近世		44	

第6表 井戸一覧

遺跡番号	遺構種類	平面図	長さcm	幅	深さ	出土遺物	時期	押戻	階数	詳細時期	特記事項
SE01	井戸	円	150	132	-	須恵器	近世	3.4	15		SE01>SD150-SD161-SK165-SK169。包含層割削の際にすでに確認されたもの。掘方は人が石堀は小さい。
SE08	井戸	円	124	120	-	中世土師器-越中瀬戸-唐津-伊万	近世	2	15	19C	SE08<SK07。掘方は小さい。
SE32	井戸	円	222	203	79	中世土師器-中世土師器-須恵-八尾-砥石	中世	3.4	12	14C~	SE32<SP20。大型の石堀井戸。
SE33	井戸	円	195	185	94	須恵-中世土師器-珠洲-越中瀬戸-唐津-近瀬陶器-伊万形	近世				SE33>SK65-SK373。石堀井戸であったが、石を抜かれている。
SE32	井戸	円	167	177	29	中世土師器-石臼	近世	5.6	15		SE32>SD94。大きな石を砕くもので、一番下は石の石で覆われている。
SE205	井戸	円	105	95	98	中世土師器-珠洲	中世	1.2	12	14C~	石堀の下に本根の井戸跡をもち、中央に垂物が入っている。
SE301	井戸	円	234	220	101	中世土師器-越中瀬戸-鉄筒状	近世	7.8	15	18C~	SE301>SK145。石堀の井戸で、他の井戸に比べてやや浅めである。
SE304	井戸	不整形(169)	(111)	12		中世土師器-珠洲-瀬戸-越中瀬戸		1.2	11	16C前後	SK304<SK302。その下に石堀の井戸が検出された。
SE309	井戸	不整形(205)	165	17		中世土師器		5.7	10	15C末~16C初	SE309>SE315。上層には華大の石がぎっしり入っている。その下には石堀の井戸があり、下部の石堀が残っていた。
SE315	井戸		220	184	59	中世土師器-珠洲-瀬戸-古銅-鍍金刀子釘		6.7	10	15C中~16C中	SE315>SE309。上部の土質部分から遺物が出ている。下部には石堀の井戸があり、石堀の下部敷設が残存した。
SE411	井戸	円	90	85	26			6	6		SE411>SK440, SE411<SK412。石堀のもの。
SE482	井戸	円	175	172	16	中世土師器-八尾-瀬戸-古銅-五輪帯-ハココ				13C末~16C	石堀の井戸で、北側の小さいものであり、SE482<SK483, SE482>SD866。
SE675	井戸	円	170	160	137	釘		3.4	10		石堀のもの。
SE1265	井戸	不整形	151	150	64	中世土師器		1.2	4		上層のSK15の下で検出したもので、木枠が残っている。

第7表 近世土坑一覧

探検番号	遺構番号	遺構種類	平面図	長さcm	幅	深さ	出土遺物	時期	特記事項
21	SK05	土坑	楕円	69	66	33	中世土師器-近世磁器-土	近世	SK05>SK36>SD150。掘り住居跡の柱穴で、柱根が残る。
21	SK11	土坑	楕円	129	(85)	5		近世	SK11<SK12。
21	SK31	土坑	円	(47)	30	13	中世土師器	近世	SK31>SK30。カタラシに半分に砕かれている。
21	SK36	土坑	円	35	24	18	中世土師器	近世	SK36<SK37, SK36>SD070。
21	SK37	土坑	円	34	33	12	中世土師器	近世	SK37>SK36。
21	SK41	土坑	楕円	75	56	7	近世土師器-中世土師器	近世	柱穴の可能性がある。
21	SK47	土坑	楕円	25	23	10	青銅	近世	SK47>SF8。
21	SK51	土坑	楕円	82	49	10		近世	SK50<SK51<SK52, SK51>SK76。
21	SK52	土坑	楕円	(41)	56	32	中世土師器	近世	SK52<SK51, SK52<SK53, SK52>SK76。
21	SK53	土坑	円	161	140	46	中世土師器-珠洲	近世	SK53>SK52, SK53<SK113。
21	SK54	土坑	楕円	89	(92)	32		近世	SK54<SK17。
21	SK55	土坑	円	26	26	7	中世土師器	近世	SK55>SK113。
21	SK56	土坑	楕円	126	130	53	近世磁器	近世	SK56>SK46, SK56<SK113。
22	SK71	土坑	楕円	160	119	7	唐津	近世	非常に深く、目みちのものである。
22	SK73	土坑	円	106	116	25	中世土師器	近世	
22	SK74	土坑	楕円	150	105	28	越中瀬戸	近世	SK74>SE001。
22	SK95	土坑	不整形	(686)	442	30	中世土師器-珠洲-八尾-青銅-染付-越中瀬戸-唐津-伊万形-須恵器-切石-砥石-釘-刺糸	近世	SK95>SD85。南半分には17丁が埋め込まれた状態で入っている。
21	SK154	土坑	不整形	139	79	23	中世土師器	近世	
21	SK161	土坑	不整形	(487)	404	30	中世土師器-珠洲-越中瀬戸-唐津	近世	南西側に埋められた石が置かれ、南半分を中心に石を敷いたようにみえ、北側に付いた土塊と見られる。
22	SK165	土坑	円	85	(80)	48	中世土師器	近世	SK165>SD01-SK73-SK153, SK165>SD375>SK377。
22	SK166	土坑	楕円	64	52	8	越中瀬戸-唐津-近世陶器-近世磁器	近世	SK166>SK138。
21	SK98	土坑	円	171	170	18	中世土師器-越中瀬戸	近世	
21	SK102	土坑	楕円	71	67	8	中世土師器	近世	SK102<SK103。
21	SK104	土坑	不整形	(570)	(134)	13	中世土師器	近世	SK104<SK144<SD82, SK104<SK240。
21	SP105	掘立礎	楕円	111	54	50	越中瀬戸	近世	SP105<SK106。土柱が残る。
21	SP106	土柱	楕円	114	65	36	中世土師器	近世	SK106>SP105。柱穴の可能性が高い。
21	SK108	土坑	円	163	167	27	中世土師器-越中瀬戸	近世	巨大な川原石を敷きつめたようにしてある。SK108<SK108。
21	SK109	土坑	円	190	(126)	30	中世土師器	近世	SK109<SK108。
21	SK114	土坑	楕円	134	123	18	中世土師器	近世	SK114<SK115。
22	SK128	土坑	方	159	111	22	中世土師器	近世	約20m <sup>2</sup> の川原石を砂利が北半分にあやみかた状態でぎっしりついていた。掘削の際に検出されている。
	SK144	土坑	不整形	(300)	(165)	17		近世	SK144<SD82, SK144<SK104。
21	SK145	土坑	不整形	307	289	32	中世土師器-珠洲-越中瀬戸-伊万形-近世磁器-土工	近世	SK145>SK163。南側に川原石を2~3段にぎっしり積み、西・北側には板が4~7枚を敷いて覆われている。水層のよう。
21	SK148	土坑	楕円	60	40	28	越中瀬戸-中世土師器	近世	SK148>SD150。柱穴の可能性が高い。
30	SN896	塚	方	720	300	23	珠洲		石堀の埋め立てのもの。上部に土を敷きつめられている。下部には何の施設もなかった。墓域の中心部を施設の可能性が高い。

第8表 遺一覽

標記番号	遺物番号	幅 (cm)	長さ	出土遺物	時期
62	SD68	74	12	中世土師器・珠洲	近世
21	SD69	67	7	中世土師器・珠洲	
46.51.52	SD62	133	14	中世土師器・珠洲・越前・近畿器	近世
166.51	SD64	79	27	中世土師器・珠洲	
21	SD156	35	27		
22	SD161	104	23	中世土師器・珠洲・青森・奥付・釘	
22	SD196	73	14	珠洲・青森	近世
23	SD123	29	10		
22	SD125	55	5		
23.26	SD210	102	23		
23	SD215	150	7		
16.23.24	SD226	238	38	中世土師器・珠洲・八尾・瀬戸・青森	中世
23	SD258	95	12		
23	SD267	54	18		
23	SD279	31	6		
25	SD280	60	9		
25	SD281	53	10	中世土師器	
9	SD286	92	16		
22	SD297	90	19		
22	SD298	110	24		
21	SD369	48	19		
21	SD370	35	23		
21	SD375	45	3		
36.38	SD427	29	9		
36	SD433	47	21	ハンドコ	
16.36.37	SD460	122	67	中世土師器・珠洲・八尾・越前・青森・瀬戸・厚土石・石罫・砥石・ハンドコ・釘・鉄刀子・釘	
34.36.38	SD463	36		中世土師器・珠洲・瀬戸・釘・鉄罫	
36	SD464	49	8	八尾・中世土師器	
36.38	SD465	63	59	中世土師器	
28	SD493	24	5		
22	SD516	65	7		
10.16.24	SR519	128	67	中世土師器・珠洲・八尾・砥石	
28	SD545	45	10		
15.16.28	SD567	300	51	中世土師器・八尾・瓦貫摺り鉢・釘	
15	SD572	98	21	中世土師器・八尾	
15	SD573	35	6		
15	SD574	97	39	中世土師器・珠洲・砥石	
12.16	SD583	115	35	中世土師器	
27	SD586	85	10		
12.16	SD600	363	36	中世土師器・珠洲・瓦貫摺り鉢	
15	SD605	162	45	中世土師器・珠洲・八尾・釘	近代
15	SD606	332	59	珠洲・八尾	
34.35	SD631	18	14		
34.35	SD638	77	47		
29	SD747	65	12	八尾	
31.34.35.41	SD749	188	39	中世土師器・珠洲・瀬戸・白磁・青磁・ハンドコ・鉄刀子	
20.30	SD751	40	36		
34.35	SD764	31	17		
34	SD768	105	44	中世土師器・萩輪	
31.32.34.42	SD777	120	22	珠洲	
34.35	SD812	47	16	珠洲	
15	SD1019	110	45		
12	SD1038	16	10		
12	SD1039	26	14		
12	SD1060	20	10		
10.11	SD1120	22	6		
11	SD1125	21	10	珠洲	
11	SD1140	25	17		
10.11.13	SD1150	62	25	中世土師器・珠洲	
11.13	SD1151	38	25	中世土師器	
12	SD1163	80	20		
10.13	SD1180	80	22	中世土師器・珠洲・瀬戸	
8	SD1266	214	20		
8	SD1285	32	11		
14	SD1330	117	34		

第9表 土坑一覧(1)

調査番号	探検番号	図数	平面図	長さ・cm	幅	深さ	出土遺物	詳細時期	特記事項
SK02	25		橋内	60	47	16	中土	16C前	
SK18	21		円	44	37	18			
SK22	21		円	47	42	26			SK27・SK391・SK392
SK24	21		円	34	28	33			
SK28	21		橋内	66	55	62			
SK34	21		円	38	33	17	バンドコ、土師		
SK36	48		円	35	24	18	中土		SK36<SK37、SK36>SD370、 SK39<SK38、 SK47>SD48
SK39	21		橋内(60)	39	24				SK50<SK51<SK52、 SK51>SK75、 SK52<SK53、 SK52<SK76、 SK51<SD40
SK47	47		橋内	29	29	10	青磁		
SK51	47		橋内	82	49	10			
SK52	47		橋内(41)	56	32		中土	14C後~15C	
SK61	21		円	26	25	29	埴土	14C後~15C	
SK62	21		円(31)	40	15		中土、珠洲	13C~14C	
SK64	21		橋内	53	45	16			SK64<SK69
SK66	21		円	25	22	12			
SK70	21		円	29	34	29			
SK76	21		円	23	11	42			SK76<SK52
SK81	22		橋内	42	32	14			
SK84	22		橋内	60	40	8			
SK85	22		橋内	92	50	6			遺い円み状のもの、 SK86<SD16)。 SK87<SD16)。
SK96	22		橋内	16	17	2			
SK87	22		橋内	27	15	30			
SK88	22		橋内	36	29	11			
SK90	22		橋内	92	68	19	中土		SK90<SD92、 SK91<SD92
SK91	22		橋内	100	70	11			カタランにより半分ほど切られて いる。
SK96	21		橋内	56	(27)	20	中土	15C	
SK99	21		円	24	21	7			
SK100	21		円	25	21	15			
SK107	21		橋内(65)	(62)	22				SK107<SK106、 SK111<SK112、 SK112<SK111、 SK115<SK114
SK111	21		円	16	18	7	中土、凝石		
SK112	21		円(18)	15	6				
SK115	21		円	25	30	42			
SK116	22		円	20	17	12			
SK18	22		円	31	31	6			
SK19	22		円	41	41	6			しみの可能性が高い。
SK120	22		円	91	89	9	中土		
SK121	22		円	43	41	18			
SK122	22		円	33	28	8			SK122<SK129
SK124	22		橋内	43	35	12			
SK126	22		円	42	36	7			SK126<SK127<SD125、 SK129<SK129
SK129	22		円	34	(15)	10			
SK130	25		橋内(200)	201	26		珠洲、青磁		だらだらと青磁へ厚くなって いる。
SK131	22		不整形	93	23	29			
SK132	22		橋内	65	40	11			
SK133	22		橋内	101	58	10			
SK134	22		不整形	165	81	14			
SK136	22		円	21	20	24			
SK137	22		円	39	35	13	奥京		
SK138	22		円	17	15	21			SK138<SK166
SK139	22		橋内	54	41	11			
SK141	22		円	27	24	8			
SK142	22		橋内	30	28	19			
SK147	21		橋内	42	27	17			
SK149	21		橋内	45	(40)	8			SK149<SF32、 SK157<SK156、 SK165<SB17・SK73・SK153、 SK165<SD376<SK377
SK157	21		円(31)	33	6				
SK165	49		円	85	(80)	48	中土	16C前	
SK167	22		円	18	14	15			
SK168	22		円	17	16	19			
SK169	22		円	20	20	26			
SK170	22		円	20	18	19			
SK171	22		円	23	23	11			
SK172	23		円	28	26	7			SK172<SD226、 SK173<SD226
SK173	23		橋内	68	65	15			
SK174	23		円	29	26	12			
SK176	24		橋内(211)	(62)	20		珠洲		SK176<SD226、 SK177<SD226
SK177	24		橋内	61	51	17			
SK178	23		橋内	60	57	38			
SK179	23		橋内	47	35	13			
SK180	24		円	55	47	12			柱次の可能性がある。
SK181	24		円	87	85	14			
SK182	24		円	29	28	10			
SK183	23		円	36	34	13			
SK184	23		円	38	35	9			SK184<SD226、 SK185<SD226
SK185	23		円	64	54	15	中土	13C前	
SK186	22		円	21	15	10			
SK188	23		橋内(32)	47	17				SK188<SK189
SK191	23		橋内	34	24	5			
SK192	23		円	27	22	4			
SK193	23		円	31	29	6			
SK194	23		円	36	35	7	中土		
SK196	23		橋内	39	31	12			
SK197	23		不整形	183	153		中土、凝鉄		継が多く入っている。
SK198	23		円	18	17	12			
SK199	23		円	30	29	6	中土	13C末~13C	SK199<SK200、 SK200<SK199
SK200	23		円	33	24	4			
SK201	23		橋内	40	35	12			
SK203	23		橋内	70	40	12	中土、珠洲、八尾		SK203<SK204

第9表 土坑一覽(2)

調査年度	掘削番号	図数	平面形	長さ-cm	幅	深さ	出土遺物	近世時期	附記事項
SK304	23		楕円	67	61	19			SK304>SK263.
SK306	21		楕円	(50)	30	6			SK306<SK66, SK206>SK307.
SK307	21		円	35	30	15			SK307<SK206.
SK309	21		円	97	73	8			SK309<SD266.
SK211	23		楕円	115	70	15	珠洲		
SK212	26		円	137	103	32	珠洲, 宮津		
SK213	26		楕円	164	128	25	珠洲		
SK214	23		円	27	25	16			SK214>SK225.
SK216	22		円	45	35	15			SK216<SK217.
SK217	22		円	(94)	55	11			SK217<SK216.
SK219	24		円	32	26	7			
SK221	24		不整形	30	25	13			SK221>SK222.
SK222	24		円	33	25	14			SK222<SK221.
SK223	26		円	32	27	8	中土	15C	
SK224	26		円	30	47	15			
SK226	26		円	35	32	5			
SK227	23		楕円	153	85	8			SK227>SD266.
SK228	26		円	36	(16)	13	中土, 珠洲, 八尾		筑前トレンチに埋られている。
SK229	26		楕円	41	33	24	楕円, 瓦		SK229<SK230.
SK230	26		円	48	33	13	中土	16C前	SK230<SK231.
SK231	26		円	(32)	43	12			SK231<SK230.
SK232	26		楕円	63	50	19			SK232<SK253.
SK234	26		楕円	80	76	23	中土		
SK235	26		円	62	(24)	13			SK235<SK289.
SK236	26		円	38	33	17			
SK237	26		楕円	46	31	6			
SK238	26		円	21	18	13			
SK239	26		不整形	(333)	226	15	中土, 陶片, 石目, バンドコ	16C中～	SK239>SK220.
SK241	26		楕円	60	39	19			
SK242	26		円	56	45	16			SK242>SK243.
SK243	26		円	43	(22)	21			SK243<SK242.
SK245	26		円	31	(17)	8			SK245<SK244.
SK246	26		楕円	85	52	23			SK246<SK254.
SK247	26		円	152	(109)	12	中土	14C～15C	SK247<SK249.
SK248	26		円	68	59	8	中土	15C後～	
SK249	26		円	28	22	15			
SK251	24		楕円	66	51	11			
SK252	26		(215)	65	17		中土, 珠洲, 百瀬		
SK254	26		円	28	24	6			SK254>SK246.
SK255	24		円	57	43	17			筑前トレンチに埋られている。
SK256	24		円	60	49	10			
SK257	21		円	26	25	9			SK257<SD226.
SK259	26		楕円	90	39	8			SK259>SK310.
SK260	27		円	42	42	7			
SK261	27		円	57	49	14			
SK262	27		楕円	82	76	16			SK262>SK269.
SK263	27		楕円	53	49	16			
SK265	26		楕円	35	29	40			SK265>SK603.
SK266	26		円	53	49	10	中土	16C前	
SK268	26		円	76	68	14			
SK269	27		楕円	(57)	45	22	中土	16C前	SK269<SK262.
SK271	26		円	52	50	12	中土		
SK272	26		円	37	30	18	中土		
SK273	26		楕円	132	85	10			SK273>SK262.
SK274	26		楕円	94	55	24	中土		様式の可塑性がある。
SK276	24		円	25	25	14			
SK277	26		円	89	87	16	中土		
SK278	26		楕円	46	(27)	8	中土	14C～15C	SK278>SK295<SK294.
SK283	27		円	42	35	36	中土		
SK284	27		円	50	33	18			
SK285	12		楕円	109	54	24	中土	16C～16C	
SK286	27		円	46	35	10			SK286<SK287.
SK287	27		円	48	44	14			SK287>SK286, SK287>SK289.
SK288	27		円	46	41	24			
SK289	27		円	60	50	33			
SK290	27		円	25	21	7			
SK291	27		楕円	66	49	14			SK291>SK282.
SK292	26		楕円	85	68	12			SK292<SK273, SK292>SK293.
SK293	26		楕円	(26)	38	18			SK293<SK292.
SK295	26		楕円	(24)	34	22			SK295>SK278, SK295<SK294, SK300>SK303, 北朝へたらたらと深くある。
SK300	26		不整形	(172)	225	36	中土	13C前	SK300>SK304, SK302>SK306, SK306との切合は不明。
SK302	26		不整形	(151)	177	20	中土, 中陶器	14C後～15C	
SK303	26		円	25	(14)	14	珠洲		SK303<SK300.
SK307	27		円	115	82	22			
SK308	27		円	47	38	14			
SK310	28		円	60	52	26			SK310<SK290, SK310>SK311.
SK311	26		楕円	60	44	11			SK311<SK310<SK312.
SK312	26		円	42	31	6	中土	15C	SK312>SK311.
SK313	26		楕円	(72)	76	9			SK313>SD266.
SK314	26		円	(145)	238	69	中土, 竹筒, 瓦質火鉢, 石臼	16C初～中	掘り跡の土質で、掘り用器石が入っていたら、おそろく楕円を離れ、石を抜いた後、掘ったと考えられる。
SK316	36		楕円	60	53	37			
SK317	36		楕円	86	56	19			SK317<SK327.
SK318	36		円	56	(70)	47			
SK319	36		円	51	51	18			
SK320	36		円	43	30	27			
SK321	36		円	28	27	18			
SK322	36		円	26	25	24			

第9表 土坑一覽(3)

発掘区画	図版	平面形	長さ・cm	幅	深さ	出土遺物	詳細時期	注目事項
SK323	36	円	38	29	23			
SK324	36	円	22	19	10			
SK325	36	円	28	23	7			
SK326	37	円	83	80	15			SK326>SK327
SK327	37	円	(43)	50	25			SK327<SK326, SK327>SK344
SK328	36	円	22	21	6			
SK329	36	円	21	19	14			
SK330	36	円	29	25	22			
SK331	36	円	25	22	28			
SK332	37	36	楕円	68	36	33		
SK333	37	36	楕円	69	42	22		SK333>SK428
SK334	36	円	30	45	25			
SK335	36	円	45	38	25			
SK336	37	14	楕円	(53)	82	56		調査区外へのびているため全体は不明である。
SK337	14	円	77	61	24	中土		SK337<SK317
SK338	37	36	円	179	(142)	21		SK338<SK336<SK341
SK339	37	36	不整形	242	212	23		SK339<SK330, SK339>SK338<SK341
SK340	37	36	円	44	42	21		SK340>SK326
SK341	37	14	楕円	110	80	26		SK341>SK338
SK342	36	円	20	20	15			
SK343	36	楕円	24	18	17			
SK344	36	楕円	44	32	32			SK344<SK327<SK326
SK345	36	円	38	(27)	35			SK345<SK326
SK346	36	楕円	50	48	13			SK346<SK347
SK347	36	楕円	45	36	22			SK347<SK316
SK348	36	円	28	25	15			SK348<SK349
SK349	36	円	32	24	25			SK349<SK348
SK350	36	円	23	29	26			SK349<SK348
SK351	37	36	不整形	197	111	19	中土、鉄板状	
SK352	36	円	35	30	24			
SK353	36	円	26	22	21			
SK354	37	36	楕円	132	90	29		
SK355	36	円	43	43	30			
SK356	36	円	30	27	9			
SK357	37	14	円	(191)	(163)	45	中土、漆器、八尾、釘	14C後~15C
SK358	37	14	円	192	(139)	30		SK358<SK400<SK401<SK402
SK359	36	楕円	43	38	12			SK358<SD460
SK360	36	楕円	64	62	17			
SK361	22	円	23	15	9			SK361<SD125
SK362	22	円	29	26	21			
SK364	22	円	(21)	21	3			SK364<SK365
SK365	22	円	65	55	5			SK365>SK361
SK366	21	円	23	20	14			
SK367	21	円	29	26	4			
SK368	21	円	41	34	11			SK368<SK64
SK371	21	円	36	29	5			SK371<SD369
SK373	21	円	(104)	(55)	5			SK373<SK375<SK373>SK373<SK374
SK374	21	円	(36)	27	5			SK374<SK373
SK376	21	円	(32)	25	24			SK376<SK76
SK377	21	不整形	(113)	(89)	9			SK377<SD375<SK165<SK73
SK378	21	円	21	20	8			
SK379	22	円	24	22	8			底に石が入っており、礎石の可能性 がある。
SK380	22	円	24	22	24			
SK381	21	楕円	43	38	11			
SK382	21	円	25	21	4	中土		SK382>SK613
SK383	21	楕円	49	31	7		14C~15C	SK383>SK513
SK384	21	円	48	34	17			
SK385	21	円	33	29	4			
SK386	21	円	(23)	22	1			SK386<SK387
SK387	21	楕円	106	35	11	溝		SK387>SK386
SK388	21	円	40	36	5			
SK390	21	円	38	38	7			
SK391	21	円	35	29	14			SK391<SK22<SK391>SK392
SK396	21	不整形	(40)	45	27			
SK397	21	楕円	226	41	16			
SK399	21	不整形	94	45	29			SK399<SK114<SK109
SK400	37	14	楕円	(80)	85	40	真刀平	SK400<SK326
SK401	37	14	楕円	(80)	55	48		SK401<SK326
SK402	37	14	円	55	45	43	釘	SK402<SK358
SK403	37	36	楕円	122	70	17	中土	SK403<SK404
SK404	37	36	楕円	123	(70)	20		SK404<SK403
SK405	37	36	円	(82)	91	19		SK404<SK405<SK418
SK406	36	円	(15)	(26)	19			SK405<SK404<SK403
SK407	51	円	33	32	11			SK405<SK406<SK405>SK419
SK408	36	円	35	40	16			SK406<SK405
SK409	36	円	36	34	39			SK409>SK440
SK410	36	楕円	79	41	62			
SK412	36	円	31	26	12			SK412>SB411
SK413	36	円	30	26	35			
SK414	36	円	35	27	28			
SK415	36	円	26	35	34	中土		15C
SK416	36	円	27	26	15			
SK417	38	36	不整形	162	112	21	八尾、鉄棒状	SK417>SK118
SK418	38	36	不整形	161	103	32		十尾蓋の可能性が高い。
SK419	37	36	円	107	(90)	19		SK418<SK417
								SK419<SK405

第9表 土坑一覽(4)

調査番号	調査年度	図数	平面形	長さ・cm	幅	深さ	出土遺物	詳細図類	参考事項
SK420	37	36	不整形	133	75	12			
SK421	37	36	圓形	140	130	9	中土		SK421>SK461>SD160.
SK422		14	楕円	72	35	32			
SK423		36	円	26	20	20			
SK424		36	円	41	30	5			
SK425	37	14	不整形	82	82	30	中土		
SK426	37	36	不整形	132	92	16	中土		SK426>SK428.
SK428		36	不整形	167	172	9			SK428<SK426・SK438.
SK429		36	円	46	42	14	中土		SK429>SD172.
SK430	37	36	円	59	59	11			
SK431		36	円	49	82	13			SK431<SK432.
SK432		36	円	30	48	15			SK432>SK431.
SK434		36	円	42	40	17			SK434>SD433.
SK435		36	楕円	132	54	18			SK435<SK436.
SK436		36	不整形	83	30	30			SK436<SK435, SK436>SD433.
SK437	37	36	不整形	191	170	16	土師、埴輪		SK437>SK456>SD160.
SK438	38	36	不整形	345	185	47	中土、石臼、鏡、バンドコ	15C末~16C	SK438>SD427・SK458・SK461>SD160.
SK439	37	14	不整形	111	83	28			
SK440	37	36	円	132	131	18			SK440<SK409・SE411.
SK441		36	円	23	21	5			
SK442		36	円	25	23	9			
SK443		36	円	21	19	6			
SK444		36	円	26	25	6			
SK445		36	円	27	24	16			
SK446		36	円	33	16	13			
SK447		36	円	21	21	20			
SK448		36	円	32	19	12			SK448<SK333.
SK449		36	円	34	26	15			
SK450	37	36	不整形	220	133	29	中土		SK450<SK451, SK450>SD464.
SK451	37	36	不整形	112	167	30	中土、八咫、バンドコ	14C~15C	SK451<SK450.
SK452		36	円	33	22	23			
SK453	37	36	楕円	109	68	36	八咫、釘		
SK454		36	円	29	23	24			
SK455	37	36	円	167	66	23			SK455<SD464.
SK456	37	36	不整形	180	133	28	中土、埴輪、バンドコ、釘		SK456<SK437, SK456>SD460.
SK457		36	楕円	76	37	36			
SK458	37	36	不整形	150	90	31	中土		SK458<SK438, SK456>SK450.
SK459		36	円	43	30	17			SK459<SK458.
SK461	38	36	不整形	149	122	37	中土		SK461<SK421・SK438.
SK462	38	36	楕円	140	97	40			SK462<SD460.
SK466		36	円	21	21	8			
SK467	38	36	円	43	35	16			SK467<SD464.
SK468		36	円	38	38	14			
SK469		36	円	23	22	28			
SK470		36	円	18	15	17			
SK471		36	楕円	47	26	18			
SK472		36	円	41	41	14			
SK473		36	円	125	25	3			SK473>SK474.
SK474		36	不整形	162	30	6	中土		SK474<SK473.
SK475		36	円	21	19	16			SK475<SD463.
SK476		31	円	60	26	15			
SK477		36	楕円	26	19	17			
SK478		36	楕円	31	30	-			掘っていない。
SK479		36	楕円	57	46	15			SK478<SK479 掘っていないので、後述した層の確率のみ。
SK480		36	円	31	22	43			SK475<SK478 掘っていないので、後述の層に確率のみ。
SK483		27	円	84	69	19	中土、鉄錐		SK483>SD482.
SK484		27	円	30	29	13	釘		
SK485		27	楕円	61	30	24	中磁器、釘		
SK487		27	楕円	55	30	-			
SK488		27	円	96	37	25	中土		15C後~16C初
SK489		27	円	30	44	20			SK489<SK490.
SK490		27	楕円	78	42	14			SK490>SK489.
SK491		28	円	142	37	13			SK491>SK495.
SK494		28	楕円	62	55	14			SK494<SK495.
SK495		28	楕円	100	64	20			SK495>SK494.
SK497		27	不整形	147	147	40			SK497>SK496・SK546・SK547・SK548・SK558・SK601.
SK499	26	27	不整形	90	80	32			SK499<SK498, SK499>SD546.
SK500	26	27	不整形	114	70	26			SK500<SK546.
SK501		27	不整形	26	36	27			SK501>SK589>SD386.
SK502		27	円	45	40	36			SK502<SK546.
SK503		27	円	42	40	13	瓦質火鉢		SK503>SK588.
SK504		27	不整形	113	84	13	中土		SK504<SK505.
SK505		28	不整形	99	87	14			SK505>SK504.
SK506		28	不整形	172	149	17			
SK507		28	円	27	25	6			SK507<SK508.
SK509		12	楕円	53	48	23			
SK510		28	円	40	40	12	中土、石鏡、小瓶		
SK511		28	円	62	61	20			
SK512		28	楕円	60	50	34	中土		
SK513		21	不整形	60	71	8	埴輪、中土、遺篋	14C~15C	SK513<SD69・SK382・SK383.
SK514		21	円	30	25	19			
SK515		22	円	36	31	9			
SK517		22	不整形	74	49	9			SK517<SK505.
SK521		28	楕円	45	32	9			
SK523		28	円	28	25	14			
SK524		28	円	35	27	16			



第9表 土坑一覽 (6)

遺物番号	検出番号	図面	平面形	長さ・cm	幅	深さ	出土遺物	併記時期	特記事項
SK650	33	31	不整形	(56)	20	17			SK650<SK649, SK650>SK651,
SK661		31	不整形	(36)	(21)	16			SK651<SK660>SK649,
SK662	33	31	隅丸	138	88	27	中土, 漆瀝, 釧目, 近細器 (鈔77京 鏡)	19C~	土坑墓の可能性が高い。
SK663		31	円	44	42	16			
SK664		8	楕円	-	-	16		19C~	SK664<SK104,
SK665	31	31	不整形	181	96	39			SK665>SK702,
SK666	33	31	隅丸	163	148	35			土坑墓の可能性が高い。
SK667		31	不整形	135	(50)	30			SK667>SK667,
SK668		31	不整形	128	92	16			SK667<SK668,
SK669	33	31	隅丸	132	103	22			SK669<SK661>SK775,
SK670	33	31	隅丸	196	133	18	中土		土坑墓の可能性が高い。
SK671	33	31	不整形	40	(35)	7			SK671<SK669,
SK672	33	31	円	69	59	10			SK672<SK669,
SK673	35	31	不整形 (135)	(135)	95	11			SK663<SD777,
SK664	135	31	不整形	151	(40)	8			SK663>SK664,
SK665	33	31	不整形	142	(112)	19	漆瀝		SK664<SK663,
SK666	33	31	円	130	105	40			SK665<SD777,
SK667	33	31	隅丸	196	163	27	中土, 鉄板状		SK666>SK668,
SK668	33	31	隅丸	212	(125)	66			SK667>SK668,
SK669	42	31	隅丸	112	90	34			土坑墓の可能性が高い。
SK670	42	39	隅丸	122	100	36			SK669>SK731,
SK671	33	31	隅丸	148	92	44			土坑墓の可能性が高い。
SK672	33	31	隅丸	(110)	110	23	漆瀝		SK671>SK844, SK846,
SK673	42	44	隅丸	136	95	36	中土	15C後~19C	土坑墓の可能性が高い。
SK674	53	31	隅丸	104	82	29	漆瀝		SK672<SK691,
SK675	33	31	隅丸	134	132	31	漆瀝		土坑墓の可能性が高い。
SK676	33	31	隅丸	134	132	31	漆瀝		SK675>SK702,
SK677		31	楕円	162	41	30			土坑墓の可能性が高い。
SK678		31	不整形	15	(27)	33			SK677>SK677,
SK679		31	不整形	147	61	14			SK678<SK677,
SK680	33	31	円	115	115	37			SK679>SK726,
SK681	33	31	隅丸	112	87	28	中土	19C前	SK680<SK682,
SK682	33	31	不整形 (172)	163	6				SK680>SK682,
SK683	49	39	不整形	65	59	20			SK681>SK682,
SK684	49	39	隅丸	68	68	13			SK682>SK689, SK685<SK681,
SK685	49	39	円	46	41	16			
SK686	49	39	隅丸	93	52	41			SK686>SK731,
SK687	49	39	楕円	100	68	21			土坑墓の可能性が高い。
SK688	49	39	隅丸	194	99	54	中土		土坑墓の可能性が高い。
SK689	49	39	円	45	37	8			土坑墓の可能性が高い。
SK690	49	39	隅丸	137	96	26			土坑墓の可能性が高い。
SK691	49	39	隅丸	145	107	26			土坑墓の可能性が高い。
SK692	49	39	隅丸	114	82	16			土坑墓の可能性が高い。
SK693	49	39	不整形	130	105	28			SK692>SK720,
SK694	33	31	隅丸	197	123	36			SK693>SK672, SK695,
SK695		31	隅丸	175	(113)	21	中土	15C~	土坑墓の可能性が高い。
SK696	33	31	楕円	98	94	23			SK695<SK694, SK726,
SK697		31	円	70	60	11	漆瀝		土坑墓の可能性が高い。
SK698		29	隅丸	78	58	12	中土		SK696>SK783, SK764,
SK699		29	隅丸	92	60	32			土坑墓の可能性が高い。
SK700	33	31	楕円	128	93	26			SK699<SK885,
SK701	33	31	不整形	80	66	27			SK700>SK701,
SK702	33	31	隅丸	166	91	27			土坑墓の可能性が高い。
SK703	33	31	楕円	139	101	37			SK702<SK676, SK655,
SK704	33	29	隅丸	126	104	48	中土		土坑墓の可能性が高い。
SK705	33	29	楕円	60	(32)	20			SK703>SK783,
SK706	32	29	隅丸	97	84	27	中土		土坑墓の可能性が高い。
SK707	30	29	楕円	97	93	40	中土		SK705<SK706,
SK708		29	隅丸	87	60	31			土坑墓の可能性が高い。
SK709	30	29	隅丸	103	88	28			土坑墓の可能性が高い。
SK710		29	円	35	28	8			土坑墓の可能性が高い。
SK711	30	29	隅丸	166	100	48	中土	14C後~15C	SK711<SK712, SK711>SK841,
SK712		29	楕円	104	66	32			土坑墓の可能性が高い。
SK713	32	31	不整形	151	102	14			SK712>SK711,
SK714	32	29	隅丸	124	108	40			SK713<SK712,
SK715	32	29	楕円	112	108	43			土坑墓の可能性が高い。
SK716	30	29	楕円	242	110	66			SK703>SK783,
SK717	30	29	不整形 (113)	100	44				土坑墓の可能性が高い。
SK718	30	29	不整形	118	97	49	銅		SK716>SK717,
SK719	32	29	円	79	77	20			土坑墓の可能性が高い。
SK720	49	39	隅丸	200	140	66			SK717<SK716, SK717>SK746,
SK721	49	31	不整形	188	(137)	22			土坑墓の可能性が高い。
									SK720>SK721, SK720<SK693,
									SK720<SK720>SK722,

第9表 土坑一覧(7)

調査番号	地区番号	図面	平面形	長さ・cm	幅	深さ	出土遺物	詳細説明	付記事項
SK722	40	31	楕円	144	91	75	漆器		SK722>SK721
SK723	30	29	不整形	(98)	(35)	76			SK723>SK808
SK724	32	31	楕円	85	89	4			SK724>SK808
SK725	32	31	円	50	44	74			SK725>SK695, SK726>SK771, 土坑墓の可能性が高い。
SK726	32	31	楕円	104	96	37			SK726>SK676
SK727	31	31	円	35	33	14			SK727>SK676
SK728	31	31	不整形	(62)	51	3			SK728>SK676
SK729	42	31	楕円	(199)	(80)	24	中土		SK729>SK777, 土坑墓の可能性が高い。
SK730	42	31	不整形	130	82	29			SK730>SK676
SK731	39	39	不整形	50	(27)	3			SK731>SK676
SK732	40	39	楕円	89	62	19			青銅に石が挟まった跡のような出土品がある。
SK733	39	39	不整形	(30)	33	14			SK733>SK695
SK734	40	39	楕円	107	103	18			SK734>SK735, 土坑墓の可能性が高い。
SK735	40	39	楕円	90	75	34			SK735>SK734, 土坑墓の可能性が高い。
SK736	39	39	不整形	82	75	13			SK736>SK735
SK737	42	39	楕円	(60)	54	26			SK737>SK777
SK738	42	39	楕円	144	70	29			SK738>SK735, 土坑墓の可能性が高い。
SK739	39	39	円	46	37	14			SK739>SK735
SK741	40	39	楕円	140	130	22			SK741>SK735, 土坑墓の可能性が高い。
SK742	30	29	楕円	174	111	24	中土、砥石、釘		SK742>SK735, 土坑墓の可能性が高い。
SK743	30	29	不整形	108	35	91			SK743>SK735
SK744	30	29	楕円	52	40	11			SK744>SK735
SK745	30	29	楕円	122	115	22			土坑墓の可能性が高い。
SK746	29	29	不整形	(58)	34	27			SK746>SK717
SK748	32	31	円	(36)	43	22			SK748>SK642
SK750	29	29	円	37	33	27			SK750>SK751
SK752	30	29	楕円	131	121	26	漆器		SK752>SK743, 土坑墓の可能性が高い。
SK753	29	29	円	35	30	27			SK753>SK745
SK754	30	29	楕円	67	47	14			SK754>SK743, SK756, 土坑墓の可能性が高い。
SK755	30	29	楕円	174	115	24	釘		SK755>SK743, SK756, 土坑墓の可能性が高い。
SK756	30	29	楕円	79	54	31	漆器		SK756>SK755
SK757	30	29	不整形	165	96	15			SK757>SK809, SK800
SK758	30	29	楕円	164	94	31			SK758>SK755
SK759	30	29	不整形	57	(32)	35			SK759>SK755
SK760	30	29	楕円	232	(160)	27			SK760>SK761, 土坑墓の可能性が高いが、調査区外に属しているため不明。
SK761	30	29	不整形	130	(52)	22			SK761>SK760
SK762	30	29	円	46	44	33			SK762>SK761
SK763	35	34	円	(270)	(208)	56			風割木割の可能性が高い。
SK765	34	34	円	50	36	41			SK765>SK764
SK766	34	34	円	56	40	9			SK766>SK764
SK767	34	34	円	45	39	45			SK767>SK764
SK769	33	34	楕円	156	76	27			SK769>SK764
SK770	32	31	楕円	174	129	17			土坑墓の可能性が高い。
SK771	32	31	楕円	125	107	24			SK771>SK736, 土坑墓の可能性が高い。
SK772	32	31	楕円	144	85	34			SK772>SK713
SK773	32	31	楕円	110	80	27			SK773>SK736, 土坑墓の可能性が高い。
SK774	32	31	楕円	135	120	21			SK774>SK775
SK775	32	31	楕円	195	135	16	中土		SK775>SK699, SK774, 土坑墓の可能性が高い。
SK776	32	31	不整形	(82)	(20)	28			SK776>SK775, SK776>SK811
SK778	35	34	楕円	107	64	12			SK778>SK769, SK779
SK779	34	34	不整形	(43)	(3)	8			SK779>SK778
SK780	34	34	円	44	(30)	27			SK780>SK622
SK781	34	34	円	25	25	17			SK781>SK749
SK782	41	34	円	24	24	25			SK782>SK696, SK703, SK783>SK784, 土坑墓の可能性が高い。
SK783	32	31	楕円	170	106	31			SK783>SK783, SK785
SK784	32	29	楕円	175	(120)	41	中土、砥石、銅		SK784>SK786, 土坑墓の可能性が高い。
SK785	32	29	楕円	195	70	66	中土、瀬戸、釘		SK785>SK784, SK786, SK810, 土坑墓の可能性が高い。
SK786	30	31	楕円	(186)	(97)	70			SK786>SK784, SK786, SK787, 木割を埋めたものと思われる。
SK787	32	29	楕円	113	81	34			SK787>SK786, SK788, SK835, 土坑墓の可能性が高い。
SK788	29	29	(118)	(53)	17				SK788>SK784, SK786, SK787
SK789	29	29	円	56	52	25			SK789>SK781, SK790>SK880
SK790	30	29	楕円	(63)	83	35			SK790>SK790, 土坑墓の可能性が高い。
SK791	30	29	楕円	130	74	62	釘		SK791>SK790, 土坑墓の可能性が高い。
SK792	31	31	円	(27)	31	16			SK792>SK790
SK793	31	31	円	46	37	19			SK793>SK790
SK794	31	31	円	42	39	13			SK794>SK790
SK795	31	31	円	42	32	25			SK795>SK790
SK796	31	31	円	30	29	6			SK796>SK790
SK797	31	31	不整形	74	40	22			SK797>SK790
SK798	34	34	円	31	29	13			SK798>SK790

第9表 土坑一覧(8)

遺物番号	種類	形状	平面形	長さ・cm	幅	深さ	出土層	詳細時期	埋蔵事項
SK799	34	円	31	30	12				
SK800	34	円	62	62	23				
SK801	34	円	38	35	13				
SK802	42	34	不整形	240	114	9			
SK803	42	41	楕丸	941	75	15			
SK804	42	41	楕丸	109	80	13			
SK805	42	41		101	(75)	35			土壌層の可能性ある。 SK806<SD74b。 土壌層の可能性ある。
SK806	31	不整形	67	22	9				
SK807	31	楕丸	164	66	18				
SK808	31	円	54	52	20				SK808<SK724。
SK809	31	楕円	45	(15)	20				
SK810	31	円	33	(13)	19				SK810<SK785。
SK811	32	31	円	(34)	(33)	27			SK811<SK776。
SK813	32	34	不整形	154	(73)	27			SK813<SD812。
SK814	29	楕丸	98	85	54				土壌層の可能性ある。
SK815	29	楕丸	(100)	69	11				
SK816	29	円	73	73	23				
SK817	29	円	73	58	19		中土		
SK818	29	円	50	31	56				
SK819	29	円	62	51	34				
SK820	29	円	18	16	28				SK820<SD747。 SK821<SD747。 土壌層の可能性ある。 土壌層か?
SK821	29	楕丸	112	(86)	(29)	珠洲			
SK822	30	29	楕丸	175	149	13			
SK823	29	円	50	39	27				
SK824	29	円	39	36	20		中土		
SK825	39	円	28	25	11				
SK826	39	円	35	32	13				
SK827	39	円	46	36	10				
SK828	39	楕丸	56	59	16				
SK829	39	円	52	46	16				
SK830	30	29	楕丸	164	117	24			珠洲、穴屋、磁石、鉄片
SK831	40	39	楕丸	149	101	33			土壌層の可能性ある。 土壌層の可能性が高い。 SK832<SK686。
SK832	31	円	38	30	69				
SK833	40	39	楕円	39	37	26			
SK834	40	39	円	73	63	34			
SK835	40	39	楕丸	112	72	11			
SK836	40	39	楕丸	88	71	27			土壌層の可能性ある。
SK837	31	円	44	33	20				
SK838	31	円	35	32	65				
SK839	31	円	39	35	14				
SK840	29	円	43	35	27				
SK841	29	29	33	(46)	31				SK841<SK711。
SK842	30	29	不整形	106	105	33			土壌層の可能性ある。 SK843<SK644・SK666。 土壌層の可能性ある。
SK843	32	31	楕丸	112	101	38			
SK844	31	楕丸	105	84	19				
SK845	32	31	楕丸	119	113	32			SK845<SK846。 土壌層の可能性ある。 SK846<SK667・SK671・SK845。 土壌層の可能性ある。
SK846	32	31	(100)	(82)	28				SK847<SK850・SK851・SK700・SK701。 SK848<SK846。 SK849<SK848。 SK850<SK847・SK850<SK851。 SK851<SK850。 土壌層の遺物。
SK847	31	楕丸	(148)	(103)	12				
SK848	31	不整形	92	54	16				
SK849	29	円	24	30	42				
SK850	32	31	楕円	101	(80)	29			
SK851	32	31	方	(53)	54	16			
SK853	14			25	(11)	25			
SK856	39	円	29	26	12				
SK857	40	39	円	44	37	23			
SK858	40	39	円	25	23	12			
SK859	30	円	28	26	14				
SK860	29	円	36	30	14				
SK861	29	円	36	36	14				
SK862	30	円	30	25	11				
SK863	30	円	27	25	18				
SK865	40	39	円	72	69	19			
SK866	29	円	34	26	18				
SK867	29	円	45	39	17				
SK868	29	円	44	35	29				
SK869	30	29	楕円	102	73	17			
SK870	29	円	48	45	35				
SK871	30	29	円	40	36	31			
SK872	29	円	48	36	48				
SK873	30	29	円	(53)	53	21			
SK874	30	29	楕丸	259	200	19			土壌層の可能性ある。 SK875<SD747。 SK876<SD747。
SK875	30	29	楕丸	67	67	28			
SK876	29	30	30	30	14				
SK877	29	円	59	44	36				
SK878	29	楕円	64	39	14				
SK879	29	円	51	48	36				
SK880	30	29	楕円	36	36	29			SK880<SK790。
SK881	29	円	49	40	24				
SK882	29	円	32	27	9				
SK883	29	円	38	34	23				
SK884	29	円	33	35	17				
SK885	32	29	楕丸	(145)	(128)	74			SK885<SK610・SK767。 土壌層の可能性高い。
SK886	29	円	35	30	13				
SK887	29	円	48	48	12				
SK888	29	円	71	52	49				

第9表 土坑一覧(9)

調査番号	調査番号	図版	字面形	長さ・cm	幅	深さ	出土遺物	詳細説明	附記事項
SK889	29			72	57	22			SK889-SK757.
SK890	29			32	28	38			SK890-SK757.
SK891	42	41	扇凸	223	115	18			上層の可能性がある。
SK892	42	41	扇丸	105	83	13			土坑跡か？
SK893	14			205	(113)	45	バンドコ		SK893>SD460. 下層の軌道段にあり。
SK1001	15		円	34	31	6			
SK1002	15		円	30	25	8			
SK1003	15		円	30	25	7			
SK1004	15			56	(63)	11			SD1004<SK547. SK1003<SD754. SK1006<SD1010. SK1007<SK1008. SK1007<SD1010. SK1008<SK1007>SD1010.
SK1005	15			96	(48)	22			
SK1006	15			72	(42)	17			
SK1007	15			47	(40)	38			
SK1008	15			50	40	24			
SK1009	15		円	40	32	14			
SK1011	15			47	48	10			SK1011<SD1010. SK1012<SD1010. SK1013<SD1010. 上層のSK371に切られている。
SK1012	15			26	(21)	6			
SK1013	15			(130)	(116)	24			SK1013-SK1014. SK1014<SK1015. SK1015<SK1014. 上層の遺構に切られている。
SK1014	15			43	43	8			
SK1015	15		円	36	26	20			
SK1016	15			97	53	9	中土		上層の遺構に切られている。
SK1017	15		不整形	30	(12)	42			上層の遺構に切られている。
SK1018	15		(130)	31	11				SK1018<SK1084. SK1019<SK1020. SK1020<SK1019.
SK1019	15		扇凸	25	22	14			
SK1020	15		扇凸	47	26	11			
SK1021	15		円	27	24	16			
SK1022	15		扇丸	187	61	5			SK1022<SK1023. SK1022<SK1086. SK1023<SK1022.
SK1023	15		楕円	39	34	14			
SK1024	15		楕円	54	41	11			
SK1025	15		楕円	112	68	18			
SK1026	15		円	16	14	4			
SK1027	15		円	15	13	20			
SK1028	15		円	23	11	6			
SK1029	15		円	23	20	4			
SK1030	15		楕円	86	41	21			
SK1031	15		円	36	30	8			
SK1032	15		不整形	113	67	8			
SK1033	15		楕円	48	41	4			SK1033<SK1034. SK1034<SK1033. SK1033とSK1035の切合は不明。 SK1033とSK1034の切合は不明。
SK1034	15		不整形	(80)	(60)	7			
SK1035	15		不整形	(130)	(90)	6			
SK1036	15		円	47	39	42			
SK1037	12		円	26	25	-	中土		SK1037<SD567. SK1038<SK1039. SK1038<SK1082. SK1038<SD567. SK1039<SK1038<SK1082. SK1038<SD567. SK1040<SK1082>SD567. SK1041<SD567.
SK1038	12			(45)	35	10			
SK1039	12			25	(25)	20			
SK1040	12		円	77	75	24			
SK1041	12			55	47	15			
SK1042	12		円	40	(29)	5			
SK1043	12		楕円	47	40	17			
SK1044	12		楕円	45	33	21			SK1044<SK1046. SK1043<SK1046. SK1046<SK1044. SK1046<SK1045.
SK1045	12		楕円	66	(35)	18			
SK1046	12		不整形	74	49	28	中上、鉄刀子		
SK1047	12		円	38	22	7			
SK1049	12		円	21	21	8			
SK1051	12		円	39	39	11			SK1051<SK1082<SK1077. SK1052<SK1051. SK1052<SK1077.
SK1052	12		不整形	77	61	26			
SK1053	12		円	32	30	23			
SK1054	12		円	39	29	13			
SK1056	12		円	16	15	4			SK1056<SK1057. SK1057<SK1056 - SD1058. SK1061<SK1076. SK1062<SK1063. SK1063<SK1062. 上層のSK497に切られている。 上層のSK546に切られている。
SK1057	13	12		70	62	29			
SK1061	12		(31)	44	13				
SK1062	12		不整形	37	30	39			
SK1063	13	12		53	41				
SK1064	13	12		45	(30)	25			
SK1065	13	12	不整形	90	(76)	8			
SK1067	12		円	31	30	14			
SK1068	12		円	32	29	16			SK1068<SK1072 - SD567. 上層の遺構に切られている。
SK1069	12			(37)	27	21			
SK1070	12		円	49	42	10			SK1071<SK1070. SK1071<SK1072. SK1072<SK1071. SK1072<SD567.
SK1071	13	12		56	(33)	19			
SK1072	13	12		60	36	16			
SK1073	12		円	21	19	15			
SK1074	12		円	38	37	6			
SK1076	12		楕円	50	44	23			SK1076<SK1061. SK1077<SK1032<SK1051. SK1079<SK1046.
SK1077	12			38	(30)	35			
SK1079	12		(31)	39	39		中土		
SK1080	12		円	32	30	23			
SK1082	12			(45)	49	12			SK1082<SK1040. SK1082<SK1038. SK1082<SD567. SK1083<SK546.
SK1083	13	12	不整形	73	67	19			

第9表 土坑一覽(10)

発掘番号	探検年度	区画	平面形	長さ-cm	幅	深さ	出土遺物	計組時期	附記事項
SK1084	15	凹	30	29	35				
SK1085	15	凹	28	26	25				SK1084<SK1018, SK1085<SK1022.
SK1086	15	凹	(16)	(37)	37				上層の遺構に切られている。
SK1087	12	鎌刀	112	95	34				
SK1088	15	掘門	40	38	15				
SK1090	13	凹	49	40	30				SK1090<SK546.
SK1091		凹	25	22	15				
SK1092		凹	53	46	11				
SK1093		凹	30	30	20				
SK1094	10	凹	53	52	11				
SK1095	10	凹	60	30	8				
SK1096	10	凹	86	80	6				SK1096<SK1007.
SK1097	10	不整形	33	31	30				SK1097<SK1096.
SK1099	11	凹	32	30	12				
SK1100	11	凹	50	38	22				
SK1101	11	凹	36	30	30				
SK1102	10	凹	30	25	10				
SK1103	13	凹	96	74	26	中土			
SK1104	10	凹	69	55	7	中土			
SK1105	11	凹	38	26	8				SK1105<SD1120・SK1165, SK1106<SK1107.
SK1106	11	凹	(20)	25	8				SK1107<SK1106・SK1108.
SK1107	11	凹	75	56	53	中土	15C前~15C		
SK1108	11	凹	(31)	40	9				
SK1109	11	凹	24	22	18				
SK1111	11	掘門	90	70	53	中土	15C後~16C		
SK1112	11	凹	31	30	30				
SK1114	10	陶丸	102	59	40	中土			
SK1115	13	陶丸	100	100	50	中土、釘			自然流麗に蓋子部分が切られている。
SK1116	10	凹	30	23	11				
SK1117	10	凹	25	23	13				
SK1118	11	凹	45	35	40	中土	16C前~		
SK1119	11	凹	22	18	11				
SK1121	11	凹	25	25	8				
SK1122	11	凹	33	30	20				
SK1124	11	掘門	28	27	14				SK1124<SD1125.
SK1125	11	掘門	31	30	22				
SK1127	11	不整形	107	100	-	中土	15C末~16C初	SK1127<SD1125, SK1127<SK1172.	上層の遺構に切られている。
SK1128	11	凹	52	48	39				
SK1129	11	不整形	78	69	39	中土、珠洲	15C後~16C初		
SK1130	13	凹	96	70	39	中土			
SK1131	11	凹	83	70	39	中土	15C末~16C前		
SK1132	11	凹	70	60	14				SK1132<SK1136.
SK1133	11	凹	19	15	8				
SK1134	11	凹	23	20	7				
SK1135	11	掘門	39	30	21				
SK1136	11	掘門	73	(50)	11	中土	15C~		
SK1137	11	凹	43	(35)	18				SK1136<SK1132, SK1137<SK1136, SE304の埋形内で検出した。
SK1138	11	凹	30	25	16				
SK1139	11	凹	27	22	10				
SK1141	12	凹	39	35	50	珠洲			
SK1142	15	凹	30	24	28				上層のSD567に切られている。
SK1143	15	凹	38	29	33				
SK1144	15	不整形	198	115	21				上層のSD567に切られている。
SK1145	16	凹	39	39	18				
SK1146	11	凹	40	(26)	12				SK1146<SK1147, SK1147<SK1146, SK1148<SK1149, SK1148<SK1166・SK1167, SK1149<SK1148, SK1153<SK1133・SK1168, SK1153<SK1132.
SK1147	11	凹	45	(36)	54				
SK1148	13	11	195	150	20	中土、珠洲	15C		
SK1149	11	凹	175	(70)	35	中土、八咫、珠洲、釘	15C末~16C前		
SK1152	11	不整形	(43)	160	37	中土、珠洲	15C後~		
SK1153	12	凹	30	23	4				
SK1154	12	凹	35	29	18				
SK1155	12	凹	28	24	16				
SK1156	12	凹	30	30	16				
SK1157	12	凹	26	22	6				
SK1158	12	凹	38	35	20				
SK1159	12	凹	42	36	4				SK1158<SD1163.
SK1160	12	凹	130	(112)	25				SK1160<SD1150.
SK1161	11	掘門	82	60	15				
SK1162	11	凹	31	31	11				
SK1164	11	凹	(73)	(24)	16				SK1164<SK1165<SK1146, SK1165<SK1165, SK1166<SK1148, SK1167<SK1148, SK1168<SK1132.
SK1165	11	凹	29	30	30				
SK1166	11	凹	26	21	14				
SK1167	11	凹	21	16	19				
SK1168	11	掘門	55	48	5				
SK1169	11	掘門	65	50	41				
SK1170	11	凹	50	30	30				上層の遺構に切られている。
SK1172	11	凹	(23)	52	16				SK1172<SK1127.
SK1173	11	凹	28	28	17				
SK1174	11	凹	25	24	13				
SK1175	13	11	不整形	100	87	19			SK1175<SD1180, SD1180が奥へ分かれている部分を切っている。
SK1176	11	凹	58	60	7				
SK1177	10	掘門	43	40	19	中土			
SK1178	10	凹	41	41	10				SK1178<SD1180, SK1179<SD1180, SK1181<SD1180, SK1182<SK1183, SK1183<SK1182.
SK1179	10	凹	30	29	10				
SK1181	10	凹	100	75	31				
SK1182	10	掘門	57	50	18				
SK1183	13	10	不整形	280	290	36	中土、珠洲、掘門、石組	15C後~	

第9表 土坑一覧(11)

発掘番号	種類	形状	平面形状	長さ・cm	幅	深さ	出土遺物	採掘時期	特記事項
SK1186	13	10	不整形	732	185	34			SK1186-SK1185, SK1186-SK1189, SK1187-SK1186, SK1189-SK1186
SK1187		10		40	32	23			
SK1189		10	横円	90	64	49			
SK1190		10	横円	52	30	14			
SK1191		10	横円	92	50	33	中土		
SK1192		10	円	38	31	23			
SK1194		10	横円	68	36	37			SK1194-SK1196, SK1195-SK1194, SK1196-SK1197, SK1197-SK1196, SK1198-SD1180
SK1195		10	横円	82	30	16			
SK1196	13	10	円	186	90	35	鉄鍬		
SK1197		10	円	25	20	31			
SK1198		10	円	32	32	30			
SK1199		10	円	28	25	23			
SK1200		13	円	90	81	29			
SK1201		10	円	27	25	14			
SK1203		10	円	31	30	30			
SK1204	13	10	不整形	35	24	8			SK1204-SK1202
SK1205		10	不整形	170	115	21			
SK1206		10	円	45	38	34			
SK1207		10	円	37	27	8			
SK1208		10	円	32	27	15			
SK1209		10	円	46	42	35			
SK1210		10	円	40	34	11			
SK1213		10	円	20	19	21			上層のSK200の層相に切られている。
SK1214		10	円	19	18	17			
SK1218		10	円	16	15	13			
SK1219		10	円	40	37	22			
SK1221		9	円	40	35	14			
SK1222		9	円	37	33	14			
SK1223		9	円	63	53	16	漆器		
SK1224		9	円	(53)	42	12			
SK1225		9	-	-	160	20			SK1225-SK1233・SK1234・SK1226
SK1226		9	円	46	35	8			
SK1227		9	円	121	(55)	9			SK1227-SK1226
SK1229		9	円	52	50	9			
SK1230		9	円	30	25	6			
SK1232		9	円	39	33	10			
SK1233		9	円	47	32	17			
SK1234		9	円	30	27	15			
SK1235		9	円	27	25	7			
SK1236		8	横円	32	31	4			
SK1237		8	横円	40	30	6			
SK1238		8		31	22	7			上層のSK208に切られている。
SK1239		8	円	42	37	14			
SK1242		8	円	23	17	4			上層のSK209の底で検出された。
SK1243		8	円	34	16	15			
SK1245		8	円	28	22	11			
SK1246		8		66	37	11			上層のSK210に切られている。
SK1247		4		96	33	3			SK1247-SK1248, SK1248-SK1247
SK1248		8	円	57	38	16			上層のSK210に切られている。
SK1249		8	円	22	18	4			SK1248-SK1247
SK1251		8	横円	40	28	11			
SK1252		8	横円	40	30	10			
SK1253		8	横円	23	20	3			
SK1255		8	円	30	(18)	25			調査以外へ運びかえている。
SK1257		8	円	20	19	5			
SK1259		8	円	23	19	8			
SK1260		8	不整形	153	(100)	54			SK1260-SK1261, SK1262-SK1263, SK1263-SK1262
SK1262		8	横円	25	17	10			
SK1263		8	横円	(32)	30	12			
SK1264		8	不整形	35	38	22			
SK1267		8	円	35	26	8			SK1267-SD1266
SK1269		8	横円	51	45	15			
SK1274		8	横丸	(136)	112	14			上層のSK210に切られている。
SK1275		8	横丸	45	39	12			
SK1276		8	不整形	84	66	15			
SK1277	13	8	不整形	65	50	9			上層の遺構に切られている。
SK1278		8	円	67	56	24			
SK1279		8	横円	55	33	8			
SK1280		8	円	38	36	16			SK395と重なっている。
SK1281		8	円	41	39	7			SK101と重なっている。
SK1282		8	円	63	34	8			SK396と重なっている。
SK1283		8	円	45	42	22			
SK1287	13	8	横円	76	63	25			上層のSK48に切られている。
SK1288		8	円	20	18	7			
SK1289		8	方	29	24	19			
SK1291		8	円	57	56	18			
SK1293		9	円	27	23	24			柱穴の可能性が高い。
SK1294		9	円	28	30	8			
SK1295	16	10	不整形	130	113	45	中土、漆器、横円、鉄鍬、釘	15C後-16C前	SK1295-SK1186, SK1297-CSD1180, SK1298-SD1180, SK1299-SD1180
SK1297		10	円	27	19	33			
SK1298		10	円	26	18	22			
SK1299		10	円	19	15	5			
SK1300		10	円	49	41	15			自然落石内を約5cm掘り下すところで検出したもの。以下SK1312まで、SK1349-SK1351-SK1356まで同様。
SK1301		10	円	44	38	16			
SK1302		10	円	24	20	16			
SK1303		10	円	29	25	11			
SK1304		10	円	33	22	21			
SK1305		10	円	22	21	10			

第9表 土坑一覧 (12)

遺物番号	層	位置	形状	長さ・cm	幅	深さ	出土遺物	発掘時期	特記事項
SK1306	10	円	25	25	6				
SK1307	10	円	39	30	26				SK1307-SK1312.
SK1308	10	円	43	39	12				
SK1310	11	円	26	25	20				
SK1311	11	円	23	21	19				
SK1312	10	円	59	23	16				SK1312-SK1098・SK1307.
SK1313	10	円	46	35	9				
SK1314	8	円	25	25	15				
SK1315	14	不整形	70	61	8				
SK1316	14	楕円	85	70	11				
SK1317	14	円	35	22	32				SK1317-SK1318.
SK1318	11	円	46	(45)	8				SK1318-SK1317.
SK1319	14	楕円	40	30	25				
SK1320	14	円	29	22	12				
SK1321	14	円	17	16	15				
SK1322	14	円	16	15	7				
SK1323	14	楕円	30	22	10				
SK1324	14	円	29	27	12				
SK1325	14	円	35	31	11				
SK1326	14	円	30	25	32				
SK1327	11	円	21	24	6				SD460に切られている。
SK1328	14	円	25	22	10				
SK1329	14	円	40	25	31				
SK1331	14	43	(21)	5					上層の遺構に切られている。
SK1332	14	25	(17)	8					上層の遺構に切られている。
SK1333	14	楕円	37	32	6				
SK1334	14	円	39	31	23				
SK1335	14	円	45	31	13				
SK1336	14	円	33	28	10				
SK1337	11	円	61	55	9				
SK1338	14	円	31	30	29				
SK1339	14	不整形	42	31	7				
SK1340	14	円	26	24	15				
SK1341	14	円	33	26	9				
SK1342	14	円	33	32	8				
SK1343	14	円	44	27	13				
SK1344	14	円	22	22	12				
SK1345	14	不整形	36	30	13				
SK1346	14	不整形	45	36	12				
SK1347	14	隅丸	135	50	13				SK1347-SK1348. 上層のSK425に切られている。
SK1348	14	54	55	10					SK1348-SK1347.
SK1349	16	11	小整形	600	370	43	中土、珠洲、八尾、瀬川、吉崎、白 鹿、丸貝バンドコ、バンドコ、銅、 鉄釘	15C~16C前	自然直露の下で確認したもので、大きな川原石が入っている。片側の石を抜いてはつら入るだけの状況である。 SK1350<SD1180. SK1351-SK1352. 上層のSF309に切られている。
SK1350	13	10	72	110	17	中土			
SK1351	11	11	71	50	13	中土			15C末~16C初
SK1352	13	11	251	210	13	中土			SK1352-SK1351. 上層のSF309に切られている。
SK1353	11	11	41	31	25				SK1353-SK1355.
SK1354	11	楕円	59	41	11				
SK1355	11	円	41	38	10				SK1355-SK1353.
SK1356	10	26	21	6					SK1356-SK1386.
SK1360	10	57	(30)	31					
SK1361	13	10	240	220	42	中土、楕円、珠洲			16C中~ SK1361<SD1180.
SK1362	12	円	39	35	23				
SK1363	12	円	36	33	23				珠洲、瓦質銅鉄
SK1365	11	円	26	20	18				SK1365-SK1164.
SK1366	11	円	26	21	9				
SK1367	11	22	(16)	30					
SK1368	10	円	34	30	16				礎石のような石が上部にある。

第10表 木製品一覧(1)

発掘番号	図版	遺構一下	出土地点	種類	規格・長cm	備	厚	備考
164	45	SP1202		柱	48.6	14.6		
173		SI32		漆器	(8.9)	(0.7)		
174		SI32		漆器				
175	40	SE32		簀	4.1	4.0		
176		SE32		簀	(9.3)	0.5		
177		SF32		簀	(10.3)	0.5		
178		SE32		簀	(20.2)	0.6		
179		SE32		簀	(10.2)	0.5		
180		SI32		簀	(10.6)	0.8		
181	40	SE32		簀	(20.2)	0.7		
182	40	SE32		簀	20.6	0.6		
183		SF32		簀	(16.8)	0.6		
184		SE32		簀	(15.4)	0.9		
185		SE32		簀	(14.3)	0.5		
186		SI32		簀	15.0	0.6		
187	40	SI32		簀	(14.6)	0.6		
188	40	SI32		簀	14.9	0.4		
189	40	SE32		簀	(16.0)	0.4		
190	40	SE32		簀	15.2	0.5		
191		SF32		簀	10.4	0.5		
192		SE32		簀	13.8	0.5		
193		SI32		簀	(12.1)	0.7		
194		SI32		簀	12.6	0.7		
195	40	SE32		簀	(13.3)	0.7		
196	40	SE32		折敷	12.0	7.3		
197	40	SF32		漆器板	31.7	7.5		
198	40	SF32		加工木	74.2	3.2		
199		SE32		板	29.0	3.0		
200		SI32		加工板	22.6	6.4		
201	40	SI32		柱	23.5	11.0		
202		SE32		板	84.4	14.2		
203	40	SF32		加工板	52.0	21.2		
204	44	SF304		簀	(10.2)	0.5		
205	44	SE304		簀	(10.7)	0.4		
206	44	SI304		簀	12.8	0.9		
207	44	SE304		簀	(13.0)	0.5		
208		SE304		加工板	16.2	3.9		
209	44	SE304		加工棒	19.4	1.3		
210	44	SF304		簀	13.3	0.7		
211	44	SE304		簀	16.5	0.5		
212	44	SE315		簀	17.8	0.8		
213	44	SI315		簀	(16.6)	0.9		
214	44	SE315		簀	(15.2)	0.6		
233	43	SE411		漆器柄	(8.4)	(1.8)		
234	41	SF203		下駄	11.0	6.1	A 11.0 A1 21.8 A2(8.2) B 7.7 C(8.9) E L4 H 2.9 J1 L3	
235	41	SE203		版木?	4.1	2.2		
240	42	SE203		動物	47.2	12.0		
241	42	SI203		井戸枠	68.0	6.2		
242	42	SE203		井戸枠	68.2	7.2		
243		SE203		井戸枠	36.3	8.3		
244	41	SF203		井戸枠	77.2	6.6		
245		SE203		井戸枠	32.9	10.4		
246		SE203		井戸枠	41.5	9.6		
247		SI203		井戸枠	46.9	9.6		
248	42	SE203		井戸枠	93.0	6.6		
249	42	SF203		井戸枠	80.6	6.6		
250	41	SF203		井戸枠	70.2	12.2		
251	41	SE203		井戸枠	70.4	12.0		
252	42	SE203		井戸枠	61.0	12.8		
253	41	SI203		井戸枠	66.8	15.8		
254	43	SE1203		井戸枠	36.9	6.5		
255	43	SE1203		井戸枠	56.6	7.4		
256	43	SF1203		井戸枠	56.2	7.6		
257		SE1203		井戸枠	36.4	3.4		
258	43	SI1203		井戸枠	68.2	5.0		
259	43	SI1203		井戸枠	74.4	5.4		
287		SD460	X38-40Y51-E2	板	11.9	3.1		
289			X60Y79-N	折敷	11.8	4.4		
383	45	SP63		柱	62.6	18.6		
384	45	SK109		加工板	15.4	7.0		
386	45	SP20		柱	48.4	17.2		
387	45	SPO4		柱	34.3	12.7		
388	45	SP106		柱	31.1	13.5		

第10表 木製品一覽(2)

押戻番号	四取	遺物コード	出土地点	種類	規格・長cm	箱	厚	備考
598	43	SE901		漆器碗	(8.5)	0.6		
599	43	SE901		板	17.7	4.2		
601	44	SE82		漆器碗	9.8	7.0		
602	44	SE82		箸	(20.2)	0.5		
603	44	SE82		加工板	28.2	6.8		
604		SE82		板	6	1.9		

第11表 金属製品一覽

押戻	押戻番号	探検番号	遺物コード	出土地点	種類	規格・長cm	幅	厚	重g	時期	備考
53	19	39	SK239		鋤鎌草	4.4	4.5		16.86		
45	39	SK239		釘	7.8	5.7			21.83		
54	55	39	SK257		釘	4	2.9(周)		2.3		
58	39	SK483		鉄錐	3.7	3.8	2.3		33.0		
66	39	SK287		鋼	9.8	5.5	3.4		137.52		
67	39	SK400		刀子	8.2	6.2(周)			32.86		
68	39	SK402		釘	4.2	5(周)			9.38		
69	39	SK453		釘	7.7	4.3(周)			12.56		
70	39	SK484		釘	3.2	4.3(周)	9.4				
72	39	SK509		小釘	2.3	2.2	0.9		4.4		
73	39	SK417		棒状	12.3	6.3(周)			45.88		
77	39	SK438		釘	4.2	4.1(周)			6.3		
86	39	SK546		釘	3.4	3.7(周)			4.02		
87	39	SK743		瓦板	5.8	4.3(周)			6.99		
88	39	SK580		釘	5.5	4.4(周)			6.68		
94	39	SK755		釘	6.0	3.6(周)			18.96		
95	39	SK755									
109	39	SK830		鉄錐	6.8	3.7	3.6		56.99		
56	131	39	SK1349		釘	6	4.3(周)		11.78		
132	39	SK1349		釘	4.9	3.7(周)			6.4		
57	165	38	SK1196		口金?	3.5	3.7	1.4	10.65		
166	39	SK1149		釘	5.5	4.8(周)			11.26		
167	39	SK1286		鉄錐	4.2	3.0	1.8		14.19		
168	39	SK1115		釘	6.7	5.3(周)			16.13		
60	216	39	SE315		釘	5.8	5.7(周)		13.52		
217	39	SE315		釘	6.3	5.8(周)			16.73		
218	44	SE315		刀子	9.5	7.4(周)			36.6		
228	39	SE675		釘	6.2	5.4(周)			14.06		
62	279	39	SD161		釘	2.6	2(周)		1.18		
284	39	SD460		X37Y34	釘	4.40	3.7(周)		3.17		
286	39	SD460		X40Y31	釘	4.1	3(周)		4.02		
288	39	SD463		X42Y30	鉄錐	4.5	2.4	1.9	22.74		
299	39	SD463		X42Y30	釘	3.0	3.3(周)		6.17		
319	38	SD768		X42Y30	口金?	3.0			8.54		
320	38	SD749		X36Y39	鉄	2.4	2.4(周)		24.49		6枚付着
68	504	38	X54-55Y50-51		小柄	6.8	1.5	0.7	12.59		
505	39	X62Y82	II	刀子	7.4	2.8	3.1		34.99		
506	39	X31Y31	II	釘	5.3	4.3(周)			12.46		
507	39	X36Y36	II	釘	6.0	3.4(周)			7.53		
508	39	X42Y49	II	ノミ	6.1	4.0(周)			10.95		
509	39	X57Y70	II	釘	5.4	5.1			12.18		
510	39	X42Y51	II	釘	5.8	3.4(周)			4.70		
511	39	X33Y51	II	釘	5.7	5.1(周)			11.64		
512	39	X60Y82	II	釘	7.5	6.0(周)			33.33		
513	39	X53Y58	II	釘	5.7	5.0(周)			8.60		
514	39	X52Y61	II	釘	5.0	5.4(周)			17.74		
515	39	X56Y82	IV	釘	5.6	4.1			9.63		
516	39	X83Y32	II	刀子	3.4(長)	1.4(幅)			5.30		
517	39	X37Y78	II	刀子	4.7	1.8	1.3		8.95		
518	39	X60Y71	II	刀子	6.0	2.4	1.5		21.26		
519	39	X52Y57	II	ノミ	5.8	6.6(周)			23.80		
520	39	X53Y52	II	板状	2.5	2.7	1.2		6.92		
521	39	X60Y80	II	鋼	3.9	3.5	2.3		36.75		鑄造品?
522	39	X30Y28	II	鋼?	4.8	3.5	2.3		34.65		
523	38	X39Y52	II	口金?	3.2(径)				7.63		
524	38	X31Y58	II	輪(口金?)	3.4(径)				8.52		
525	38	X54Y66	IV	口金?	5.3	4.1	2.0		27.48		
526	38	X40Y47	II	輪状	4.3(長)	2.4(厚)	1.3		10.75		
527	38	X31Y61	II	金具	0.8	0.6(周)	0.5		1.93	0.34	
528	39	X36Y32	II	鉄錐	3.8	3.1	2.6		58.96		
530	38	SD749		X36Y39	鉄	2.3			2.16		
531	38	SK197		鉄	2.3				2.74		
532	38	X33Y30	II	鉄	2.4				2.19		水室通貫
533	38	X39Y40	II	鉄	2.4(径)				4.88		開元通貫
534	38	X39Y40	II	鉄							
535	38	X37Y40	II	鉄	2.4				1.97		元祐通貫
536	38	X37Y40	II	鉄	2.3				1.66		咸平元貫
537	38	X50Y38	II	鉄	2.0(径)				0.65		口口口
552	39	SK96		釘	4.8	3.1(周)			4.66		
553	39	SK96		釘	6.4	3(周)			5.11		

第12表 石製品一覧

押印	押印番号	図版番号	遺構コード	出土地点	種類	材質	規格・長さcm	幅	厚	重量	備考
33	18	34	SK239		石臼(上)		14.0	20.0	11.1	3200	
	46	32	SK209		砥石		4.2	2.1	0.5	6.64	
	47	32	SK209		砥石		4.1	1.1	0.5	3.08	
54	64	33	SK456		ノンドコ		7.8	3.4	2.2	24.3	
	74		SK456		ノンドコ		4.5	4.0	0.6	7.43	
	76	31	SK438		硯		4.5	3.8	0.4	8.44	
	77		SK438		ノンドコ		4.7	2.2	1.1	8.63	
	79	34	SK438		石臼(上)		20.6	28	12.1	9100	
55	89	33	SK512		ノンドコ		5.5	4.3	2.2	21.46	
	96	33	SK620		ノンドコ		8.0	4.0	4.3	100	
	97	33	SK893		ノンドコ		7.6	6.0	2.4	49.3	
	110	33	SK620		ノンドコ		10.0	8.1	3.4	208.39	
	111	32	SK830		砥石		10.6	4.1	2.4	146.34	
56	128	32	SK1349		砥石		5.2	1.6	0.7	6	
	129	32	SK1349		砥石		5.6	2.1	0.5	5.95	
58	172	32	SE32		砥石		5.0	3.5	0.8	17.06	
60	229		SE482		ノンドコ		7.9	2.6	2.6	27.18	
	230	44	SE482		五輪塔		16	17.2	3.8	2100	火輪の頂部
62	288	32	SD460		砥石		4.6	3.5	1.6	21.67	
63	297	33	SD433		ノンドコ		10.4	4.2	2.7	49.83	
	308	33	SD749	X28Y44	ノンドコ		6.3	2.9	1.0	9.21	
	309	33	SD749	X30Y43	ノンドコ		7.6	5.0	2.9	47.18	
	310	32	SD574		砥石		3.2	2.8	0.5	6.79	
	311	32	SD607	X57Y05	砥石		3.7	3.0	1.0	14.43	
	312	31	SD460	X40Y33	石臼		18.1	42	13.3	15900	文字あり
	313	33	SD460	X38~40Y51~52	ノンドコ		9.6	7.8	6.0	216.59	
64	325	33	用水	X45Y50	ノンドコ		6.5	5.3	3.7	64.3	
	334	32	用水	X47Y48	砥石		8.8	16.0	5.5	800	
	335	35	用水		宝篋印塔		19.2	19.4	21.0	16900	塔身(文字あり)
	336	35	用水		宝篋印塔		21.4	30.0	21.4	28500	蓋
	337	35	用水		五輪塔		32.3	31.7	151.1	27800	火輪
	338	35	用水		石塔の基礎		29.7	29.7	15.7	20800	八角形に面取り
68	495	32		X52Y66 Ⅰ	砥石		3.9	2.0	0.8	9.32	
	496	32		X41Y50 Ⅱ	砥石		10.7	3.2	1.2	61.3	
	497			X40Y54 Ⅰ	砥石		4.8	2.6	2.1	22.51	
	498	32		X36Y56 Ⅱ	砥石		3.4	2.6	0.4	3.3	
	499	33		X41Y48	ノンドコ		6.4	5.0	2.0	33.79	
	500	32		X52Y69 Ⅱ	砥石		6.5	4.7	1.4	62.62	
	501	32		X41Y50 Ⅱ	砥石		4.5	3.7	1.4	36.58	
	502	33		X65Y81 Ⅱ	磨製石斧		11.2	5.2	2.6	283.91	
	503	34		X65Y58 Ⅱ	石臼(下)		19.9	15.2	12.3	4700	
70	538	31		X50Y69 Ⅲ下	ノンドコ		12.2	11.8	3.1	269.14	
	539	31		X50Y69 Ⅲ下	ノンドコ						
	540	31		X50Y69 Ⅲ下	ノンドコ						
	541	33		X40Y53 Ⅲ	砥石		3.6	2.8	1.3	21.86	
	542	32		X39Y52 Ⅲ	砥石		3.8	2.7	0.8	12.23	
	543	33		X43Y45 Ⅲ	砥石		4.6	3.7	1.4	41.99	
	544	32		Ⅲ	砥石		11.7	7.0	8.8	1200	
	545	32		X58Y78 Ⅲ	砥石		7.8	4.7	5.1	200.01	
71	546	33	SK03		砥石		6.7	3.7	1.8	85.18	
	554	31	SK95		硯		6.8	5.0	1.1	42.13	
	557	32	SP50		砥石		4.2	2.4	1.3	14.82	
72	578	34	SK95		切石		22.6	24.4	17.5	19500	
	585		SK145		加工石		19.3	23.4	16.5	14100	
73	592	33	SD08	X58Y79	砥石		8.2	3.4	1.7	70.58	
	600	44	SE82		石臼(上)		25.0	14.8	10.7	4000	

第13表 土器一覽 (1)

保存所番号(調査番号)	遺構番号	出土地点	種別	数量	口径×高	器高	底径	高径	器厚	時期	色 調	胎 土	備 考
1	SK02	SK1703 上層	中土土器	瓦	88	(15)		0.5		5YR7/6	灰色		
2	18	SK02	中土土器	皿	28	30		0.6		10YR6/3	淡黄褐色		
3	30	SK47	青瓦	瓦	300	(18)		0.4		2S6Y6/2	灰青褐色	25Y6/4 灰色	
4	4	SK62	中土土器	皿	50	15				10YR7/4	1.2-2.5黄褐色		
5	5	SK57	中土土器	皿	58	(20)		0.6		10YR7/4	1.2-2.5黄褐色		
6	6	SK61	中土土器	皿	40	(16)		0.6		10YR7/4	1.2-2.5黄褐色		
7	7	SK61	中土土器	皿	58	(14)		0.4		2S17/2	灰青褐色		赤土, 赤瓦
8	8	SK62	中土土器	皿	68	(13)		0.6		2S17/2	灰白褐色		
9	9	SK66	中土土器	皿	78	15		0.6		10YR7/3	1.2-2.5黄褐色		
10	26	SK130	埴州	钵	43(15-9)	(18)	0.4(1.1)	0.9		5B-0	灰色		丸山古子・北077
11	11	SK24	土器	土器	43(15-9)	(18)	0.4(1.1)	0.9		10YR6/3	1.2-2.5黄褐色		
12	12	SP40	中土土器	皿	98	15		0.5		2S17/2	灰白色		口縁部削片
13	13	SK165	中土土器	皿	220	(15)		0.4	10C	2S17/2	灰白色		
14	14	SK165	中土土器	皿	138	(20)		0.5	13C	13C-赤一灰青	1.2-2.5黄褐色		
15	15	SK230	中土土器	皿	140	(28)				10YR5/2	1.2-2.5黄褐色		
16	16	SK239	中土土器	天目	110	(30)		0.55		2S18/3	淡青褐色		
17	17	SK239	中土土器	天目	80	(29)	1.5	0.4		2S17/4	褐色	25Y6/2 黄褐色	
18	18	SK190	中土土器	皿	920	(40)		0.6		6Y16/2	緑褐色	10Y0 灰白色	内外面削片
19	19	SK190	中土土器	皿	320	(14)		1.0		10YR5/2	淡青褐色		赤瓦
20	20	SK225	中土土器	皿	280	(30)		0.5		10YR5/4	淡青褐色		
21	21	SK225	中土土器	皿	320	(30)		0.5		10YR5/4	淡青褐色		
22	22	SK225	中土土器	皿	280	(30)		0.5		10YR5/4	淡青褐色		
23	23	SK186	中土土器	皿	70	14		0.7		2S17/6	褐色	25Y6/4 黄褐色	削片
24	24	SK186	中土土器	皿	35			0.5		2S17/6	褐色	25Y7/2 黄褐色	削片
25	25	SK226	中土土器	鉢	35			0.5		2S17/6	褐色	25Y7/2 黄褐色	削片
26	26	SK226	中土土器	鉢	35			0.5		2S17/6	褐色	25Y7/2 黄褐色	削片
27	27	SK226	中土土器	鉢	35			0.5		2S17/6	褐色	25Y7/2 黄褐色	削片
28	28	SK02	埴州	钵	360	(35)		1.1		10Y0	灰色		
29	29	SK08	埴州	钵	320	(35)		0.8		10Y0	灰白色		
30	30	SK09	埴州	钵	320	(35)		0.8		10Y0	灰白色		
31	31	SK03	中土土器	皿	70	(22)		0.6		10YR7/6	褐色		
32	32	SK03	中土土器	皿	70	(22)		0.6		10YR7/6	褐色		
33	33	SK04	中土土器	皿	140	(22)		0.6		10YR7/6	褐色		
34	34	SK204	中土土器	皿	160	(23)	6.3	0.6		15YR7/3	淡青褐色		
35	35	SK204	中土土器	鉢	206	(80)		1.0		15YR7/3	淡青褐色		
36	36	SK314	中土土器	皿	113	(20)		0.3		2S18/3	淡青褐色		
37	37	SK314	中土土器	皿	100	(19)		0.3		2S18/3	淡青褐色		
38	38	SK314	中土土器	皿	110	(16)		0.3		5Y16/6	灰色		
39	39	SK314	中土土器	皿	70	15		0.3		10YR7/3	1.2-2.5黄褐色		
40	40	SK249	中土土器	皿	88	12		0.3		2S18/2	灰白色		
41	41	SK226	中土土器	皿	80	(11)		0.5		2S18/3	淡青褐色		
42	42	SK278	中土土器	皿	80	(11)		0.5		10YR6/2	淡青褐色		
43	43	SK202	中土土器	皿	70	10		0.5		10YR7/3	灰白色		
44	44	SK202	中土土器	皿	68	(10)		0.4		10YR7/3	1.2-2.5黄褐色		
45	45	SK202	中土土器	皿	68	(10)		0.4		10YR7/3	1.2-2.5黄褐色		
46	46	SK206	中土土器	鉢	158	(27)		0.6		6Y16/4	1.2-2.5黄褐色		削片
47	47	SK206	中土土器	鉢	158	(27)		0.6		6Y16/4	1.2-2.5黄褐色		削片
48	48	SK206	中土土器	鉢	158	(27)		0.6		6Y16/4	1.2-2.5黄褐色		削片
49	49	SK206	中土土器	鉢	158	(27)		0.6		6Y16/4	1.2-2.5黄褐色		削片
50	50	SK312	中土土器	皿	90	22		0.6		2S17/1	灰白色		削片
51	51	SK267	中土土器	高脚(口)	300	(110)		0.6		10Y12/1	黄褐色		削片

第13表 土器一覽(2)

図録掲載番号(図録番号)	高麗コトナ	出土地点	種類	形状	口径径	口徑 $\phi$	器高	底径	高径比	器重	色調	土質	備考
52	SK3015		高麗コトナ	片口鉢	338	(80)		14	1.4		N6.0		40号日本古銭(25mm)同類 緑褐色
53	SK327		中世土師器	甕	80	14					25YR7/4		
54	SK327		中世土師器	甕	80	15			0.5		25YR7/4		
56	SK403	N61	中世土師器	甕	80	17					10YR7/4		土師器(伴器)
57	SK383		中世土師器	甕	122	27			0.5		10YR7/2		内外面滑注青
59	SK474		中世土師器	甕	110	20			0.5		10YR6/3		
60	SK415		中世土師器	甕	78	(16)		0.4			25Y7/2		
61	SK450		中世土師器	甕	85	13			0.8		5YR6/6		
62	SK488		中世土師器	甕	85	20			0.6		5YR7/6		
63	SK496-904		中世土師器	甕	89	19			0.6		5YR7/6		
65	S1071 SK4178	X3P-64Y-881-遺蹟	八咫	甕	(60)		14.0		0.6		25Y7/2		内外面滑注青 緑青
71	SK408		中世土師器	甕	278	(40)					5YR6/6		
75	SK438		中世土師器	甕	80	14.0			0.5		10YR8/2		
80	SK413	N61	中世土師器	甕	74	20			0.4		10YR6/3		
81	SK413		中世土師器	甕	80	10			0.4		10YR6/3		
82	SK449		中世土師器	甕	78	(18)			0.5		5YR7/4		
83	SK430	N63 X20719 X20737 遺蹟	八咫	甕鉢(片口)							25YR7/4		9号古銭(日本単位25mm同類)
84	SK430		中世土師器	甕	88			1.6			5YR6/6		
85	SK446		中世土師器	甕	88	22	4.2		0.5		5YR6/6		
91	SK455		中世土師器	甕	78	14			0.5		25YR6/4		
91	SK455		中世土師器	甕	96	(15)			0.3		5YR6/6		
92	SK418		中世土師器	甕	98	(13)			0.5		25YR6/3		
93	SK418		中世土師器	甕	138	(19)			0.5		25YR7/1		
98	SK464	X5031000 X503103 遺蹟	甕鉢	甕鉢	240	(100)			1.3		5YR6/6		
98	SK468		中世土師器	甕	110	(18)			0.6		25Y7/2		
100	SK463		中世土師器	甕	60	(20)			0.3		25Y7/6		
100	SK464		中世土師器	甕	90	(19)			0.3		10YR7/4		
100	SK473		中世土師器	甕	80	14.0			0.4		25YR7/1		
100	SK473		中世土師器	甕	84	18			0.5		25YR7/1		
104	SK484		中世土師器	甕	76	19			0.5		25YR7/1		
106	SK485		中世土師器	甕	76	(21)			0.5		25YR6/2		
106	SK489		中世土師器	甕	80	(11)			0.65		25YR7/1		
107	SK403		中世土師器	甕鉢	80	(3)			1.3		25YR7/1		
108	SK786		中世土師器	甕鉢	90	(9)	4.8				10YR6/3		
112	SK1107		中世土師器	甕	80	(13)			0.4		25YR6/8		
113	SK1107		中世土師器	甕	80	(13)			0.65		5YR7/6-灰濁		
114	SK1079		中世土師器	甕	80	(19)			0.5		10Y7/2/6		
115	SK1340		中世土師器	甕	50	12			0.5		25YR2/4		
116	SK1110		中世土師器	甕	88	(13)			0.4		10YR6/4		
117	SK1340		中世土師器	甕	88	(13)			0.4		25YR2/4		
118	SK1430		中世土師器	甕	86	20			1.1		25YR2/4		
119	SK1430		中世土師器	甕	86	20			1.1		5YR6/6		
120	SK1430		中世土師器	甕	86	20			1.1		5YR6/6		
121	SK1340	X20746	中世土師器	甕	138	24			0.8		10YR7/2		
122	SK1340	X20746	中世土師器	甕	138	24			0.8		10YR6/3		
123	SK1340		中世土師器	甕	110	(50)			0.7		25YR4/3		



第13表 土器一覽(4)

標本番号	出土位置	種類	1個重(g)	高さ(mm)	口径(mm)	底径(mm)	器厚(mm)	口径/底径	特徴	色澤	取上	備考
225	15	SD315	75	200	200		07			25Y6.2	灰青色	器台
226	16	SD315	58	218			07		25YR7/6	灰青色		砂土層
227	27	SD315	10	18			05		10YR2/2	灰白色		土層上部
231	44	SD482	55	12	32		05		10YR7/4	にんげん色		土層上部
232	30	SD482	55	32	53		11		10Y6/2	にんげん色	N7.0 灰白色	内層部から取り上げられた
236	29	SD205	24	70			20		N6.0	灰色		
237		SD226	24	65			10		N7.1	灰白色		
238	24	SD228	47.6	135			12		N6.0	灰色		
239	18	SD309	13.4	10			05		25Y6.2	灰青色		
260		SD368	8.9	10			04		25Y7.3	淡青色		
261	36	SD368	7.8	12			04		10YR7/4	にんげん色		
262	24	SD369	34.0	32.7			1.0		N5.0	灰色		
264	24	SD369	17.4	6.4			0.8		N7.0	灰白色		
265	24	SD390	18.0	1.2			07		10YR7/3	にんげん色		
266	24	SD391	13.6	2.2			07		5C7/1	明黄色		390, 391と
267		SD394	24.6	36.8			1.0		5C7/1	明黄色		器台
268		SD326	11.8	3.0			06		10YR6/4	にんげん色		
269		SD326	10.0	0.8			04		10YR7/4	にんげん色		
270		SD326	16.0	0.6			04		25Y4.1-3.1	黄灰-淡褐色		
271		SD326	8.6	14.0	3.8		06		10YR6/4	にんげん色		
272	20	SD383	10.5	2.7			06		10YR6/4	にんげん色		
273		SD465	11.0	2.0			06		10YR6/3	にんげん色		
274		SD448 SK390	24.6	6.0			1.2		10YR7/4	黄色		
275		SD374	6.2	2.8			05		25Y6.1	灰青色		
276	26	SD367	4.3	2.0			05		25Y6.2	灰青色		
277	29	SD461	12.0	1.4			0.15		25Q9.1	明緑色	N8.1 灰白色	灰付 25Y6.0 6.1の淡青色, 25R7.3 黄灰色, 25R8.1黄灰色
278		SD461	10.2	2.1	4.8		0.9		25G7/2	灰色	N7.0 灰白色	
280	280	SD460	12.0	2.9	4.4		0.5		10YR6.5	にんげん色		
281		SD460	13.1	2.0			05		5Y16.2	緑灰色	N7.0 灰白色	
282		SD460	8.3	0.3			1.7		3C6.1	赤灰色		
283	30	SD460	4.8	2.3			0.5		25G16.2	灰青色	N8.0 灰白色	
286		SD460	17.7	2.7			2.1		10Y6.1	赤灰色		器心の裏, 砂土層
289		SD460	18.2	12.0			2.4		10Y6.1	赤灰色		内層部から取り上げられた
290		SD460	34.8	15.7			1.5		10Y6.1	赤灰色		内層部から取り上げられた
291		SD319	13.9	3.9			2.2		25YR7.3	にんげん色		
292		SD416	12.8	2.8			2.5		5Y16.2	緑灰色		
293		SD383 SK266	37.2	10.8			2.2		5Y16.1	黄灰色	N7.0 灰白色	外層部, 内層部, 器底
294		SD460	38.0	14.0			2.2		5Y16.1	黄灰色		
295	24	SD465	58.0	47.7	11.4		2.4		10Y6.1	赤灰色		器心層部, 外層部, 内層部, 器底
296		SD465	10.0	2.5			0.6		10YR6/4	にんげん色		
300		SD465	44.0	4.3			0.5		N6.0	灰色		
301	24	SD466	8.8	2.0			0.3		2.5Q9.1	明緑色		
302		SD466	11.8	1.9			0.6		10YR6/2	灰白色	25Y8.1 灰白色	
303		SD466	8.0	1.9			0.6		10YR6/2	灰白色		

第13表 土器一覽 (5)

原器種番号(国語番号)	原器種コード	出 土 地 点	種 類	口 径 (cm)	底 径 (cm)	高 度 (cm)	厚 度 (cm)	色 澤	土 質	備 考
304	20	S2740	中土上層部	11.8	2.4	2.4	0.6	10YR6/4	にぶ・黄褐色	
305	29	S2749	白磁			4.0	1.0	5YR 7/1	緑白色	内面に黒点(片断)
306	30	S2749	黄磁			3.7	0.6	5YR 7/1	緑白色	断面に、黄赤点?
307	28	S2749	八尾	26.0			1.5	5YR 6/2		
314	315	SK900	河内					NS-0	褐色	
315	SK900	中土上層部	重	8.0	1.6	6.0		7.5YR 7/6	褐色	
316	SK900	中土上層部	重	8.0	1.6	6.0		10YR 6/4	褐色	
317	SK900	河内	片					NS-0	褐色	
318	SK911	河内	片	7.8	1.3	6.8		NS-0	褐色	
321	25	SK912	河内	25.0	5.5	11.1	0.5	10YR 7/2	褐色	
322	SK912	河内	片	20.0	4.5	10.0	2.5	10YR 6/1	褐色	
323	SK938	河内	片	20.0	4.5	10.0	1.0	NS-0	褐色	
324	224	SK938	河内	20.0	4.5	10.0	1.0	7.5YR 7/1	褐色	
327	326	SK977	中土上層部	重	8.0	1.4	0.4	5YR 6/4	褐色	
328	24	K4751	河内	8.0	1.0	1.0	2.0	5YR 6/4	褐色	
329	29	K4752	河内	20.0	8.3	2.0	1.7	NS-0	褐色	
330	30	K4752	河内	20.0	8.3	2.0	1.7	NS-0	褐色	
331	32	K4754	河内	20.0	8.3	2.4	2.4	5YR 6/3	褐色	
332	32	K4754	河内	20.0	8.3	2.4	2.4	NS-0	褐色	
333	33	K4752	河内	20.0	8.3	2.4	2.4	NS-0	褐色	
339	339	K7301	中土上層部	27.0	8.0	8.0	1.3	7.5Y 7/1	褐色	
340	340	K7301	中土上層部	28.0	8.0	8.0	1.3	NS-0	褐色	
341	341	K7302	中土上層部	8.0	1.5	1.7	0.6	7.5YR 6/6	褐色	
342	19	K6762	中土上層部	7.8	1.8	1.8	0.4	10YR 7/3	褐色	
343	19	K6762	中土上層部	7.5	1.5	1.5	0.4	10YR 7/3	褐色	
345	19	K6762	中土上層部	8.0	1.5	1.5	0.4	10YR 7/2	褐色	
346	19	K6762	中土上層部	8.0	1.2	1.2	0.4	7.5YR 6/6	褐色	
347	19	K6762	中土上層部	8.0	1.2	1.2	0.4	10YR 6/3	褐色	
348	19	K6762	中土上層部	8.0	1.3	1.3	0.4	10YR 6/3	褐色	
349	19	K6762	中土上層部	7.9	1.6	1.4	0.4	7.5YR 7/4	褐色	
350	19	K6762	中土上層部	8.4	2.0	1.4	0.5	7.5YR 7/6	褐色	
351	19	K6762	中土上層部	8.4	2.0	1.4	0.5	8YR 6/6	褐色	
352	19	K6762	中土上層部	8.0	1.5	1.5	0.4	8YR 6/6	褐色	
353	19	K6762	中土上層部	8.0	1.5	1.5	0.4	8YR 6/6	褐色	
354	18	K6771	中土上層部	8.0	1.2	1.2	0.3	2.5Y 7/3	黄褐色	
355	18	K6771	中土上層部	7.8	0.8	0.8	0.3	2.5Y 7/3	黄褐色	
356	18	K6771	中土上層部	7.8	0.8	0.8	0.3	2.5Y 7/2	黄褐色	
357	18	K6771	中土上層部	8.0	1.1	1.1	0.6	2.5Y 7/2	黄褐色	
358	18	K6771	中土上層部	8.0	1.1	1.1	0.6	2.5Y 7/2	黄褐色	
359	18	K6771	中土上層部	8.0	1.1	1.1	0.6	2.5Y 7/2	黄褐色	
360	19	K6771	中土上層部	8.0	1.1	1.1	0.6	2.5Y 7/2	黄褐色	
361	19	K6771	中土上層部	8.0	1.1	1.1	0.6	2.5Y 7/2	黄褐色	
362	19	K6771	中土上層部	8.0	1.1	1.1	0.6	2.5Y 7/2	黄褐色	
363	19	K6771	中土上層部	8.0	1.1	1.1	0.6	2.5Y 7/2	黄褐色	



第13表 土器一覽(7)

国(府)指定番号(国指定)	国(府)指定番号(国指定)	出土地点	遺跡名	種別	数量	口径(φ)	高さ	底径(φ)	底厚	底径(φ)	重量	色澤	新十	備考
410	30	X31010 日向寺	茶臼	底面	180	400						5Y6/3	49.7 茶色	5507/1 灰白色
411		X31701 日向寺	口縁	底面	260	260			0.65			5Y7/2	灰白色	517/1 灰白色
412		X45 日向寺	口縁	底面	95	110			0.3			5Y6/1	灰白色	557/1 灰白色
413		X31761 日向寺	口縁	底面	95	110			0.4			5Y6/1	灰白色	557/1 灰白色
414	29	X31776 日向寺	口縁	底面	102	115						10Y7/2	灰白色	557/1 灰白色
415	26	X31792 日向寺	口縁	底面	102	115			0.9			2S73/1	灰白色	583/0 灰白色
416	26	X46754 日向寺	口縁	底面	44		22.4					2S73/1	灰白色	
417		X31357 日向寺	口縁	底面	55(底径)	16(高さ)	25(口径)					5Y6/6	褐色	
418		X35178 日向寺	口縁	底面	52(底径)	45(高さ)	50(口径)		0.7			2S73/2/4	褐色	
419	25	X30799 XA1531 日向寺	口縁	底面	160				1.2			NM/	灰白色	
420	25	SK1159	口縁	底面	262							5Y4/2	灰白色	
421	19	X30751 日向寺	口縁	底面	75	16			0.5			5Y6/6	褐色	
422	19	X30751 日向寺	口縁	底面	75	16			0.5			2S73/6-6	褐色	
423		X30751 日向寺	口縁	底面	66	280			0.7			10Y7/6-3	褐色	
424		X31333 日向寺	口縁	底面	70	15						10Y7/4	褐色	
425		X31349 日向寺	口縁	底面	78	17						10Y7/4	褐色	
426		X46753 日向寺	口縁	底面	80	19						7S19/6-4	褐色	
427		X30100 日向寺	口縁	底面	87	21			0.7			2S73/6-6	褐色	
428		X41748 日向寺	口縁	底面	90	18						10Y7/4	褐色	
429		X35145 日向寺	口縁	底面	88	30			0.7			10Y4/5-2	褐色	
430		X31357 日向寺	口縁	底面	82	17			0.5			10Y7/2	褐色	
431	19	X30749 日向寺	口縁	底面	79	16			0.5			2S73/2/4	褐色	
432		X35754 日向寺	口縁	底面	80	15						2S73/2/4	褐色	
433		X30798 日向寺	口縁	底面	82	17						10Y7/3	褐色	
434		X31503/37 日向寺	口縁	底面	80	14			0.5			2S73/6-3	褐色	
435		X30747 日向寺	口縁	底面	90	21						10Y7/4	褐色	
436		X30752 日向寺	口縁	底面	100	14						10Y7/2	褐色	
437		X30765 日向寺	口縁	底面	90	17			0.5			10Y7/2	褐色	
438		X30763 日向寺	口縁	底面	78	18			0.5			10Y7/1	褐色	
439		X31796 日向寺 X35135 日向寺	口縁	底面	88	19			0.5			2S73/7-6	褐色	
440		X41747 日向寺	口縁	底面	102	130			0.5			10Y7/2	褐色	
441		X35760 日向寺	口縁	底面	98	19			0.5			10Y7/2	褐色	
442		X35783 日向寺	口縁	底面	80	19			0.5			2S73/2/4	褐色	
443		X46753 日向寺	口縁	底面	90	15			0.4			5Y7/4	褐色	
444	19	X30753 日向寺	口縁	底面	79	16			0.4			2S73/6-3	褐色	
445		X35783 日向寺	口縁	底面	80	12			0.6			10Y7/6-3	褐色	
446	18	X30710 日向寺	口縁	底面	80	11			0.6			2S73/7/4	褐色	
447		X30748 日向寺	口縁	底面	84	13			0.7			10Y7/6-4	褐色	
448	18	X30743 日向寺	口縁	底面	76	12			0.65			10Y7/4	褐色	
449	18	X31783 日向寺	口縁	底面	84	12			0.6			10Y7/4	褐色	
450	16	X31783 日向寺	口縁	底面	84	12			0.4			5Y7/3	褐色	
451		X35751 日向寺	口縁	底面	80	13			0.7			5Y7/3	褐色	
452		X35768 XA1739 日向寺	口縁	底面	105	22			0.7			10Y7/2	褐色	
453		X31790 日向寺	口縁	底面	106	25			0.6			2S73/2	褐色	
454		X30776 日向寺	口縁	底面	109	29			0.5			5Y7/6-4	褐色	
455	17	X35170 日向寺	口縁	底面	88	22			0.8			2S73/2/4	褐色	



第13表 土器一覽(9)

原産地	器種	出土層	器種	口徑	底径	高さ	容量	重量	土質	色澤	特徴	備考
555	高脚コップ	SK105	磁器	92	40	32	0.7	2578/1	黄灰色	SK10 白色	文様2面あり	
556	飯付鉢	SK104	磁器	90	71	45	0.7	1017/3	くすんだ黄褐色	SK17 灰白色	漆合	
559	SK113	SK113	磁器	300	500	1.0	NS-0	灰色				
560	中土土器	SK102	磁器	65	(L)	1017/3	0.6	1017/3	くすんだ黄褐色			
561	磁器土器	SK105	磁器	65	(L)	1017/3	0.6	1017/3	くすんだ黄褐色			
562	SK108	SK108	磁器	120	54	0.6	2578/3	純黄褐色(内側)	SK17 灰白色	漆合		
563	SK115	SK115	磁器	126	34	5.3	7484/2	灰黄色	SK17 灰白色	漆合		
564	SK115	SK115	磁器	126	34	5.3	7484/2	灰黄色	SK17 灰白色	漆合		
565	SK145	SK145	磁器	120	55	0.5	2577/2	灰色	SK17 灰白色	漆合		
566	SK145	SK145	磁器	120	55	0.5	2577/2	灰色	SK17 灰白色	漆合		
567	SK145	SK145	磁器	120	55	0.5	2577/2	灰色	SK17 灰白色	漆合		
568	SK145	SK145	磁器	120	55	0.5	2577/2	灰色	SK17 灰白色	漆合		
569	SK148	SK148	磁器	120	55	0.5	2577/2	灰色	SK17 灰白色	漆合		
570	SK148	SK148	磁器	120	55	0.5	2577/2	灰色	SK17 灰白色	漆合		
571	SK164	SK164	磁器	256	42	1.2	2578/2	灰黄色	SK17 灰白色	漆合		
572	SK164	SK164	磁器	256	42	1.2	2578/2	灰黄色	SK17 灰白色	漆合		
573	SK164	SK164	磁器	256	42	1.2	2578/2	灰黄色	SK17 灰白色	漆合		
574	SK164	SK164	磁器	256	42	1.2	2578/2	灰黄色	SK17 灰白色	漆合		
575	SK192	SK192	磁器	100	100	0.5	2578/4	淡黄色	SK17 灰白色	漆合		
576	SK202	SK202	磁器	85	71	5.0	1825/3	赤褐色	SK17 灰白色	漆合		
579	SK300	SK300	磁器	90	110	0.4	1017/4	くすんだ黄褐色	SK17 灰白色	漆合		
580	SK300	SK300	磁器	90	110	0.4	1017/4	くすんだ黄褐色	SK17 灰白色	漆合		
581	SK305	SK305	磁器	111	111	0.45	2578/3	淡黄色	SK17 灰白色	漆合		
582	SK308	SK308	磁器	111	111	0.45	2578/3	淡黄色	SK17 灰白色	漆合		
583	SK308	SK308	磁器	111	111	0.45	2578/3	淡黄色	SK17 灰白色	漆合		
584	SK308	SK308	磁器	111	111	0.45	2578/3	淡黄色	SK17 灰白色	漆合		
585	SK308	SK308	磁器	111	111	0.45	2578/3	淡黄色	SK17 灰白色	漆合		
586	SK308	SK308	磁器	111	111	0.45	2578/3	淡黄色	SK17 灰白色	漆合		
587	SK308	SK308	磁器	111	111	0.45	2578/3	淡黄色	SK17 灰白色	漆合		
588	SK308	SK308	磁器	111	111	0.45	2578/3	淡黄色	SK17 灰白色	漆合		
589	SK308	SK308	磁器	111	111	0.45	2578/3	淡黄色	SK17 灰白色	漆合		
590	SK308	SK308	磁器	111	111	0.45	2578/3	淡黄色	SK17 灰白色	漆合		
591	SK308	SK308	磁器	111	111	0.45	2578/3	淡黄色	SK17 灰白色	漆合		
592	SK308	SK308	磁器	111	111	0.45	2578/3	淡黄色	SK17 灰白色	漆合		
593	SK308	SK308	磁器	111	111	0.45	2578/3	淡黄色	SK17 灰白色	漆合		
594	SK308	SK308	磁器	111	111	0.45	2578/3	淡黄色	SK17 灰白色	漆合		
595	SK308	SK308	磁器	111	111	0.45	2578/3	淡黄色	SK17 灰白色	漆合		
596	SK308	SK308	磁器	111	111	0.45	2578/3	淡黄色	SK17 灰白色	漆合		
597	SK308	SK308	磁器	111	111	0.45	2578/3	淡黄色	SK17 灰白色	漆合		
598	SK308	SK308	磁器	111	111	0.45	2578/3	淡黄色	SK17 灰白色	漆合		
599	SK308	SK308	磁器	111	111	0.45	2578/3	淡黄色	SK17 灰白色	漆合		
600	SK308	SK308	磁器	111	111	0.45	2578/3	淡黄色	SK17 灰白色	漆合		

第13表 土器一覽 (10)

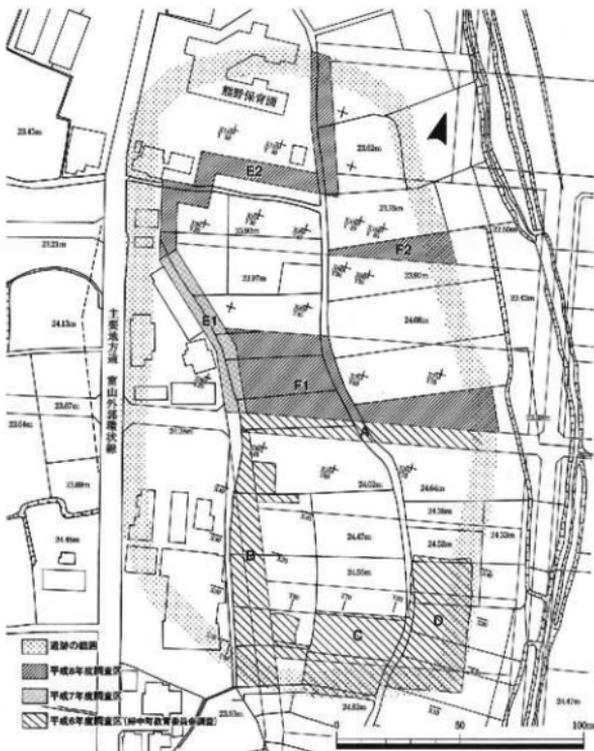
所収集品番号	調査番号	遺構番号	出土層位	器種	形状	口径cm	器高	底径	器作位置	時期	色調	土質	備考	
611			X3370 1層	密埴	碗	130	35	23	13		250Y5.3	75Y7.1 灰白色	(外)25Y5.2 灰紫色,内面紅土の用粉	
612			X3376 1層	丸山	鉢	50	23		0.7	13C	25Y7.2	5Y8.1 灰色	灰褐色,底の黒陶,25Y5.3に赤み,灰色	
613			X3374 1層	高平瀬川	器鉢	94	40				5Y75.2	灰褐色	赤・黒,土質不均	
614			X3378 1層	高平瀬川	器鉢	272	83		1.1		5Y75.3	緑褐色	赤・黒	
615			X3376 1層	高平瀬川	器鉢	70	18		0.8		5C716.2	緑褐色	赤・黒	
616			X3377 1層	高平瀬川(丸山部分)	器鉢	80	50		2.0		10Y72.2	黒褐色	黒・赤・黒,底の赤土,黒褐色(黒)	
617			X3378 1層	高平瀬川	鉢				2.0		25Y4.3	10Y72.2 灰褐色	黒・赤・黒,底の赤土,黒褐色(黒)	
618			X3375 1層	高平瀬川	鉢	113	32	4.4	0.7		25Y75.2	10Y75.3 灰褐色	黒・赤・黒,底の赤土,黒褐色(黒)	
619			X3378 1層	高平瀬川	器鉢	113	40	30.0			5Y75.4	10Y75.3 灰褐色	赤・黒,内面に赤付,下	
620			X3370 1層	高平瀬川	鉢	117	5.9		0.9		5Y71.1	10Y75.3	赤・黒,内面に赤付,下	
			X3391	高平瀬川	鉢	117	5.9		0.8		5Y6.1	10Y75.3	赤・黒,内面に赤付,下	
			X3391	高平瀬川	鉢	220	44		1.3		13C	13C	赤褐色	赤・黒,内面に赤付,下
			X3393	高平瀬川	器鉢	144	8.0		0.5		25Y7.2	10Y75.3	赤褐色	赤・黒,内面に赤付,下
			X3354	高平瀬川	鉢	140	22		0.5		10Y75.2	10Y75.2	赤褐色	赤・黒,内面に赤付,下
			X3350	高平瀬川	鉢	140	22		0.5		10Y75.2	10Y75.2	赤褐色	赤・黒,内面に赤付,下
			X3356	高平瀬川	鉢	132	25		0.5		10Y75.2	10Y75.2	赤褐色	赤・黒,内面に赤付,下
			X3358	高平瀬川	鉢	132	25		0.6		5C71.2	10Y75.2	赤褐色	赤・黒,内面に赤付,下

## 第Ⅳ章 中名Ⅱ遺跡

### 1 遺跡の概要

#### A 概要

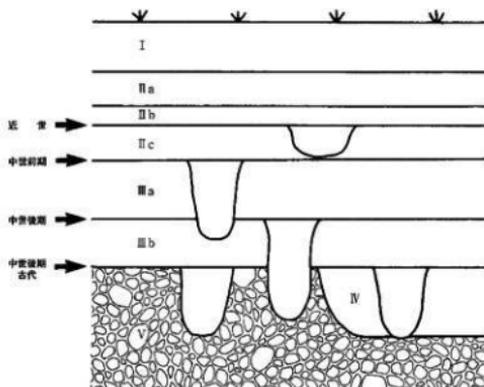
遺跡の時期は古代、中世前期・中世後期、近世の四時期である。古代の遺構はE2地区の北端とE1地区で検出された。竪穴住居1棟、溝1条、土坑2基である。遺物は須恵器と土師器が出土している。中世前期は掘立柱建物18棟、溝1条、溝49条、土坑多数、鍛冶関連遺構が検出されている。掘立柱建物は調査区が細長い部分が多いため、全体の規模がわかるものは少ない。建物の向きはS B01・07・10・12・13・14・16、S B03・04、S B05・06・17・18、S B08・09・11、S B02・15の概ね5グループに分けられる。S D2251からは木製品が多量に出土しているが、舟形木製品・櫛・箸などがみられることから、祭祀が行われた可能性がある。S X1002・1272・1273は発掘時から焼土がみられ、鉄滓が多く出土していることから鍛冶関連遺構とみられていた。今回委託した鉄滓分析でも「精錬滓から鍛造剥片まで精錬の全行程の滓が存在すること、砂鉄試料に砂鉄そのものと鍛冶場から採取されたものらしく被熱し、鍛冶滓が混在するものがある」との結果がでており、推測を裏付けている。S X1272・1273は切り合いからS B10よりも古い。E1地区北側の遺構の重複関係から中世前期には畑、S B09、S B10という三時期が少なくともあったと推測される。中世後期の遺構はE2地区の北側と中央部、F1地区で掘立柱建物6棟、溝39条、井戸4基、土坑多数、石列が検出されている。建物は前期と比べると数が少なく、規模も小さい。建物の向きは中世前期では北面が東に向くもの、西に向くもの、真北のものがあつたが、中世後期ではすべての建物がやや西に向いている。石列は北を外側と意識して築かれており、南側に何らかの施設があつたと推測されるが、溝が1条みられるだけでF1地区まで調査区内では遺構を確認できなかった。その他特筆すべき遺物として古墳時代の硬玉製の勾玉が中世前期の包含層から出土している。



第75図 中名Ⅱ遺跡調査区及び区割図 (1:2000)

## B 調査経過

中名Ⅱ遺跡は平成6年度に調査の受託が決定し、平成8年度に調査を開始する予定であったが、平成7年度に予定していた中名Ⅰ遺跡が工事計画の見直しにより調査が実施されないこととなったため、平成7年度に道路・排水路となるE1地区456㎡(延912㎡)を調査した。平成8年度はE2地区とF1地区・F2地区が調査の対象となったが、富山農地林務事務所・県文化財課からの要請で遺跡への影響深度を確認しながら調査を進め、盛土保存が可能な部分は保存することとなった。F1地区



第76図 中名Ⅱ遺跡基本層序模式図

区では北西部の包含層が工事掘削深度より深いところで確認されたため、この北西部716㎡の調査を中止し、盛土保存とした。また、南西側の540㎡は下層面まで工事の影響を受けないため、上層のみ調査を行った。そのため調査面積は当初の1,850㎡(延3,700㎡)から1,247㎡(延1,954㎡)に減少した。F2地区400㎡は機械による表土掘削を行ったが包含層は工事影響深度より深いところで確認されたため、盛土保存となった。E2地区の調査面積は当初1,080㎡(延1,940㎡)を予定していたが、遺跡が北へ約200㎡広がったことから調査面積は1,170㎡(延2,067㎡)となった。

## C 土層

**基本層序** I層：表土・耕作土。II a層：灰黄色シルトや暗灰黄色シルト・オリーブ褐色砂質シルト。II b層：黄褐色砂質シルトやにぶい黄色砂質土。II c層：にぶい黄色砂質土やにぶい黄褐色砂質土。III a層：黄灰色粘土質シルトや暗灰黄色粘質シルト。III b層：黒褐色粘土質シルトや暗黄色粘質土やオリーブ褐色砂質土。IV層：灰黄色砂質土や灰灰色砂質土。V層：礫である。II c層がF1地区の近世遺構の検出面、III a層がE2地区・F1地区の中世後期遺構の検出面、III b層がE1地区・F1地区、IV層がE1地区・E2地区、V層がE2地区・F1地区の中世下層遺構検出面、IV層がE1地区・E2地区の古代遺構検出面である。

## 2 遺構

### A 古代

古代の遺構はE2地区の遺跡北端で竪穴住居が1棟、E1地区南で溝1条と土坑2基が確認された。

#### 竪穴住居

424号竪穴住居(SI424、第78図、図版47)

調査区最北に位置し、北側と西側が調査区端にかかっていたため、北側を拡張し規模を確認した。西側はコンクリート壁のため拡張できなかった。規模は南北226cm、深さ32cmである。しっかりとした床面はみられなかった。住居内にはSK482があるが、他に土坑は確認できなかったため柱穴であったかは疑問である。南側には焼土が確認されたが、覆土中であることからカマドとは考えられない。

遺物は土師器、須恵器、珠洲が出土している。

### 溝

1401号溝 (SD1401、第77図、図版47)

E1地区南、SK1500とSK1400の間に東西方向に延びる溝で幅は170cm、深さ60cmである。出土遺物は須恵器と中世土師器である。埋土は灰黄色砂質シルトで酸化鉄と直径1～3cmの礫が混じる。

### 土坑

1400号土坑 (SK1400、第78図、図版47)

E1地区南に位置する。長さ407cm、幅150cm、深さ22cmの長方形の土坑である。埋土は灰黄色砂質シルトで酸化鉄が混じる。

1500号土坑 (SK1500、第78図、図版47)

E1地区中央に位置する。規模は長さ140cm、幅83cm、深さ56cm。中世前期のSD1160に切られている。埋土は黒色のシルトである。

## B 中世前期

中世前期の遺構はE1・E2地区とF1地区東側で、掘立柱建物18棟、溝1条、土坑、鍛冶関連遺構を確認した。

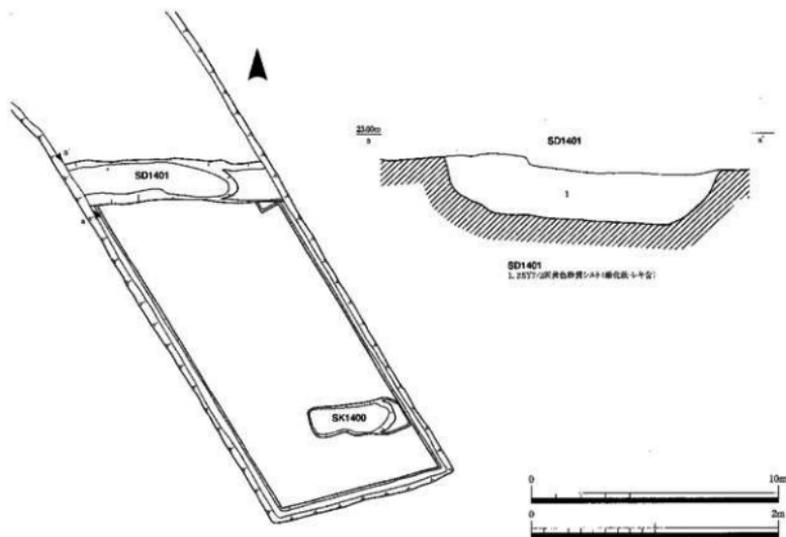
### 掘立柱建物

1号掘立柱建物 (SB01、第79図)

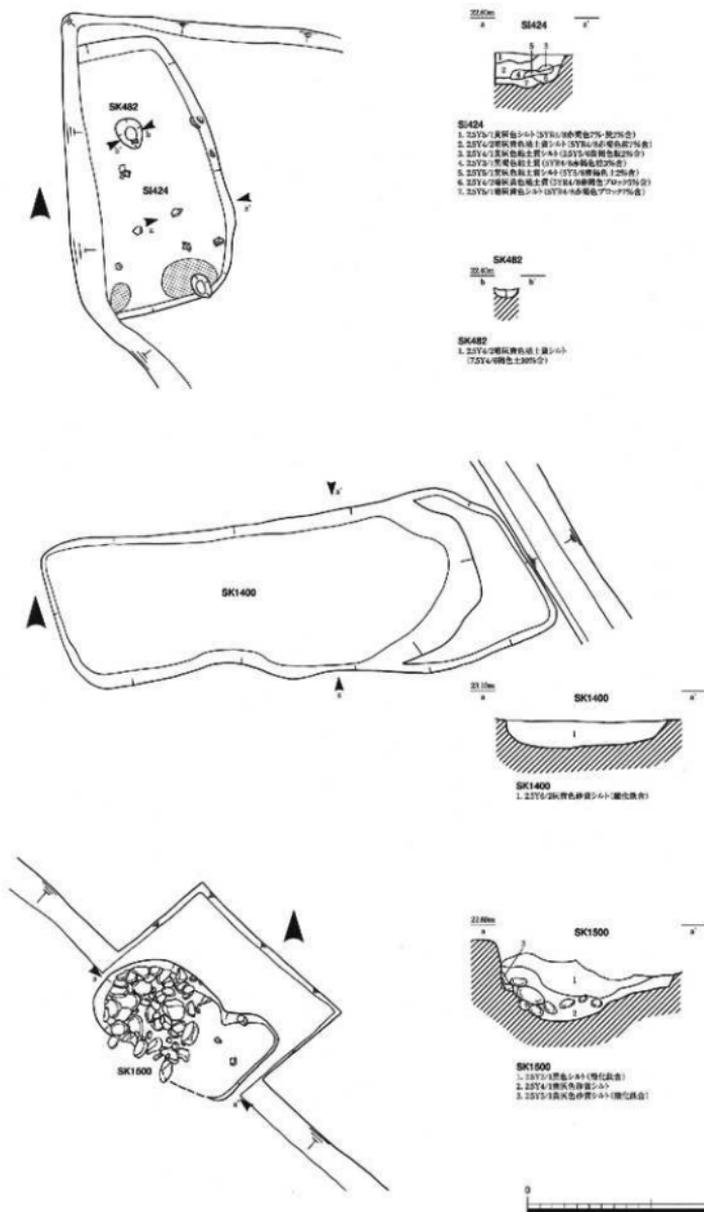
E2地区北端に位置する。南北1間、東西1間で南北2.5m、東西2.4m。建物の向きは $N-4^{\circ}-E$ である。面積は6 $m^2$ 。

2号掘立柱建物 (SB02、第79図)

E2地区北に位置する。東西2間、南北1間。東西3.9mで柱間は西から2.0m、1.9m。南北1.9mで

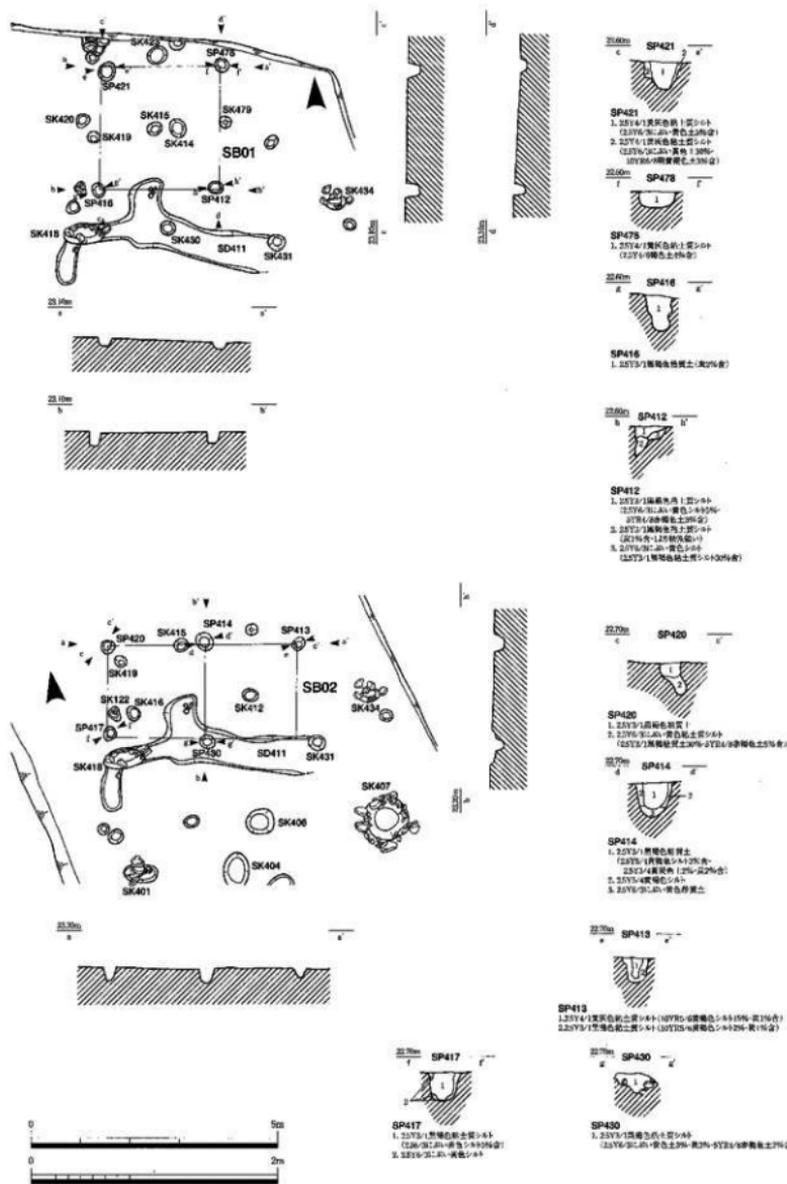


第77図 遺構実測図  
SD1401



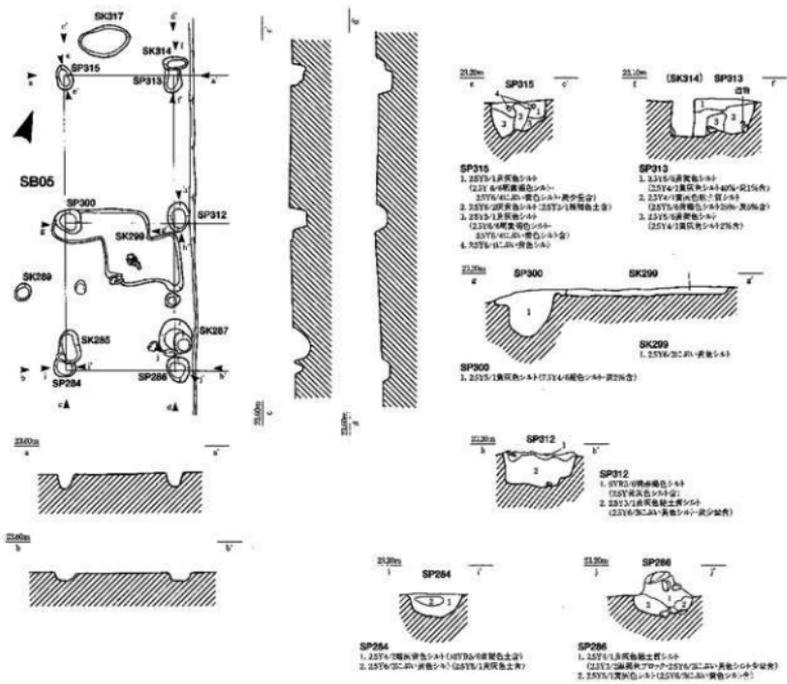
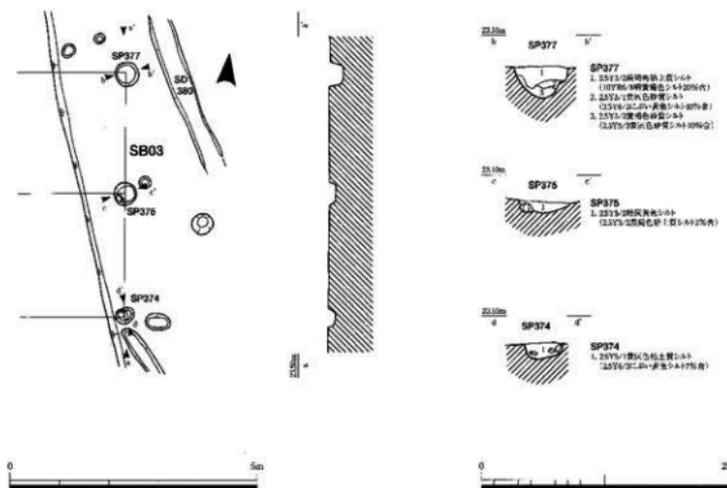
第78図 遺構実測図

SK424 SK482 SK1400 SK1500



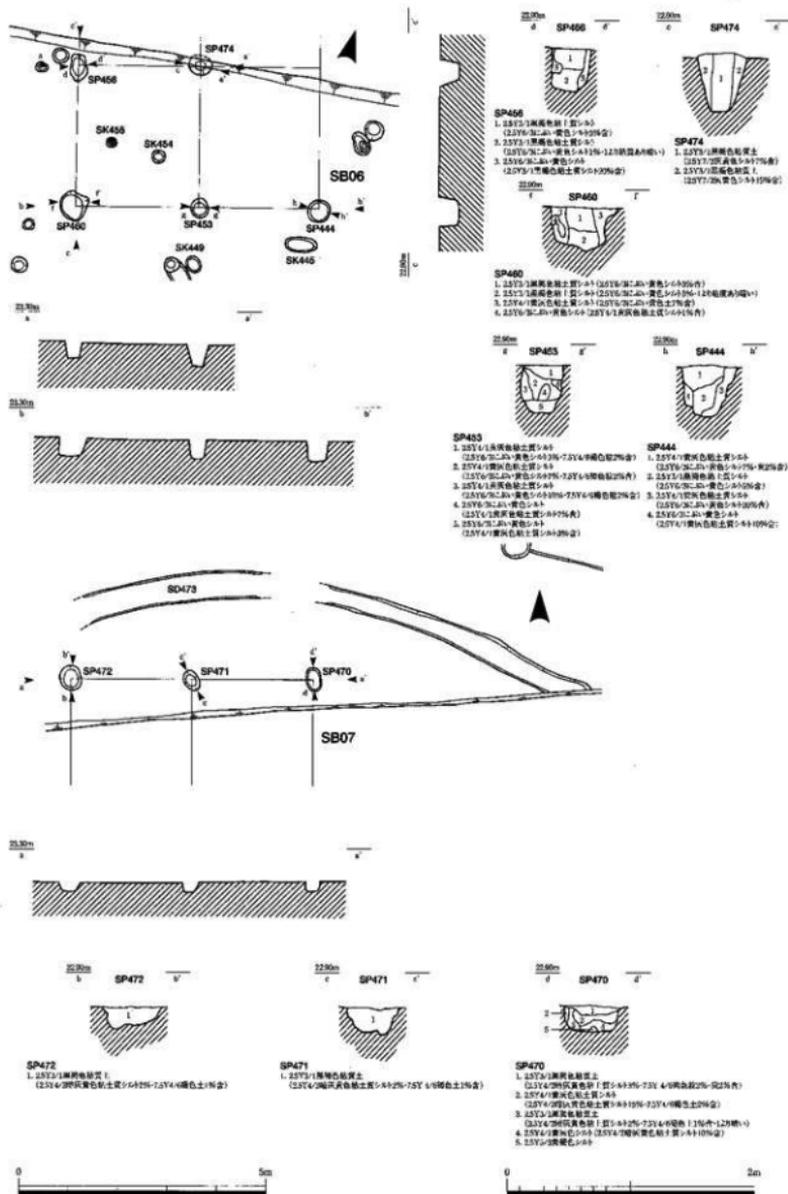
第79図 遺構実測図

SB01 SB02



第80図 遺構実測図  
SB03 SB05





第82図 遺構実測図

SB06 SB07

建物の向きは $N-10^{\circ}-W$ 、面積は $7.4m^2$ である。遺物は中世土師器（SP413）が出土している。切り合いからSD411より古い。

### 3号掘立柱建物（SB03、第80図）

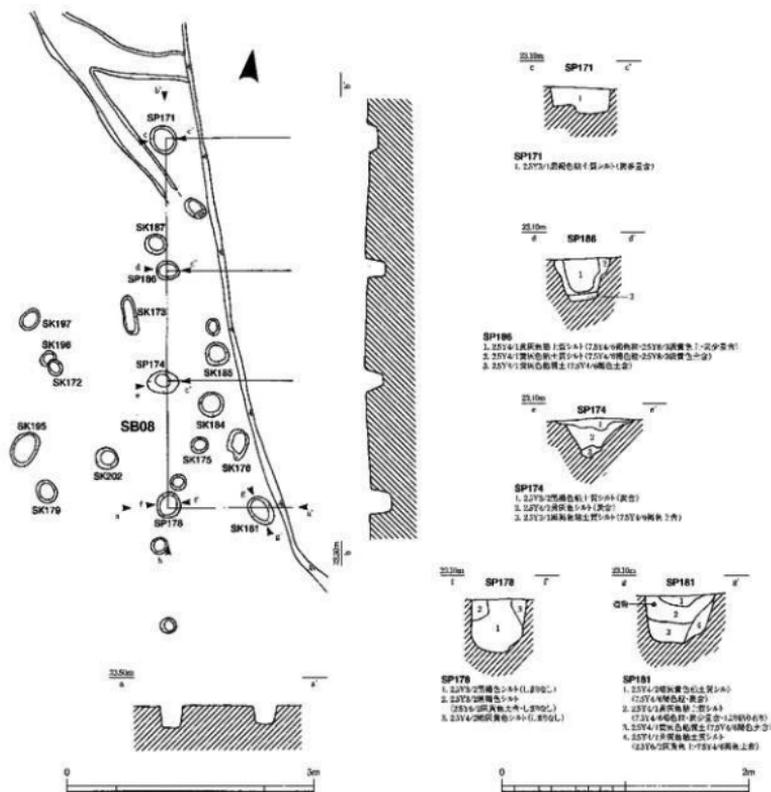
E2地区北に位置する。調査区内で確認できる範囲で南北2間。柱間は北から2.5m、2.5mの5mである。建物の向きは $N-9^{\circ}-W$ 。西に調査区外へ延びていくものと思われる。

### 4号掘立柱建物（SB04、第81図、図版48）

E2地区北に位置する。東側が調査区外になるため、調査区内で確認できる範囲で南北3間、東西3間である。南北は8mで柱間は北から2.7m、2.9m、2.4m、東西は7.5mで柱間は西から2.5m、2.5m、2.5mある。建物の向きは $N-9^{\circ}-W$ 。

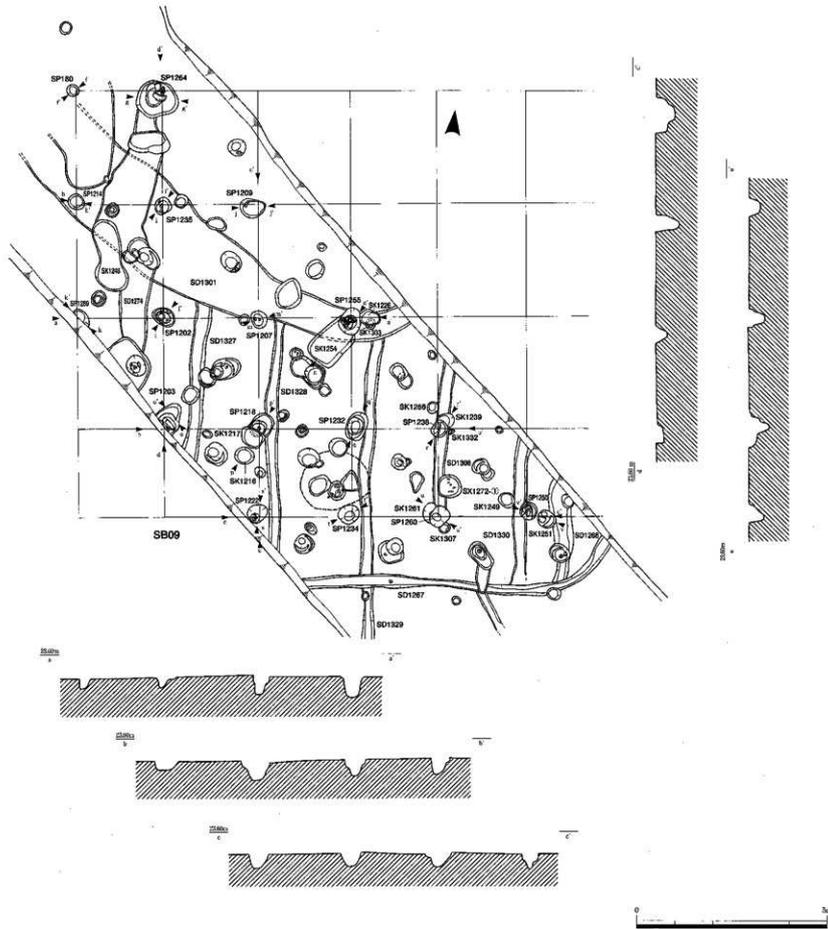
### 5号掘立柱建物（SB05、第80図、図版48）

E2地区東に位置する。調査区内で確認できる範囲で南北2間、東西1間で東側へ延びると思われる。南北は6mで柱間は北から3.0m、3.0m、東西は2.2mである。建物の向きは $N-20^{\circ}-W$ 。遺物は中世土師器（SP284・300・313）が出土している。

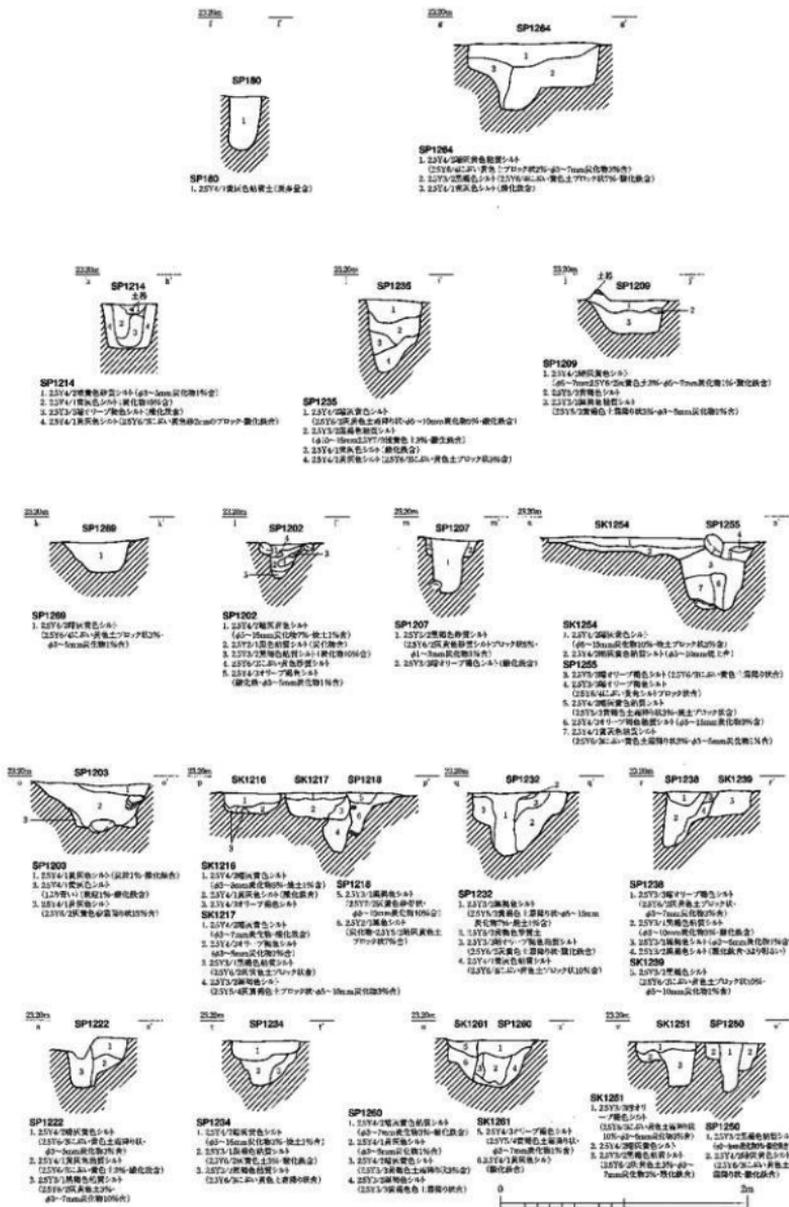


第83図 遺構実測図

SB08



第84図 遺構実測図  
SB09



第85図 遺構実測図

SP180 SP1264 SP1214 SP1235 SP1209 SP1269 SP1202 SP1207 SP1254 SP1255 SP1203  
SK1216 SK1217 SP1218 SP1232 SP1238 SP1239 SP1222 SP1234 SK1251 SP1250  
SK1251 SP1250

## 6号掘立柱建物 (S B06、第82図、図版48)

E2地区中央に位置する。調査区内で確認できる範囲で東西2間、南北1間で北側に延びると思われる。東西4.9mで柱間は西から2.5m、2.4m、南北2.9mである。建物の向きは $N-15^{\circ}-W$ 。

## 7号掘立柱建物 (S B07、第82図)

E2地区中央に位置する。調査区内で確認できる範囲で東西2間で南側に延びると思われる。東西4.9mで柱間は西から2.4m、2.5m。建物の向きは $N-1^{\circ}-W$ 。北側にはSD473があり、これが建物の境界であったと推測する。

## 8号掘立柱建物 (S B08、第83図、図版48)

E2地区南に位置する。調査区内で確認できる範囲で南北3間、東西1間で東側に延びると思われる。南北7.5mで柱間は北から2.7m、2.2m、2.6m、東西1.9mである。建物の向きは $N-7^{\circ}-W$ 。遺物は中世土師器 (S P178)、珠洲 (S P186) が出土している。

## 9号掘立柱建物 (S B09、第84・85図、図版49・50)

E2地区南端からE1地区北に位置する。調査区内で確認できる範囲で東西5間、南北4間である。東側へ延びる可能性がある。東西11.9mで柱間は西から2.3m、2.5m、2.4m、2.3m、2.4m、南北11.3mで柱間は北から3.0m、3.0m、3.0m、2.3mである。建物の向きは $N-7^{\circ}-W$ 。遺物は土師器 (S P1250)、中世土師器 (S P1202・1207・1209・1214・1218・1222・1232・1234・1238・1250・1255・1260・1264)、青磁 (S P1209・1232)、鉄製品 (S P1255)、鉄滓 (S P1209・1214・1232・1234・1264) が出土している。

## 10号掘立柱建物 (S B10、第86・87図、図版50・51)

E1地区北に位置する。東西5間、南北4間である。東西11.3mで柱間は西から2.3m、2.4m、2.4m、2.2m、2.2m、南北10.3mで柱間は北から3.0m、2.7m、2.4m、2.2mである。S P1252・1257には柱が残っている。面積は116.4 $m^2$ 。建物の向きは $N-4^{\circ}-W$ である。切り合いから鍛冶関連遺構 S X1272・1273よりも新しい。SD1267はこの建物に伴う遺構と思われ、建物の南側、東側に延びているが北側、西側ではみられない。遺物は土師器 (S P1219・1257)、須恵器 (S P1257)、中世土師器 (S P1210・1212・1219・1223・1230・1237・1252・1257・1258・1262)、珠洲 (S P1210)、鉄滓 (S P1223・1230・1262) が出土している。

## 11号掘立柱建物 (S B11、第88図)

E1地区中央に位置する。南北3間、東西2間であるが、S P1325が軸上にあるため、東側に延びる可能性がある。南北6.4mで柱間は北から1.9m、2.3m、2.2m、東西4.8mで柱間は西から2.4m、2.4mである。建物の向きは $N-6^{\circ}-W$ 。S P1319には柱が残っていた。

## 12号掘立柱建物 (S B12、第88図)

E1地区中央に位置する。東西1間、南北1間である。東西2.7m、南北2.5m、面積は6.8 $m^2$ 。建物の向きは $N-0^{\circ}-W$ である。

## 13号掘立柱建物 (S B13、第89図)

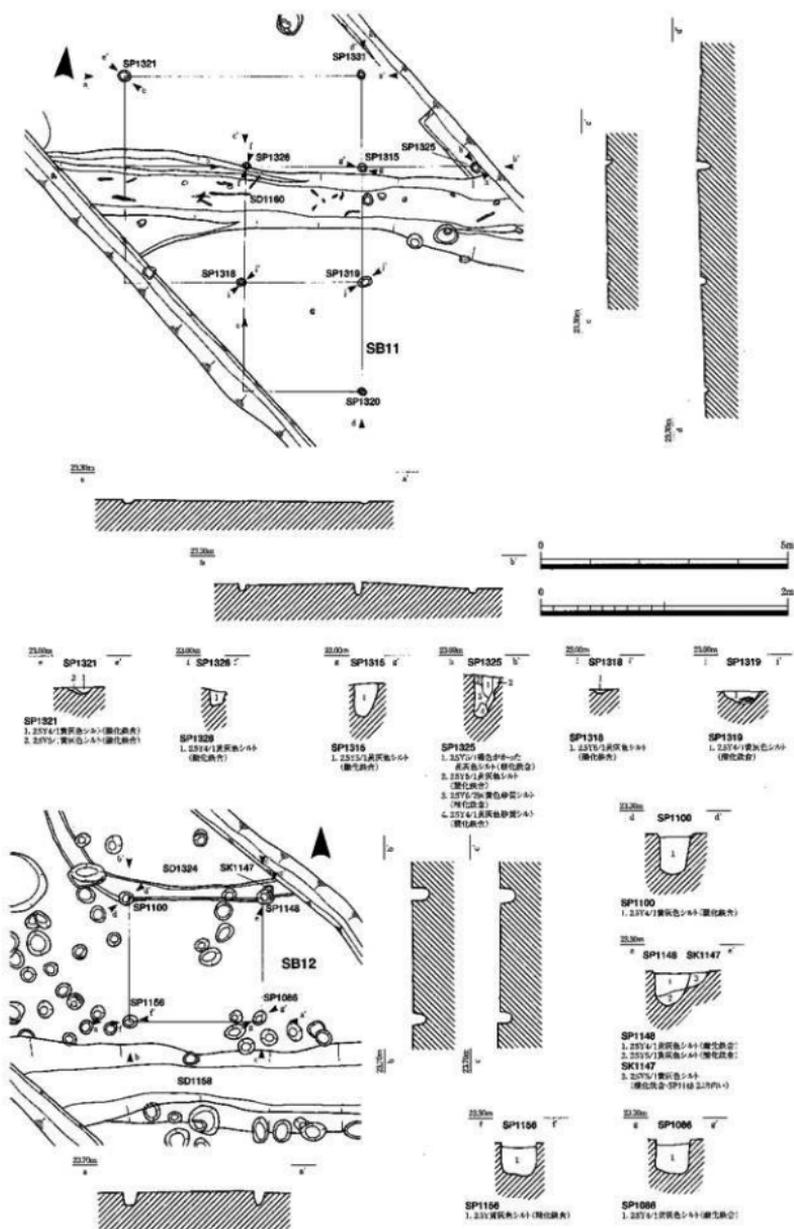
E1地区中央に位置する。東西2間、南北1間である。東西4.9mで柱間は西から2.5m、2.4m、南北2.2mである。面積は10.8 $m^2$ 。建物の向きは $N-0^{\circ}-E$ である。

## 14号掘立柱建物 (S B14、第89図)

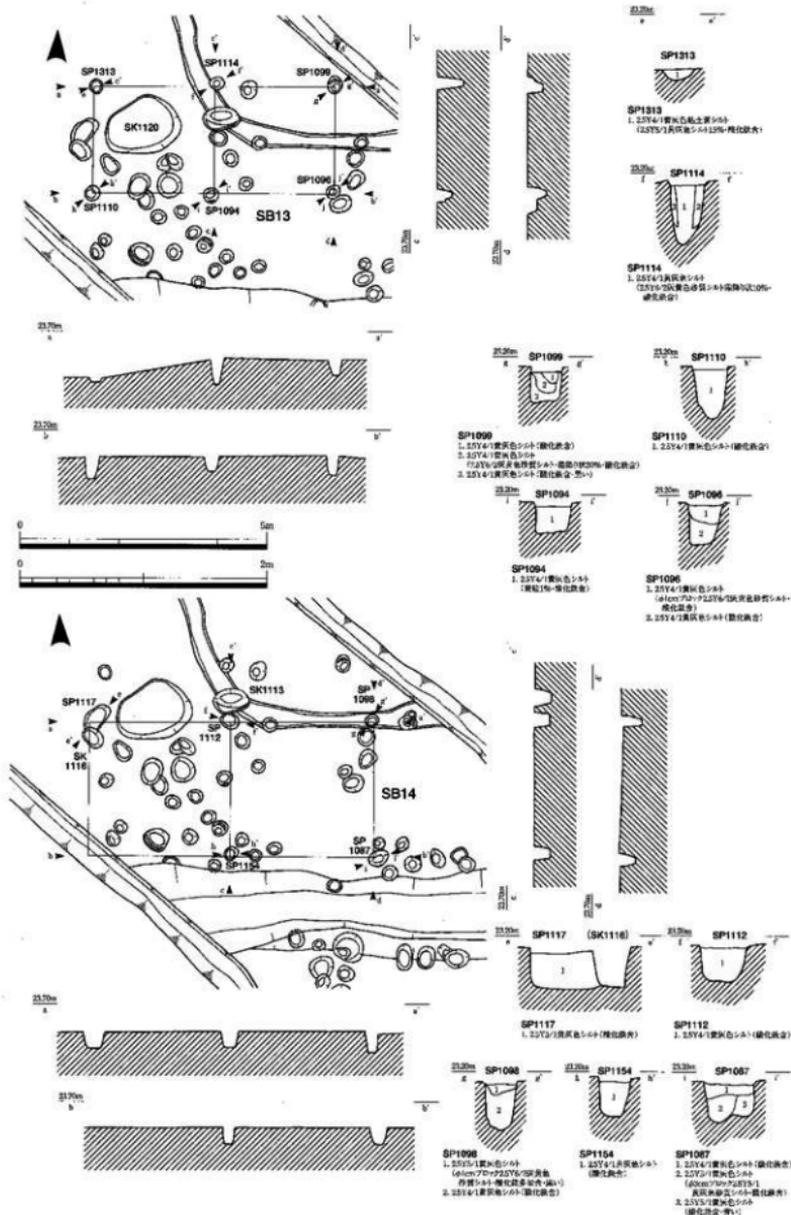
E1地区中央に位置する。東西2間、南北1間である。東西5.8mで柱間は西から2.9m、2.9m、南北2.7mである。面積は15.7 $m^2$ 。建物の向きは $N-2^{\circ}-E$ 。





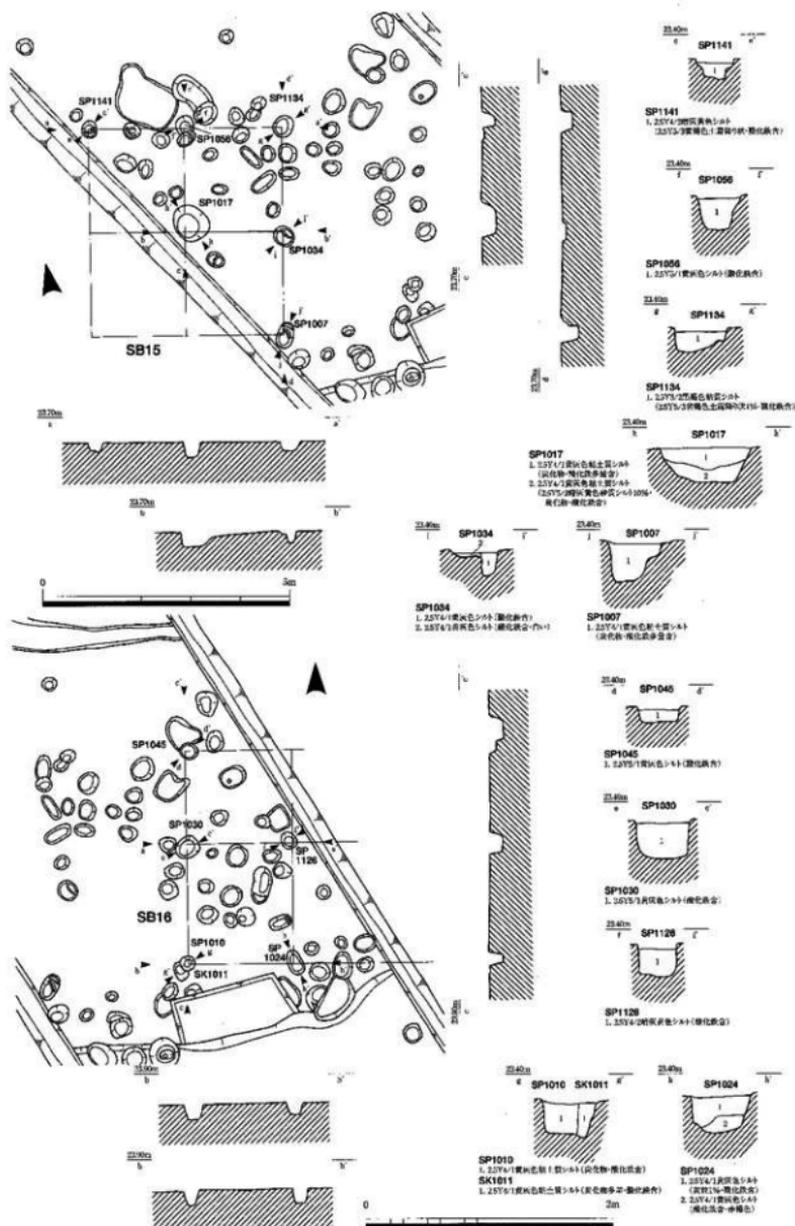


第88図 遺構実測図  
SB11 SB12



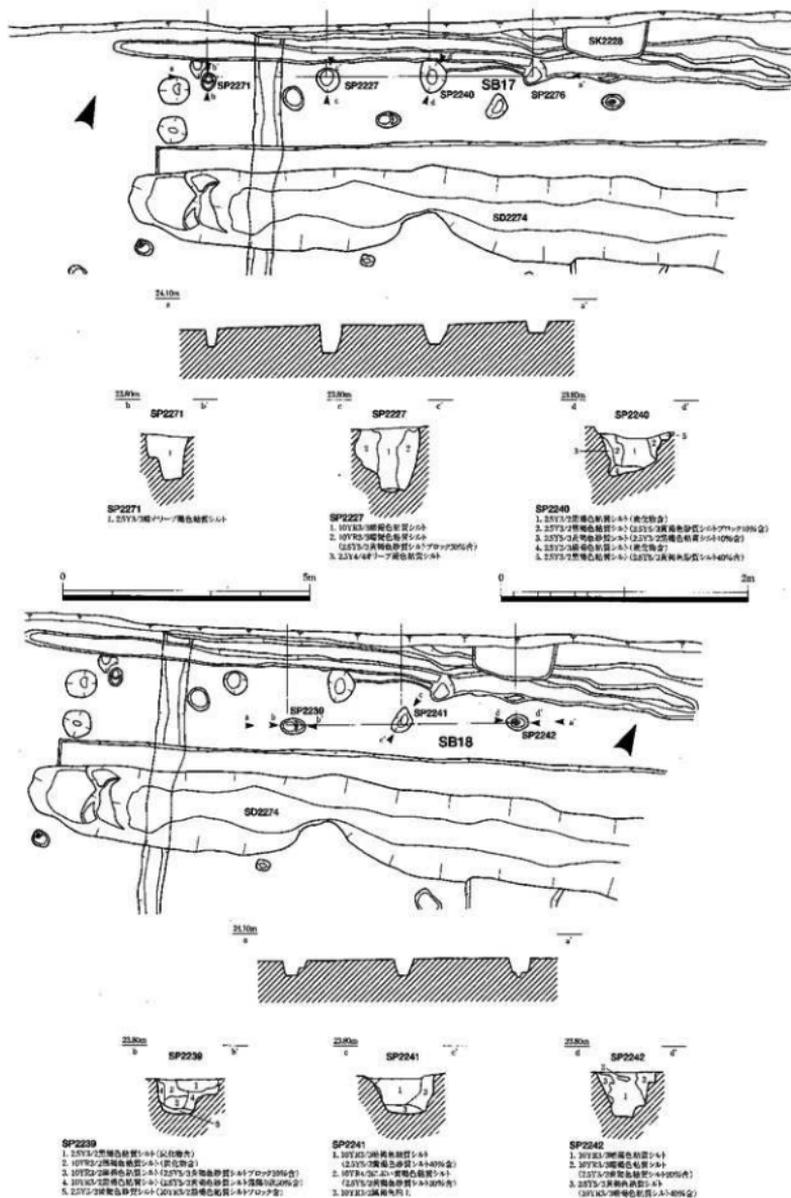
第89図 遺構実測図

SB13 SB14



第90図 遺構実測図

SB15 SB16



第91図 遺構実測図  
SB17 SB18

## 15号掘立柱建物 (SB15、第90図)

E1地区南に位置する。調査区内で確認できる範囲で南北2間、東西2間である。西側、南側へ延びる可能性がある。南北4.2mで柱間は北から2.1m、2.1m、東西3.9mで柱間は西から1.9m、2.0mである。建物の向きはN-12°-E。遺物は中世土師器 (SP1017) が出土している。

## 16号掘立柱建物 (SB16、第90図)

E1地区南に位置する。調査区内で確認できる範囲で南北2間、東西1間である。東側に延びると思われる。南北4.3mで柱間は北から1.9m、2.4m、東西は2.1mである。建物の向きはN-0°-W。遺物は中世土師器 (SP1010・1030) が出土している。

## 17号掘立柱建物 (SB17、第91図)

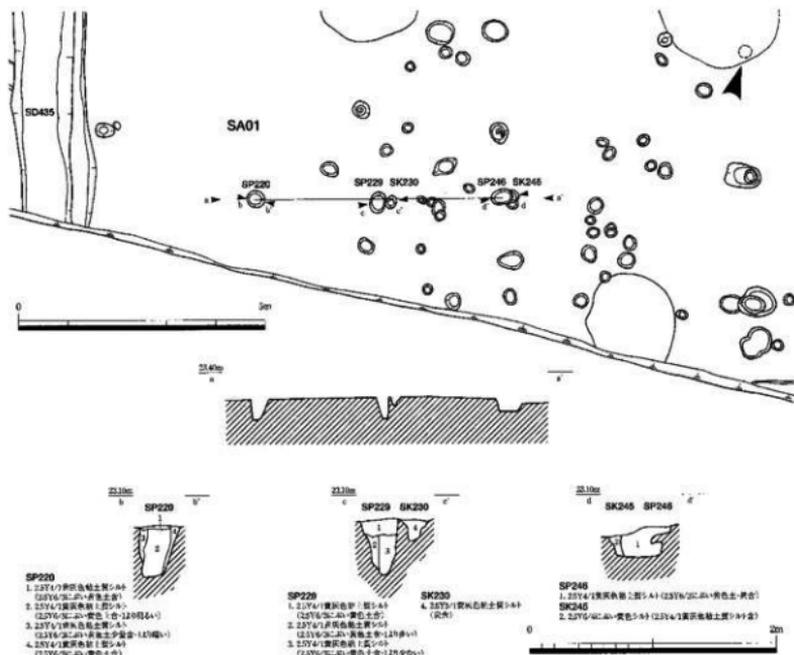
F1地区東に位置する。調査区内で確認できる範囲で東西3間6.6mで柱間は西から2.4m、2.1m、2.1mである。北側に延びると思われる。建物の向きはN-22°-W。切り合いからSD2234より古い。

## 18号掘立柱建物 (SB18、第91図)

F1地区東に位置する。調査区内で確認できる範囲で東西2間4.6mで柱間は西から2.3m、2.3mである。北側に延びると思われる。建物の向きはN-27°-W。遺物は中世土師器 (SP2242) が出土している。

## 橋

## 1号橋 (SA01、第92図)



## 第92図 遺構実測図

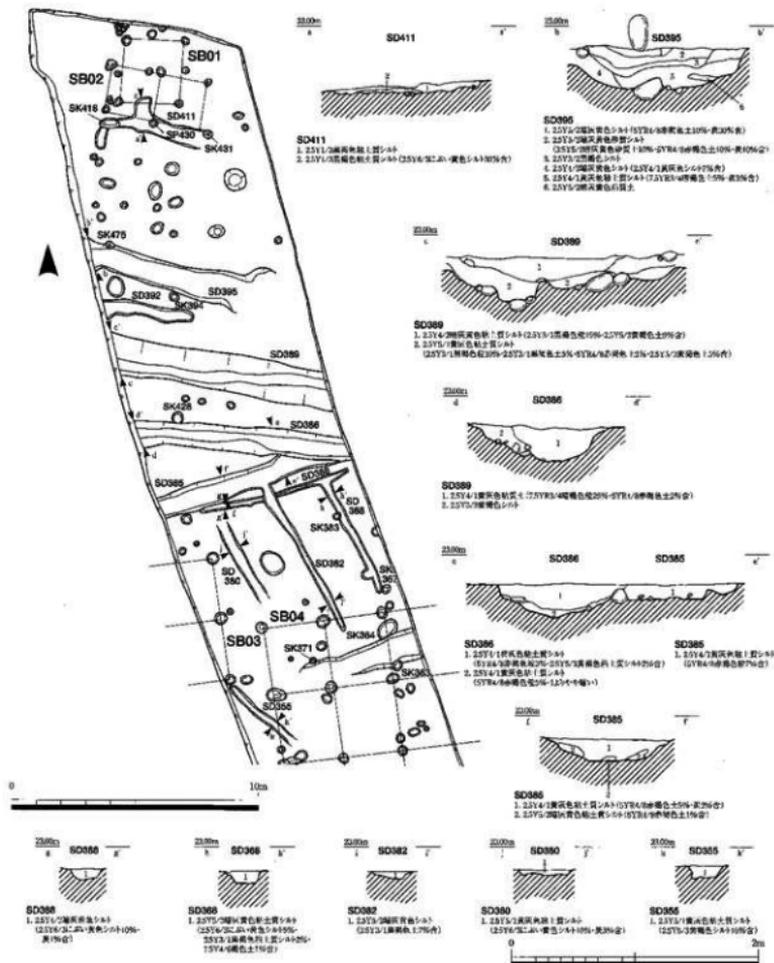
SA01

E2地区中央に位置する。3基の土坑で構成されている。遺物は中世土師器（SP229）が出土している。

溝

411号溝（SD411、第93図）

E2地区北に位置する。基本的には東西へ延びるが、西側は南に屈曲し、中央部は北に突出している。幅70cm、深さ8cmである。切り合いからSK418より古く、SP430（SB02）・SK431より新しい。埋土は黒褐色シルトで下層はそれにぶい黄色シルトが混入する。遺物は中央の北に突出する部分から完形の中世土師器が4枚出土している。



第93図 遺構実測図

SD411 SD395 SD389 SD386 SD385 SD388 SD366 SD382 SD380 SD355 SD392

## 395号溝 (SD395、第93図)

E2地区北に位置する。東西方向の溝で、西側は調査区外へ延びている。幅140cm、深さ15cmである。埋土は暗灰黄色シルトの間に黒褐色シルトや黄灰色粘土質シルトがみられる。遺物は中世土師器が出土している。

## 389号溝 (SD389、第93図)

E2地区北に位置する。東西方向の溝で、東側、西側とも調査区外へ延びている。幅161cm、深さ34cmである。埋土は上層の暗灰黄色粘土質シルトに黒褐色粒と黄褐色土が混入する土と、下層の黄灰色粘土質シルトに黒褐色粒と赤褐色土が混入する土に分けられる。遺物は珠洲が出土している。

## 386号溝 (SD386、第93図)

E2地区北に位置する。SD389と平行に走る東西方向の溝でSD389と同じく東側、西側とも調査区外へ延びている。切り合いからSD385より新しい。幅117cm、深さ30cmである。埋土は黄灰色粘質土に暗褐色粒と赤褐色土が混入する土と、黄褐色シルトに分けられる。遺物は中世土師器と珠洲が出土している。

## 385号溝 (SD385、第93図)

E2地区北に位置する。東西方向に走る溝で、東側、西側とも調査区外へ延びている。中央部から南にSD382が延びている。切り合いからSD386より古く、SD388より新しい。幅106cm、深さ18cm。埋土は上層の黄灰色粘質土に赤褐色土が混入する土と下層の暗灰黄色粘質土に赤褐色土が混入する土に分けられる。遺物は中世土師器が出土している。

## 388号溝 (SD388、第93図)

E2地区北に位置する。東西方向に走る溝で、切り合いからSD385・382より古い。東側では南にSD368が延びる。幅23cm、深さ10cm。埋土は暗灰黄色シルトにぶい黄色シルトと炭が混入する土である。

## 368号溝 (SD368、第93図)

E2地区北に位置する。SD388から南へ延びる溝。切り合いからSK367・383より古い。幅63cm、深さ6cm。埋土は暗灰黄色粘質土にぶい黄色シルトと黒褐色粘質土と褐色土が混入する土である。

## 382号溝 (SD382、第93図)

E2地区北に位置する。SD385中央部から南に延びる溝。切り合いからSD388より新しい。埋土は暗灰黄色シルトに黒褐色土が混入する土である。

## 380号溝 (SD380、第93図)

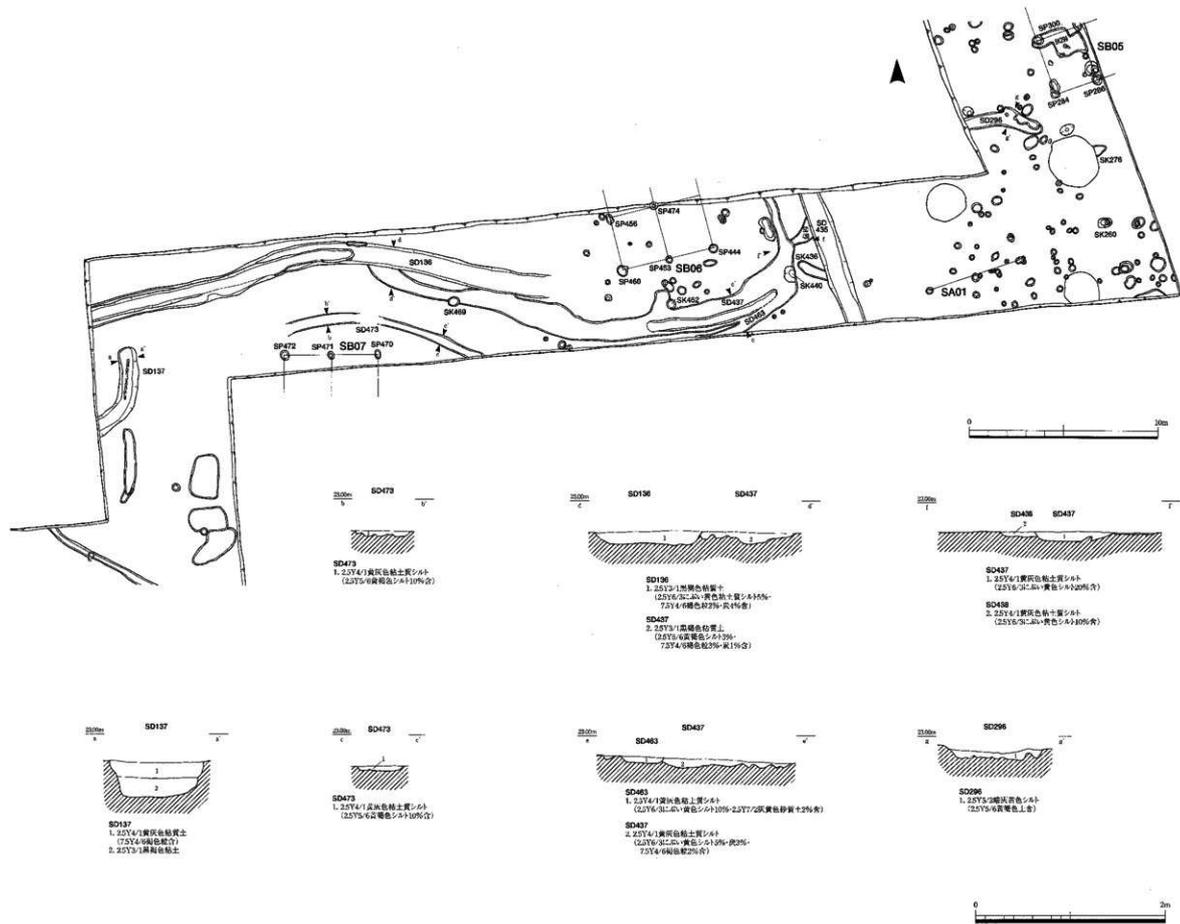
E2地区北に位置する。SD368や382とほぼ並行に南北に走る。幅50cm、深さ10cm。埋土は黄灰色粘質土にぶい黄色シルトと炭が混入する土である。

## 355号溝 (SD355、第93図)

E2地区北に位置する。南北方向に走る溝である。幅33cm、深さ7cm。埋土は単層で黄灰色粘質土に黄褐色シルトが混入する土である。

## 137号溝 (SD137、第94図)

E2地区中央に位置する。南北方向の溝だが、南は西側へ屈曲し調査区外へ延びる。幅101cm、深さ51cm。埋土は上層の黄灰色粘質土に褐色土が混入する土と、下層の黒褐色粘土に分けられる。遺物は中世土師器と木製品と種子が出土している。



第94図 遺構実測図

SD473 SD136 SD437 SD438 SD137 SD463 SD296 SD435

## 473号溝 (S D473、第94図)

E 2 地区中央に位置する。S B 07の北側を東西方向に走る溝である。幅58cm、深さ13cmである。埋土は単層で黄灰色粘土質シルトに黄褐色シルトが混入する土である。西側と中央が途切れているのはS B 07の敷地内と外との通路として使われていたと推測する。

## 136号溝 (S D136、第94図)

E 2 地区中央に位置する。東西方向に走る溝で、西側は調査区外へ延びている。幅81cm、深さ14cm。切り合いからS D 437より新しい。埋土は黒褐色粘質土にぶい黄色粘土質シルトと炭と褐色粒が混入する土である。遺物は土師器、中世土師器、珠洲、炭化した穀類が出土している。中世前期から後期まで存在した溝と考えられる。

## 437号溝 (S D437、第94図)

E 2 地区中央に位置する。基本的に東西方向の溝で、東側、西側とも北へ屈曲し、東側は調査区外へ延び、西側はS D 136に切られている。この内側にはS B 06がある。幅238cm、深さ10cm。切り合いからS D 136・S K 469・452より古く、S D 438より新しい。埋土は黒褐色粘質土に黄褐色シルトと褐色粒と炭が混入する土と、黄灰色粘土質シルトにぶい黄色シルトと褐色粒と炭が混入する土がある。遺物は白磁が出土している。

## 463号溝 (S D463、第94図)

E 2 地区中央に位置する。S D 437から枝分かれしている溝で西側は調査区外へ延びている。幅56cm、深さ9cm。埋土は黄灰色粘土質シルトにぶい黄色シルトと灰黄色砂質土が混入する土である。

## 438号溝 (S D438、第94図)

E 2 地区中央に位置する。東西方向に流れる溝で、切り合いからS D 435・437より古い。幅130cm、深さ8cm。埋土は黄灰色粘土質シルトにぶい黄色シルトが混入する土である。

## 435号溝 (S D435、第94図)

E 2 地区中央に位置する。南北方向に走る溝で、北側、南側とも調査区外へ延びている。幅126cm、深さ47cm。切り合いからS K 436・S D 438より新しい。遺物は木製品、鉄滓、モモの種子が出土している。

## 296号溝 (S D296、第94図)

E 2 地区中央に位置する。東西方向に走る溝で西側は調査区外へ延びている。幅105cm、深さ12cm。埋土は単層で暗灰黄色シルトに黄褐色土が混入する土である。

## 143号溝 (S D143、第95図)

E 2 地区南に位置する。南東から北西に走る溝で、幅50cm、深さ11cm。埋土は黄褐色粘土質シルトに褐色土が混入する土と黒褐色粘土質シルトに褐色土と炭が混入する土である。遺物は中世土師器が出土している。

## 153号溝 (S D153、第95図)

E 2 地区南に位置する。東西方向から北に弓状に曲がり調査区外へ延びている。切り合いからS D 154・156より新しい。幅47cm、深さ19cm。埋土は上層の黄灰色粘土質シルトに褐色土が混入する土と下層の暗灰黄色粘土質シルトに褐色土が混入する土に分けられる。

## 157号溝 (S D157、第95図)

E 2 地区南に位置する。東西方向に走る溝で、西側は調査区外へ延び東側はS D 156に切られる。幅41cm、深さ6cm。

## 154号溝 (SD154、第95図)

E2地区南に位置する。南北方向に走る溝で、南側は二条に分かれている。北側は調査区外へ延びている。切り合いから、SD153・SK160・191より古く、SD169より新しい。幅46cm、深さ8cm。埋土は基本的に黒褐色や黄灰色、暗灰黄色のシルトで、何層かに分けられる。西側を走るSD156と方向がほぼ平行であるため、SD156とともに道の側溝であった可能性がある。

## 169号溝 (SD169、第95図)

E2地区南に位置する。東西方向に走る溝で、西側はSD154に切られ、東側は調査区外へ延びている。幅116cm、深さ8cm。

## 156号溝 (SD156、第95図)

E2地区南に位置する。南北方向に走る溝で、北側は調査区外へ延びている。切り合いからSD153・SK161より古く、SD157・SK163より新しい。幅60cm、深さ6cm。埋土は単層で、黒褐色シルトである。SD154とともに道の側溝であった可能性がある。

## 164号溝 (SD164、第95図)

E2地区南に位置する。南北方向に走る溝で、北側は二条に分かれている。切り合いからSK166より古い。幅40cm、深さ5cm。埋土は黒褐色粘土質シルトに暗灰黄色土が混入する土である。

## 1274号溝 (SD1274、第96図)

E1地区北に位置する。南北方向に走る溝で、切り合いからSP1242・1245・SK1201・1246～1248・1264より古く、SD1301より新しい。幅131cm、深さ4cm。埋土は単層で暗灰黄色シルトに炭化物が混入する土である。

## 1268号溝 (SD1268、第96図)

E1地区北に位置する。南北方向に走る溝で北側は調査区外へ延び、南側はSD1267に切られている。切り合いから、SD1267・SK1251・1257・1271より古い。幅59cm、深さ15cm。埋土は単層で暗灰黄色シルトに炭化物と酸化鉄が混入する土である。遺物は中世土師器が出土している。

## 1267号溝 (SD1267、第96図)

E1地区北に位置する。東西方向に走り、東側では北に屈曲し調査区外へ延びている。SB10に伴う溝だったと思われる。SB10の南側、東側に沿ってみられるが、北側、西側では検出されていない。幅36cm、深さ15cm。埋土は単層で、暗灰黄色シルトに炭化物と酸化鉄が混入する土である。遺物は中世土師器が出土している。

## 1160号溝 (SD1160、第96図、図版49・50)

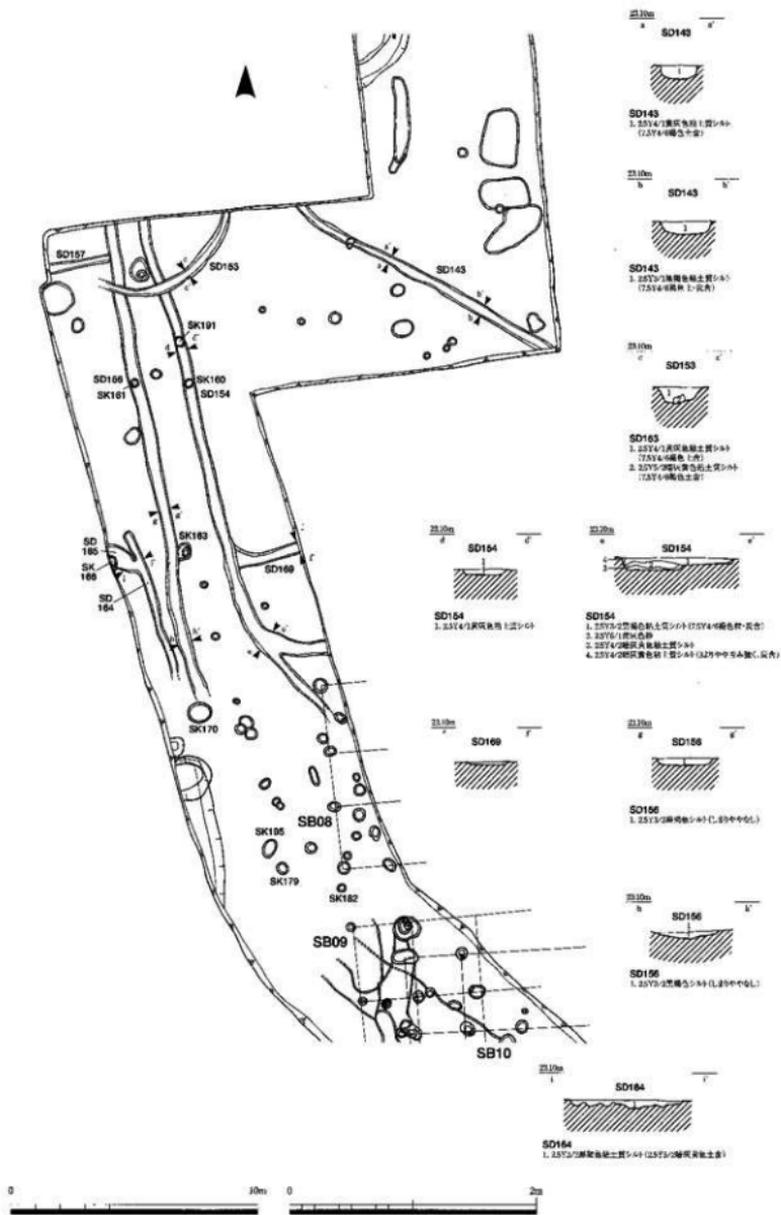
E1地区中央に位置する。東西方向で、西に向かって流れていたと思われる。東側、西側とも調査区外へ延びる。SX02-①・②より古い。幅220cm、深さ80cm。埋土は基本的に黄灰色シルトで7層に分けられる。遺物は中世土師器、珠洲、羽口、鉄滓、叩き石、モモの種子が出土している。

## 1159号溝 (SD1159、第96図、図版49・50)

E1地区中央に位置する。東西方向で、西に向かって流れていたと思われる。東側、西側とも調査区外へ延びる。切り合いからSD1324より新しい。幅185cm、深さ67cm。埋土は上層の黄灰色シルトに灰黄色砂ブロックと酸化鉄が混入する土と下層の黄灰色シルトに酸化鉄が混入する土に分けられる。遺物は中世土師器、珠洲、鉄滓が出土している。SD1160よりやや古い時期と考えられる。

## 1158号溝 (SD1158、第96図)

E1地区南に位置する。東西方向の溝で、西に向かって流れていたと思われる。東側、西側とも調



第95図 遺構実測図

SD143 SD153 SD154 SD169 SD156 SD164 SD165 SD157

査区外へ延びる。切り合いからSK1067・1075・1078・1081・1145・1157・1185より古い。幅180cm、深さ55cm。埋土は基本的に黄灰色シルトで5層に分けられる。遺物は中世土師器と珠洲、モモの種子が出土している。

#### 1101号溝 (SD1101、第96図)

E1地区南に位置する。東西方向に流れる溝で、東側、西側とも調査区外へ延びている。切り合いからSK1102・1122・1123より新しい。幅101cm、深さ19cm。埋土は上層の黄灰色シルトに酸化鉄が混入する土と下層の黄灰色粘質シルトに酸化鉄が混入する土に分けられる。遺物は珠洲が出土している。

#### 1001号溝 (SD1001、第96図)

E1地区南に位置する。東西方向に流れる溝で、東側、西側とも調査区外へ延びる。切り合いからSK1008・1009・1046・1063・1118より古い。幅220cm、深さ28cm。埋土は黄灰色シルトに酸化鉄が混入する土で、上下2層に分けられる。遺物は中世土師器が出土している。

#### 1301号溝 (SD1301、第96図)

E1地区北に位置する。北西から南東に弧状に走る溝。東側は調査区外へ延びているが、北側はE2地区では検出されなかった。切り合いからSD1274・SP1207・1235・1255 (SB09)・SP1208・1214・1245 (SB10)・SK1211・1226・1240・1241・1243・1246~1248・1254・1300・1303より古く、SD1327~1329より新しい。幅235cm、深さ12cm。埋土は黄灰色砂質シルトに酸化鉄が混入する土で、2層に分けられる。遺物は中世土師器が出土している。

#### 1327号溝 (SD1327、第96図)

E1地区北に位置する。南北方向に走る溝で、切り合いからSD1301・SK1204・1205より古い。幅44cm、深さ10cm。埋土は単層で暗灰色シルトに灰黄色砂質シルトと酸化鉄が混入する土である。SD1327は平行する溝SD1328・1329・1306・1330とともに畑であったと思われる。1300番代の溝は1200番代の土坑より一段下げた面で検出されたため、SB09・10が建つ前には耕作がされていたと推測できる。

#### 1328号溝 (SD1328、第96図)

E1地区北に位置する。南北方向に走る溝で、切り合いからSD1301・SP1218 (SB09)・SK1244より古い。幅36cm、深さ13cm。埋土は単層で暗灰色砂質シルトに灰黄色砂質シルトと酸化鉄と炭化物が混入する土である。

#### 1329号溝 (SD1329、第96図)

E1地区北に位置する。南北方向に走る溝で、切り合いからSD1267・1301・SP1232 (SB09)・SK1310・SX1273-①より古い。幅36cm、深さ14cm。埋土は単層で暗灰色砂質シルトに灰黄色砂質シルトに酸化鉄が混入する土である。

#### 1306号溝 (SD1306、第96図)

E1地区北に位置する。南北方向に走る溝で、切り合いからSP1238・1260 (SB09)・SK1239・1256・1261・1322・SX1272-①より古い。幅35cm、深さ20cm。埋土は暗灰色砂質土に酸化鉄が混入する土で2層に分けられる。

#### 1330号溝 (SD1330、第96図)

E1地区北に位置する。南北方向に走る溝で、切り合いからSD1267・SP1250 (SB09)・SK1249より古い。幅37cm、深さ13cm。埋土は単層で暗灰色砂質シルトに灰黄色砂質シルトと酸化鉄が